

高崎市文化財調査報告書第 494 集

上野国分尼寺跡

遺跡範囲確認調査報告書

2023

高崎市教育委員会

高崎市文化財調査報告書第 494 集 上野国分尼寺跡 正誤表 (その 1)

訂正箇所	(誤)	(正)
背表紙	高崎文化財報告書第 494 集	高崎市文化財調査報告書第 494 集
巻頭写真図版 2 中段左写真	西面回廊東裾	東面回廊東裾
目次 第 4 章	第 4 章 調査の結果	第 4 章 調査の成果
目次 第 5 章第 2 節	(3) 寺院について	(3) 寺院地について
2 ページ 9 行目	新規扇状地面	新期扇状地面
4 ページ 1 行目	新規扇状地	新期扇状地
6 ページ参考文献	高崎市市編さん委員会	高崎市市史編さん委員会
17 ページ第 5 図	上野国分寺尼寺跡周辺	上野国分尼寺跡周辺
31 ページ 18 行目	構測量	遺構測量
39 ページ 16 行目	不正な土坑状	不整な土坑状
51 ページ下から 6 行目	梁間 1 間	梁行 1 間
53 ページ 3 行目	(第 32 図～第 34 図)	(第 32 図～第 36 図)
同 13 行目	第 33 図	第 32 図
同 17 行目	第 33 図	第 32 図
同 23 行目	第 32 図	第 33 図
同 下から 11 行目	第 32 図	第 33 図
54 ページ 1 行目	第 32 図	第 33 図
同 5 行目	第 32 図	第 33 図
同 5 行目	上記 f から	オから
同 7 行目	第 32 図	第 33 図
77 ページ下から 1 行目	廃棄坑の	廃棄坑の
78 ページ 7 行目・17 行目	廃棄坑の	廃棄坑の
80 ページ 5 行目・18 行目	廃棄坑と	廃棄坑と
81 ページ 5 行目	廃棄坑の	廃棄坑の
同 17 行目	3.3m (約 11 尺) 伸びる。	3.3m (約 11 尺) 延びる。
92 ページ第 45 図	(4) 尼坊跡平面図-2	(3) 尼坊跡平面図-2
93 ページ (折込) 第 46 図	(4) 尼坊跡平面図-3	(3) 尼坊跡平面図-3
98 ページ 12 行目	築地堀	築垣
99 ページ下から 5 行目	築地堀	築垣
100 ページ 17 行目	南に伸びる	南に延びる
同 27 行目	南へ伸びる	南へ延びる

裏面あり

高崎市文化財調査報告書第 494 集 上野国分尼寺跡 正誤表 (その 2)

訂正箇所	(誤)	(正)
100 ページ 下から 1 行目	不整形な土抗状	不整形な土坑状
103 ページ下から 13 行目	概ね符号する	概ね符合する
127 ページ下から 5 行目	ほぼ符号する	ほぼ符合する
140 ページ 20 行目	(ア層) がみられ、	(2 層) がみられ、
146 ページ下から 4 行目	黒色土 (7 層)	黒色土 (11-1W トレンチ SPA ライン 5 層)
148 ページ 11-1W → 1 E トレンチ C - C' 注記	追加ア層	あ層 に訂正 アの注記を削除
148 ページ 11-1W トレンチ A - A' 注記	6 11-1W トレンチ SPA ライン (第 32 図) 4 層と同じを追加	
165 ページ註 15	群馬県埋蔵文化財調査事業	群馬県埋蔵文化財調査事業団
167 ページ瓦図凡例 3 行目	釈に続けて「左」と記し、	その旨を観察表に記し、
284 ページ下から 10 行目	軒丸瓦 P001 (376)	軒平瓦 P001 (376)
299 ページ文字瓦番号 536	整理番号欄 0981	0987
同 文字瓦番号 562	本篇欄 —	113
301 ページ文字瓦番号 657	本篇欄 —	522
304 ページ下から 4 行目	参考図 1	参考図 1 (295 ページ)
313 ページ 1 行目	(第 226 図～第 234 図)	(第 226 図～第 232 図)
325 ページ 註 4	大江正行第 4 章	大江正行・木津博明第 4 章
350 ページ瓦 72-358 胎土欄	白濁微粒多量	白色微粒多量
360 ページ瓦 107-500 胎土欄	白濁微粒多量	白色微粒多量
362 ページ瓦 111-522 備考欄		・ヘラ書き型不明文字を追加
363 ページ瓦 113-527 観察欄	半截竹管状工具により丸瓦と隅降棟を表現。	半截竹管状工具による丸瓦と削り出しにより隅降棟を表現。
372 ページ 2 行目	金堂及び中門	講堂及び中門
374 ページ 6 行目	※1 尺 : 0.297m	※1 尺 : 0.297m (武蔵国分尼寺)
385 ページ下から 13 行目	106 片	105 片
388 ページ 20 行目	22 種類	21 種類
抄録 編著者名	金子智之	金子智一

上記のほか、文化庁記念物課編『発掘調査の手引き—各種遺構調査編』2013 に基づき、本報告書中の「芯々」を「心々」とする。

高崎市文化財調査報告書第 494 集

上野国分尼寺跡

遺跡範囲確認調査報告書

2023

高崎市教育委員会

例 言

- 1 本報告書は群馬県高崎市東国分町字薬師道南 175-2 ほか及び前橋市元総社町字小見之内 2691-10 ほか
に所在する上野国分尼寺跡確認調査報告書である。
- 2 本報告書では、上野国分尼寺跡確認調査事業として実施された、第 1 次調査(平成 28 年度)から第
5 次調査(令和 2 年度)の成果について報告している。
- 3 上野国分尼寺跡確認調査事業は、国庫補助金(市内遺跡等)・群馬県費補助金の交付を受け、文化庁・
群馬県教育委員会・上野国分尼寺跡調査検討委員会の指導の下、高崎市教育委員会が直営で実施した。
本報告書作成も上記補助金の交付を受けて行った。
- 4 本報告書に先立ち、各調査年次の現地説明会資料などで調査成果の一部を公表してきたが、調査成
果について再検討したところもあり、本書をもって正式な調査所見とする。
- 5 本報告書作成にともなう整理作業は、高崎市教育委員会が発掘調査時から基礎整理作業を実施し、令
和 5 年 1 月 31 日まで行った。
- 6 本報告書の編集は上野国分尼寺跡調査検討委員会の指導の下、田辺芳昭(高崎市教育委員会)・金子
智一(高崎市教育委員会)が行った。執筆分担は以下のとおりである。
第 1 章～第 4 章第 1 節・第 2 節(2)～(6)、第 5 章第 1・2・4 節 田辺
第 4 章第 2 節(1)、第 5 章第 3 節 金子
- 7 遺構写真撮影は発掘担当者が 35mm モノクロフィルムおよびカラーリバーサルフィルム、デジタル一
眼カメラで行い、遺物写真撮影は田辺・金子の指導の下、瓦・瓦塔を那雲恵一郎(高崎市教育委員会臨
時職員)、瓦・瓦塔以外を南雲芳昭(高崎市教育委員会)が行った。
- 8 遺構の空中写真撮影を(株)シン技術コンサル(第 1 次調査)・(株)測研(第 2 次～第 5 次調査)、一部遺
構測量・礎石 3D 測量を(株)測研に依頼した。
- 9 出土資料や記録図面は高崎市教育委員会文化財保護課で保管し、原則として調査年次ごとの高崎市遺
跡番号で管理している。遺跡番号は以下のとおり。
第 1 次調査(平成 28 年度)679、第 2 次調査(平成 29 年度)707、第 3 次調査(平成 30 年度)735、
第 4 次調査(令和元年度)760、第 5 次調査(令和 2 年度)803
- 10 遺構記載の用例は以下のとおりである。
 - (1)「国分寺」の用語について本来は僧寺(金光明四天王護国之寺)・尼寺(法華滅罪之寺)を含めた呼称
であったが、後に僧寺を示すものとなったことから、「上野国分寺」(僧寺)・「上野国分尼寺」(尼寺)
と表記し、両者を含めた総称は「上野国分二寺」の用語を用いる。
 - (2)総体としての寺院空間を「寺院地」、金堂・講堂などの建物で構成された中心部を「伽藍地」とし、
伽藍地区画施設のうち土を突き固めながら積み上げた壁体に屋根をかけた構造のものについて上野
国分寺の調査報告にならい「築垣」の語を用いた。なお、上野国分寺を含めた過去の調査に関する記
述では、事例での用法に従って、「寺地」や「寺域」を使用した。
 - (3)尺設定の復元について、文化庁記念物課編『発掘調査のてびき－整理・報告書編－』2010 に基づき、
令小尺に近いとされる 1 尺=0.30m とした。
 - (4)遺構略号を用いる場合、原則として次の文献に基づき、以下のとおりとした。
文化庁記念物課編『発掘調査のてびき－集落遺跡発掘編－』2010 および『発掘調査のてびき－各種遺
跡調査編－』2013 SD:溝、SI:堅穴建物、SK:土坑、P:ピット、SX:その他。なお、「トレンチ」
は必要に応じ略号として「T」を用いた。

(5)座標値は平面直角座標第IX系(世界測地系・測地成果 2011)に基づいて設定した調査グリッド(基準点 X=43700 Y=-7200)を用い、方位は同座標北(G・N)である。水準は東京湾平均海面(T.P.)を用いた。

(6)本報告書に使用した地図は、国土地理院発行 1/20 万地勢図、1/2 万 5 千地形図、高崎市発行 1/2500 都市計画図(平成 24 年版)、群馬町発行 1/2500 都市計画図(昭和 61 年度版)である。

(7)遺構実測図等の縮尺は各図にスケールを示した。基本縮尺は以下のとおりである。遺構平面図 1/100・1/150、遺構平面図(部分拡大・遺物出土状況)1/40・1/50、土層断面図 1/50・1/60、竪穴建物跡平面・土層断面図 1/60

また、遺構平面図中に記したパイロット図及び遺物実測図の縮尺は任意である。

(8)土層断面図は必要に応じて反転し、両端のセクションポイント(SP)に方位を記した。

(9)土層断面図の土色記載は農林水産技術会議事務局・財団法人日本色彩研究所監修『新版標準土色帖』1990 を用いた。混入物の割合は同書の面積割合を参照し、50%~30% : 多量、25%~15% : 含む、10%~3% : 少量、2%~1% : 微量とし、満遍なく均質に含まれる場合は「混入」とした。

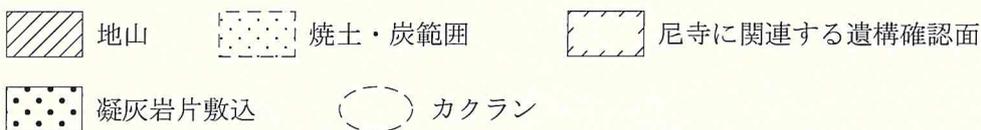
(10)本報告書中の火山噴出物(テフラ)は以下の略号を用いた。

浅間板鼻黄色テフラ : As-YP(15000 年前~16500 年前)

浅間 C テフラ : As-C(3 世紀末~4 世紀初頭) 榛名二ツ岳渋川テフラ : Hr-FA(6 世紀初頭)

浅間 B テフラ : As-B(1108 年 : 嘉承 3 年・天仁元年) 浅間 A テフラ : As-A(1783 年 : 天明 3 年)

(11)遺構平面図に用いたトーン及び線種は以下の通りである。また、カラー図版に限り複数の色でトーンを表現したが、その都度図版内に示した。



11 遺物記載の用例は第 4 章第 2 節中に別途記載した。

12 本遺跡の発掘調査、報告書の作成に当たり、多くの諸氏・諸機関からご指導・ご協力を賜った。記して感謝申し上げたい。(敬称略・五十音順)

飯島静男 梅澤重昭 大江正行 大橋泰夫 鬼形芳夫 木津博明

眞保昌弘 高井佳弘 出浦 崇 手島芙美子 時枝 務 昼間孝志

前原 豊 松島栄治 松田 猛 右島和夫 山路直充 若狭 徹

文化庁文化財第二課 群馬県文化財保護課 前橋市教育委員会文化財保護課

目次

序文・例言・凡例

第1章 調査の経緯	1
第2章 立地と歴史的環境	2
第1節 立地	2
第2節 歴史的環境	4
第3節 上野国分寺について	10
第4節 これまでの調査と研究	15
第3章 調査の経過	27
第1節 調査組織	27
第2節 確認調査の目的と調査区	28
第3節 発掘調査の方法	30
第4節 基本層序	32
第5節 調査の経過	34
第4章 調査の結果	38
第1節 調査遺構	38
(1) 金堂跡	38
(2) 回廊跡	50
(3) 尼坊跡	76
(4) 伽藍地北辺・北東隅	98
(5) 伽藍地東辺	100
(6) 伽藍地南辺	102
(7) 伽藍地西辺	125
(8) 講堂跡推定箇所	138
(9) 壺地業状施設	146
(10) 竪穴建物跡	149
第2節 出土遺物	155
(1) 瓦類	155
(2) 土器類	313
(3) 土製品	314
(4) 鉄製品	314
(5) 銭貨	314
(6) 石製品	314

第5章	まとめ	369
第1節	伽藍地の範囲と伽藍配置	369
	(1)伽藍地について	369
	(2)各堂宇について	370
	(3)伽藍配置について	373
第2節	上野国分寺との関連	378
	(1)規模について	378
	(2)構築時期及び衰退状況の検討	378
	(3)寺院について	379
第3節	尼寺出土の瓦について	383
	(1)整理の方針	383
	(2)新範種の軒丸瓦	383
	(3)出土した軒平瓦・軒丸瓦の種類と数量	385
	(4)各堂宇における出土瓦の傾向	392
	(5)尼寺における瓦の傾向	393
	(6)尼寺の創建および廃絶時期について	394
第4節	上野国分尼寺跡の特徴と歴史的意義	398
	(1)上野国分尼寺跡の特徴	398
	(2)上野国分尼寺跡の歴史的意義	399

主要参考文献

写真図版

抄録・奥付

挿図目次

第1図	遺跡の位置及び周辺の地勢	第17図	上野国分尼寺跡確認調査_基本層序図
第2図	周辺地形図	第18図	調査区全体図・トレンチ配置図
第3図	上野国分二寺及び周辺の調査状況	第19図	伽藍配置復元図
第4図	上野国分寺跡 伽藍復元図	第20図	(1)金堂跡 調査区位置図
第5図	上野国分寺尼寺跡周辺の土地改良以前土地区画	第21図	(1)金堂跡 平面図
第6図	福島武雄による上野国分寺の範囲[1]と 上野国分寺跡推定位置[2]	第22図	(1)金堂跡 断面図-1
第7図	昭和44,45年 上野国分寺尼寺跡調査区位置図	第23図	(1)金堂跡 断面図-2
第8図	上野国分寺尼寺跡 昭和45年調査 講堂跡[現尼坊跡]	第24図	(1)金堂跡 瓦列・凝灰岩切石列 平面図
第9図	上野国分寺尼寺跡 昭和44年調査	第25図	(2)回廊跡 調査区位置図
第10図	上野国分寺跡 昭和45年調査「東門トレンチ」	第26図	(2)南面回廊 平面図
第11図	上野国分寺隣接地域 昭和52年調査	第27図	(2)南面回廊 断面図
第12図	上野国分二寺跡周辺の調査状況	第28図	(2)南面回廊 平面図・断面図
第13図	上野国分僧寺・尼寺中間地域 B区第1号井戸・ 「法花寺」墨書土器及び出土状況模式図	第29図	(2)回廊南東隅 遺物出土状況図
第14図	木津博明による上野国分尼寺伽藍地範囲の推定	第30図	(2)南面回廊 遺物出土状況図
第15図	トレンチ配置図	第31図	(2)西面回廊 平面図
第16図	調査グリッド設定図	第32図	(2)西面回廊 断面図-1
		第33図	(2)西面回廊 断面図-2
		第34図	(2)西面回廊 平面図

第35図	(2)西面回廊 柱跡 平面図・断面図	第91図	尼寺創建と補修に係る軒平瓦・軒丸瓦
第36図	(2)西面回廊 平面図・断面図	第92図	瓦の部位名称
第37図	(2)東面回廊 平面図	第93図	軒平瓦・軒丸瓦の部位名称
第38図	(2)東面回廊 断面図	第94図	瓦の製作技法
第39図	(2)東面回廊 柱跡 平面図・断面図	第95図	瓦1 金堂(1)
第40図	(3)尼坊跡 平面図-1	第96図	瓦2 金堂(2)
第41図	(3)尼坊跡 断面図-1	第97図	瓦3 金堂(3)
第42図	(3)尼坊跡 断面図-2	第98図	瓦4 金堂(4)
第43図	(3)尼坊跡 断面図-3	第99図	瓦5 金堂(5)
第44図	(3)尼坊跡 断面図-4	第100図	瓦6 金堂(6)
第45図	(3)尼坊跡 平面図-2	第101図	瓦7 金堂(7)
第46図	(3)尼坊跡 平面図-3	第102図	瓦8 金堂(8)
第47図	(3)尼坊跡 平面図-4	第103図	瓦9 金堂(9)
第48図	(3)尼坊跡 16列柱跡 平面図・断面図	第104図	瓦10 金堂(10)
第49図	(4)伽藍地北辺東辺 調査区位置図	第105図	瓦11 金堂(11)・南面回廊(1)
第50図	(6)伽藍地南辺 調査区位置図	第106図	瓦12 南面回廊(2)
第51図	(7)伽藍地西辺 調査区位置図	第107図	瓦13 南面回廊(3)
第52図	(4)伽藍地北辺 平面図	第108図	瓦14 南面回廊(4)
第53図	(4)伽藍地北辺 断面図	第109図	瓦15 南面回廊(5)
第54図	(5)伽藍地東辺 平面図-1	第110図	瓦16 南面回廊(6)
第55図	(5)伽藍地東辺 平面図-2	第111図	瓦17 南面回廊(7)
第56図	(5)伽藍地東辺 断面図-1	第112図	瓦18 回廊南東隅(1)
第57図	(5)伽藍地東辺 断面図-2	第113図	瓦19 回廊南東隅(2)
第58図	(5)伽藍地東辺 平面図-3	第114図	瓦20 回廊南東隅(3)
第59図	(5)伽藍地東辺 断面図-3	第115図	瓦21 回廊南東隅(4)
第60図	(5)伽藍地東辺 掘立柱建物跡 平面図	第116図	瓦22 回廊南東隅(5)
第61図	(5)伽藍地東辺 掘立柱建物跡 断面図-1	第117図	瓦23 回廊南東隅(6)
第62図	(5)伽藍地東辺 掘立柱建物跡 断面図-2	第118図	瓦24 回廊南東隅(7)
第63図	(6)伽藍地南辺 平面図	第119図	瓦25 回廊南東隅(8)
第64図	(6)伽藍地南辺 断面図-1	第120図	瓦26 回廊南東隅(9)
第65図	(6)伽藍地南辺 断面図-2	第121図	瓦27 回廊南東隅(10)
第66図	(7)伽藍地西辺 平面図-1・12トレンチ断面図	第122図	瓦28 回廊南東隅(11)
第67図	(7)伽藍地西辺 断面図-1	第123図	瓦29 回廊南東隅(12)
第68図	(7)伽藍地西辺 断面図-2	第124図	瓦30 回廊南東隅(13)
第69図	(7)伽藍地西辺 平面図-2	第125図	瓦31 回廊南東隅(14)
第70図	(7)伽藍地西辺 平面図-3	第126図	瓦32 西面回廊中央付近(1)
第71図	(7)伽藍地西辺 平面図-4	第127図	瓦33 西面回廊中央付近(2)・ 回廊北西隅(1)
第72図	(8)講堂跡推定箇所 位置図	第128図	瓦34 回廊北西隅(2)
第73図	(8)講堂跡推定箇所 平面図	第129図	瓦35 回廊北西隅(3)
第74図	(8)講堂跡推定箇所 断面図-1	第130図	瓦36 回廊北西隅(4)
第75図	(8)講堂跡推定箇所 断面図-2	第131図	瓦37 回廊北西隅地業内
第76図	(8)講堂跡推定箇所 遺物出土状況図	第132図	瓦38 西面回廊外筋
第77図	(9)壺地業状施設 平面図 ・金堂西側瓦溜り 遺物出土状況図	第133図	瓦39 西面回廊内筋・ 金堂南東隅と回廊取付き
第78図	(9)壺地業状施設 断面図	第134図	瓦40 回廊北東隅(1)
第79図	(10)3トレンチ(679) SI1 平面図・断面図	第135図	瓦41 回廊北東隅(2)
第80図	(10)5-2トレンチ SI1 平面図・断面図	第136図	瓦42 回廊北東隅(3)
第81図	(10)6-2トレンチ SI1 SI2 平面図・断面図	第137図	瓦43 東面回廊(1)
第82図	(10)9トレンチ SI1 SI2 平面図・断面図	第138図	瓦44 東面回廊(2)
第83図	(10)10-2トレンチ SI1 SI2 平面図・SI1 断面図	第139図	瓦45 東面回廊(3)
第84図	(10)10-2トレンチ SI1 SI2 断面図	第140図	瓦46 東面回廊(4)
第85図	(10)12トレンチ SI1 平面図・断面図	第141図	瓦47 東面回廊(5)
第86図	飛鳥時代後期寺院・郡界図	第142図	瓦48 東面回廊(6)
第87図	高崎市及び隣地域古代寺院跡と古窯跡	第143図	瓦49 尼坊(1)
第88図	多胡郡正倉跡・牛田廃寺跡 出土軒丸瓦	第144図	瓦50 尼坊(2)
第89図	笠懸古窯跡群 位置図	第145図	瓦51 尼坊(3)
第90図	金山古窯跡 位置図		

第146図	瓦52	尼坊(4)	第197図	瓦103	金堂西側瓦溜り(12)
第147図	瓦53	尼坊(5)	第198図	瓦104	金堂西側瓦溜り(13)
第148図	瓦54	尼坊(6)	第199図	瓦105	金堂西側瓦溜り(14)
第149図	瓦55	尼坊(7)	第200図	瓦106	金堂西側瓦溜り(15)
第150図	瓦56	尼坊(8)	第201図	瓦107	金堂西側瓦溜り(16)
第151図	瓦57	伽藍地北辺内側(1)	第202図	瓦108	金堂西側
第152図	瓦58	伽藍地北辺内側(2)・伽藍地北辺外側(1)	第203図	瓦109	鬼瓦(1)
第153図	瓦59	伽藍地北辺外側(2)	第204図	瓦110	鬼瓦(2)・特殊瓦(1)
第154図	瓦60	伽藍地北辺外側(3)	第205図	瓦111	特殊瓦(2)・埴
第155図	瓦61	伽藍地北辺外側(4)	第206図	瓦112	瓦塔(1)
第156図	瓦62	伽藍地北辺外側(5)	第207図	瓦113	瓦塔(2)
第157図	瓦63	伽藍地北辺外側(6)	第208図	瓦114	文字瓦(1)
第158図	瓦64	伽藍地北辺外側(7)・伽藍地区画北東隅(1)	第209図	瓦115	文字瓦(2)
第159図	瓦65	伽藍地区画北東隅(2)	第210図	瓦116	文字瓦(3)
第160図	瓦66	伽藍地区画北東隅(3)	第211図	瓦117	文字瓦(4)
第161図	瓦67	伽藍地区画北東隅(4)	第212図	瓦118	文字瓦(5)
第162図	瓦68	伽藍地区画北東隅(5)	第213図	瓦119	文字瓦(6)
第163図	瓦69	伽藍地区画北東隅(6)	第214図	瓦120	文字瓦(7)
第164図	瓦70	伽藍地区画北東隅(7)	第215図	瓦121	文字瓦(8)
第165図	瓦71	伽藍地東辺(1)	第216図	瓦122	文字瓦(9)
第166図	瓦72	伽藍地東辺(2)	第217図	瓦123	文字瓦(10)
第167図	瓦73	伽藍地東辺(3)	第218図	瓦124	文字瓦(11)
第168図	瓦74	伽藍地東辺(4)	第219図	瓦125	文字瓦(12)
第169図	瓦75	伽藍地東辺(5)	第220図		凸面叩き具痕(1)
第170図	瓦76	伽藍地東辺(6)	第221図		凸面叩き具痕(2)
第171図	瓦77	伽藍地東辺(7)	第222図		凸面叩き具痕(3)
第172図	瓦78	伽藍地東辺(8)	第223図		凸面叩き具痕(4)
第173図	瓦79	伽藍地東辺(9)	第224図		凸面叩き具痕(5)
第174図	瓦80	伽藍地南辺(1)	第225図		有段式丸瓦玉縁接合部 分類図
第175図	瓦81	伽藍地南辺(2)	第226図		土器類1 1T,2T,3T,4T
第176図	瓦82	伽藍地南辺(3)	第227図		土器類2 5-1T,5-2T
第177図	瓦83	伽藍地南辺(4)	第228図		土器類3 6-1T,6-2T,6-2T(SI1)
第178図	瓦84	伽藍地西辺(1)	第229図		土器類4 7-3T,8-2T,8-3T,9T(SI1)
第179図	瓦85	伽藍地西辺(2)	第230図		土器類5 9T(SI1,SI2),10-1T,10-2T(SI1)
第180図	瓦86	伽藍地西辺(3)	第231図		土器類6 10-2T(SI1,SI2,グリッド)
第181図	瓦87	伽藍地西辺(4)	第232図		土器類7 10-1T,10-6T,11-2T,12T(SI1),13-3T
第182図	瓦88	伽藍地西辺(5)	第233図		円面硯・土製品・鉄製品
第183図	瓦89	伽藍地西辺(6)・講堂(1)	第234図		銭貨・石製品
第184図	瓦90	講堂(2)	第235図		伽藍配置復元図
第185図	瓦91	講堂(3)	第236図		関東及び周辺の国分尼寺跡
第186図	瓦92	講堂(4)・金堂西側瓦溜り(1)	第237図		関東及び周辺の国分尼寺跡
第187図	瓦93	金堂西側瓦溜り(2)	第238図		上野国分二寺中間地域の調査で 確認された「東院」墨書土器
第188図	瓦94	金堂西側瓦溜り(3)	第239図		上野国分寺東大門南側で 確認された瓦組遺構
第189図	瓦95	金堂西側瓦溜り(4)	第240図		上野国分寺・国分尼寺周辺で 確認された古代区画溝
第190図	瓦96	金堂西側瓦溜り(5)			
第191図	瓦97	金堂西側瓦溜り(6)			
第192図	瓦98	金堂西側瓦溜り(7)			
第193図	瓦99	金堂西側瓦溜り(8)			
第194図	瓦100	金堂西側瓦溜り(9)			
第195図	瓦101	金堂西側瓦溜り(10)			
第196図	瓦102	金堂西側瓦溜り(11)			

表

表1 周辺の遺跡一覧表1	008
表2 周辺の遺跡一覧表2	009
表3 遺構(トレンチ)別 瓦の出土状況	281
表4 文字瓦一覧表	299
表5 二寺主要軒平瓦・軒丸瓦出土比率	392

観察表

瓦類観察表註	324
上野国分尼寺跡出土瓦類観察表	326
土器類 円面硯	364
土製品 鉄製品 銭貨 石製品	368
巻頭カラー写真図版	

第1章 調査の経緯

上野国分尼寺跡(以下、尼寺跡)は、高崎市東国分町と前橋市元総社町が境を接する面積4ヘクタールほどの範囲が遺跡とされ、西方約300mには上野国分寺跡(以下、僧寺跡)が史跡公園として整備されている。近年、尼寺の南面にあたる前橋市側では都市計画事業が進行し、尼寺跡の南方に西毛広域幹線道路が開通したことを契機に市街化が顕著となっている。一方、尼寺跡の大部分を占める高崎市側では畑が一面に広がり、昭和35年(1960)に土地改良による改変を経ているとはいえ、良好な景観が保たれている。

僧寺跡は古くから国分寺の遺跡として知られ、大正15年(1926)に国史蹟に指定されて行政的な保護が図られていた。尼寺跡は長らく所在地が不明であったが、地元では明治頃には字「礎」の地(現在の字中道南の一部)で多量の瓦が出土することが知られ、後に尼寺跡推定地として注目されていった。

進行しつつある周辺開発から尼寺跡を保護するため、昭和44年(1969)8月及び45年(1970)7~8月、同推定地について群馬県教育委員会による発掘調査が実施され、この際に当時講堂跡とされた礎石建ちの大型建物などが発見され、尼寺跡であることが確定し、さらに東門跡とされる建物跡などから伽藍地の範囲が192m(640尺)四方と推定され、その後長期にわたり尼寺跡範囲として認知されてきた。

昭和44年1月に基本計画が策定された関越自動車道新潟線が、僧寺・尼寺中間地域を通過することが予定されたため、昭和45年3~5月には群馬県教育委員会により「上野国分二寺中間地域」として建設予定地の確認調査が行われ、尼寺跡調査は昭和46年の実施が見込まれていたが中断されることとなった。また、この頃に僧寺・尼寺の一体的な景観を残すため「上野国国分寺遺跡を守る会」などによる保存運動が展開され(註1)、結果的に当地への関越自動車道通過は不可避とはなったが、該当部は高架で施工され、橋脚の間から僧寺・尼寺を通した景観を望めるように配慮されている。

昭和45年以降では周辺開発に関連し、西辺部で昭和52年(1977)10~12月に群馬県教育委員会、南辺部で平成12年(2000)前橋市教育委員会、北辺部では平成12年8~10月に群馬町(平成18年[2006]高崎市に編入合併)教育委員会の調査が実施されており、尼寺跡伽藍地の範囲推定について資料が蓄積されていった。ただし、尼寺跡全域を対象とし、昭和44・45年調査で提示された多くの課題に応え得る調査は長らく実施されることは無かった。

平成27年(2015)9月、地元(国府地区区長会、上野国分寺まつり実行委員会・上野国分寺愛好会)から高崎市長に対し、尼寺の発掘調査について陳情がなされた。これを受けて高崎市教育委員会教育部文化財保護課(以下、市保護課)では群馬県教育委員会文化財保護課(以下、県保護課)と協議の上、平成28年度以降に調査に取り組むこととなり、当時進められていた史跡上野国分寺跡第2期発掘調査の整備検討委員の助言を得ることとなった。10月に史跡上野国分寺跡整備検討委員長 前澤和之氏および副委員長 須田 勉氏の現地指導により、尼寺跡は範囲や内容が明らかになれば史跡になってもおかしくない重要遺跡であり、僧寺跡と一体として扱われることが相応しいとの意見をいただき、別途の機会に指導をいただいた同整備検討委員の佐藤 信氏を含めた3氏に、尼寺跡の調査に入ることになった場合の指導を依頼した。12月に文化庁に対して県保護課、前橋市教育委員会文化財保護課を交え尼寺跡確認調査開始についての説明を行い、3者が協力体制を組んで調査に当たるよう助言を受けた。平成28年(2016)4月に国庫補助事業(重要遺跡範囲確認)の内示を受け、市保護課では上野国分尼寺跡確認調査の具体的な準備に着手した。

註1 上野国国分寺遺跡を守る会『上野国国分寺遺跡—その理解のために—』1971

第2章 立地と歴史的環境

第1節 立地

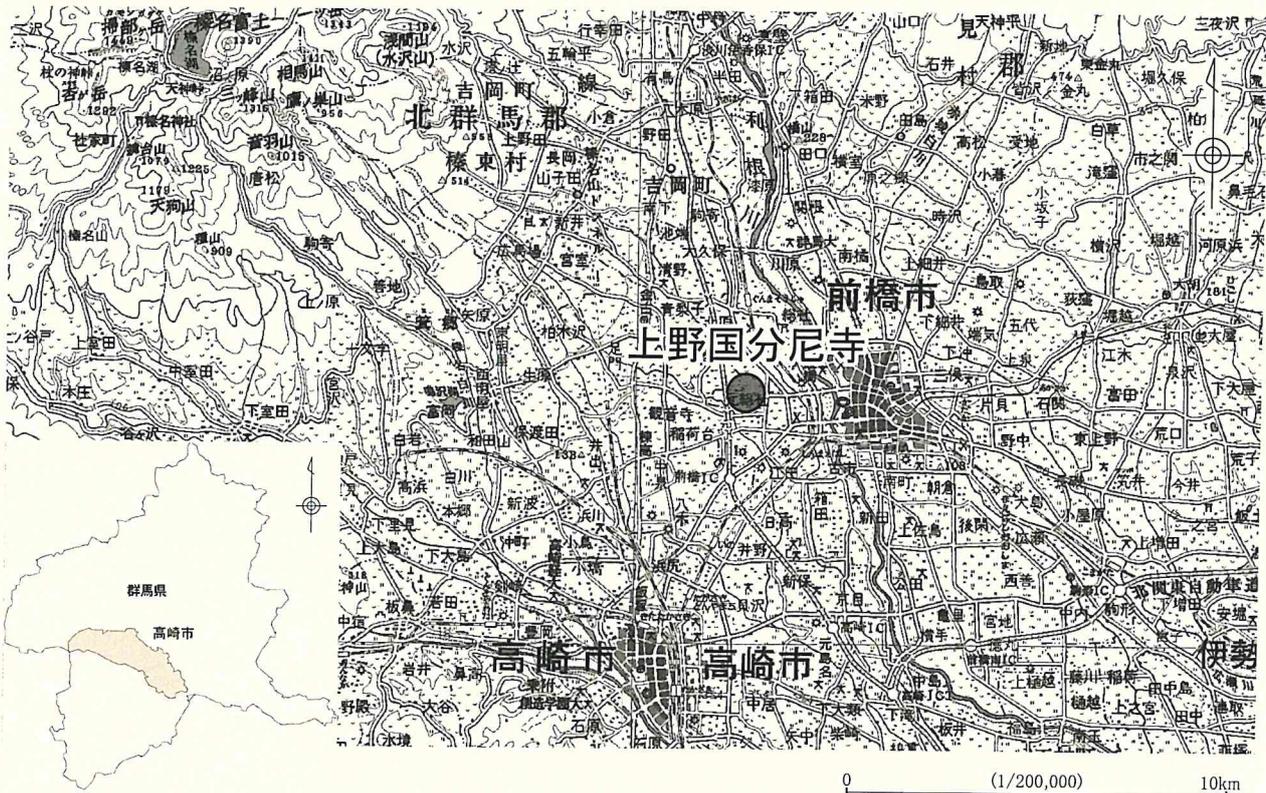
上野国分尼寺跡(以下、尼寺跡)は、関東平野へと連なる榛名山東南山麓裾野に位置する。榛名山は群馬県を代表する火山のひとつで、最高峰掃部ヶ岳の標高は1449mである。榛名山は有史以前(約40万年前と推定)から幾度となく大規模な火山活動を繰り返し、当地域一帯の基盤形成に多大な影響を与えた。東南麓には、標高600m付近を頂部とする「相馬ヶ原扇状地」が開け、尼寺跡は標高127mから125m付近の扇端部に位置する。このため、尼寺跡周辺の地形は南東方向へと緩やかに降り、東から南にかけての眺望が良い。なお、扇状地形は、火山活動による山体崩壊物質や泥流等の堆積により形成されたもので、成立時期から西側～南側の一部を古期扇状地面(As-YP降下-約15000～16500年前までに形成)、他の部分を新規扇状地面(5000年前ころまでに形成)と呼び、尼寺跡所在地は後者に該当する。

扇状地上には、扇状地面を水源とする計12の中小河川が放射状に流れる。尼寺跡と上野国分寺跡(僧寺跡)が所在する扇状地面は、北縁から東縁を牛池川、西縁から南縁を染谷川に画され、尼寺跡付近で幅約500mと最も狭くなり、伽藍地東辺から牛池川の現況崖線までは30mほどである。なお、新时期扇状地面扇端付近では、砂やシルトからなる軟質な地層に起因して、河川流域に大規模な浸食谷が形成されるのが特徴で、底面に広く「谷底平野」と呼ばれる平坦な湿地を形成し、古来より水田や畑が営まれていた。尼寺の運営施設のうち、水利に依存するものは牛池川の谷底平野に存在する可能性がある。牛池・染谷両河川は前橋市元総社町市街を流れた後、尼寺跡南東2.2km付近で合流し、やがて同じく相馬ヶ原扇状地を水源とする井野川へと合流している。

参考文献

早田 勉・能登 建 「群馬県の自然と風土」『群馬県史 通史編1』群馬県 1990

沢口 宏 「地形・地質」『群馬町誌 資料編4 自然』群馬町誌刊行委員会 1995



第1図 遺跡の位置及び周辺の地勢

第2節 歴史的環境(第3図)

(1) 縄文時代

早期を遡る資料は現在のところ確認されていない。このことは新規扇状地の形成過程に影響されるのかもしれない。上野国分僧寺・尼寺中間地域(以下、中間地域・3)や元総社蒼海遺跡群(9)などで確認された前期後半の堅穴建物、当地の黎明期を知る数少ない手がかりとなっている。中期以降に資料は増加し、中間地域では中期後半ののべ30棟以上からなる集落遺跡が調査されている。

(2) 弥生時代

中期後半以前の資料は少なく、北原遺跡(22)などで少量の遺物がみられる程度である。中期後半(竜見町式期)頃から資料が増え、まとまった居住域が形成されることが中間地域の調査で判明している。後期(樽式期)ではさらに遺跡数が増加し、史跡日高遺跡(79)は水田や墓域が確認され、後期における集落遺跡として代表的な存在である。

(3) 古墳時代

1) 前期(3世紀後半～4世紀後半) 東海地方西部の特色をもつ土器群がみられ、4世紀前半に井野川下流域に元島名將軍塚古墳が本格的な高塚古墳として出現する。中間地域や鳥羽遺跡(20)・元総社西川遺跡(17)などでは堅穴建物跡が確認されている。前期初頭頃に浅間山の大規模な火山活動があり、降下したAs-Cを手掛かりにして、元総社北川遺跡(12)や元総社寺田遺跡(7)で水田跡、元総社寺田遺跡や西国分新田遺跡(27)で畠跡が確認されている。また、棟高南寝暮窪遺跡(34)では方形周溝墓10基以上からなる墓域が確認され、すでに組織的な山麓開発が進められていたことが明らかとなった。

2) 中期(4世紀末葉～5世紀中葉) 前後の時期と比べ資料は激減する。比較的まとまった居住域として小八木志志貝戸遺跡(77)例があげられる。

3) 後期(5世紀後半～7世紀初頭) 井野川上流域では、5世紀後半代に井出二子山古墳(47)築造を契機に墳丘長100m前後の大型前方後円墳3基が相次いで造られ(保渡田古墳群・47～49)、近隣には環濠の「居館跡」(三ツ寺I遺跡・50)が存在し、一帯が有力豪族(首長)の拠点となっていたと理解される。さらに、染谷川流域にも三ツ寺I遺跡と酷似する居館跡(北谷遺跡・23)が存在し、3kmほどの距離において両者が併存した可能性は強く、構築の背景など今後の調査に委ねられた課題は多い。5世紀後半の居住域は、前代と比べてより上流域に進出し(後疋間遺跡群・24、西国分遺跡群・25など)、染谷川流域では標高145m付近に達しており(諏訪西遺跡・29、冷水村東遺跡・28など)、この時期に山麓開発が飛躍的に進んだことを示す。6世紀初頭とされる榛名山噴火で生じた火砕流は当地域に甚大な被害をもたらしたが、その際に積もったHr-FA層は、当時の景観を良好に保存し、水田跡や畠跡の確認を容易としたばかりではなく、各遺構の時間的関連を推定するうえで重要な判断材料となった。水田跡は牛池川流域の元総社北川遺跡や元総社寺田遺跡などで確認され、前期の水田耕地を発展させたものが多い。畠跡は多くの遺跡でみられ、標高200m付近まで達する(庚申遺跡)。榛名山噴火による被災後、染谷川上・中流域では確認遺構が激減する一方で、標高125m以下では増加が顕著となる(中間地域など)。なお、染谷川・牛池川流域の標高110～120m付近の弥生時代から継続する居住域では、6世紀以降も連綿と集落が営まれ(鳥羽遺跡など)、総社古墳群被葬者と関連の深い地域として理解される。総社古墳群は、5世紀後半とされる遠見山古墳を最古とし、保渡田古墳群と入れ替わるように6・7世紀に最盛期を迎え、被葬者の拠点域は古代上野国中枢に発展していくとされる。一方、保渡田古墳群の前方後円墳築造は6世紀を待たず途絶えるようだが、周辺には6世紀以後も継続する群集墳がみられる(井出地区遺跡群井出北畑遺跡・62)。

4) 終末期(7世紀前半～8世紀初頭) 染谷川上・中流域では6世紀終末～7世紀前半にかけ、居住域の形成・発展がみられ、5世紀後半頃の空白地にも居住域の進出がみられる(小池遺跡・30、西三社免遺跡・31、棟高辻久保遺跡・32、国府南部遺跡群19など)。さらに7世紀後半を最盛期とし、染谷川上流域におびただしい数の群集墳が築造され(北寝暮窪古墳群・36、如来古墳群・39、寺屋敷古墳群・41、庚申古墳群・43など)、新たな段階の山麓開発を担った有力者層の台頭として理解される。総社古墳群では、7世紀中葉の愛宕山古墳築造を契機とし、前方後円墳消滅後における有力豪族の墳墓形態である大型方墳が相次いで3基築造される。特に7世紀後半の宝塔山古墳(14)や蛇穴山古墳(15)は、精巧な截石切組積石室を有し、墳丘規模とともに当時の群馬県地域における、他古墳を圧倒した内容である。このことは地域支配勢力の集約化がはかられた結果で、この頃のヤマト政権(推古朝)による中央集権強化の動きと連動するものであると考えられる。なお、同古墳を営んだ氏族が造営者とみなされる、古代の寺名は「放光寺」であることが明らかとなった山王廃寺(13)は7世紀後半の創建とされ、金堂と塔を並立して配置する法起寺式伽藍配置をもち、高度な石材加工技術が窺われる塔心礎や根巻石、石製鴟尾が残存し、奈良県法隆寺の塔本塑像群と同工品とみられる多数の塑像片が出土している。

(4) 奈良・平安時代

7世紀中葉から後半にかけ、律令制度にもとづいた中央集権国家が整備され、平城京や平安京などが政治・経済の中心となる。地方支配は中央政権から派遣された国司に権限が集約され、国ごとに国府が整備された。地方豪族は官僚として政権内に吸収されるか、郡司として国司の監督下に入り、従来の支配権限はその中に吸収されていった。古代上野国の国府は染谷・牛池両河川流域の標高110～120m、現在の元総社町市街付近に存在が推定されている。発掘調査では大規模な区画溝(閑泉樋遺跡・5)や大型掘立柱建物跡(元総社小学校校庭遺跡・6)、「国厨」の墨書土器(元総社寺田遺跡)など国府の存在を裏付ける資料がみられる。天平13年(741)の「国分寺二寺建立の勅」に基づき、国府推定地のやや上流、標高125m付近に僧寺および尼寺が建立された。周辺域における8世紀代の居住域は、7世紀代とは立地を異にする傾向があり、中間地域では僧寺・尼寺間の一部区域に8世紀中頃から一定の居住規制がかかっていたことが指摘され(註1)、僧寺南正面では8世紀後半から9世紀前半は竪穴建物がみられないとの指摘(註2)、さらに推定国府域では8～9世紀における竪穴建物数の減少がみられる(註3)ことから、国府域の整備や国分二寺建立に関連し周辺居住域の大規模な再編成が行われた可能性がある。

現況地形などから推定される、東山道駅路「国府ルート」は9世紀後半以降の整備とされるが、各調査箇所(福島飛地遺跡・67、高貝戸遺跡・68など)で、幅1.6～11.0mの道路遺構の存在が確認されている。一方「国府ルート」の南方に、先行する7世紀後半～8世紀代に機能したとされる「牛堀・矢ノ原ルート」の存在が知られ、高崎情報団地遺跡などで幅9～10mで規格性の高い道路遺構が確認されており、両者の関連に注意される。

9世紀後半以降、中間地域の無住空間への竪穴建物進出に象徴されるように、居住域は拡散する傾向がみられる。このことは、従来の居住規制に変化が生じたことを示し、私有地の拡大による律令政治の形骸化と連動する可能性があり、推定国府域では10世紀後半以降に竪穴建物の数が急激に増加している(註4)。長元3年(1030)に作成された「上野国交替実録帳」から、国分寺や郡家の荒廃ぶりが窺われ、僧寺跡の調査では「南辺築垣」の伽藍地側基部盛土を掘り込んで、11世紀初頭～中期の間に相次いで竪穴建物が構築されることが確認され、こうした状況を裏付けている。

嘉祥3・天仁元年(1108)、浅間山の大規模噴火は、西毛地域を中心に経済基盤に壊滅的な影響を与えた。当地域では12世紀以後の資料が激減し、この浅間山噴火による被災が契機となったことは想像に難くない。

一方で、噴火の際に積もったAs-B層は、当時の地表を良好に保存し、同層に埋没した水田跡(棟高辻久保遺跡・32、元総社明神遺跡・8など)が確認されている。

(5) 中世以降

当地域では12～14世紀の歴史資料が乏しく不明な点が多いが、この間に律令政治の衰退や浅間山噴火による被災からの復興などの過程で、「武士団」が勢力を拡大していく。やがて室町幕府体制下で関東管領を歴任した山之内上杉氏が上野国守護を兼ね、守護代として総社長尾氏は国府内に蒼海城(81)を築き、当地域を実質支配した。一方、長野郷(現高崎市浜川町付近)を本拠とし、15世紀に箕輪城を居城とした長野氏が勢力を拡大していく。当地域では15～16世紀頃に資料の増加がみられ、長尾氏及び長野氏の活発な領域開発に関連するものと理解される。主なものに、元井出館跡(62)・花城寺館跡(62)・菅谷城跡(83)・保渡田城跡(82)などの城館址や中間地域で確認された寺院跡(小見廃寺)がある。なお、浅間山噴火後の遺構埋没土には濃密にAs-Bが混入する。こうした埋没状況の堀跡や溝跡などは多くの遺跡で確認され、出土遺物に乏しく構築年代の特定が困難なことが多いが、中世に構築されたものも少なくないことが予想される。僧寺跡南西に隣接する妙見寺の寺域付近では、長尾氏が寄進した応永17年(1410)銘を有する梵鐘が出土している。16世紀前半までに、室町幕府では將軍家の権威失墜とともに体制が形骸化し、上杉氏は内紛や後北条氏の勢力拡大などで衰退し、守護としての影響力を失う。こうした中、甲斐国を本拠とする戦国大名武田氏の侵攻により、永禄9年(1566)に長野氏、翌年に総社長尾氏が滅亡する。この後当地域は、天正18年(1590)に徳川氏家臣の井伊氏支配下となるまで、支配勢力が安定しない状況が続いた。

近世～近代で特筆されるのは、尼寺の南西約1.5km一帯に、太平洋戦争末期の昭和19年(1944)に大日本帝国陸軍の軍用飛行場として前橋飛行場が建設されたことである。飛行場の敷地面積は約159haに及び、周囲には掩体壕^{えんたい}と呼ぶ飛行機格納施設や対空機関砲が設置された。昭和20年(1945)の終戦にともない飛行場は解体され、跡地は農地化された。棟高辻久保遺跡では前橋飛行場の造成面が調査され、造成土の下では建設工事により埋められた田畑が確認されている。

註1 木津博明「上野国分寺」『関東の国分寺』関東古瓦研究会 1994

註2 『元総社西川遺跡』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 2001

註3 『元総社蒼海遺跡群(20)』前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2009

註4 註3文献に同じ

参考文献

高崎市市編さん委員会『新編高崎市史 資料編3 中世I』1996

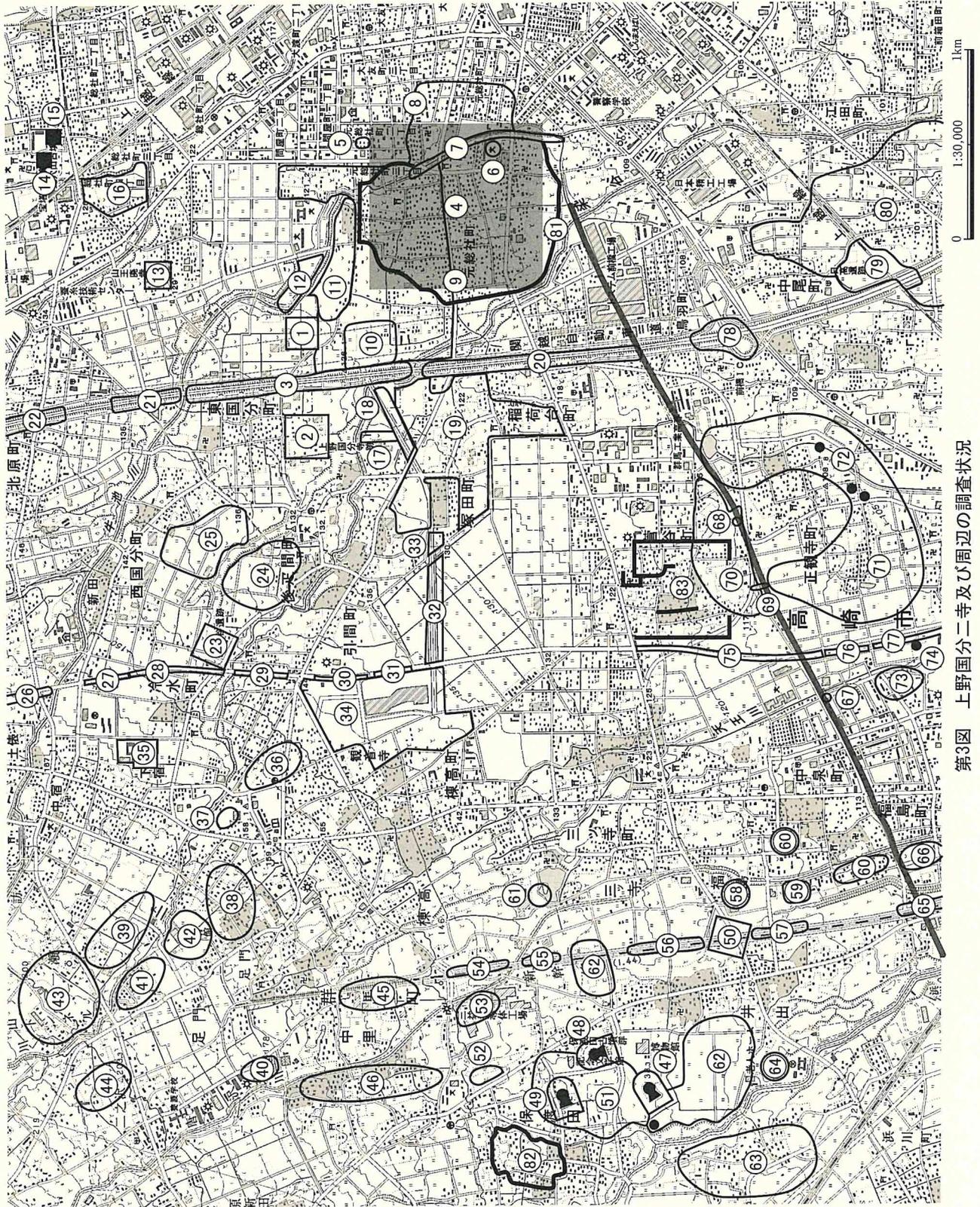
群馬町誌刊行委員会『群馬町誌 資料編1 原始古代中世』1998

高崎市市編さん委員会『新編高崎市史 資料編2 原始古代II』1999

高崎市市編さん委員会『新編高崎市史 資料編1 原始古代I』2000

群馬町誌刊行委員会『群馬町誌 通史編上 原始古代中世近世』2001

高崎市市編さん委員会『新編高崎市史 通史編1 原始古代中世』2003



第3図 上野国分二寺及び周辺の調査状況

	遺跡名	主な時代	主な文献	備考
1	上野国分尼寺	奈良・平安(寺院跡)	『上野国分尼寺跡調査報告書』群馬県教育委員会1969・1970など	
2	上野国分寺(僧寺)	奈良・平安(寺院跡)	『史跡上野国分寺跡発掘調査報告書』群馬県教育委員会1989など	
3	上野国分僧寺・尼寺中間地域	縄文～中近世	『上野国分僧寺・尼寺中間地域』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団1986など	○★
4	上野国府推定域	奈良・平安	『閑泉樋南遺跡』前橋市教育委員会1983など	
5	閑泉樋遺跡	古墳～中世	『閑泉樋遺跡』前橋市教育委員会1983	
6	元総社小学校校庭遺跡	奈良平安	『前橋市史』第I巻前橋市教育委員会1971	
7	元総社寺田遺跡	縄文～中近世	『元総社寺田遺跡』I(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団1993など	■(■)●□○
8	元総社明神遺跡	古墳～中世	『元総社明神遺跡』前橋市教育委員会1983など	□○★◇
9	元総社蒼海遺跡群	古墳～中世	『総社甲稲荷塚大道西遺跡・総社閑泉明神北II通跡・総社甲稲荷塚大道西II遺跡』前橋市埋蔵文化財発掘調査団2002など	
10	元総社小見遺跡群	縄文・古墳～中世	『元総社小見遺跡』前橋市埋蔵文化財発掘調査団2001など	
11	元総社小見内Ⅲ遺跡	縄文～近世	『元総社小見内Ⅲ遺跡』前橋市埋蔵文化財発掘調査団2001	
12	元総社北川遺跡	縄文～平安・中世	『総社閑泉明神北IV遺跡／元総社牛池川遺跡／元総社北川遺跡／元総社小見内V遺跡』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2007	■□◇★
13	山王廃寺	古墳終～平安(寺院跡)	『山王廃寺跡発掘調査概報』前橋市教育委員会1976など	
14	宝塔山古墳(総社古墳群)	古墳終(方墳)	『群馬総社古墳群』観光資源保護財団1977など	
15	蛇穴山古墳(総社古墳群)	古墳終(方墳)	『群馬総社古墳群』観光資源保護財団1977など	
16	大屋敷遺跡群	縄文・古墳後～中世	『大屋敷遺跡』I前橋市教育委員会1993など	
17	元総社西川遺跡	古墳～中世	『元総社西川遺跡』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2001	●
18	元総社西川・塚田中原遺跡	古墳～中世	『元総社西川・塚田中原遺跡』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2003	○☆
19	国府南部遺跡群	縄文・古墳～中近世	『国府南部遺跡群』I・II群馬町教育委員会2000など	★(○も含むか)
20	鳥羽遺跡	古墳～中近世	『鳥羽遺跡』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団1986など	★?◇
21	国分境遺跡	古墳後～平安	『国分境遺跡』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団1990	
22	北原遺跡	縄文・弥生・古墳後～平安	『北原遺跡』群馬町教育委員会1986	◆
23	北谷遺跡	古墳後(館跡)	『北谷遺跡』群馬町教育委員会2005	○(盛土下)★
24	後疋間遺跡群	古墳後～平安	『後疋間I遺跡』群馬町教育委員会1986など	
25	西国分遺跡群	縄文・弥生・古墳後～近世	『西国分I遺跡』群馬町教育委員会1989『西国分II遺跡』教育委員会1990	○☆
26	金古北十三町遺跡	古墳後～中近世	『冷水村東遺跡・西国分新田遺跡・金古北十三町遺跡』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団1998	○
27	西国分新田遺跡	古墳後～中世	『冷水村東遺跡・西国分新田遺跡・金古北十三町遺跡』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団1998	●□○◇
28	冷水村東遺跡	古墳後～中世	『冷水村東遺跡・西国分新田遺跡・金古北十三町遺跡』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団1998	□○◇
29	諏訪西遺跡	縄文・古墳後～平安・中近世	『諏訪西遺跡』群馬町教育委員会1995	○★
30	小池遺跡	縄文・古墳後～平安・中世	『小池遺跡』群馬町教育委員会1992	○
31	西三社免遺跡	古墳～平安	『西三社免遺跡』群馬町教育委員会1990	○★
32	棟高辻久保遺跡	弥生後～近現代	『棟高辻久保遺跡』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2006	◇
33	引間六石遺跡	奈良平安～中近世	『引間六石遺跡・引間松葉遺跡・塚田的場遺跡・塚田中原遺跡』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2007	
34	棟高遺跡群	縄文・古墳～近世	『棟高遺跡群棟高水窪II・棟高辻の内IV遺跡』高崎市教育委員会2008など	○★
35	金古町裏遺跡	弥生後・古墳後～中近世	『金古町裏遺跡ほか』高崎市教育委員会2014	○★
36	北寝保窪古墳群	古墳終(群集墳)	『群馬町誌』資料編1群馬町誌編纂委員会1998など	
37	東久保古墳群	古墳終(群集墳)	『群馬町誌』資料編1群馬町誌編纂委員会1998	
38	鶴巻古墳群	古墳終(群集墳)	『寺屋敷I・蓋・鶴巻遺跡』群馬町教育委員会1991	
39	如来古墳群	古墳終(群集墳)	『金古如来古墳群』高崎市教育委員会2006など	
40	足門村西墳群	古墳終(群集墳)	『足門村西古墳群』群馬町教育委員会1996	
41	寺屋敷古墳群	古墳終(群集墳)	『群馬町の遺跡』群馬町教育委員会1986	
42	寺屋敷・蓋・鶴巻遺跡	古墳前～平安	『寺屋敷I・蓋・鶴巻遺跡』群馬町教育委員会1991『寺屋敷II遺跡』群馬町教育委員会1991	●○
43	庚申古墳群	古墳終(群集墳)	『群馬町誌』資料編1群馬町誌編纂委員会1998など	○
44	金井沢古墳群	古墳後・終(群集墳)	『群馬町誌』資料編1群馬町誌編纂委員会1998	
45	毘沙門古墳群	古墳終(群集墳)	『群馬町誌』資料編1群馬町誌編纂委員会1998	
46	屋敷古墳群	古墳(群集墳)	『群馬町の遺跡』群馬町教育委員会1986	

	遺跡名	主な時代	主な文献	備考
47	井出二子山古墳 (保渡田古墳群)	古墳後(前方後円墳)	『井出二子山古墳 史跡整備事業報告書』高崎市教育委員会2009など	
48	保渡田八幡塚古墳 (保渡田古墳群)	古墳後(前方後円墳)	『保渡田八幡塚古墳』群馬町教育委員会2000	
49	保渡田薬師塚古墳 (保渡田古墳群)	古墳後(前方後円墳)	『保渡田VII遺跡』群馬町教育委員会1990など	
50	三ツ寺 I 遺跡	古墳後(館跡)	『三ツ寺 I 遺跡』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団1988	◇●
51	保渡田VII遺跡	縄文・古墳・中世	『保渡田VII遺跡』群馬町教育委員会1990など	◇
52	徳昌寺前遺跡	古墳終～平安・中世	『保渡田徳昌寺前遺跡・三ツ寺大下IV遺跡』群馬町教育委員会2001	
53	保渡田東遺跡	古墳終～平安	『保渡田東遺跡』群馬町教育委員会1986	
54	保渡田遺跡	古墳後～平安	『三ツ寺III遺跡保渡田遺跡中里天神塚古墳』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団1991	
55	三ツ寺III遺跡	古墳後～平安	『三ツ寺III遺跡保渡田遺跡中里天神塚古墳』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団1991	
56	三ツ寺 II 遺跡	縄文・弥生後～平安	『三ツ寺 II 遺跡』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団1991	○◇
57	井出村東遺跡	弥生後～古墳後・平安・中世	『井出村東遺跡』遺跡調査会1983	○◇
58	中林遺跡	古墳後～平安	『中林遺跡調査概報』群馬町教育委員会1983など	◇
59	三ツ寺大下遺跡	弥生後期・古墳～平安	『保渡田徳昌寺前遺跡・三ツ寺大下IV遺跡』群馬町教育委員会2001	
60	南部遺跡群 (西浦北遺跡など)	縄文・弥生後～中世	『西浦北遺跡』群馬町教育委員会1989『南部遺跡群』群馬町教育委員会1994	●○
61	堤上遺跡	古墳後～平安	『堤上遺跡』群馬町教育委員会1994・1995	☆
62	井出地区遺跡群	縄文・古墳後～平安・中近世	『井出地区遺跡群』群馬町教育委員会1999	■□◇
63	道場遺跡群	平安・中世(館跡)	『道場遺跡群』高崎市教育委員会1989	
64	同道遺跡	古墳(水田)・中世	『同道遺跡』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団1983	■□◆◇
65	熊野堂遺跡	縄文・弥生後～平安	『熊野堂遺跡』(1)(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団1984『熊野堂遺跡』(2)(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団1990	●●■□★
66	西浦南遺跡	縄文・弥生後～平安	『西浦南遺跡』群馬町教育委員会1988	
67	福島飛地遺跡 (推定東山道)	奈良平安(道跡)	『推定東山道』群馬町教育委員会1986	
68	高貝戸遺跡 (推定東山道)	奈良平安(道跡)	『推定東山道』群馬町教育委員会1986	
69	菅谷遺跡	平安	『菅谷遺跡発掘調査報告』群馬町教育委員会1980	
70	菅谷遺跡群	縄文・古墳～中近世	『菅谷遺跡群』1高崎市教育委員会2015	
71	正観寺遺跡群	弥生など	『正観寺遺跡群』I高崎市教育委員会1979など	
72	正観寺古墳群	古墳後(円墳)	『新編高崎市史 資料編1』高崎市市史編さん委員会1999	
73	諸口遺跡群	弥生後・古墳後(円墳)	『諸口古墳調査概報』群馬町教育委員会1984など	
74	オトウカ山古墳	古墳後(円墳)	『新編高崎市史 資料編1』高崎市市史編さん委員会1999	
75	菅谷石塚遺跡	古墳・平安・中世	『菅谷石塚遺跡』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2003など	■□◆◇
76	正観寺西原遺跡	平安(水田)	『小八木志志貝戸遺跡群』2(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2001など	◇
77	小八木志志貝戸遺跡	縄文～中世	『小八木志志貝戸遺跡』4(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2002など	●★◇
78	中尾遺跡	古墳～平安	『中尾遺跡』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団1983・1984	
79	史跡日高遺跡	弥生～平安	『史跡日高遺跡』高崎市教育委員会2010など	■◇
80	日高遺跡群	弥生～中世	『日高遺跡』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団1982など	◇
81	蒼海城跡	中世(城館址)	『前橋市史』第I巻前橋市教育委員会1971	
82	保渡田城跡	中世(城館址)	『群馬町誌』資料編1群馬町誌編纂委員会1998	
83	菅谷城跡	中世(城館址)	『群馬町誌』資料編1群馬町誌編纂委員会1998	

水田跡	畠跡	
■	●	As-C下
■	●	As-C混土下
□	○	Hr-FA下
◆	★	Hr-FA～As-B下(FP含む)
◇	☆	As-B下

第3節 上野国分寺について

(1) 史料にみる国分寺

1) 創建期 国分寺の創建については、僧寺と尼寺の二つを揃え持つ「国分二寺」として政策的に建立が命じられたのは、天平13年(741)2月4日(『類聚三代格』、『続日本紀』は3月24日)とするのが妥当であろう。ただしそれに至るまで天平9年(737)3月には国毎に釈迦仏像などを造らせ、同10年(738)8月には国ごとに最勝王経を読ませる、同12年(740)8月には国毎に七重塔を建てさせる、天平13年1月には故藤原不比等が返上した封戸3000戸を諸国の国分寺に施入して丈六仏像をつくる財源とすることなどが行われている(以上『続日本紀』による)。これらは「国毎」を単位として行われていることから、後の国分二寺建立につながるものであることは間違いない。こうした一連の造寺活動の中で天平13年2月の勅を見てみると、七重塔の建立が強調されていること、国毎に僧20人を置き寺名は「金光明四天王護国之寺」とし、尼寺を設置して尼10人を置き寺名は「法華滅罪之寺」とする「国分二寺」制が確立したこと、これらの建立の適地についての条件が述べられていることが特徴的である。従ってこれらのことが国分二寺が建立された目的の根幹であり、当時必要とされた政策の内実が反映された点であるとみることができる。

天平19年(747)11月7日に発せられた詔(『続日本紀』)では、諸国司らの怠慢のために国分寺の建立が捗っておらずそれにより災異が表れていること、そうした事態を解決するために郡司の「勇敢にして諸事を済ますに堪える」者を選んで、専ら国分寺の建立に当たらせ「三年以前を限りて、塔・金堂・僧房を造り終わらせ」「理の如くこれを修造したならば、子孫は絶えることなく郡領に任用する」との方針が明らかにされた。

天平感宝元年(749)5月に上野国碓氷郡の石上部君諸弟ら3人が、同年閏5月には上野国勢多郡少領の上毛野朝臣足人ら2人が、それぞれ当国の国分寺に知識物を献納したことにより外従五位下という高い位を与えられたことが記録されている(『続日本紀』)。これは、天平19年11月詔の郡司らに対する要請を受け、それに応じた者に対する報償の記事と考えられる。この2つの記事では、他に尾張国・伊予国・飛騨国の豪族や郡司に対する叙位も行われているが、1か国で2人が取り上げられているのは上野国のみである。こうした状況から上野国分寺は、地域の豪族層の尽力を得て、この頃に塔・金堂・僧房が完成したと推定される。従って全国でも最も早期に主要伽藍の完成をみた国分寺の1つとすることができる。ただしこれはあくまでも天平19年11月の詔の趣旨に対するものであって、国分寺の伽藍及び付属する管理運営のための施設の全てが完成したということではない。造営作業はまだ延々と続けられていたとみるべきであろう。

2) 衰退期 「上野国交替実録帳」(以下、実録帳と称す)と通称される一連の文書には、11世紀前期の上野国分寺のようすについてかなり詳細な記録が載せられている。これは九条家本延喜式(東京国立博物館所蔵・国宝)の紙背文書の一部として残るもので、長元3年(1030)の上野国司の交替に際して作成された不与解由状の草案である。前任国司である藤原朝臣家業の任期中の職責遂行の状況を新任国司である藤原朝臣良任が点検し、破損の状況と無実(既に消滅した)ものを箇条書きしている。残念ながら13の断簡として残るのみで、欠失部分があるために全体の内容は明らかではない。しかし、国分寺のようすを比較的詳細に記録する資料として貴重であり、多くの研究者に注目されて使われている。

「上野国交替実録帳」に記された上野国分寺の状況は次の通りである。

- ①**仏像** 16体について「破損」の記載があり、主尊仏の釈迦丈六像は坐像で高さ8尺、金色を呈しているが眉間と後背の一部が破損している。
- ②**築垣** 「築垣壹廻 四面貳町 長參佰貳丈壹尺」と記載され、「無実」となっている。
- ③**大門** 「南大門」・「西大門」・「北大門」それぞれ「壹宇」が「無実」となっている。南大門については、「長五丈八尺 廣一丈五尺 高一丈三尺」と規模が記されている。
- ④**僧房** 「萱葺僧房一宇 長十五丈 廣二丈 高七尺」と記載され、「無実」となっている。
- ⑤**倉** 「板倉壹宇 東 長二丈五尺 廣二丈 高二丈」と記載され、南東方向に傾きところどころに「破損」がある。
- ⑥**大衆院** 「大衆院 仮屋壹宇」が「無実」となっている。

(1) 発掘調査の成果

群馬県教育委員会の直営で、史跡上野国分寺跡の整備事業に伴い発掘調査が実施された。第1期発掘調査は昭和55年度～昭和63年度(1980～1988)、第2期発掘調査は平成24年度～平成28年度(2012～2016)である。

- 1) **七重塔** 第1期発掘調査による。心礎を含め15個の礎石が残存した。建物の初層辺長は3×3間で柱間は12尺(360cm)等間で基壇は64尺(19.2m)四方で、高さは旧地表と礎石上面との比高から4尺(120cm)と推定された。基壇築土は旧表土を浅く掘り下げた後、黒褐色粘質土を厚さ20cmに積んで固め、縁辺から70cm内側に入ったところから黒褐色土を主体とした土で版築様に積んでいる。基壇外装は東縁地覆石と判断される角閃石安山岩切石が6個1列1段に並んでみられた。造営にあたって基準とした方位軸はN-1° 22' -Wとされる。
- 2) **金堂** 第2期発掘調査での確認による。礎石・根石は削平により失われ、確認面下15cmほどの掘込地業残痕がみられ、西縁・南縁は攪乱で未確認である。掘込地業の規模は、東西は伽藍中軸線で折り返すと約28.5m、南北は塔と芯々を合わせていると推定し、心々ラインで折り返すと約19mの規模に復元された。仮に掘込地業と基壇の規模がほぼ同規模と推定した場合、7間×4間の建物で身舎の桁行10+12+12+12+10尺・梁行11+11尺で軒の出が10尺以上の規模が考えられ、講堂よりやや小さい規模であったと推定される。この場合、基壇の出は10尺となる。基壇は、明治20年に宗教団体が金堂基壇を切り崩してその築土を塔基壇南側に移動し、道場を造成した可能性がある。基壇外装は塔基壇南側の土壇中から角閃石安山岩切石が出土しており、建物の格式からも塔と同様の切石積基壇と推定される。
- 3) **講堂(第2期調査以前は金堂とされていた)** 第1期発掘調査による。礎石の残存は身舎北列の3個、側柱南列の5個、他に原位置を留めないもの8個の計16個である。建物は身舎が桁行11+12+12+12+11尺・梁行11.5+11.5尺で軒の出が11尺以上となり、基壇の出11尺、基壇高は3.5尺と復元される。第2期調査時に周辺の旧地表面レベルの見直しが行われ、基壇高2尺(60cm)と推定された。基壇外装は、南縁部の攪乱などから凝灰岩切石の破片が出土したことから切石積基壇とされる。基壇築土は表土を浅く掘り下げた後、黄褐色土や灰白色土の小塊を少量含む黒褐色粘質土で版築様に積んでおり、一部に瓦の小破片が多数含まれていた。また、身舎柱北列中央の1間分に40cm×30cmほどの扁平な玉石が1列に並び、来迎壁の地覆石と推定されている。造営にあたっての基準方位軸はN-2° 30' -Wとされる。

- 4) 経蔵・鐘楼 金堂と講堂の中間、西側に位置し、第1期発掘調査によるSB08を第2期発掘調査で検証し、先行する経蔵あるいは鐘楼と思われる掘込地業北半部の残存を確認した。掘込地業の東西規模は約9m(30尺)で確認面から5cm程掘り込まれる。SB08は3間×2間の南北棟の側柱建物で、柱間は7尺等間、東側柱の北から2個目にあたる柱穴は確認されていない。柱穴径は100~130cm程の円形で、径40cmほどの柱痕を確認した。このことから、創建当初は基壇建物でその後規模を縮小して掘立柱建物(SB08)に建て替えたとみられている。なお、伽藍中軸線をはさんで対称となる東側では建物痕跡が検出されず、西側のSB08と比べて簡易な構造であった可能性が推定されている。このことから、相対的に堅固な構造となる西側建物が鐘楼とみられている。
- 5) 中門 第2期発掘調査による。東端部および西端部の掘込地業を確認した。上面が削られ礎石・根石はすべて失われていた。掘込地業の規模は東西約15m(50尺)、南北約12m(40尺)、掘込みの深さは確認面から50cm程である。掘込地業の規模から八脚門と考えられ、桁行中央間が14尺・脇間が12尺で、梁行11尺等間の建物と推定されている。基壇外装は、周辺から角閃石安山岩切石が複数出土していることから、切石積基壇であった可能性が高い。
- 6) 回廊 第1期発掘調査では、回廊と断定し得る遺構は確認されていない。西面回廊にあると推定された位置で、2×9間以上の南北に長い掘立柱建物跡(SB09)が検出され、回廊ではなく国分寺の施設として推定された。第2期発掘調査では、南面東西、西面、東面南部、北面西部で掘込地業を確認し、南東隅や西面南部などで根石の残存や礎石抜取痕を確認した。推定される建物規模は、桁行10尺等間・梁間15尺で、桁行10尺等間で図上復元すると東西面は18間で3尺余分となり、13尺となる1間分は出入口と推定される。調査では西面の南から10間目北側、外筋から2尺外の位置に根石が確認されたため、該当部を門と考える。基壇外装は、西面南部の基壇縁付近の瓦廃棄層から凝灰岩切石2点が出土し、回廊基壇外装は、凝灰岩切石積の一段積であった可能性が高い。版築土中からB207b型式の軒丸瓦が出土しており、造営時期を推定するうえで重要である。
- 7) 南大門 第1期発掘調査では、東側柱にあたる3個の礎石の残存を確認、中央部から西側は後世に掘られた溝で失われている。梁行2間、柱間10.5尺(315cm)の構造が確認され、「上野国交替実録帳」の記載と異なっていた。乱石積基壇の縁部と考えられる石列が2条検出され、内側石列(N-2°48'-W)の創建期基壇から外側石列(N-4°52'-W)への建て替えの可能性が指摘された。第2期調査では、南大門の創建期(内側石列)における規模が、伽藍中軸線で折り返すことで東西60尺となり、残存する東礎石は再建期のもので、再建期と創建期の建物が同規模とすると八脚門では礎石位置が東へ行きすぎるため、10尺等間程の五間三戸の門と考えた。また、南大門建替えの意図について、伽藍地内の排水目的とされるSD27構築に際し、同溝を築垣沿いに走行させた後、南大門との取り付け部から外部へと放出したことが推定され、排水路を設置するため南大門基壇東西を各々外側にずらした、との可能性が示された。
- 8) 東大門 第1期発掘調査では、史跡指定地の東縁に接する農道西で落とし込まれた礎石を1個確認した。昭和45年(1970)の上野国分二寺中間地域の調査時に確認された礎石はみられず、該当箇所では大型の石を割った破片が存在したため同礎石の残痕と判断された。その後、農道部分について平成3年(1991)に群馬町教育委員会が調査したところ、原位置とされる礎石と第1期調査の際に農道西のみられた礎石のものと判断される抜き取り痕を確認した。第2期発掘調査では、過去の調査部分を再検証したうえで、周囲は攪乱が多く新たな礎石の確認は無かったこと、基壇や地業の痕跡は見いだせなかったこと、残存した2箇所の礎石から柱間は10尺~8尺で、復元される東大門の方位は現農道方向と整合するとした。

なお、南大門南側の地形的制約などから、東大門が実質的な出入口とみられている。

- 9) 築垣 第1期発掘調査では、南辺築垣は西側で基部が確認され、南大門に取付く箇所では版築による本体下部が残存していた。構造は、断面台形状に整形した地山に粘性の強い黒色土を盛って基礎を構築し、上面に幅2m前後で本体を版築状に積み上げ、南北両側を幅60cm～40cmほどの犬走状平坦部とする。また、南北に180cmほどの間隔で一對の柱穴が検出され、寄柱と判断された。走行軸は南大門東側がE-3° 50' -Nで、西側は北寄りに角度を変えて屈曲する。第2期発掘調査では南辺築垣について3期の変遷が認められ、各々第1期掘立柱塀(創建～)・第2期築垣(8世紀第3四半期以降～)・第3期土塁と内側の大溝(SD27・10世紀後半に埋没)とされた。一方東辺築垣について、関連が想定される溝が東大門南(SD26)、南東隅(SD28)で各々確認され、方位軸が現農道とほぼ一致している。

(3) 寺域と伽藍配置

第1期および第2期の調査成果により、寺域と伽藍配置は次のように導かれている。

- 1) 寺域 築垣の位置確定が前提となるが、残存が確認されたのが南辺築垣のみである。東辺は現道沿いにSD28がみられ、礎石が残存する東大門の方位軸も現道の方位軸と整合する可能性が高く、また、東大門の原位置とされる礎石は、調査個所のさらに東に推定される第1期掘立柱塀との位置関係から本柱とみられている。西辺・北辺では門や築垣の痕跡が全く確認できず、東辺同様に現道と築垣位置が重なる可能性を踏まえ、寺域範囲が推定されている。各辺の方位は東辺がN-7° 36' -W、西辺がN-4° 35' -W、北辺がE-0° 49' -N、南辺(東部)がE-3° 50' -Nとなる。

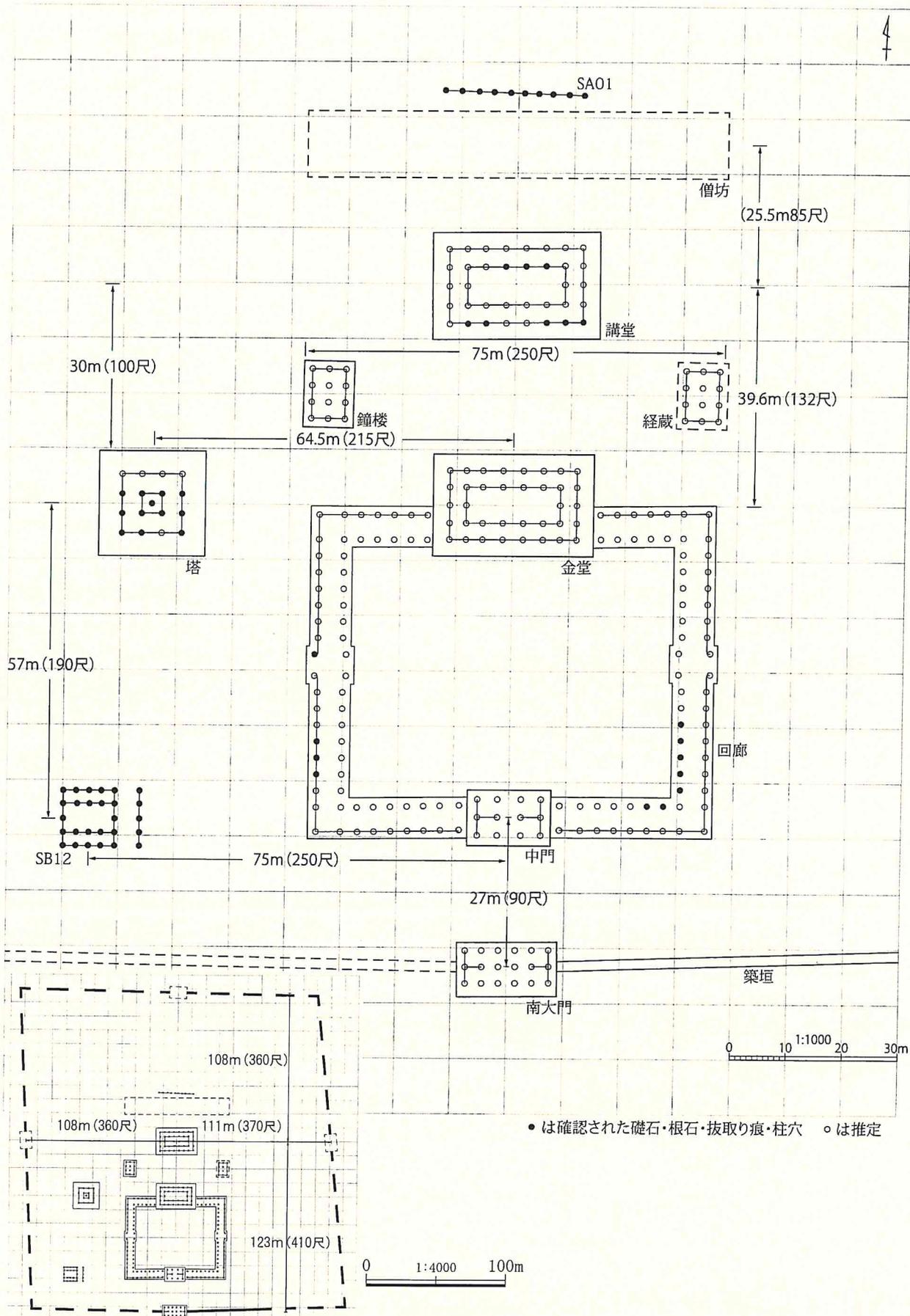
寺域設定にあたっては講堂の中心を基準点としているとみられ、北辺は講堂の中心から108.0m(360尺:1町)、南辺は南大門の中心が講堂の中心から123.0m(410尺:1町+50尺)、合わせると南北長は231.0m(770尺:2町+50尺)となる。東辺については、東大門の原位置の礎石を本柱と考えると講堂中心から111.0m(370尺:1町+10尺)、西辺は108.0m(360尺:1町)となり、合わせて東西長219.0m(730尺:2町10尺)となる。これを2倍にしてみると、四周は30000尺(300丈)となる。

- 2) 伽藍中軸線と基準尺 伽藍中軸線は、講堂の中心と中門掘込地業の中心を結んだ線で、方位軸は概ねN-2° -Wである。なお、東面回廊南部で確認された根石列の方位軸とも一致する。基準尺については、第1期調査で確認されていた塔と講堂の礎石間から計測し、1尺:0.297mの値が導き出された。
- 3) 伽藍配置 上野国分寺の伽藍は、寺域東西軸の中央に伽藍中軸線を設定し、南から南大門・中門・金堂・講堂を、建物の中心を揃えて一直線上に配置している。塔は回廊の外に置かれる興福寺式伽藍配置であるが、塔が金堂の西側に中心を揃えて並びつつ配置に特色がある。伽藍中軸線に方位軸が合う建物は、金堂院(金堂・中門・回廊)・塔である。

参考文献

群馬県教育委員会『史跡上野国分寺跡』1988

群馬県教育委員会『史跡上野国分寺跡第2期発掘調査報告書—総括編—』2018



第4図 上野国分寺跡 伽藍復元図
 (橋本淳・前澤和之・高井佳弘『史跡上野国分寺跡第2期発掘調査報告書-総括編-』2018より)

第4節 これまでの調査と研究

(1) 上野国分尼寺跡推定地の模索

上野国分寺跡(以下、僧寺跡)は早くから国分寺の遺跡として注目され、天明6年(1786)には国学者の奈佐勝^{かつたか}が現地を訪れ、見聞を「山吹日記」に記している。一方、上野国分尼寺跡(以下、尼寺跡)は、所在地の伝承がなく、人々の記憶から忘れ去られてしまっていたようである。大正10年(1921)に福島武雄は論考中(註1)で尼寺について言及し、尼寺跡想定地は前橋市総社町山王地区の日枝神社境内付近(現在の山王廃寺跡)とし(第6図[2])、大正14年(1925)発行の『群馬縣群馬郡誌』(註2)や昭和2年(1927)年発行の『群馬縣史』(註3)でも同様の記載となっている。なお、僧寺旧金堂跡から「四町余東」の国府村大字東国分旧字^{いしずえ}礎(以下、礎、現在の東国分町字薬師道南の一部)では、礎石が多数存在し、古瓦が多量に出土することがすでに知られており、福島は礎の地を僧寺の範囲内とし僧坊等が建てられていたと考えた(第6図[1])。

昭和2年(1927)に内務省の柴田常恵は、僧寺跡史蹟指定に向けて大正15年(1926)2月に行われた現地調査の報告(註4)で、僧寺跡の指定範囲を宮地直一の「上野国交替実録帳」研究による寺域「方貳町」(註5)などを根拠として定め、礎周辺の地を尼寺跡と推定した。そして、同尼寺跡推定地は、僧寺跡との間に瓦の散布が確認できず独立した地域を形成しており、福島が僧寺と考える東西十町余におよぶ範囲は広域で、他国の僧寺に例がないことをあげている。

一方、礎に農地を所有し、昭和2年頃から国分寺の瓦について研究を進めていた住谷修は、昭和5年(1930)の論考(註6)で礎の地を尼寺跡と推定している。昭和9年(1934)に相川龍雄は礎で出土した住谷所蔵の瓦を紹介し、尼寺跡所在地について柴田の想定を支持している(註7)。

昭和27年(1952)、国府村を含む中群馬土地改良区で土地改良事業が着手され、礎周辺も対象となった。昭和43年発行の『国府村誌』(註8)によると東国分村は昭和34・35年度に工事が着手されており、従来の地割が大幅に変更された(第5図)。これに際して尼寺跡推定地として遺跡の保護措置がどのように行われたのか、これに言及する記録を見出すことはできなかった。ただし、現状で礎石が多数残存することや、土地改良による著しい攪乱や地形の改変がみられないことから、工事は比較的慎重に行われたものとみられる。なお『国府村誌』では、山王廃寺跡を尼寺跡とするのは誤りで、それまでに蓄積された研究成果から大字東国分字礎の地が、尼寺跡であるとしている。

註1 福島武雄「上野国国分僧寺址考」『上毛及上毛人』第53号1921

福島武雄「日枝神社境内の大礎石」『上毛及上毛人』第53号1921

福島武雄「再び国分僧尼寺址に就いて」『上毛及上毛人』第64号1922

註2 『群馬縣群馬郡誌』群馬縣群馬郡教育会1925

註3 『群馬縣史』群馬縣教育会 第1巻1927

註4 柴田常恵「上野国分寺址」『埼玉茨城群馬三県下における指定史蹟』内務省1927

註5 宮地直一「上野国分寺に就いて(上)」『史蹟名勝天然記念物』第1集第2号1926

宮地直一「上野国分寺に就いて(下)」『史蹟名勝天然記念物』第1集第3号1926

註6 住谷修「上野国分寺の文字瓦に就いて」『上毛及上毛人』第163号1930

註7 相川龍雄『上野国分寺文字瓦譜』1934

註8 『国府村誌』国府村誌編纂委員会1968

(2) 昭和 44 年・45 年の群馬県教育委員会の発掘調査(註 9) (第 7 図)

1) 経緯 昭和 44 年(1969)度に群馬県教育委員会では周辺で進展する諸開発事業に対処するため、3 年計画で尼寺跡推定地の発掘調査を計画した。調査では、「尼寺跡の規模・構造(伽藍配置)を明らかにし、あわせて、出土遺物の保管利用を企てさらには史跡指定の資とすること」が目的とされ、44 年度：寺域・伽藍配置の確認、45 年度：伽藍配置・付属建築遺構の確認、46 年度：付属建築遺構の確認・保存計画及び文化財指定の検討とした。そして、具体的な作業として 44 年度は現況測量及び寺域中軸線(南北・東西)に遺構確認のトレンチ設定、45 年度は中門跡・金堂跡・講堂跡の全面発掘及び測量が予定された。なお、46 年度は伽藍配置の発掘再検討・付属施設の発掘・寺域の確定測量が予定されていたが中止となった。

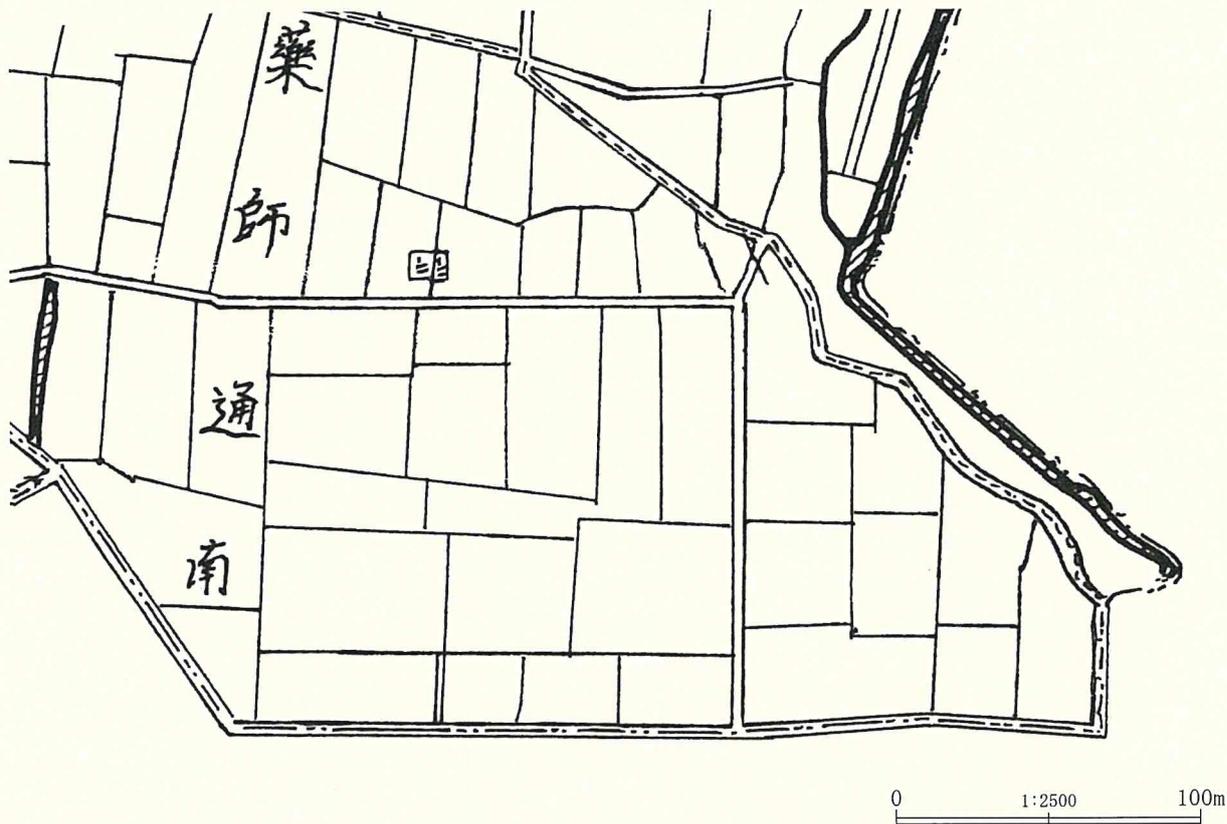
2) 経過 昭和 44 年 6 月 25 日～7 月 5 日に第 1 次調査として遺跡地周辺の現況測量が行われ、「尼寺跡推定地の略々中央部」に P1(原点)を設定した。第 2 次調査は寺域の規模確定を目的とし、8 月 8 日～23 日に P1(原点)を中心として東西南北方向にトレンチ(2m×10m)を 10m 間隔に設定して調査が進められ、原点から東西南北各々の方向に 10m ごとに 1～のトレンチ番号を付して、方向を示す E・W・S・N の略号を冠した。調査の結果、尼寺の主要建物とみられる「3 棟の建築遺構」が南北一直線上に並ぶことを確認し、各々中門基壇(S6・S7 トレンチ)、金堂基壇(S1・S3 トレンチ)、講堂礎石群(N4 トレンチ)と推定された。

昭和 45 年 7 月 24 日～8 月 12 日の調査では推定金堂跡と講堂跡の芯々距離が 48m(約 169 尺)であり、寺域範囲を同数値の 4 倍である 192m(約 640 尺)四方と推定し、東西南北の門跡が想定される地点に 3m×9m を単位とするトレンチを設定した。南門想定地点では尼寺に関連する遺構は確認されず、約 24m 北で地形に「段落」がみられる地点をその新たな候補と考えた。西門想定地点では、尼寺跡に関連する遺構はみられず、構築年代不明の溝などが確認された。東門想定地点では、東門跡と推定される東西に並ぶ 3 基の柱穴を確認した(第 10 図)。柱穴列の柱間は東から 2.7m-2.5m で軸方位は E-3°-S、いずれの柱穴も柱受けの扁平な川原石が据えられていた。また、前年の調査結果から推定された講堂跡について、全体像を明らかとするため調査区の拡張がおこなわれた(第 8 図)。この結果、礎石 11 個の残存を確認し、内 5 個は原位置と判断された。確認された礎石建物跡の規模は、身舎が桁行 6 間・梁行 4 間で南北に各 1 間の底がつき、柱間は身舎が 3m(約 10 尺)の等間、庇の出は各 2.4m(約 8 尺)であった。なお、基壇構造は認められないとしたうえで、基礎造成として掘込地業の可能性を指摘し、また、国分寺関係の建築遺構で桁行 6 間の建物は異例であることに言及している。

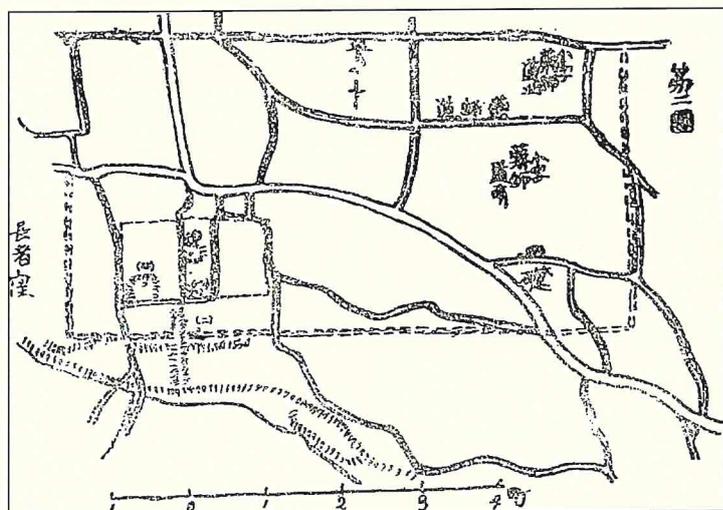
3) 成果と課題 尼寺跡想定地に対して初めて実施された発掘調査の成果と課題について、調査後に作成された概報の記述によれば以下の通りである。

昭和 44 年の調査では、尾崎喜佐雄が結語の中で、奈良時代の寺院があったことが遺構等によって確認され、寺域は金堂と講堂の芯々距離を基準として計測すると 192m(640 尺)四方となり、僧寺のやや真東の位置にあり、その間隔は 327m(1090 尺=3 町)で両寺院は関連が深く、出土した瓦は性格的に統一あるものとみられることから、本遺跡は上野国分尼寺跡と断定することができるとした。そして、調査で尼寺の位置や伽藍配置の一部が判明した意義は大きく、全国的にも国分二寺の存在が揃って確認されているところは少なく、尼寺が学術的に発掘調査されたものは 4 例(当時)にとどまっているとし、現状では推定の域を出ない金堂跡・講堂跡・中門跡、あるいは寺域等にしても今後の調査によって全貌を明らかにしたいと締めくくっている。

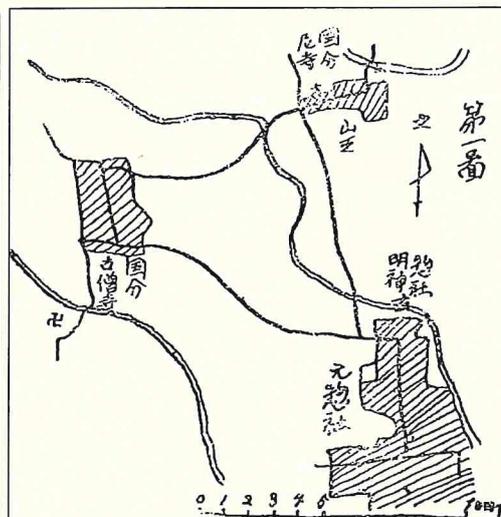
昭和 45 年の調査では松島栄治が結語の中で、推定講堂が全貌をあらわし、寺域についても推定地域に東門らしきものが検出され、尼寺の位置と規模がほぼ明らかとなり、調査の目的は一応達せられ



第5図 上野国分寺尼寺跡周辺の土地改良以前土地区画

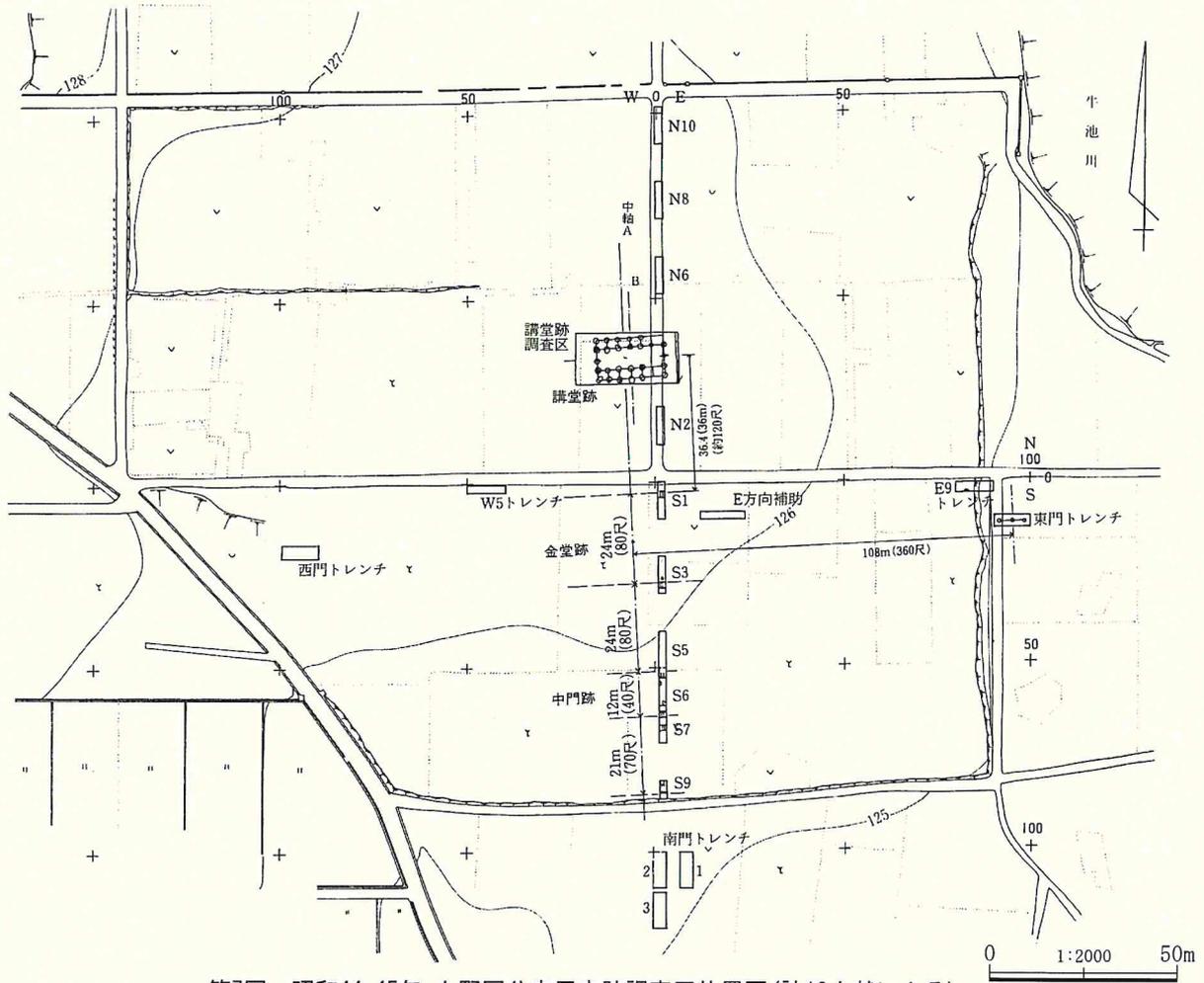


[1] 上野国分寺の範囲

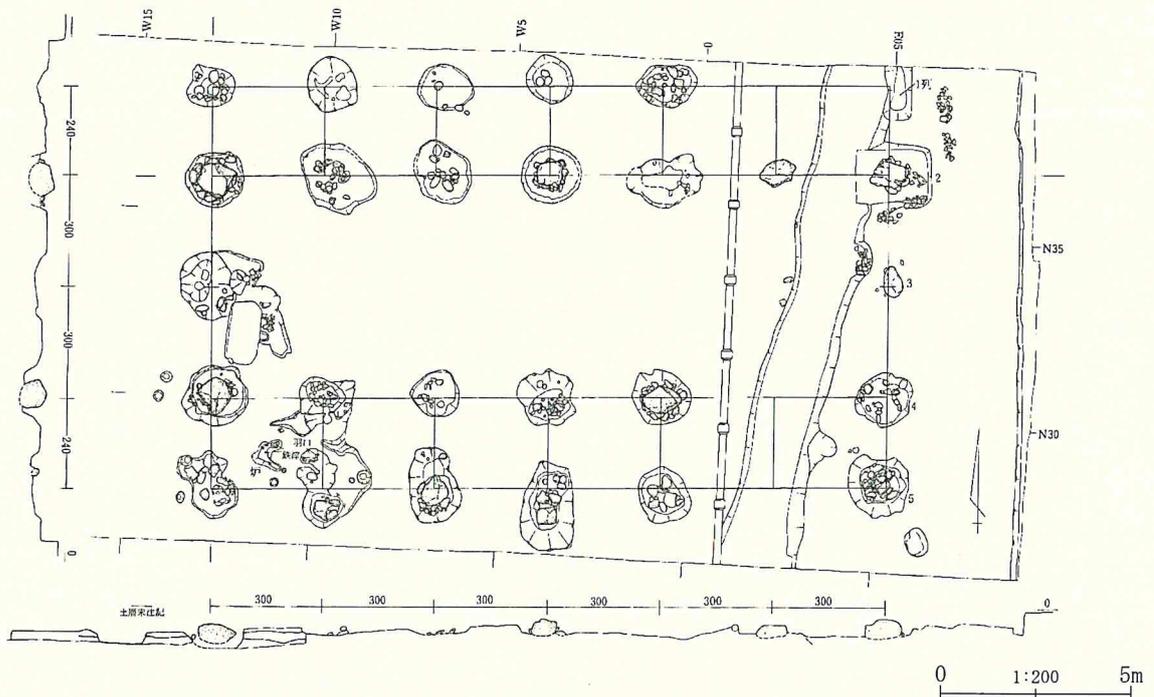


[2] 上野国分寺跡推定位置

第6図 福島武雄による上野国分寺の範囲[1]と上野国分寺跡推定位置[2] (註1文献による)



第7図 昭和44, 45年 上野国分寺尼寺跡調査区位置図(註10文献による)



第8図 上野国分寺尼寺跡 昭和45年調査 講堂跡[現尼坊跡](註10文献による)

たが、推定金堂跡及び中門跡などの規模・形状は不明で、寺域についても全体的にはまだ推定の域を出ていないとして、最終年次にあたる昭和 46 年度の調査によって初期の目的を達成したいとしている。

4) 昭和 44・45 年調査の再評価 平成 5 年(1993)に昭和 44・45 年調査の正式な調査報告書が刊行され(註 10)、主な調査成果について大江正行により次のように結論付けられている。

①金堂跡(第 9 図) S1 トレンチで北部分、S3 トレンチで南部分が確認された。基壇状部分の南北長は 23.55m で、崩落を考慮すると本来は 24m(約 80 尺)と推定され、構造は南北で異なっており、北側には掘込地業がみられ 85 cm ほどの厚みの版築が残存する。一方南側は、構築時の地表を 45 cm ほど掘り下げ、中門跡基壇状部分同様の削り出しで構築され、上面に版築層がわずかにみられたとされる。なお、大江は調査ときに作成された断面図では、金堂跡基壇下に「尼寺建立当時の生活面」との記述があるため、版築層下の基壇部分は人工的な土層と解釈され地山削り出しの中門跡とは構築法が異なると指摘した。また、周辺から出土した凝灰岩切石から、基壇外装を切石積と推定している。

②講堂跡(第 8 図) 身舎棟束柱を欠く推定切妻構造の桁行 6 間・梁行 4 間の建物で、奈良時代の寺院の主体建物として偶数間・切妻建物は異例であること、建物東西 1 間分は掘り下げているので調査不足は無いとした。また、礎石の根石に瓦や基壇外装材と思われる凝灰岩切石片がみられることから再建の可能性を述べ、時期を出土瓦の分析から 9 世紀代と推定している。前代の講堂については、調査所見に築土層中に焼土塊がみられることや礎石に被熱痕跡がみられることから焼失したと考えた。また、建物西側の形状から回廊の取り付けを推定している。

③中門跡(第 9 図) S6 トレンチ北端から S7 トレンチ北部にかけて確認された。基壇状部分南北長は 11.70m で、崩落を考慮すると本来は 12m(40 尺)と推定され、上面にロームを貼ったような痕跡がみられ、根石とみられる川原石が点在していた。基壇状部分の構造は南北で異なり、南側はローム層中まで 2 段に掘り込み、削り出しで造成され、北側は掘込地業がみられたとする。大江は、南側では崩落した瓦の整理と解釈される瓦堆積層下に最大約 70 cm の厚みで暗褐色土が存在することから、中門の存続期間の長さを指摘するとともに、上位の段に転落状態で確認された礎石が、同じ暗褐色土で埋没していることから、最終廃棄以前に抜き取られたとするのは不自然であるとしている。また、瓦堆積層上に最終廃棄に伴う焼土混入層を推定し、同層には瓦片が少ないことから、非瓦葺きの建物が再建されていた可能性に言及し、その時期を出土瓦の分析から 9 世紀末葉以降としている。

④S9 トレンチ(第 9 図) 概報で未収録の S9 トレンチは、現在高崎・前橋両市境となる農道のすぐ北に位置し、南門が推定される個所である。昭和 44 年当時は、南門の位置をさらに南方に推定していたため、門跡や南辺区画を確認するとの問題意識は無かった。S9 トレンチでは東西方向の幅 3.5m の溝と溝北肩部に「瓦を平敷きか平積にした遺構」がみられ、各遺構の時期は明示されていないが、溝は埋没土内で瓦片が出土することや、As-B 混入の記載がないため、尼寺構築後から As-B 層形成以前の構築とみられる。大江は、調査区北端となる瓦敷あるいは瓦積遺構の下部などは人為的に造成されている可能性があることを指摘し、S9 トレンチ北側に南門の存在を推定している。

註 9 『上野国分尼寺跡発掘調査報告書(昭和 44 年度調査概報)』群馬県教育委員会 1970

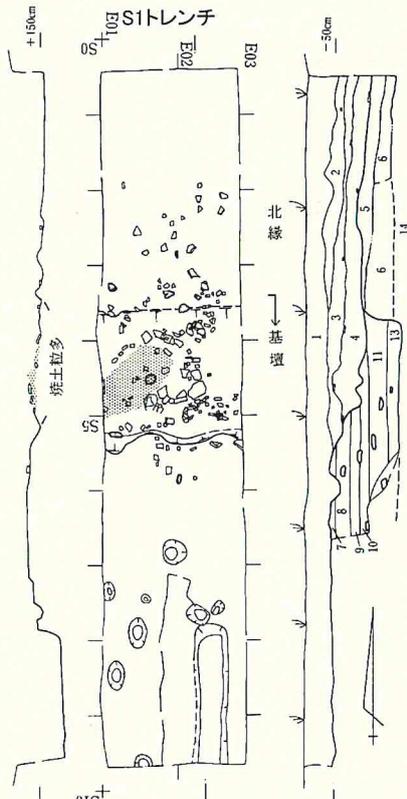
松島栄治『上野国分尼寺跡発掘調査報告(昭和 45 年度調査概報)』群馬県教育委員会 1971

註 10 『上野国分尼寺跡 上野国分二寺中間地域』群馬県教育委員会(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1993

(3) 尼寺跡周辺部の調査

昭和 45 年以降、尼寺跡伽藍地内を対象とした調査は行われず、諸開発に対応するため伽藍地の西辺や南辺、北辺で範囲確定を視野に入れた調査が実施されている。

- 1) 昭和 52 年度及び 53 年度には僧寺跡指定地公有地化にともなう宅地移転用地として、上野国分寺隣接地域の発掘調査が計画された(註 11)。尼寺西隣接地である A 地点は、昭和 52 年(1977)10 月 6 日～12 月 23 日に調査が実施され、昭和 44・45 年の調査で推定された伽藍地の外側は記録保存目的の面的な調査が行われ、内側では幅 1.5m のトレンチを東西方向に 2 本設定して、尼寺跡西辺区画施設の確認調査が行われた。この結果、推定伽藍地中軸線から西へ 55m ほどで、両側に溝を持つ土塁あるいは築地とみられる土盛り(高さ 60 cm・下幅 4m)を認め(第 11 図[3])、軸方位は中軸線方向と整合するとされた。土塁遺構外縁から 10m 内外の間隔において、8～10 世紀にわたり間断なく竪穴住居が存在するのが認められた(第 11 図[2])。調査担当の井上唯雄は新たな所見をもとに、尼寺跡の伽藍地範囲を方 192m(1.8 町内外)では無く、東西 1 町、南北 1.5 町ではないかと推定した(第 11 図[1])。
- 2) 昭和 55 年(1980)度～昭和 58 年(1983)度にかけて、関越自動車道路建設工事に伴って(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団により「上野国分僧寺・尼寺中間地域」の調査が実施された(第 12 図)。調査区は染谷川から牛池川間の延長約 1 km・幅約 60m で、南から Y・Z・A～D・F～J の 11 区に分割された。このうち B～D 区付近が僧寺跡と尼寺跡の推定伽藍地には含まれた中間地であった。数多くの調査成果のうち、尼寺跡に関わるものとして、B 区 1 号井戸跡(地上径 2.8m・深さ 6.37m)から「法花寺」の墨書を有する須恵器杯が出土している(第 13 図)。同須恵器杯は、井戸跡底面の直上からみられた土師器甕破片群の上に、下から土師器杯・土師器甕・頸部上半を欠いた須恵器壺・土師器甕を各々正位で重ねた最上位に逆位に置かれており、埋納時期は 9 世紀中頃とされる。調査担当の木津博明は何らかの祭祀行為による埋納で、尼僧か優婆夷が直接関わったとし、当区域が尼寺の寺域に含まれると考えた(註 12)。また、C 区で確認された 6 号溝状遺構は僧寺・尼寺各々の西門想定箇所を結ぶ軸線と重なり、3 期の改修を経て 10 世紀末まで使用されており、重要な役割を担っていたことを想定している(註 13)。
- 3) 平成 12 年(2000)3 月 12～18 日及び 9 月 25 日～10 月 28 日に元総社蒼海土地区画整理事業に伴い、前橋市埋蔵文化財調査事業団により尼寺跡寺城南辺範囲を確定するため、幅 1m ほどのトレンチを原則とした調査が実施された(註 14)。この結果、地山削り出しで構築された築垣基部の南東隅・南西隅とされる箇所を確認し、井上唯雄は南辺築垣の位置は現在市境となる東西方向の農道とほぼ重なると考え、南辺長を築垣内側で 166.2m、外側で 174m 内外とした。また、築垣の時期について重複する竪穴建物跡の所見から、8 世紀第 3 四半期以降の構築で 10 世紀第 2 四半期頃までの崩壊・平夷を推定した。また、築垣南側に平行して幅 3m 内外・深さ 60 cm 内外の溝が併存し寺城南東隅で走行方向を南東に向けていること、溝の南側には幅 4m 内外の道路敷とみられる硬化部が存在することなどを指摘している(註 15)。
- 4) 送電線用鉄塔建設に伴い平成 12 年(2000)年 8 月 21 日～10 月 18 日に群馬町教育委員会により尼寺跡推定伽藍地の北辺付近で調査が実施された(註 16)(第 12 図)。このうち大正期に建設された既存鉄塔撤去箇所(A 区)は、昭和 45 年の「講堂跡調査区」の北約 24m にあたり、尼寺跡推定伽藍地の範囲内と考えられた。A 区の調査では、鉄塔基礎 4 基(平面は一辺 2m の方形で現地表から深さ約 1m、北東隅基礎を A-1 区として右回りに A-2～A-4 区とした)の抜き取り時に土層断面観察が実施された。調査担当の清水 豊によると北西隅の A-4 区で 10 世紀と判断される竪穴建物が確認されたほかに遺構の確認は無く、A-2 区・A-3 区では土層の状況から時期は不明瞭ながら造成の痕跡が指摘されている。

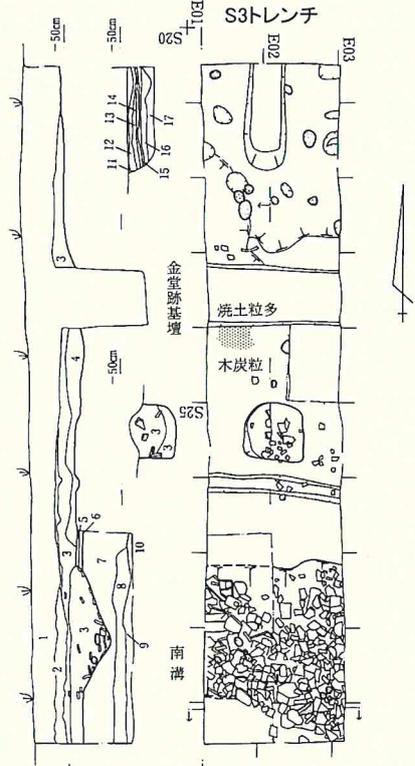


S1トレンチ

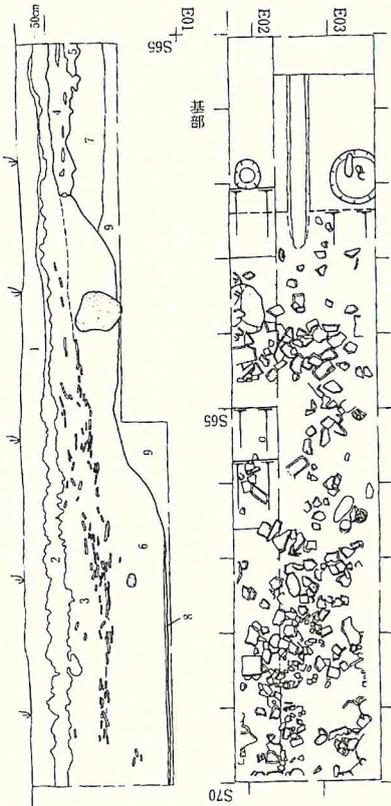
- 1 耕作土。
- 2 砂質の黒褐色土(Bスコリア)。
- 3 黒褐色土。焼土混じり。(浮石を含む)
- 4 黒褐色土。浮石混じり。
- 5 黒色土。浮石混じり。旧表土。Cスコカ?
- 6 暗褐色土。
- 7 現場注記無し。
- 8 黒色土。
- 9 現場注記無し。
- 10 現場注記無し。
- 11 現場注記無し。
- 12 現場注記無し。
- 13 ローム混じり。
- 14 ローム層。

S3トレンチ

- 1 耕作土。
- 2 黒色土。黒色砂質土層(Bスコリア)。
- 3 褐色土。焼土混じり。
- 3' 褐色土。
- 4 褐色土。粘質。
- 5 版築面第一層。
- 6 版築面第二層。
- 7 黒褐色土。粘質。(二ヶ岳スコリア含む)。
- 8 黒色土。砂質。(Cスコリア層)。尼寺建立当時の生活面、又は生活層。プライマリー。
- 9 暗褐色土。粘質。
- 10 赤褐色土。粘質。
- 11 褐色土。二ヶ岳スコリアを含む版築第一層。(3'層の類)
- 12 褐色土。二ヶ岳スコリア少ない版築第二層。(3'層の類)
- 13 褐色土。版築第三層。(3'層の類)
- 14 黒色土。砂質を含む版築第四層。(3'層の類)
- 15 二ヶ岳スコリアと焼土を含む版築第五層。(3'層の類)
- 16 ロームブロックを含む版築第六層。(3'層の類)
- 17 褐色土。ピット底面。(3'層の類)



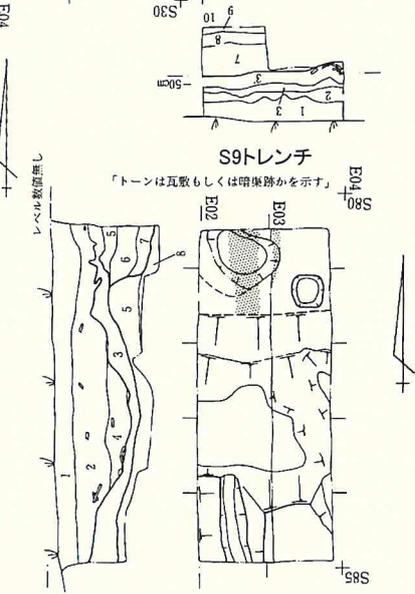
S7トレンチ



S7トレンチ

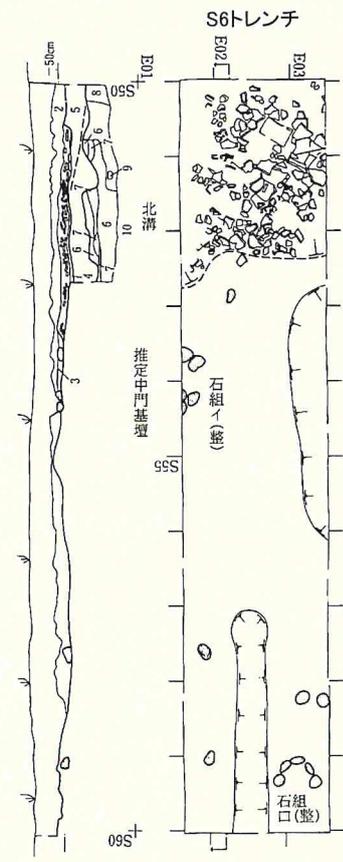
- 1 耕作土。耕作により攪乱されている。暗色を呈し、やわらかい。
- 2 黒色土。火山灰を含む。砂質状、黒色を呈し、さらさらする。Bスコカといわれる。2層の黒色土層に焼土がつよく含まれる。さらには褐色土層に及ぶ。
- 3 褐色土。粘質で、浮石(細かい)が現る。遺物包含層。
- 4 褐色土。ロームが斑に混じる。少し固い。暗褐色土層と分離が困難である。
- 5 純黒色のブロック(僅かに浮石が混じる)。
- 6 暗褐色土。上層(3層)と同様、褐色であるが、やや暗く粘着が弱い。上層と明確な分離が出来ない。
- 7 黒褐色土。青味を帯びた疑似ローム。柔らかく、さらさらする。
- 8 川原砂。ザラザラする。
- 9 ローム層。やや固い。

S9トレンチ



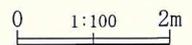
S9トレンチ

- 1 表土。
- 2 かなり大粒の浮石を含む茶色土。(攪乱されている。この層の上から瓦片が多数出土)
- 3 浮石混じりの黒色土。上面にいくほど粗。粒子は荒い。おそらくCスコカであろう。瓦は殆ど出土せず。
- 4 2層と3層の混土層(浮石を含む)。比較的黒っぽい。
- 5 2層と3層の混土層(浮石を含む)。比較的茶色っぽい。
- 6 黄褐色土ローム。
- 7 5層より黄色味がかり締まりが無い。
- 8 地山。黄色土のローム質の黄色土。

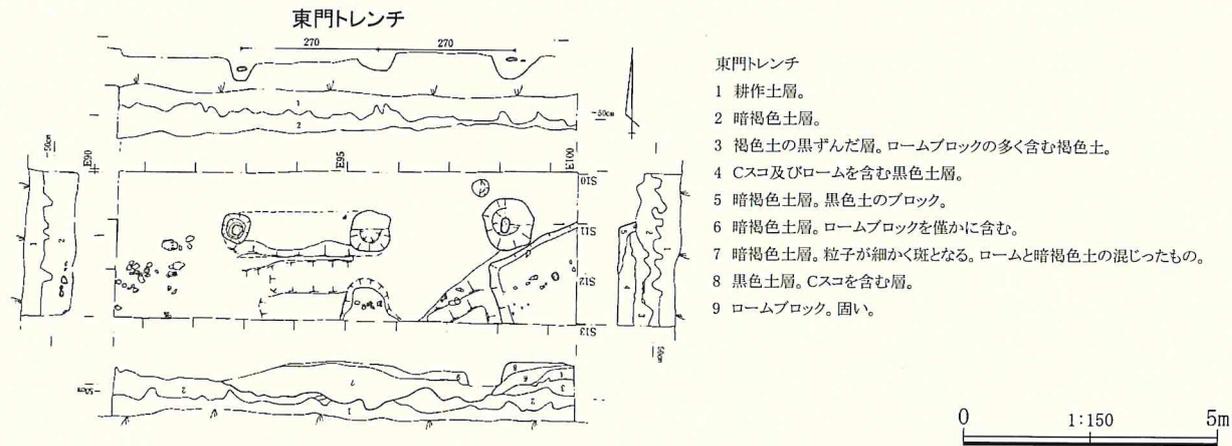


S6トレンチ

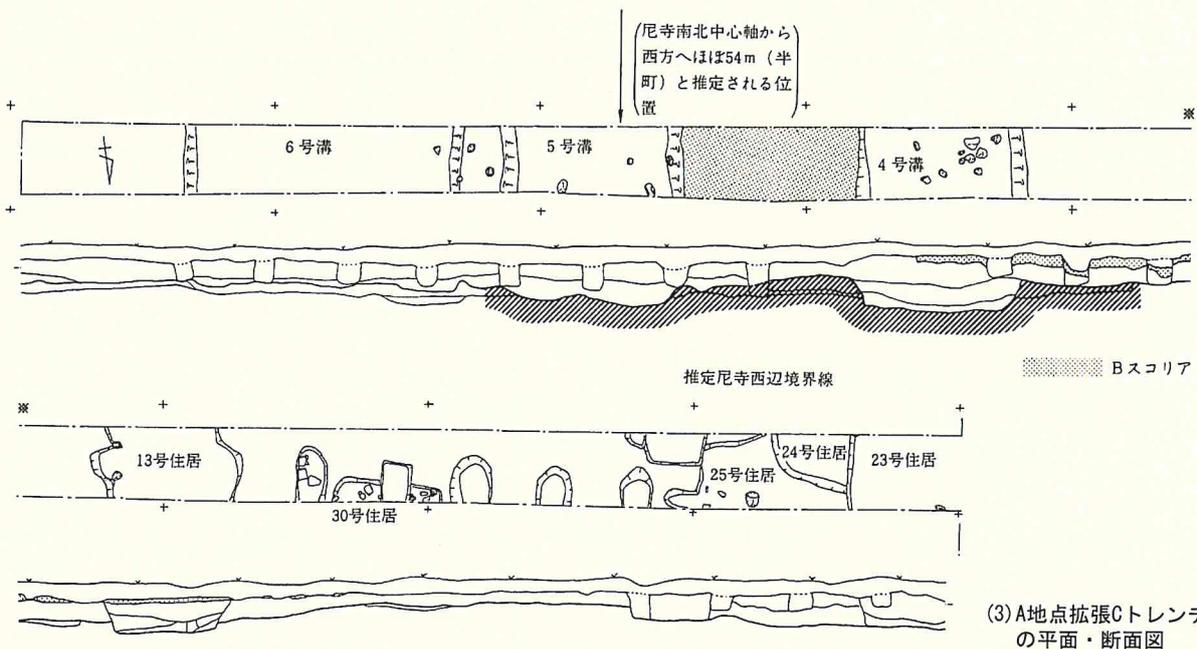
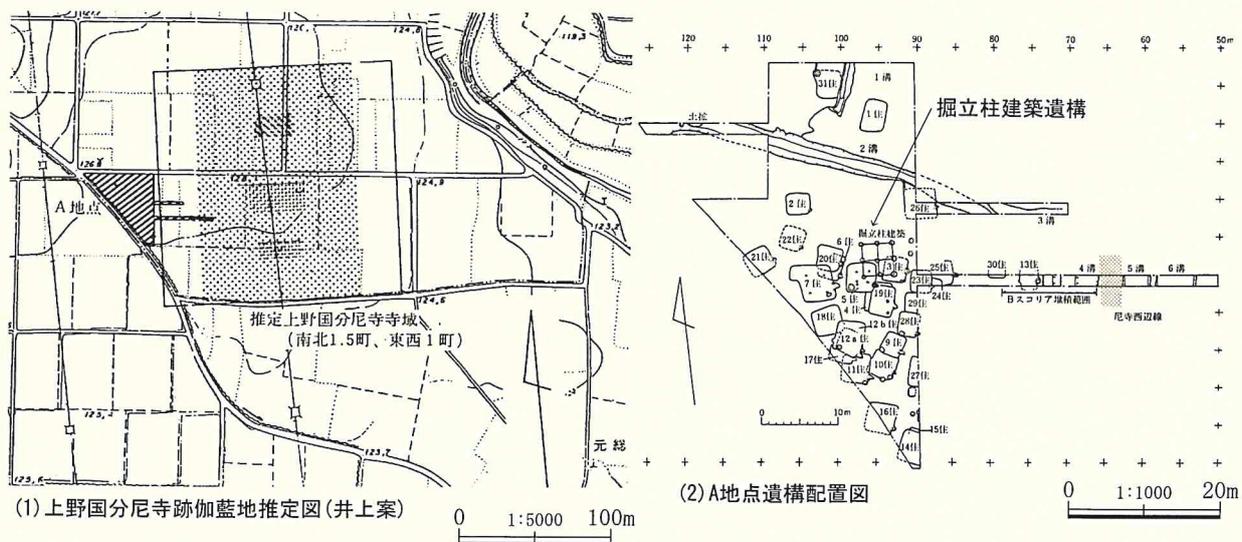
- 1 耕作土。柔らかく、さらさらしている。
- 2 黒色土。砂質的で、さらさらする。Bスコカ含む。
- 3 褐色土。粘質、瓦包含層、焼土。
- 4 灰褐色土。粘質のある薄い層を形成する。
- 5 褐色土。粘質で浮石、焼土が入る。
- 6 暗褐色土。
- 7 褐色土。粘質有り。
- 8 疑似ロームで、柔らかく、さらさらする。
- 9 ロームブロック。
- 10 ローム層。



第9図 上野国分寺尼寺跡 昭和44年調査(註10文献による)



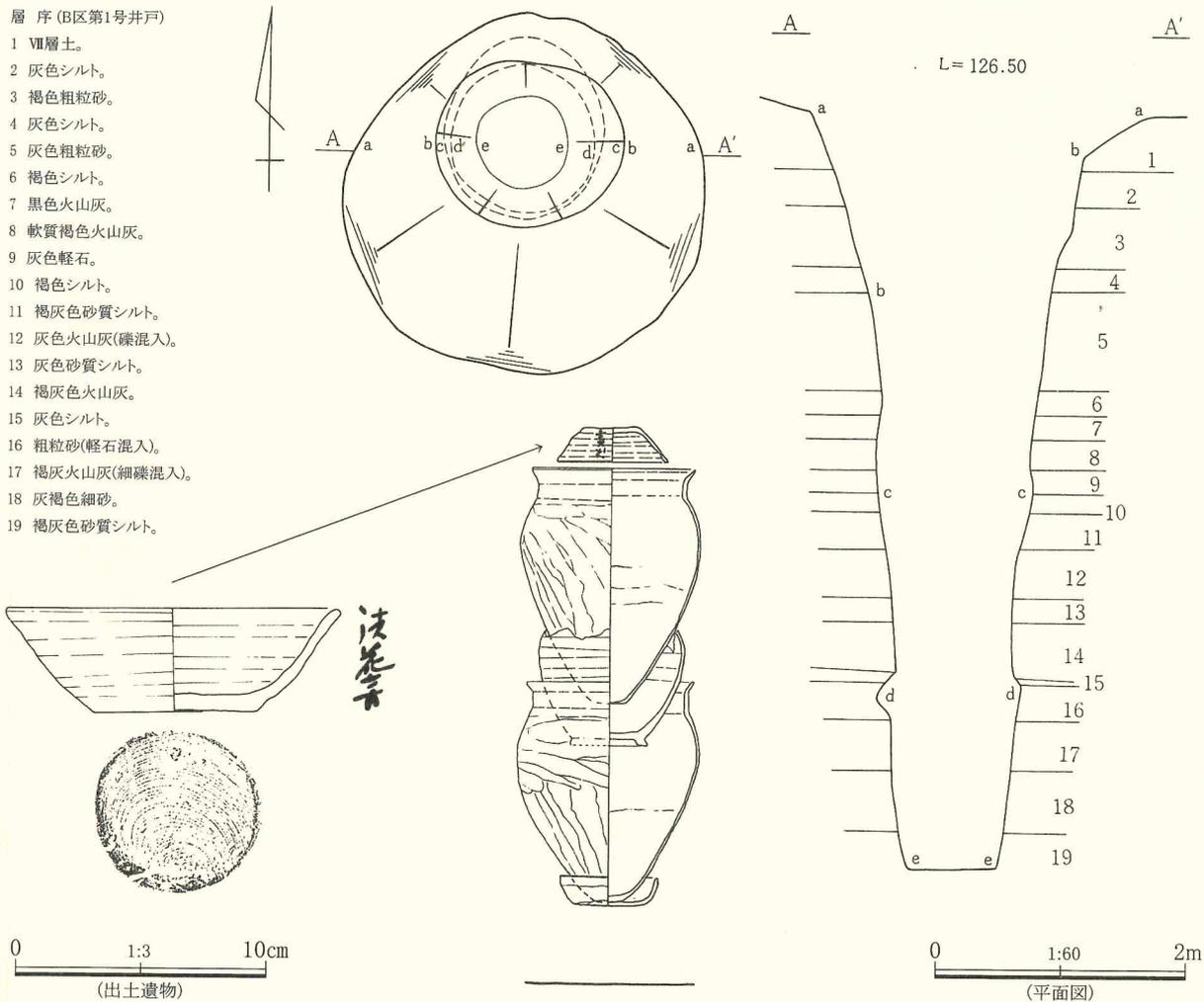
第10図 上野国分尼寺跡 昭和45年調査「東門トレンチ」(註10文献による)



第11図 上野国分寺隣接地域 昭和52年調査(註11文献による)

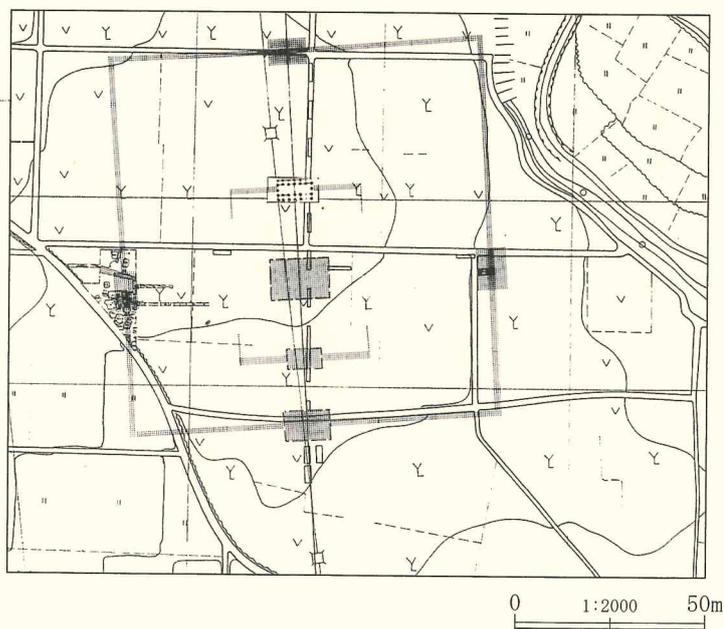
層序 (B区第1号井戸)

- 1 VII層土。
- 2 灰色シルト。
- 3 褐色粗粒砂。
- 4 灰色シルト。
- 5 灰色粗粒砂。
- 6 褐色シルト。
- 7 黒色火山灰。
- 8 軟質褐色火山灰。
- 9 灰色軽石。
- 10 褐色シルト。
- 11 褐灰色砂質シルト。
- 12 灰色火山灰(礫混入)。
- 13 灰色砂質シルト。
- 14 褐灰色火山灰。
- 15 灰色シルト。
- 16 粗粒砂(軽石混入)。
- 17 褐灰火山灰(細礫混入)。
- 18 灰褐色細砂。
- 19 褐灰色砂質シルト。



法花寺

第13図 上野国分僧寺・尼寺中間地域 B区第1号井戸・「法花寺」墨書土器及び出土状況模式図(註13文献による)



第14図 木津博明による上野国分尼寺伽藍地範囲の推定(註17文献による)

また、B区はA区の約80m北の既存鉄塔の移転用地で、平成12年3月1～4日に実施された確認調査により東西方向の溝跡がみられた。溝跡の走行方向はE-8.5°-Nで上幅0.95～2.15m・基底部幅50～80cm・確認面からの深さは30～45cm、断面形態は箱形で基底は平坦で、構築時期は埋没状況から古墳時代後期以降～平安時代末と考えられている。

- 註11 井上唯雄「Ⅲ考察 ②国分尼寺の寺域について」『上野国分寺隣接地域発掘調査報告』群馬県教育委員会文化財保護課 1979
- 註12 『上野国分僧寺・尼寺中間地域(3)』群馬県教育委員会(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1988
- 註13 『上野国分僧寺・尼寺中間地域(4)』群馬県教育委員会(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1990
- 註14 井上唯雄「Ⅳ調査の概要」『上野国分尼寺寺域確認調査』前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2000
井上唯雄「Ⅶまとめ」『元総社宅地遺跡・上野国分尼寺寺域確認調査Ⅱ』前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2001
- 註15 平成20年(2008)に該当部が再調査され、溝南側の道路敷は存在しないことが判明した。一方で尼寺の伽藍地南正面付近から南東へ延びる、「尼寺造営に関する採掘土坑」を埋め立てた瓦敷面が確認され、国庁へと向かう道としての機能が想定されている。『元総社蒼海遺跡群(20)』前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2009
- 註16 『上野国分尼寺跡北辺遺跡』群馬町教育委員会 2002

(4) 尼寺跡伽藍地範囲についての再検討

昭和54年(1979)の群馬県教育委員会による調査以降、伽藍地周辺部の資料が蓄積されるなか、尼寺の伽藍地範囲をめぐって様々な検討が試みられている。

井上唯雄は前記の通り、昭和52年の調査成果から尼寺の寺域を方192m(1.8町内外)では無く、東西1町、南北1.5町と推定した(第11図[1])。昭和63年(1988)に木津博明は、昭和45年調査による東大門の推定箇所を支持した上で、昭和52年調査の土層観察時の誤認を指摘し、寺域の境とされた溝は住居ではないかとし、これとは別に、東大門推定箇所から寺域の中心軸で折り返した地点付近で確認されている「掘立柱建築遺構」(第11図[2])を西大門に推定して昭和44・45年調査で示された寺域範囲を支持している(註17)(第14図)。なお、「掘立柱建築遺構」は調査報告書によると2間×2間の総柱建物と推定され、柱穴は平面不整形長方形で深さは40～50cm、西側柱中間の柱穴は確認されず、東西長は12ないし13尺で柱間6ないし6.5尺、南北長は14尺で柱間7尺、主軸方向はN-4°-Wとされる。木津は同遺構の規模や柱間数について後代の削平によるものとし、東大門と比べると簡素な構造となる点について、尼寺は国府政庁との位置関係から東側の景観を重視し、西側には寺地の展開がみられる点から西大門は通用的門であったと考え、修築も考えられるとしている。また、僧寺・尼寺中間地域の調査成果から尼寺の寺地を、国府や放光寺、地形的制約との関りが無い西側に求められるとし、「法花寺」墨書土器を出土したB区1号井戸跡付近が含まれ、I区で確認された掘立柱建物遺構群も尼寺に係わる施設とし、僧寺寺地と土地区画(条里)ごとに入り組む可能性にふれている。

平成14年(2002)に清水豊は尼寺跡の関連文献を集成の上で研究史を整理し、さらに現況地形や明治期の地籍図の分析から伽藍地範囲について次の見解を述べている(註18)。

- 1) 伽藍地南辺 平成 12 年の前橋市教育委員会調査による調査で確認された、行政境となる農道とほぼ重なる溝状遺構について紹介し、昭和 45 年に群馬県教育委員会が調査した S9 トレンチ周辺に南門が推定されるとの考えを支持した上で、大江正行が想定した S9 トレンチ北端の造成痕跡は倒木跡の可能性を述べている。
- 2) 伽藍地東辺 昭和 45 年の群馬県教育委員会による東門トレンチの調査所見や現況地形などから考えると、明治期の地籍図にみられる南北方向の直線的地割がほぼ東辺にあたるとしている。
- 3) 伽藍地西辺 昭和 52 年の群馬県教育委員会の調査で井上唯雄が寺域西限の根拠とした 4 号・5 号溝について、報告書に掲載された土層図をみると両溝埋没後の堆積層を掘り込んで、8 世紀中頃とされる 13 号住居が構築されるように解釈され、両溝が尼寺に伴うとすれば構築時期の問題があった。また、木津が西門跡と推定した掘立柱建築遺構の時期について、重複する 3 号住居跡の時期を出土遺物から再検討すると 8 世紀代と考えられることから、8 世紀には廃絶していたこと、さらに掘立柱建築遺構の東側にピットが複数存在することから、同遺構が 2 間×3 間の東西棟ともみられ、門跡ではない可能性を述べている。一方、平成 12 年(2000)の前橋市教育委員会による調査で伽藍地南辺の根拠とされた溝状遺構について、調査では未確認だが北方向へ屈曲する地点を想定し、調査区西端付近でまとまってみられた 4 軒の竪穴住居との位置関係が注意されるとしている。
- 4) 伽藍地北辺 平成 12 年(2000)の調査で確認された溝跡は、規模及び出土遺物から詳細な時期設定ができないため北辺区画に関連する遺構とは断定しがたいとした上で、伽藍地内が平坦を意識して造成されているとすれば、現況地形の分析から同溝跡付近が伽藍地北辺である可能性を考えたいとしている。

註 17 木津博明「上野国分尼寺々地考」『群馬の考古学』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1988

註 18 『上野国分尼寺跡北辺遺跡』群馬町教育委員会 2002

第3章 調査の経過

第1節 調査組織

上野国分尼寺跡確認調査(以下、調査)は、高崎市教育委員会の直営とし、文化財保護課埋蔵文化財係職員が担当した。これに際して、上野国分尼寺跡調査検討委員会(以下、検討委員会)を組織し、その指導の下で調査を進めた。

上野国分尼寺跡検討委員会

検討委員 ※肩書は委嘱時点

委員長 前澤和之 跡見学園女子大学兼任講師
副委員長 須田 勉 元国士舘大学文学部教授
委員 佐藤 信 東京大学大学院人文社会系研究科教授

指導 ※肩書は依頼時点

文化庁文化財部記念物課(平成30年10月1日～文化財第二課)
浅野啓介 文化財部記念物課史跡部門文化財調査官
川畑 純 文化財第二課史跡部門文化財調査官(令和2～令和4)

オブザーバー ※依頼順・肩書は依頼時点

群馬県教育委員会文化財保護課(令和2～地域創生部文化財保護課)
桜井美枝 埋蔵文化財係長(平成28)
松原孝志(平成29～令和1) 橋本 淳(平成28～令和1)
小林 正(平成28～令和1) 川口 亮(平成28) 宮下 寛(令和1)
阿久津聡(令和2) 小原俊行(令和2～令和3) 今城未知(令和3)

前橋市教育委員会事務局文化財保護課

梅澤克典(係長・令和28) 神宮 聡(係長・平成29～令和4)
阿久津智和(平成29～令和4)

事務局(高崎市教育部文化財保護課)

教育長 飯野眞幸(平成28～令和4)
教育部長 上原正男(平成28) 小見幸雄(平成29～令和4)
課長 若狭 徹(平成28) 角田真也(平成29～令和4)
埋蔵文化財担当係長 角田真也(平成28) 矢島 浩(平成29～30・課長補佐兼務令和1)
神澤久幸(平成29～30・課長補佐兼務令和1～2)
清水 豊(課長補佐兼務令和2～4) 滝澤 匡(令和3～4)

調査担当 田辺芳昭(平成28～令和4) 金子智一(平成28～令和4)
庶務担当 針井 修(平成28) 金井英一(平成28～30) 加藤志津代(平成28～29)
金山 悟(平成29) 岡田清香(平成29～令和2) 小池圭子(平成30)
小暮里恵(平成30～令和3) 滝澤 匡(令和1～令和2) 関口芳治(令和1～3)
佐藤聡子(令和3～4) 伊藤育美(令和3～4) 島崎 恵(令和4)
木村夏葵(令和4)

第2節 確認調査の目的と調査区

(1) 確認調査の目的

上野国分尼寺跡(以下、尼寺跡)は昭和44・45年(1969・1970)の調査で多くの課題が示されていた。特に伽藍地の範囲は、区画施設に関わる具体的な遺構が未確認のため、推定東門跡の位置および推定講堂跡・推定金堂跡の位置関係などから数値的に割り出されたものであった。その後、部分的な調査で伽藍地の西辺や南辺で築垣痕跡の確認が試みられているものの、尼寺跡全域を対象とした確認調査は今回が初めてとなる。そうしたことから調査目的として次の2つを最優先とした。

- 1) 伽藍地範囲の確認 築垣跡など具体的な区画施設の遺構を確認し、伽藍地の境界を明確にすること。このことは、近年特に進んでいる周辺地域の市街化から尼寺跡を保護するためにも最重要とされた。あわせて昭和45年調査における「東門跡」や、昭和52年調査における「西辺築垣跡」の再検証をおこなうことが課題とされた。また、伽藍地南辺が現在の高崎・前橋両市境付近となるため、前橋市教育委員会と協力し調査に当たることとした。
- 2) 伽藍地内主要建物の確認 伽藍地内に配された、金堂や講堂など主要建物の残存状況や構造を確認する。このことは、規格性をもって造られた国分寺の伽藍推定に有益である。上野国分尼寺の詳細を把握し、上野国分寺をはじめ諸国分寺との比較検討を行う足がかりとなり、尼寺の遺跡としての価値を高めていくこととなる。

以上を踏まえて当初は10か年計画とし、はじめの5か年は原則として伽藍地範囲の調査に主眼を置き、その後の5か年で伽藍地内主要建物の調査を行なうこととした。確認調査を進めるにつれ、伽藍地東辺および北辺では早い段階で区画施設の痕跡を出来たことや、同時に進められた昭和期調査の検証作業で、「講堂跡」とされた礎石建物跡が尼坊跡と判明したことなど成果が上がったことで、調査期間の短縮をはかり、主要建物の確認調査を可能な限り前倒しで進める方針とした。

(2) 各年度における確認調査の目的と調査区(第15図)

第1次調査(平成28年度)

昭和45年調査による「東門跡」の検証および伽藍地東辺の調査：1トレンチ・2トレンチ

昭和45年調査による「講堂跡」の検証：3トレンチ・4トレンチ

第2次調査(平成29年度)

伽藍地南東隅および東辺の確認：5トレンチ・6トレンチ

伽藍地南辺の確認：7トレンチ 南面回廊跡の確認：8トレンチ

第3次調査(平成30年度)

尼坊の範囲確定および講堂の確認：3トレンチ拡張

伽藍地北辺の確認：9トレンチ 伽藍地西辺の確認：10トレンチ

第4次調査(令和元年度)

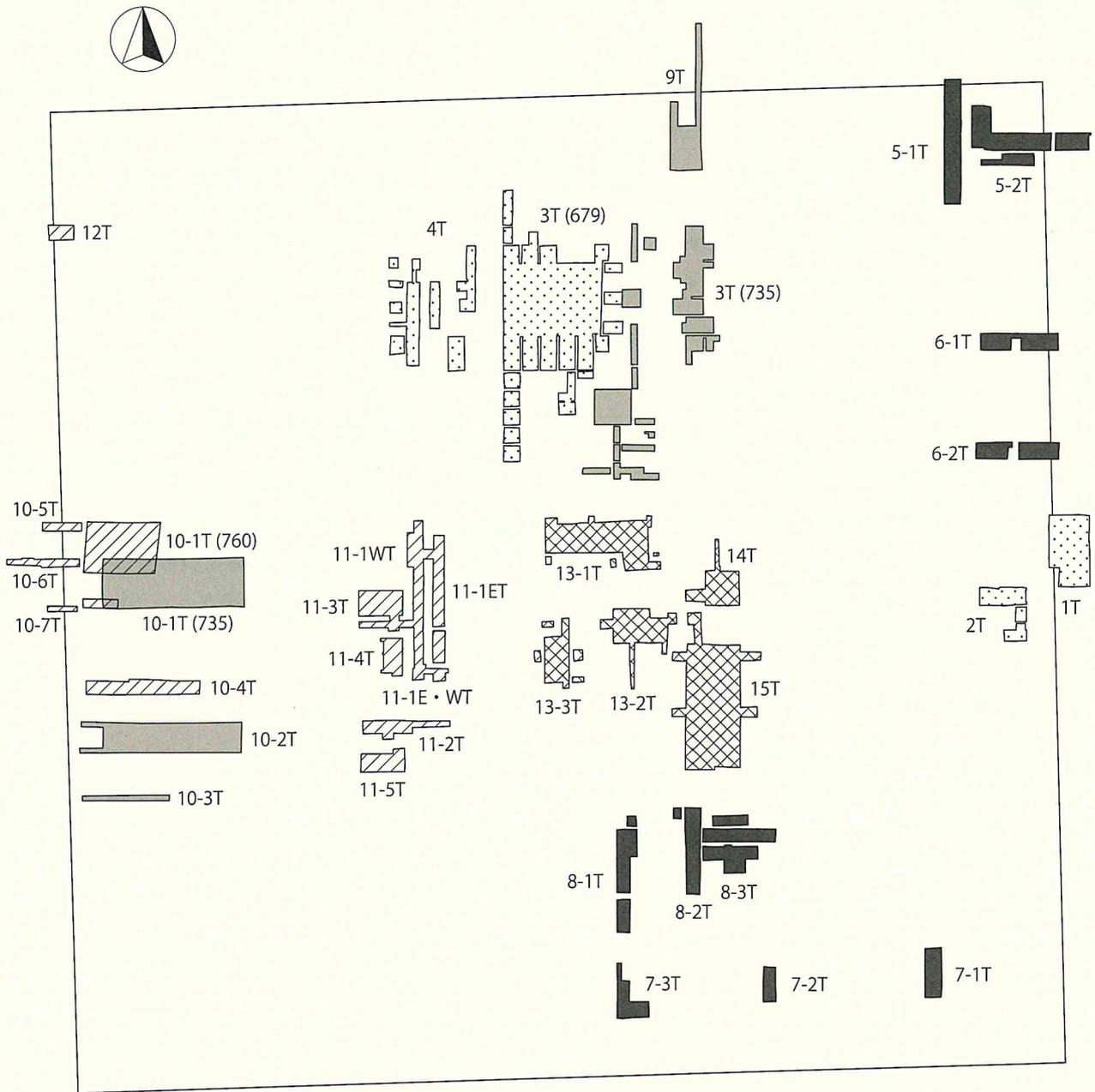
伽藍地西辺の確認及び昭和52年調査区の検証：10トレンチ拡張・12トレンチ

西面回廊の確認：11トレンチ

第5次調査(令和2年度)

金堂東半部の確認：13トレンチ

東面回廊の確認：14トレンチ・15トレンチ



- 679 平成 28 年度調査 1T 2T 3T 4T
- 707 平成 29 年度調査 5T 6T 7T 8T
- 735 平成 30 年度調査 3T 9T 10T
- 760 平成 31 年度・令和元年度調査 10T 11T 12T
- 803 令和 2 年度調査 13T 14T 15T

第15図 トレンチ配置図

第3節 発掘調査の方法

(1) 基本方針

今回は遺跡の保存を目的とした確認調査であるため、掘削箇所は最小限にとどめることとし、拡張や基礎地業部分の掘り下げなどの必要が生じた場合、検討委員会の指導の下に行うこととした。この際、現耕作土以下 As-B 混入土は表土と考えて、場所によっては小型バックホーを併用して掘削を行った。表土下では、尼寺構築面が明確に判断できない場合、調査区の範囲を狭めつつ掘り下げを行った。調査区設定は幅 3m を原則としたトレンチで行い、尼寺構築面が不明な場合、幅を 2m あるいは 1m に狭めて下層を調査し、基壇及び基礎地業下への掘り下げは幅 50 cm を原則とした。

一方、出土遺物は現状保存を原則とし、遺構確認のため埋没土中の遺物は最小限の取り上げをおこなった。また、遺構の一部となるものや基礎地業内の瓦片などは、尼寺の歴史的価値を検討する上で欠かすことができないと判断された場合、検討委員会指導の下に取り上げをおこなった。

(2) 調査グリッドの設定(第 16 図)

調査グリッドは、世界測地系(測地成果 2011)をもとに、調査の便宜をはかるため調査区南東の $X=43700$ $Y=-7200$ を基点とする方眼を設定した。基点の設定にあたっては、尼寺の伽藍地さらには僧寺との関連を想定した場合、調査区が北西方向に拡大していくことが予想されたことによる。方眼の 30m 四方をグリッド単位とし、南北軸は基点から北へ A~T・2A~、東西軸は基点から西へ 1~とし、グリッド名は南東隅の座標によった。さらに、30m 四方のグリッドを 3m 単位の小グリッドに分割し、南東隅から西に向けて 1~100 の枝番を付した。

(3) 調査の手順

- 1) 調査準備 尼寺跡の全域が私有地であること、さらに農地が多くを占めることから、調査用地として借用の承諾を得るには早い段階で交渉を開始する必要がある。このため、少なくとも着手予定の 1 年ほど前には調査区を選定して関係者へ説明した。そして、確認調査実施に先行し、農地一時転用の申請手続きを行い、許可後に土地所有者と土地一時使用賃貸借契約を締結した。
- 2) 調査区の設定 現況の多くが農地であるため、常設の基準点は農道におき、トータルステーションを用いた測量により、その都度必要箇所に木杭などでグリッド座標を設けて調査区の設定をおこなった。
- 3) 表土掘削 表土は現耕作土および下層の As-B 混入土とし、表土内に瓦片など遺物の混入が多くみられたため、人力での掘削としたが、掘削土量の多い場所では一部で小型バックホーを併用した。
- 4) 遺構確認作業 今回調査の主目的は、尼寺の構築面を確認することであるため、尼寺廃絶後と判断される攪乱は慎重に掘り下げた。なお、構築面を探る際、建物部分は基壇面の残存や基礎地業痕跡から判断が可能であった。一方で、建物が存在しない箇所では、建物部分埋没土との関連から該当部分の埋没土を特定し、尼寺構築時から廃絶以前の整地面確認につとめた。この際、中世頃の溝跡など尼寺廃絶後の遺構がみられたが、検討委員会の指導下に必要に応じて記録保存をおこなった。

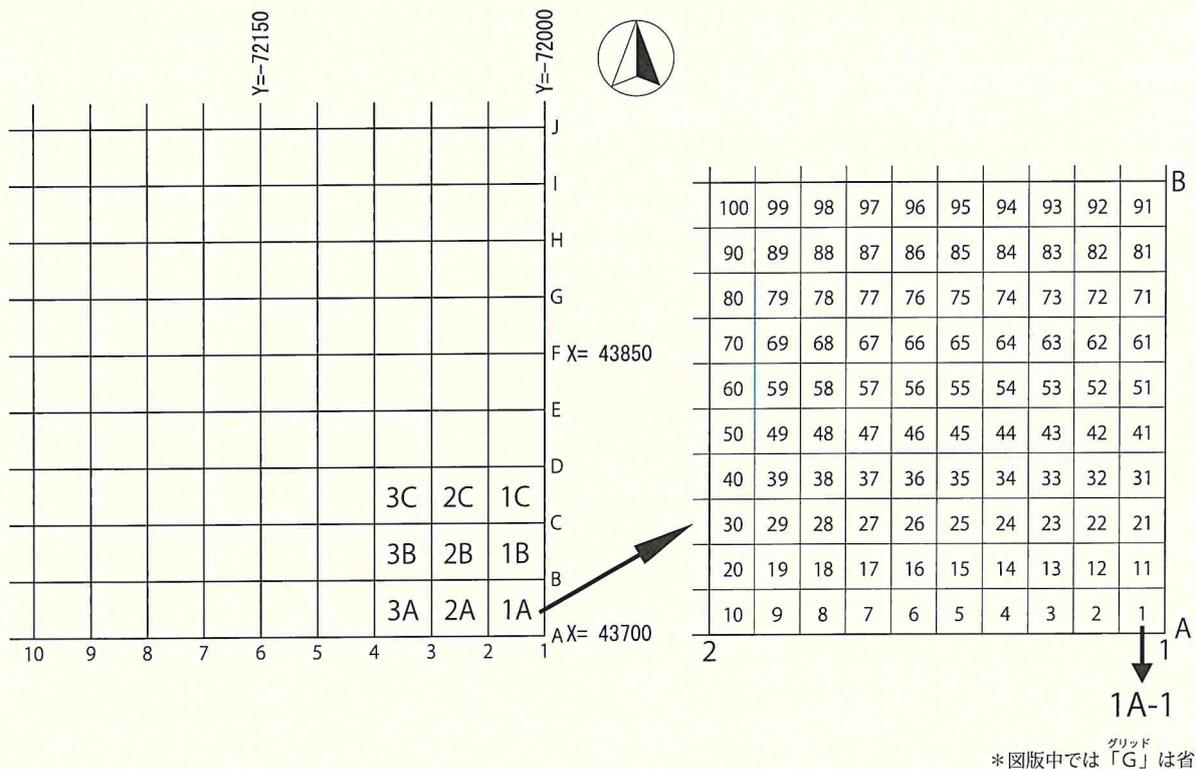
5) 記録作業 構築面の確認に際しては平面図と断面図を作成し、縮尺は原則として20分の1とし、必要に応じ10分の1あるいは等倍で詳細図を作成した。測量作業には原則としてトータルステーションを用いた。確認作業中の出土遺物については小グリッドごと一括とし、遺物出土層位をAs-B混入土層(B混)・尼寺廃絶後～As-B降下前の埋没土(B下)と2分類(金堂正面付近ではさらに分層を行った)して取り上げた。また、構築面および構築面に関連した位置や基礎地業内の出土遺物は、可能な限り位置および標高値を記録後、個々にNo.を付して取り上げた。

また、写真による記録作業を35mm一眼レフカメラによるモノクロフィルム及びリバーサルフィルム撮影で行い、デジタル一眼レフカメラによるデジタル撮影を併用した。

一通りの確認作業が完了した段階で、年度ごとに業務委託による平面測量を実施し、調査区全体を高精度のデジタルデータで記録し、同時にドローンを使用した空中写真(モノクロフィルム撮影及びデジタル撮影)で記録した。このほか、残存した礎石のうち回廊北西隅(11トレンチ)の1箇所と東面回廊(15トレンチ)の5か所について、写真測量による3次元データ(縮尺10分の1)を作成した。

6) 埋め戻し作業 確認調査完了後トレンチを埋め戻し現状復帰をおこなった。この際、調査部分の識別を可能とするため、調査面上に山砂を8cmの厚さを目安に敷き、礎石の周囲や遺物部分など移動・破損しやすい箇所には土嚢袋で補強をおこなった。山砂を敷いた後、表土掘削作業時に出土した礫や抽出した以外の瓦片を戻し、掘削土については小型バックホー併用で埋め戻しを行い、その後は土地所有者の意向を尊重しつつ整地作業実施した。

7) 資料整理・報告書作成 構測量図は全てデジタル化を行った。第1次調査時から現地調査と並行して平面図・断面図の合成作業を行い、調査検討委員会において提示して問題点抽出のたたき台とした。確認調査報告書作成にあたり、図版用に編集し直した。



第16図 調査グリッド設定図

第4節 基本層序(第17図)

調査区に分布する土層の重なりや広がり把握するため基本層序の設定を行った。設定方法は、トレンチの土層断面を観察して現耕作土より基盤層に至るまでの各土層の関連が理解しやすい箇所を選択して柱状図を作成した。そして、各地点の土層を相互に比較検討してそれぞれの時間的な位置づけを明らかにし、堆積土の最上層からⅠ・Ⅱ～の順にローマ数字を付した。

Ⅰ 現耕作土

色調は黒褐色(10YR3/2)や灰黄褐色(10YR4/2)。粘性は無い。乾燥時は比較的良く締まるが、水を多く含むと軟弱となる。As-Bの混入がみられ、天明3年(1783)噴出のAs-Aの混入も想定されるが、同テフラの純層は確認されず、土中に混在する軽石粒から目視での判別は困難である。

Ⅱ 黒褐色 As-B 混入土

色調は黒褐色(10YR3/1・10YR3/2)。土質はⅠと同様であるが、相対に均質でAs-Bの混入密度がやや高い。下層境付近にⅢの残痕が断続的にみられる場合がある。

Ⅲ As-B 一次堆積層—嘉承3・天仁元年(1108)

今回の調査区内では、後世の開墾等で失われており伽藍地北辺の築地塀跡両側や南辺付近などに限定的に残存するのみであった。

Ⅳ 黒褐色 As-C 混入土

色調は黒褐色(10YR3/1・10YR3/2)。やや粘性があり、比較的良く締まる。3世紀末～4世紀初頭噴出のAs-Cをまばらに混入する。今回の調査区内では、古墳時代～平安時代の遺構覆土として存在し、尼寺構築時の整地が広範囲に及ぶためか、自然の摂理による堆積状況を示す箇所はみられなかった。

Ⅴ Hr-FA 一次堆積層—6世紀初頭

確認箇所は極めて限られ、降下ユニットを保ち一次堆積と判断されたのは西面回廊北側地点及び尼坊跡南辺付近で確認された古墳時代の堅穴建物埋没土中などわずかであった。

Ⅵ 黒色あるいは黒褐色 As-C 混入土

色調は黒色(10YR2/1)あるいは黒褐色(10YR2/2・10YR3/1)。粘性はほとんど無く、土質は粗くやや締まる。As-Cを密に混入し、しばしば下層部分にAs-C凝集層がみられる。なお調査区内ではAs-C一次堆積層は認められず、動植物の活動など自然の摂理による攪拌とあわせ、開墾等人為的な要因も考慮される。なお、土層説明においては場合により略称「C黒」を用いた。

Ⅶ 黒褐色系地山土

色調は黒褐色(10YR2/2)で下層境の色調は漸移する。やや粘性が有り、総じてよく締まる。Ⅶ以下As-Cは含まれない。

Ⅷ 黒褐色系・暗褐色系地山土

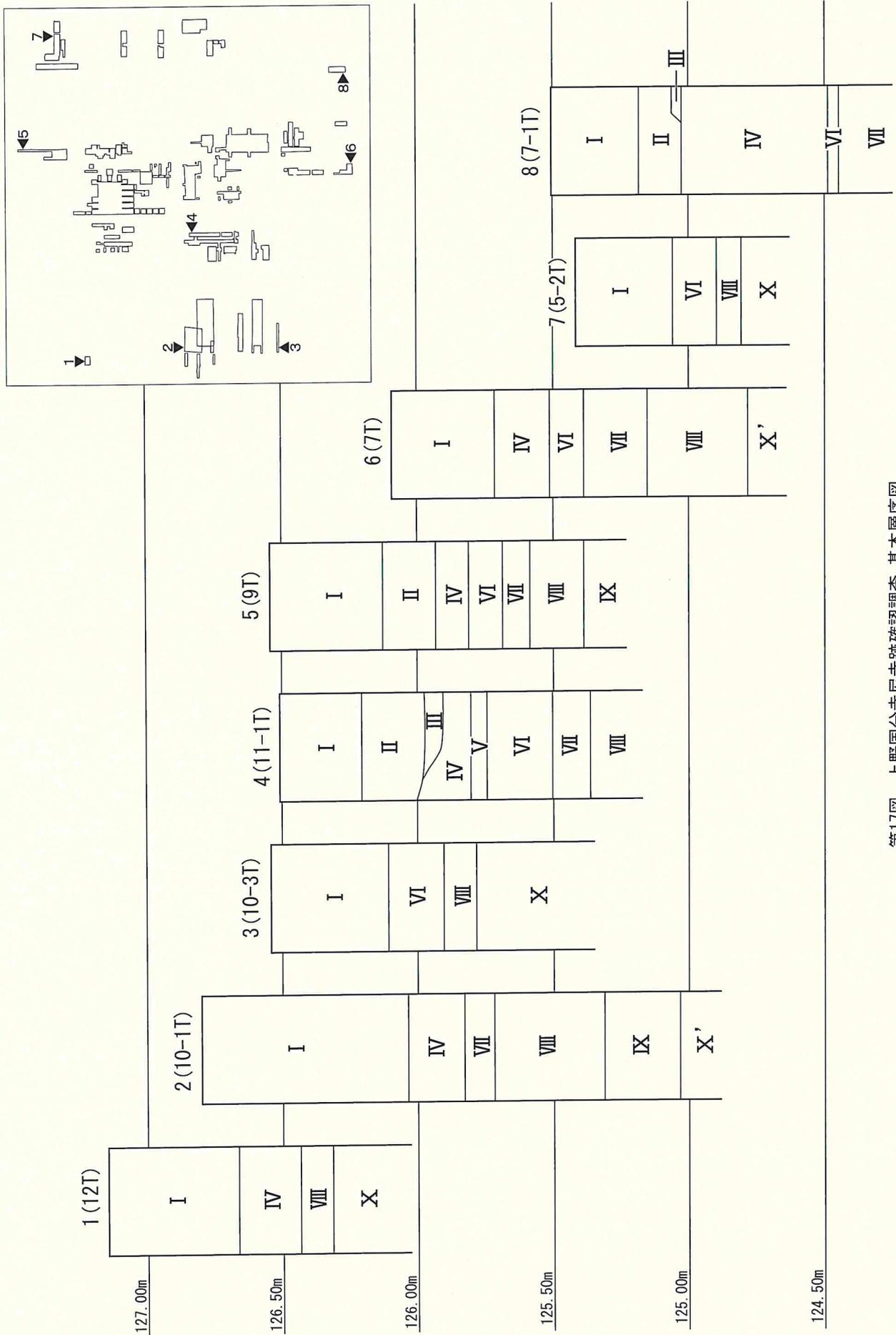
色調は黒褐色(10YR3/2)や暗褐色(10YR3/3)で、下層境の色調は漸移し不明瞭である。土質は総じてⅦと同様である。

Ⅸ 黄褐色系地山土

色調は灰黄褐色(10YR4/2)やにぶい黄褐色(10YR4/3)で、上下層境の色調は漸移し不明瞭である。土質は総じてⅦ・Ⅷと同様で、確認箇所によって締りがやや増し、構成土が粗くなるように思われる。

Ⅹ 黄褐色系・黄橙色系地山土

色調はにぶい黄褐色(10YR5/4)を基調とし、下層ではにぶい黄橙色(10YR6/4)へと漸移する。土質は総じてよく締まり、調査個所の西側などでは極めて硬く、砂礫で構成されている。



第17図 上野国分寺尼寺跡確認調査 基本層序図

第5節 調査の経過

(1) 平成 28 年度

1) 平成 28 年(2016)

6月27日 国府公民館を会場とし、東国分町地区住民を対象として、上野国分尼寺跡確認調査実施にあたっての概要説明と協力依頼について、高崎市群馬支所地域振興課同席のもと、住民説明会を開催した。参加者7名。

8月8日 第1回上野国分尼寺跡調査検討委員会を開催。調査検討委員の委嘱式を行い、第1次調査の方針として、昭和45年調査「東門跡」及び「講堂跡」の検証を行い、伽藍地東辺の確認および伽藍中軸線を確定し得る成果を得ることが決定された。

9月26日 第1次調査着手。昭和期の調査で「講堂跡」とされた礎石建物跡はさらに東方向に延び、尼坊跡である可能性が強まった。また、「東門跡」で調査されていた柱穴は、門跡のものではなく、梁行2間・桁行3間以上となる南北棟の掘立柱建物跡で、構築時期について尼寺に先行する可能性があることが判明した。

12月8日 昭和44・45年調査担当者松島栄治氏(孀恋村郷土資料館館長※当時)の現地指導を得た。

2) 平成 29 年(2017)

1月31日 第2回上野国分寺跡調査検討委員会開催。「講堂跡」の検証で確認された遺構は、尼坊跡であることはほぼ間違いなく、類例から桁行15間となる可能性が高いとの指摘がなされる。

3月20日 現地説明会開催、見学者360人。

3月31日 第1次調査完了。

(2) 平成 29 年度

1) 平成 29 年(2017)

5月29日 第2次調査着手。伽藍地北東隅推定部で堤状の高まりを確認し、周囲で瓦溜まりがみられたことから、区画施設の基礎と推定して調査を進め、北辺側と東辺側の延長を各々確認した。高崎・前橋両市境となる伽藍地南辺推定箇所では、区画施設内側に沿うと判断される溝状遺構を確認した。また、伽藍地南辺を確認する際、北側に延長したトレンチで中門跡あるいは南面回廊跡とみられる盛土を確認し、該当部に調査区を拡大した。

7月24日 第1回上野国分尼寺跡調査検討委員会を開催し調査の方針や方法について検討した。

9月25日 第2回上野国分尼寺跡調査検討委員会を開催。指導事項は以下の通りである。

1. 推定伽藍地北東隅から東辺調査個所で確認された堤状高まりは区画施設基礎と判断され、可能な限り上部構造に伴う痕跡を確認すること。また、区画外の施設も将来的に明らかにしていく。
2. 推定伽藍地南辺で確認された溝跡は区画施設の内側を示すものと思われ、南側の状況を前橋市教委委員会と協力して調査すること。
3. 推定回廊跡は、今回調査の期間内で可能な限り柱痕跡の確認や基壇構造について調査を進める。
4. 今後の調査方針として、伽藍地北辺や第1次調査で確認された尼坊跡東部分の調査を進めていくこと。

10月21日 現地説明会開催、見学者70名。

10月31日 第2次調査完了。

(3) 平成 30 年度

1) 平成 30 年(2018)

10 月 1 日 第 3 次調査着手。尼坊跡の東端部を確認するため、上総国分尼寺跡などの類例から桁行 15 間を推定して調査を行ったところ、該当部で礎石破砕片や根石を残す柱跡を確認した。棟持ち柱の痕跡がみられたことから妻側の側柱列と判断され、尼坊跡の規模が確定した。伽藍地北辺の調査では、第 2 次調査で確認した区画施設基礎の西延長部を調査したところ、基礎部上に盛土が残存し、周囲で瓦が多数出土したことから築垣である可能性が高まった。伽藍地西辺の調査では土地改良以前の地割図や昭和 52 年群馬県教育委員会の調査成果を参考に、西門跡が推定される西辺推定ライン中央付近を調査した。門跡に推定される遺構や明確な区画施設痕跡はみられない一方で、西辺想定ラインとほぼ重なる溝を確認し区画施設との関連が推定され、門跡推定箇所付近では「礫敷」がみられた。また、第 1 次調査時に尼坊跡の南で礎石を確認したことから、講堂跡を確認するため調査をおこなったところ、さらに 1 か所で礎石の残存を確認した。ただし、明確な基礎地業痕跡など、講堂跡の範囲や構造を確定し得る資料は得られず今後の課題となった。

11 月 27 日 第 1 回調査検討委員会を開催し平成 30 年度の調査の方針や方法について検討した。

2) 平成 31 年(2019)

2 月 6 日 第 2 回調査検討委員会を開催。主な指導事項は以下の通りである。

1. 尼坊跡の調査では基壇構造について可能な限り復元を試み、十分な資料を得ること。
2. 北辺築垣跡の調査では、築垣外側を精査し、伽藍範囲を確定する上での基準となる溝などを遺構の確認につとめる。また、崩落土を精査し失われた上部構造を推定する。
3. 伽藍地西辺区画施設の調査では、確認された溝のさらに西側を調査することや「礫敷」の性格を明らかにするため、周辺を少し拡張して調査すること。昭和 52 年群馬県教育委員会の調査トレンチの検証も併せて行う。

3 月 3 日 現地説明会を開催、見学者 260 名。

3 月 8 日 第 3 次調査完了。

(4) 令和元年度

1) 令和元年(2019)

5 月 27 日 第 4 次調査着手。尼坊跡の発見などで、昭和 44・45 年調査で導かれた伽藍配置は大きく見直す必要が生じ、回廊跡の全体規模を確定して金堂跡位置特定の一助とすることとなった。回廊跡北西隅を確認するため調査をおこなったところ、ほぼ原位置をとどめた礎石が残存することが判明した。このため第 2 次調査で確認された南東隅の柱痕跡などから、回廊の全体規模が概ね判明した。伽藍地西辺の調査では、第 3 次調査で設定した 10-1 トレンチを西側・北側に各々拡張し、西辺推定ラインと重なる溝跡の延長部や周囲の状況を調査したところ、溝跡西側では明確な区画施設痕跡や門跡と関連する遺構はみられず、溝跡該当部は尼寺廃絶後の As-B 降下以降に改修されたものと判断された。昭和 52 年調査トレンチを検証したところ、西辺推定ラインと重なる溝跡が当時の 5 号溝と同一であること、5 号溝西縁辺にみられたとされる「土塁ないし築地とみられる土盛りの痕跡」は、北辺築垣跡のような加圧された地山土ブロック混入土との理解とは異なり、比較的均質な黒褐色土主体層であった。

7 月 8 日 第 1 回調査検討委員会を開催し調査の方針や方法について検討した。

8月28日 第2回調査検討委員会を開催。主な指導事項は以下の通り。

1. 回廊跡北西隅で礎石が原位置で残っていたのは重要で、基壇レベルや軒の出・雨落溝痕跡など可能な限り調査し、具体的に回廊の復元イメージを描けるようにする。また、尼坊の基壇レベルや基礎地業基底レベルと比較検討すると、金堂や講堂の基壇を推定する手掛かりとなる。
2. 伽藍地西辺の区画について、群馬県教育委員会の調査をはじめ、相当数のトレンチを掘削しているが築垣痕跡は未確認である。このため、確認されている溝が伽藍地西辺区画の機能を持っていたのではないか。僧寺との交流や建築時の資材搬入を考えた場合、西側からの経路は妥当性があり、築垣が推定されるほかの場所とは区画の構造が異なっていたのかもしれない。今後、僧寺と尼寺間の調査成果を検討すること。
3. 今後の調査予定として、回廊の位置が判明したことをうけ、金堂跡の位置および範囲確認をおこなう。

9月15日 現地説明会を開催、見学者226名。

9月22日 第4次調査完了。

(5) 令和2年度

1) 令和2年(2020)

5月11日 第5次調査着手。これまでの4次にわたる確認調査で、伽藍地の範囲をほぼ推定することができた。また、伽藍地内では尼坊跡や回廊跡を確認し、伽藍配置が判明しつつあることから、伽藍主要部の状況を明らかにするため、金堂跡と東面回廊跡の確認を主目的とした。金堂跡は、東半部について調査し、北東隅・南東隅及び回廊取り付き部、南辺中央部にトレンチを設定して調査を行った。すべての箇所では基壇下部及び基礎地業の残存を確認し、基壇外装の一部と思われる、凝灰岩切石列や瓦端部を上下とし凸面を外側に向けて列状に埋めた「瓦列」を確認した。基壇上部は後世の開墾で失われ、原位置の礎石や根石はみられず、明確な抜き取り痕が2か所でみられたのみである。一方、東面回廊跡では、内側柱列の礎石が5か所でほぼ原位置で残存していた。

7月8日 第1回調査検討委員会を開催。主な指導事項は以下の通りである。

1. 金堂跡の南正面に階段が取り付くことが考えられ、北側にも講堂へ向かう階段かスロープが推定されるので精査すること。
2. 金堂基壇外装に凝灰岩切石を使っている。ただし基壇北辺は凝灰岩の出土がほとんど無く、木装の可能性を考慮して調査する。
3. 東面回廊跡で残存した礎石は、据付方を基礎地業の工法との関連も含めて慎重に調べる。
4. 金堂と回廊の取り付き部分は、該当部の柱間や基壇・基礎地業の断面を精査して、構築工程を明らかにする。
5. 金堂と回廊で囲まれた空間に凝灰岩片を敷き込んで荘厳化をはかっている。一方で回廊基壇上に、尼坊跡同様の「白い土」で覆った痕跡があったので注意する。
6. 東面回廊内側の柱筋と尼坊東端の柱筋が通りそうなので、伽藍中軸線を求めるための拠り所となる。講堂の位置は調査で判明していないが、金堂と柱筋をそろえた可能性もある。展望される伽藍の建物配置や規模を他の国分尼寺と比較してみる。
7. 上野国の僧寺と尼寺の、瓦の分析や遺構の共通性などから造営時期の関係を調べる。全国的にみると尼寺の造営が遅れる場合が多い。

8月18日 調査検討委員の現地指導。第1回踏査検討委員会での指導事項を踏まえた調査成果の確認が行われた。

8月28日 第5次調査完了。

9月5日～27日 かみつけの里博物館を会場として「令和2年度 上野国分尼寺跡確認調査展示会」として、第5次調査の成果について、解説パネルや出土資料の展示、調査状況を記録した動画の公開で紹介した。

(6) 令和3年度

1) 令和3年(2021)

4月1日 資料整理作業および確認調査報告書(以下、報告書)作成に着手する。現地調査で得られた遺構測量図など記録資料類をデジタルデータ化し、全トレンチの平面図・断面図を合成した。あわせて、作成したデジタルデータをもとに報告書作成に向けて編集・レイアウト作業を行った。一方出土遺物は、洗浄・注記・接合・復元補強を行い、報告書作成に向けて抽出・図化作業を行い、大部分を占める瓦類は製作技法など詳細な観察を行い、結果を数量データ化して僧寺や主に県内古代寺院との比較検討を実施した。

6月30日 第1回調査検討委員会を開催。過去5次の調査内容を検討し、補足調査の必要の有無、また報告書章立て案について、さらに国史跡指定を視野に入れた今後のスケジュールなどが検討された。主な指導事項は以下の通りである。

1. 伽藍地範囲は、当初提示した南北157.3m(≒525尺)・東西160.5m(≒535尺)をもとに、162m(540尺=一町半)四方で企画された。
2. 当時の設計企画など理論的に予想されるものと、調査で確認された遺構の実態が異なった場合は、その理由付けをしっかりとする。
3. 報告書章立て案に関連して、国史跡指定を視野に入れ、僧寺や他国の国分二寺の中における位置づけをしっかりと定める。また、調査が不足しているところなどを今後の課題としてまとめておくと、次の段階に円滑に進める。

7月 尼寺跡南西隅付近で前橋市教育委員会が道路撤去に伴う小規模調査を実施し、伽藍地南辺外側に沿って走行する堀跡西端部を確認した。同堀の性格や尼寺伽藍地南辺の範囲を検討するため重要な所見が得られたため、7月6日に須田副委員長、8月3日に前澤委員長の現地指導を得た。

11月8日 国府公民館を会場として地権者説明会を開催し、調査成果を報告して遺跡の重要性を説明し、今後国史跡指定に向けて準備を進めていくことについて、地権者各位の理解と協力を求めた。参加者8名。

2) 令和4年(2022)

3月31日 令和3年度事業完了。

第4章 調査の成果

第1節 調査遺構

(1) 金堂跡(第20図～第24図)

1) 調査経過

- ① 調査の目的 柱痕跡及び基壇や地業の状況を確認し、未調査部の西半部を推定復元して金堂の位置および平面規模を確定することを主な目的とした。
- ② 調査区の設定 金堂跡の位置を尼坊跡や回廊跡での所見をもとに特定し、東半部について13トレンチを設定した。そして、基礎地業の範囲を調べるため下記のように区域を設定し、順に1～3の枝番号を付した。
13-1 トレンチ：北辺から北東隅までの間。
13-2 トレンチ：南東隅付近および回廊跡との接続部。
13-3 トレンチ：伽藍中軸線付近の南辺部。

2) 調査概要

- ① 13-1 トレンチ 金堂の北辺から北東隅にかけて掘込地業外縁の位置を確定した。基壇構築面や礎石は後世の開墾で失われ、かろうじて北東隅部で破碎された礎石を確認したほか、北辺側柱の抜き取り痕と判断される攪乱穴を3か所確認した。また、東辺北端では掘込地業外縁に沿って「瓦列」が確認された。
- ② 13-2 トレンチ 金堂と回廊の取り付け部から南辺にかけて地業外縁を概ね確定した。基壇構築面や礎石は後世の開墾で失われ、かろうじて南東隅の礎石抜き取り痕と判断される攪乱穴を確認し、さらに東側3.6mほどの回廊跡との接続部で、根石を残す礎石抜き取り穴を確認した。両抜き取り痕の間には南北方向の凝灰岩切石列が存在し、金堂の基壇外装残痕の可能性がある。なお、金堂側の礎石抜き取り痕付近から南へ延びる攪乱溝の埋没土内からも凝灰岩塊が多数出土し、凝灰岩切石列を抜き取ったものとみなされる。
- ③ 13-3 トレンチ 金堂正面付近の地業南辺外縁の位置をほぼ確定できた。基壇構築面は後世の開墾で失われ、基壇縁部には廃絶後間もない掘り込みが存在し、凝灰岩切石列が存在していたかどうか不明である。また、階段等出入口施設の存在を示す遺構はみられなかった。一方、掘込地業南辺外縁の外側に沿って東辺北端部同様の「瓦列」を確認した。また、金堂正面付近の整地面上には、広範囲に凝灰岩片が敷かれていることを確認している。
- ④ 建物の規模 今回の調査で明確に柱跡と判断されたものは2か所で、北東隅部(13-1 トレンチ)と南東隅部(13-2 トレンチ)で確認され、各々建物北東隅・南東隅の柱とみられる。両者の距離は13mほどで、また、両者から伽藍中軸線までの距離は各々12m前後なので、建物南北長は13m、東西長は23mが推定される。上総国分尼寺金堂跡の建物梁行が約44尺(13.2m)・桁行が約78尺(23.4m)とされることから、本金堂跡も同様の規模であったとみられる。
また、13-1 トレンチで建物北辺側柱の抜き取り痕と思われる攪乱が前記北東隅のほか3か所みられ、柱間を復元すると桁行7間(10尺・11尺・12尺・12尺・12尺・11尺・10尺)となる。
- ⑤ 基壇・地業の状況 基礎は掘込による総地業で、総じて入念な版築が行われている。平面範囲は南北が20.2m、東西は未調査部分の規模を伽藍中軸線で折り返して復元すると26.8mとなる。

基壇構築面はほとんどの箇所が残存していない。ただし、東辺北側(13-1 トレンチ SPF ライン)で、地業上部の版築がより丁寧に施工され、掘込地業の端部から外へ 12 cm 延びることから、該当部が基壇下部に相当するとみられる。また、南東隅の回廊取り付け部で、基壇外装基礎とみられる凝灰岩切石列が残存していた。一方、東辺北側や南辺中央付近の掘込地業端部外側で、平瓦の端部を上下にして凸面を外側に向けて列状に埋めた「瓦列」がみられ、同遺構を基壇に関わる施設とすれば、基壇の範囲が推定可能である。これにより、東辺について南側では凝灰岩切石列、北側では「瓦列」を基壇縁部とすると、両者とも側柱からの出が 8 尺(2.4m)となる。また、南辺中央部では「瓦列」は側柱から 15 尺(4.5m)外側で東辺の倍の広さとなっており、階段の存在を推定することができる。なお、北辺は基壇を推定可能な遺構が皆無で、凝灰岩片の出土もみられない。注意されるのは、基壇縁辺に該当する箇所が廃絶後～As-B 降下前の時期に広範囲に掘られており、上部に焼土ブロック化した壁材片や炭化材が堆積していた。このことから、基壇外装は抜き取られていることが推定される。

3) 基礎地業の状況

① 北辺部(第 22 図)

ア. 13-1 トレンチ SPA ライン 現耕作土直下で地業面を確認し、97 cm の厚みで版築が認められる。地業縁辺部には複数のピット状あるいは不正な土坑状の掘り込みがなされ、上面は焼土ブロックおよび炭片混入土で埋没する。埋没土内に As-B が混入しないことから、廃絶に近い時期における基壇外装の抜き取りなどともなう作業痕跡の可能性はある。掘込地業部分の深さは、断面観察から 79cm 以上をはかる。

イ. 13-1 トレンチ SPB ライン 現耕作土直下で地業面を確認し、65 cm まで版築状施工の断面観察をおこなったが、基底は未確認である。地業縁辺部に SPA ラインと同様の掘込がなされている。

② 北東隅－東辺部(第 22・23 図)

ア. 13-1 トレンチ SPD ライン 現耕作土直下で地業面を確認し、45 cm までの版築の断面観察を行ったが、底面は未確認である。掘込地業端部の外側 24 cm に「瓦列」が埋設され、瓦端部を上下とし下端 5 cm ほどは地山内に達している。「瓦列」の外側では地山の上部に 10 cm～15 cm の厚みで整地土と思われる黒褐色土が認められ、上面は概ね平坦で瓦列内側より低く仕上げられている。なお、この直上に廃絶後の廃材整理ともなうとみられる焼土ブロックおよび炭片混入土が堆積し、整地面が構築時の形状かどうかは検討を要する。

イ. 13-1 トレンチ SPF ライン 現耕作土直下で地業面を確認し、94 cm の厚みで版築が認められた。断面観察から、掘込地業構築は地山上に厚さ 17 cm 以上の整地土を盛った後に行っている。地業残存部の上部 25 cm ほどは特に入念につき固められ、そのうちの上部 12 cm は掘込端部の外側へと延びており、基壇下部に相当する可能性がある。なお、前記 SPD ラインでみられた「瓦列」の延長部は確認されなかったが、該当部に掘られた耕作溝で失われた可能性もある。地業の掘込端部で、上面からほぼ垂直方向に幅 4 cm 程度の締りの弱い部分があるのが観察され、版築施工時の堰板抜き取り跡の可能性が考えられる。また、地業の外側は整地土上に細砂を含む暗褐色土の堆積がみられ、層中には廃棄された多量の瓦片を包含する。なお、同暗褐色土は一見すると洪水堆積土のようにみられ、金堂跡南辺付近でも広範囲に確認されている。

ウ. 13-2 トレンチ SPG ライン 回廊との接続部で、金堂の側柱北西隅と北面回廊の内側柱列を通る位置で地業の断面を観察した。なお、金堂と回廊の間には、基壇外装の一部とみられる凝灰岩切石の配列が残存し、その保存のため該当部分は地業断割りを行わなかった。

地業面は現耕作土直下で確認され、金堂側では 37 cm の厚みで版築を確認したが、上部 20 cm ほどは入念につき固められており、該当部は今回観察を行った金堂の地業のうちで最も掘込が浅かった。

一方回廊側では金堂寄りで 60 cm ほどの厚みで版築がなされ、東ほど深く掘られ、確認部東端で版築の厚みは 75 cm となる。施工の状況は最下部ではやや粗いものの、比較的丁寧に搗き固められ、金堂側のように地業の上下で顕著な差は認められず、また、残存部中位付近を中心に瓦片が多数敷き込まれていた。

以上により、凝灰岩切石列付近を境として掘込地業の深さに 40 cm ほどの落差が認められ、金堂側の掘込地業が浅いことが判明し、構築工程の変換を認めることができた。なお、凝灰岩切石列下部は断面観察を行っていないため、金堂・回廊両地業の具体的な重複状況は不明である。

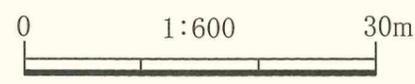
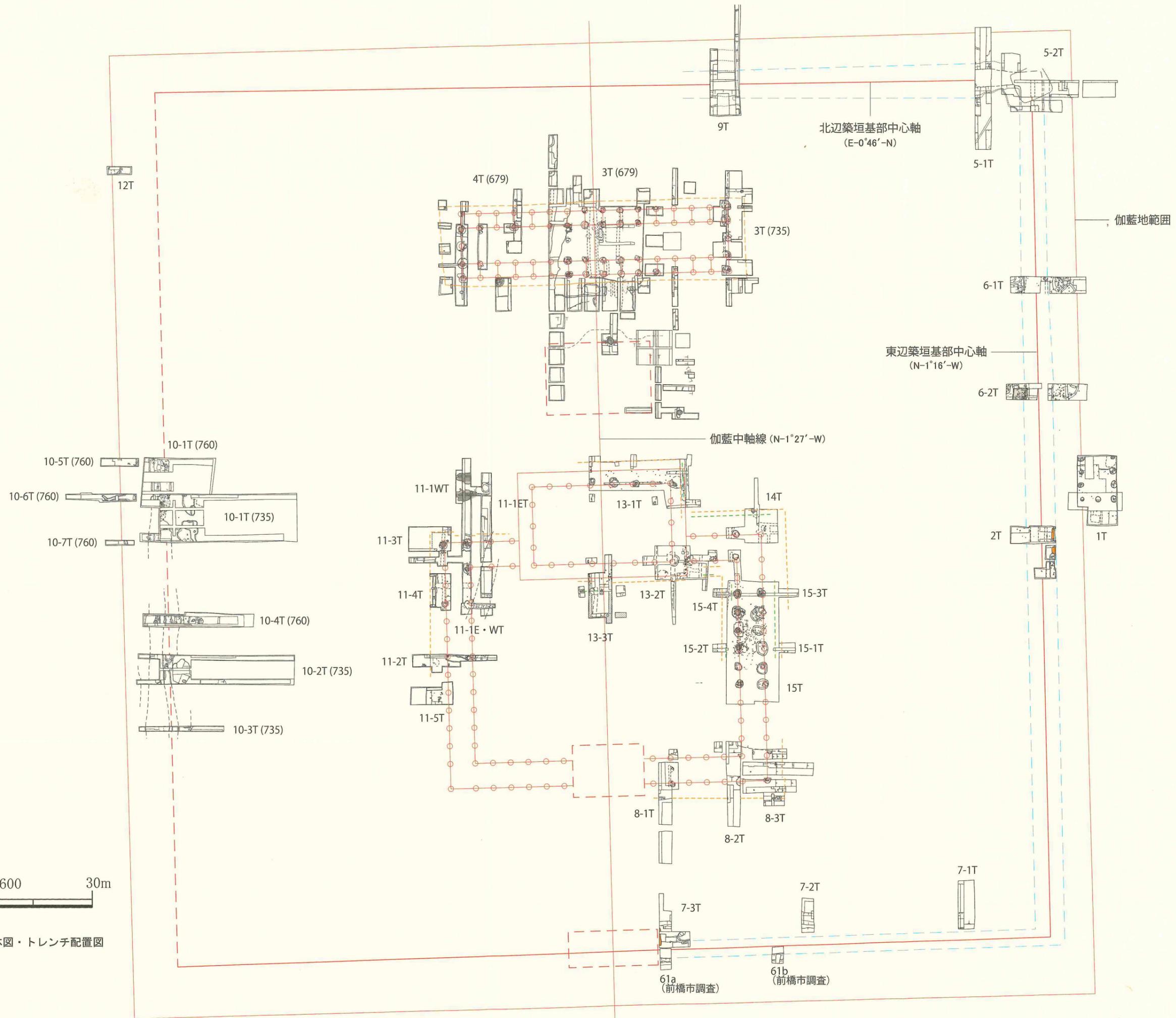
③ 南辺部(第 23 図)

ア. 13-2 トレンチ SPH ライン 現耕作土直下で焼土ブロックおよび炭片混入土を確認し、下部には 10 cm～15 cm ほどで黄褐色系の粗粒土の堆積があり、その下面で地業上面を確認した。地業は 75 cm ほどの厚みで版築が認められた。ただし、断面観察部分が近年の耕作溝掘削による影響を受けており、地業基底部の状況は不明である。なお、同耕作溝からは基壇外装の構築材とみられる凝灰岩塊が多量に出土している。

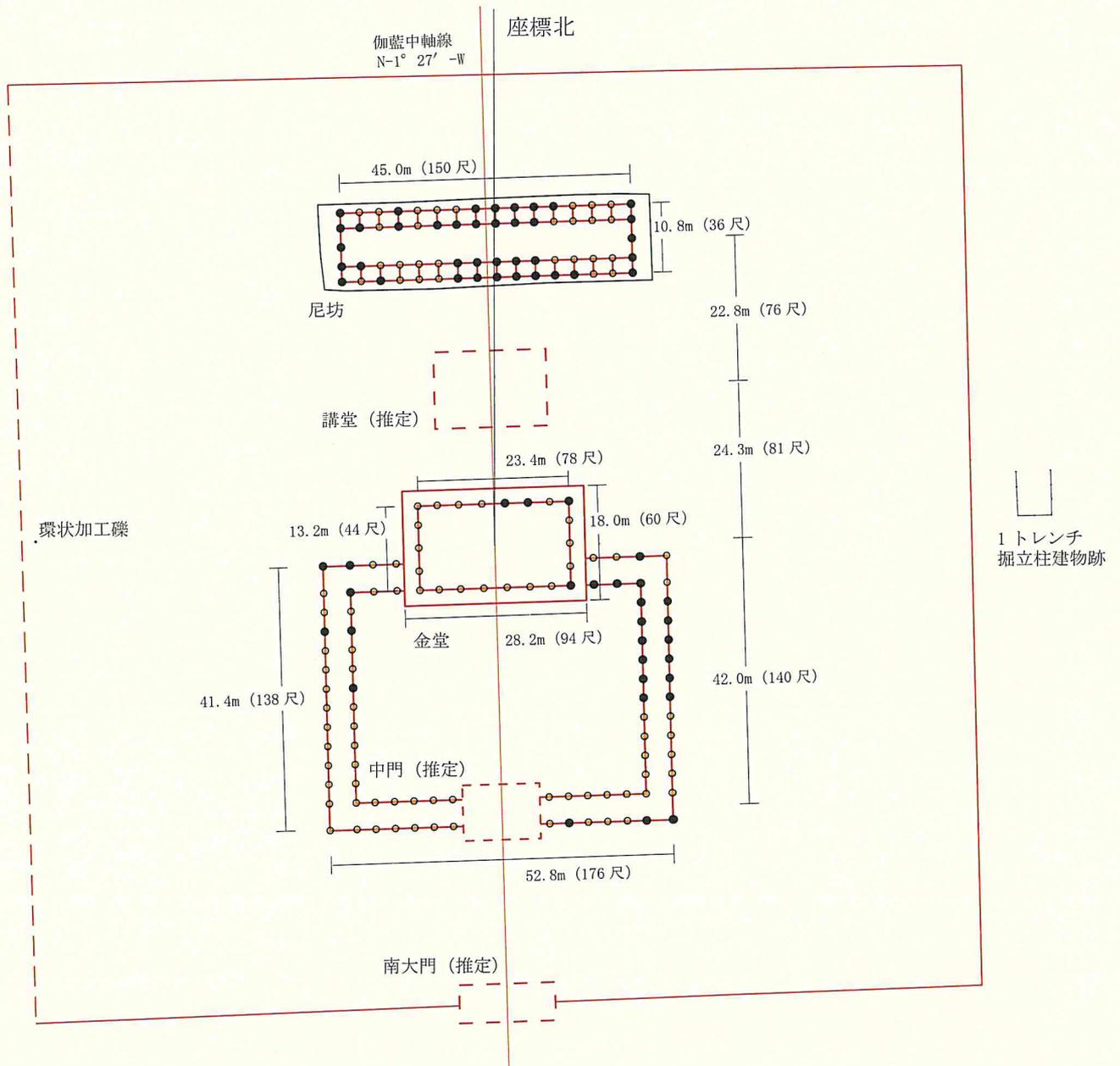
南辺地業の縁辺部付近は廃絶後間もない時期とみられる掘り込みおよび瓦片多数の廃棄がみられ、さらに上面には焼土ブロックおよび炭片混入土が堆積していた。一方、地業南縁辺部の外側に、恐らく別工程とみられる版築が存在することが判明した。同版築の厚みは 38 cm～35 cm で、金堂の地業との関連については、重複推定箇所前に前記掘り込みが存在することから明らかにできなかった。これについて、今回の調査は金堂の地業範囲を確認することが主目的であったため、性格等詳細な調査は今後委ねることとした。

イ. 13-3 トレンチ SPI ライン 現耕作土直下で地業面を確認し、100 cm～110 cm の厚みで版築がみられ、確認部の上部 25 cm ほどはより入念につき固められていた。また、版築内には補強材とみられる径 10～20 cm の川原石が散見された。地業基底はゆるやかに起伏しつつ南側ほど徐々に下がり、南端では一段深く 14 cm ほど掘り込まれる。地業縁辺部には廃絶後に土坑状の掘り込みがなされ、当初の形状は不明である。同掘り込みは、埋没土内に凝灰岩片を含むほかは、地業北縁部(13-1 トレンチ D ライン)の状況と類似し、廃絶に近い時期における基壇外装の抜き取りなどにもなう痕跡とみられる。

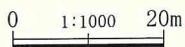
ウ. 13-3 トレンチ SPJ ライン 現耕作土直下で地業面に達し、110 cm 以上の厚みで版築を確認した。版築確認部の上部 30 cm は入念につき固められているが、下部は比較的厚い単位で施工されている。なお、版築基底部の状況は未確認である。地業縁辺部には廃絶後に土坑状の掘り込みがなされ、東辺や南辺同様に細砂を含む暗褐色土で埋没し、上部に焼土ブロックおよび炭片混入土が堆積する。掘り込み地業端部の外側 1m に東辺同様の「瓦列」が存在し、瓦端部を上下とし下部の約 3 分の 2 を厚さ 15～20 cm ほどの整地土内に埋めている。整地土と基壇縁辺が接する部分は、前記した土坑状掘り込みが分断するため当初の構造は不明である。なお、整地土直下には地業の延長部が存在し、該当部について建物本体とは別途に掘り込み地業が構築されている可能性がある。



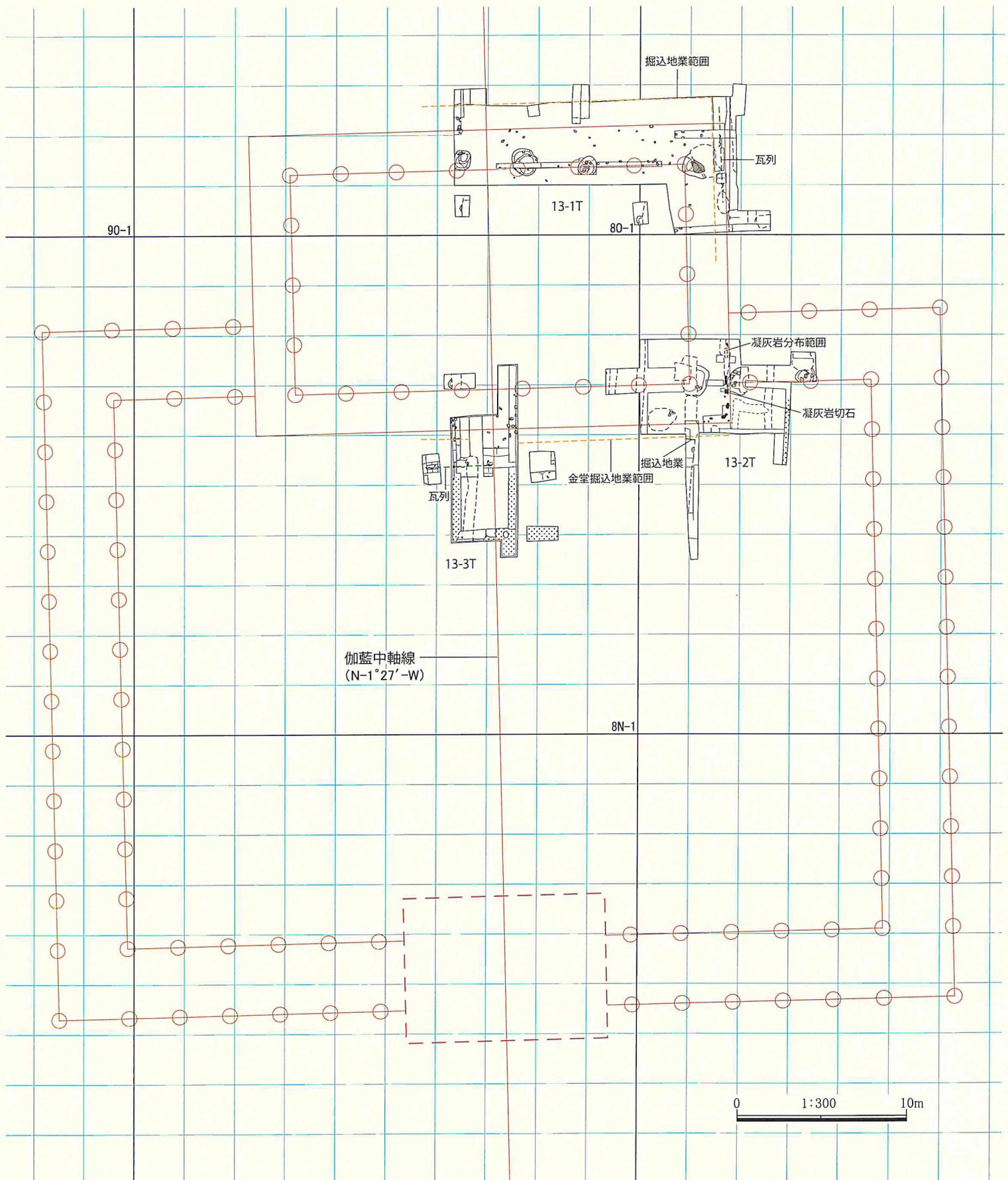
第18図 調査区全体図・トレンチ配置図



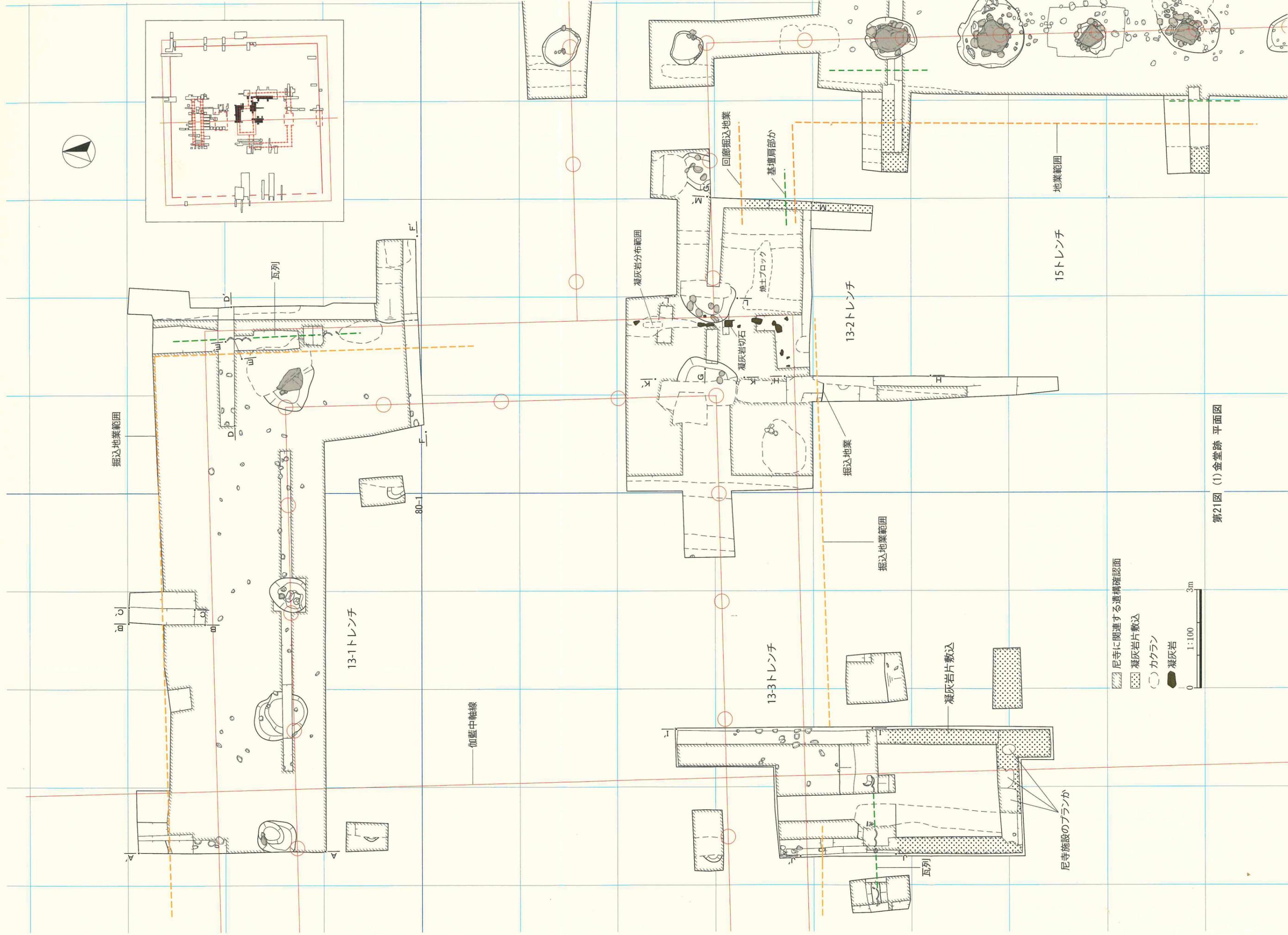
● 確認された礎石・根石・抜取痕



第19図 伽藍配置復元図



第20圖 (1) 金堂跡 調査区位置圖



第21図 (1) 金堂跡 平面図

13-1 トレンチ A-A'

- 1 灰黄褐色土 (10YR4/2) 粘性なし・しまる。As-B 混入。表土
- 1' 下層土混入する。
- 1'' 黒褐色土 (10YR2/2)・As-B 混入。
- 2 暗褐色土 (10YR3/3) やや粘性・ややしまる。As-C まばらに含む。焼土ブロック径 1cm 以下やや密に含む。炭片 (小) 微量。
- 2' 炭片径 1cm 以下まばらに含む。
- 3 暗褐色土 (10YR3/3) やや粘性・ややしまる。As-C まばらに含む。炭片 (小) 微量。
- 4 暗褐色土 (10YR3/3)・黒褐色土 (10YR3/2) 混在。やや粘性・しまる。As-C まばらに混入。地山灰黄褐色土 (10YR4/3) ブロック状含む。
- 5 暗褐色土 (10YR3/3)・黒褐色土 (10YR3/2) ブロック状に混在。やや粘性・よくしまる。As-C まばらに混入。地山灰黄褐色土 (10YR4/3) ブロック状含む。
- 5' 黒褐色土 (10YR2/2) ブロック状密に含む。
- 6 暗褐色土 (10YR3/3) やや粘性・ややしまる。黒褐色土 (10YR3/2) ブロック状含む。As-C まばらに含む。
- 7a 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・しまる。As-C まばらに混入。
- 7b 灰褐色粘性土 (7.5YR4/2) ブロック状含む。よくしまる。
- 7c よくしまる。黄色系地山土ブロック径 2cm 以下まばらに含む。黒褐色土 (10YR2/2) ブロック状まばらに含む。
- 8 暗褐色土 (10YR3/3) やや粘性・しまる。As-C まばらに混入。白色のバミス粒 (As-C と違う) 径 2mm 以下少量。地山黄褐色土ブロック (10YR6/3-6/4) 径 2cm 以下やや密に含む。

a-1 層 地業 全体によくしまっていて硬い。As-C 含む。

- a 黒褐色土 (10YR3/2) 暗褐色土 (10YR3/3)
- b 黒褐色土 (10YR3/2) 暗褐色土 (10YR3/3) 黒褐色土 (10YR2/2) FA ブロック状少量。
- c 黒褐色土 (10YR3/2) 暗褐色土 (10YR3/3) FA ブロック状少量。
- d 黒褐色土 (10YR3/2) 主体 黒褐色土 (10YR2/2) 含む。
- e 黒褐色土 (10YR3/2) 主体 黒褐色土 (10YR2/2) 含む。
- f 黒褐色土 (10YR3/2) 主体 黄色土ブロック径 2cm 以下まばらに含む。
- g 黒褐色土 (10YR3/2) 黒褐色土 (10YR2/2) 少量。黄色土ブロック径 3cm 以下まばらに含む。
- h 黒褐色土 (10YR3/2) 黒褐色土 (10YR2/2) 含む。黄色土ブロック (小) 微量。
- i 黒褐色土 (10YR3/2) 黄色土ブロック (小) まばらに含む。
- j 黒褐色土 (10YR3/2) 黄色土ブロック径 1cm 以下まばらに含む。
- k 黒褐色土 (10YR3/2) 黄色土ブロック径 3cm 以下密に含む。
- l 黒褐色土 (10YR3/2) 黄色土ブロック径 3cm 以下やや密に含む。

13-1 トレンチ B-B'

- 1 灰黄褐色土 (10YR4/2) 粘性なし・しまる。As-B 混入。表土
- 2 灰黄褐色土 (10YR4/2) 粘性なし・しまる。As-B 混入。焼土ブロック状含む。炭片径 1cm 以下まばらに含む。
- 2' 黒褐色土 (10YR2/2)・As-B 混入
- 3 暗褐色土 (10YR3/3) やや粘性・しまる。As-C まばらに混入。焼土ブロック径 1cm 以下まばらに含む。炭片 (小) 微量。凝灰岩片径 1cm 以下微量。
- 4 暗褐色土 (10YR3/3) やや粘性・しまる。As-C まばらに混入。焼土ブロック状密に含む。炭片 (小) まばらに含む。
- 5 暗褐色土 (10YR3/3) やや粘性・しまる。As-C まばらに混入。黄褐色砂性土 (10YR4/3) 含む。焼土ブロック (小) 微量。炭片 (小) 微量。
- 6 暗褐色土 (10YR3/3)・暗褐色土 (10YR3/4) ブロック状に混ざる。やや粘性・ややしまり劣る。6 層はモグラや根のカクランか。
- 6' 黒褐色土 (10YR3/2) シルト質土含む。
- 7 暗褐色土 (10YR3/3)・黒褐色土 (10YR3/2) ブロック状に混ざる。やや粘性・よくしまる。As-C まばらに混入。
- 8 暗褐色土 (10YR3/3) 主体 カクラン状。ややしまる。
- 8' 8 層とほぼ同じ。モグラや根などのカクランか。

a-h 層 地業 よくしまる。As-C まばらに混入。

- a 黒褐色土 (10YR3/2) 暗褐色土 (10YR3/3)
- b 黒褐色土 (10YR3/2) 暗褐色土 (10YR3/3) 黒褐色土 (10YR2/2) ブロック状少量。
- c 黒褐色土 (10YR3/2) 暗褐色土 (10YR3/3) FA ブロック状少量。
- d 黒褐色土 (10YR3/2) 暗褐色土 (10YR3/3) 黒褐色土 (10YR2/2) ブロック状少量。
- e 黒褐色土 (10YR3/2) 暗褐色土 (10YR3/3) 黒褐色土 (10YR2/2) ブロック状密に含む。
- f 黒褐色土 (10YR3/2) 暗褐色土 (10YR3/3) 暗褐色土 (10YR3/4) 含む。
- g 黒褐色土 (10YR3/2) 暗褐色土 (10YR3/3) 黒褐色土 (10YR2/2) ブロック状含む。黄色土ブロック径 1cm 以下少量。暗褐色土 (10YR3/4) 含む。
- h 黒褐色土 (10YR3/2) 暗褐色土 (10YR3/3) 黄色土ブロック径 2cm 以下まばらに含む。

A-ウ層 やや粘性。As-C まばらに混入。

- A 暗褐色土 (10YR3/3) よくしまる。黄褐色シルト質土 (10YR6/3) ブロック状少量。焼土ブロック (小) 微量。

I 暗褐色土 (10YR3/3) よくしまる。黒褐色土 (10YR3/2) 含む。

ウ 暗褐色土 (10YR3/3) しまる。炭片 (小) 微量。

ウ' 黒褐色土 (10YR2/2) 含む。

13-1 トレンチ D-D' E-E'

- 1 灰黄褐色土 (10YR4/2) 粘性なし・しまりやや弱い。As-B 混入。
- 2 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・ややしまる。As-C 混入。
- 2' 黒褐色土 (10YR2/2) やや粘性・しまる。As-C 混入。地山黒褐色土 (10YR2/2) 多量。
- 3 暗褐色土 (10YR3/3) やや粘性・しまる。As-C まばらに混入。
- 4 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・しまる。As-C まばらに混入。
- 5 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・しまる。As-C まばらに混入。地山土ブロック状含む。

a-h 層 A-G 層 地業 全体によくしまる。As-C まばらに混入。

- a 黒褐色土 (10YR3/2) 黄色土ブロック (小) 微量。
- b 黒褐色土 (10YR3/2) 黄色土ブロック径 1cm 以下少量。
- c 黒褐色土 (10YR3/2)
- d 黒褐色土 (10YR3/2)
- e 黒褐色土 (10YR3/2)
- f 黒褐色土 (10YR3/2)
- g 黒褐色土 (10YR3/2)

他の地業の層よりしまりやや劣る。

h 黒褐色土 (10YR3/2) しまり増す。黄色土ブロック径 1cm 以下少量。黒褐色土 (10YR2/2) 少量。しまり増す。黄色土ブロック径 1cm 以下まばらに含む。黒褐色土 (10YR2/2) 少量。

A 黒褐色土 (10YR3/2) 黄色土ブロック径 1cm 以下微量。

- A 黒褐色土 (10YR3/2)
- B 黒褐色土 (10YR3/2)
- C 黒褐色土 (10YR3/2)
- D 黒褐色土 (10YR3/2)
- E 黒褐色土 (10YR3/2)
- F 黒褐色土 (10YR3/2)
- G 黒褐色土 (10YR3/2)

黄色土ブロック径 1cm 以下まばらに含む。FA ブロック状少量。

しまり増す。黄色土ブロック径 2cm 以下まばらに含む。黒褐色土 (10YR2/2) 少量。

A 黒褐色土 (10YR2/2) 地山。As-C 密 (C 黒)。

I 黒褐色土 (10YR2/2-3/2) 地山。やや粘性・ややしまる。きめ細かく夾雑物少ない。

13-1 トレンチ F-F'

- 1 灰黄褐色土 (10YR4/2) 粘性なし・しまる。As-B 混入。表土
- 2 黒褐色土 (10YR3/2) 粘性なし・しまり劣る。土質きめ細かい。As-C まばらに含む。
- 2' 2 層と同様
- 3 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・ややしまる。As-C まばらに含む。黄色土ブロック径 1cm 以下微量。黒褐色土 (10YR2/2) ブロック状少量。やや粘性・ややしまる。焼土ブロック状密に多量。炭片径 1cm 以下少量。→焼土ブロックのなかには表面を白色で塗られた壁材片と思われるもの有り。
- 4 暗褐色土 (10YR3/3) やや粘性・ややしまる。土質やや粗い。As-C まばらに含む。凝灰岩片径 1cm 以下微量。下層部に細砂層あり。(///部) c 層に類似。
- 5 暗褐色土 (10YR3/3)
- 5' ややしまり増す。
- 6 暗褐色土 (10YR3/3)・黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・よくしまる。地山暗褐色土 (10YR3/4) ブロック状含む。As-C まばらに混入。

a-v 層 地業 a-1 層 よくしまる。As-C まばらに混入。

- a 黒褐色土 (10YR3/2) 暗褐色土 (10YR3/3)
- b 黒褐色土 (10YR3/2) 暗褐色土 (10YR3/3) 黄色土ブロック径 1cm 以下少量。
- c 黒褐色土 (10YR3/2) 暗褐色土 (10YR3/3) 地山暗褐色土 (10YR3/4) ブロック状少量。
- d 地山暗褐色土 (10YR3/4) ブロック主体 黒褐色土 (10YR3/2) 暗褐色土 (10YR3/3) 含む。
- e 黒褐色土 (10YR3/2) 暗褐色土 (10YR3/3)
- f 黒褐色土 (10YR3/2) 暗褐色土 (10YR3/3) 地山暗褐色土 (10YR3/4) ブロック状含む。
- g 黒褐色土 (10YR3/2) 暗褐色土 (10YR3/3) 黒褐色土 (10YR2/2) ブロック状含む。
- h 黒褐色土 (10YR3/2) 暗褐色土 (10YR3/3) 地山暗褐色土 (10YR3/4) ブロック状含む。黄色土ブロック径 2cm 以下まばらに含む。
- i 地山暗褐色土 (10YR3/4) ブロック主体 黒褐色土 (10YR3/2) 暗褐色土 (10YR3/3) 含む。黄色土ブロック径 1cm 以下少量。
- j 黒褐色土 (10YR3/2) 暗褐色土 (10YR3/3) 主体 黒褐色土 (10YR2/2) ブロック状含む。
- k 黒褐色土 (10YR3/2) 主体 地山暗褐色土 (10YR3/4) ブロック状含む。黄色土ブロック径 1cm 以下微量。
- l 黒褐色土 (10YR3/2) 暗褐色土 (10YR3/3) 地山暗褐色土 (10YR3/4) ブロック状少量。
- m 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・しまる。a-1 層と比べ、しまりやや劣る。As-C まばらに混入。
- n 地山黒褐色土 (10YR2/2) 少量。
- o 黒褐色土 (10YR3/2) 暗褐色土 (10YR3/3) 主体 よくしまり硬い。
- p 黒褐色土 (10YR3/2) 暗褐色土 (10YR3/3) 主体 よくしまり硬い。
- q 黒褐色土 (10YR3/2) 暗褐色土 (10YR3/3) 主体 黄色土ブロック径 1cm 以下少量。
- r 黒褐色土 (10YR3/2) 暗褐色土 (10YR3/3) 主体 よくしまり硬い。黄色土ブロック径 1cm 以下微量。
- s 黒褐色土 (10YR3/2) 暗褐色土 (10YR3/3) 主体 よくしまり硬い。
- t 黒褐色土 (10YR3/2) 暗褐色土 (10YR3/3) 主体 よくしまり硬い。黄色土ブロック径 1cm 以下少量。地山暗褐色土 (10YR3/4) ブロック状含む。
- u 黒褐色土 (10YR3/2) 暗褐色土 (10YR3/3) やや粘性・しまる。黄色土ブロック径 5mm 以下少量。
- v 黒褐色土 (10YR3/2) 暗褐色土 (10YR3/3) やや粘性・ややしまる。地山暗褐色土 (10YR3/4) 含む。

A-カ層 地業 よくしまる。As-C まばらに混入。

- A 黒褐色土 (10YR3/2) 暗褐色土 (10YR3/3) 地山暗褐色土 (10YR3/4) 含む。黄色土ブロック径 1cm 以下微量。

I 黒褐色土 (10YR3/2) 暗褐色土 (10YR3/3)

ウ 黒褐色土 (10YR3/2) 暗褐色土 (10YR3/3) 黒褐色土 (10YR2/2) ブロック状少量。

エ 地山暗褐色土 (10YR3/4) 主体 よくしまる。黒褐色土 (10YR3/2) 暗褐色土 (10YR3/3) 含む。黄色土ブロック径 1cm 以下少量。

オ n 層と似る。同一か。

カ 黒褐色土 (10YR3/2) 暗褐色土 (10YR3/3) 黒褐色土 (10YR2/2) ブロック状含む。

13-3 トレンチ J-J'

- 1 灰黄褐色土 (10YR4/2) 粘性なし・しまる。As-B 混入。表土
- 2 灰黄褐色土 (10YR4/2) 粘性なし・しまる。As-B 混入。下層土含む。焼土ブロック径 1cm 以下まばらに含む。炭片径 2cm 以下まばらに含む。
- 3 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・ややしまる。焼土ブロック径 1cm 以下・炭片径 2cm 以下まばらに含む。As-C まばらに混入。
- 4 黄褐色土 (10YR4/3) やや粘性・しまる。やや粗粒。As-C まばらに含む。(c 層) 黄色土ブロック或は凝灰岩径 1cm 以下微量。
- 4' 細砂含む。
- 4'' 黒褐色土 (下層土) ブロック状含む。
- 5 黒褐色土 (10YR3/2) 暗褐色土 (10YR3/3) やや粘性・よくしまる。As-C まばらに混入。凝灰岩片径 1cm 以下少量。
- 5' 暗褐色土 (10YR3/3) ブロック主体 黒褐色土 (10YR2/2) 含む。

a-j 層 地業 よくしまる。As-C まばらに混入。

- a 黒褐色土 (10YR3/2) 暗褐色土 (10YR3/3)
- b 黒褐色土 (10YR3/2) 暗褐色土 (10YR3/3) 黄褐色土 (10YR4/4) ブロック状含む。
- c 黒褐色土 (10YR3/2) 暗褐色土 (10YR3/3)
- d 黒褐色土 (10YR3/2) 暗褐色土 (10YR3/3) 黄色土ブロック状含む。
- e 黒褐色土 (10YR3/2) 暗褐色土 (10YR3/3) 黄色土ブロック径 1cm 以下少量。
- f 黒褐色土 (10YR3/2) 暗褐色土 (10YR3/3) 黄色土ブロック状含む。
- g 黒褐色土 (10YR3/2) 暗褐色土 (10YR3/3) 黄色土ブロック径 1cm 以下少量。
- h 黒褐色土 (10YR3/2) 暗褐色土 (10YR3/3) 黄色土ブロック径 1cm 以下まばらに含む。
- i 黒褐色土 (10YR3/2) 暗褐色土 (10YR3/3) 黄色土ブロック径 1cm 以下微量。
- j 暗褐色土 (10YR3/3) 主体 黒褐色土 (10YR3/2) 含む。
- k 暗褐色土 (10YR3/3) やや粘性・しまる。As-C まばらに含む。

13-3 トレンチ I-I'

- 1 灰黄褐色土 (10YR4/2) 粘性なし・しまる。As-B 混入。表土
- 2 灰黄褐色土 (10YR4/2) 粘性なし・ややしまる。As-B 混入。
- 2' 焼土ブロック径 2cm 以下まばらに含む。炭片 (小) まばらに含む。
- 3 暗褐色土 (10YR3/3-3/4) やや粘性・しまる。土質やや粗い。(c 層) As-C まばらに含む。炭片 (小) 少量。焼土ブロック (小) 微量。凝灰岩片径 1cm 以下少量。
- 4 黒褐色土 (10YR3/2) 暗褐色土 (10YR3/3) 含む。やや粘性・よくしまる。(地業と同程度) 凝灰岩片径 3cm 以下やや密に含む。As-C まばらに含む。
- 5 黒褐色土 (10YR3/2) 黄褐色土 (10YR4/3) 暗褐色土 (10YR3/3) ブロック状に含む。やや粘性・よくしまる。(地業と同程度) As-C まばらに含む。凝灰岩片径 1cm 以下まばらに含む。

a-l, o, p 層 地業 よくしまる。As-C まばらに混入。

- a 黒褐色土 (10YR3/2) 黒褐色土 (10YR2/2) ブロック状含む。黄色土ブロック (小) まばらに含む。
- b 黒褐色土 (10YR3/2) 黄色土ブロック径 1cm 以下微量。
- c 黒褐色土 (10YR3/2) 黒褐色土 (10YR2/2) 微量。焼土ブロック (小) 微量。
- d 黒褐色土 (10YR3/2) 黒褐色土 (10YR2/2) ブロック状まばらに含む。
- e 暗褐色土 (10YR3/3) ブロック主体 黒褐色土 (10YR2/2) ブロック状含む。
- f 黒褐色土 (10YR3/2) 暗褐色土 (10YR3/3) 黒褐色土 (10YR2/2) ブロック状含む。
- g 黒褐色土 (10YR3/2) 暗褐色土 (10YR3/3) 黒褐色土 (10YR2/2) ブロック状少量。黄色土ブロック径 1cm 以下まばらに含む。
- h 黒褐色土 (10YR3/2) 暗褐色土 (10YR3/3) 含む。黄色土ブロック径 1cm 以下少量。
- i 黒褐色土 (10YR3/2) 黄色土ブロック径 1cm 以下まばらに含む。
- j 黒褐色土 (10YR3/2) 暗褐色土 (10YR3/3) 黄色土ブロック径 2cm 以下やや密に含む。
- k 黒褐色土 (10YR3/2) 暗褐色土 (10YR3/3) 黄色土ブロック径 2cm 以下まばらに含む。
- l 黒褐色土 (10YR3/2) 暗褐色土 (10YR3/3) 黄色土ブロック径 2cm 以下まばらに含む。m 黒褐色土 (10YR3/2) 暗褐色土 (10YR3/3) 相対によくしまる。黄色土ブロック径 2cm 以下まばらに含む。
- n 暗褐色土 (10YR3/3) 黒褐色土 (10YR3/2) よくしまる。
- o 黒褐色土 (10YR3/2) ブロック主体
- p 黒褐色土 (10YR3/2) ブロック主体

A-キ層 地業 よくしまる。As-C まばらに混入。

- A 黒褐色土 (10YR3/2) 黄色土ブロック状微量。
- I 黒褐色土 (10YR3/2)
- ウ 暗褐色土 (10YR3/3) ブロック主体 黒褐色土 (10YR2/2) ブロック状含む。
- エ 黒褐色土 (10YR3/2) 暗褐色土 (10YR3/3) 含む。
- オ 黒褐色土 (10YR3/2) 暗褐色土 (10YR3/3) 少量。黒褐色土 (10YR2/2) ブロック状少量。
- カ 黒褐色土 (10YR3/2) 暗褐色土 (10YR3/3) 少量。黄色土ブロック径 1cm 以下まばらに含む。
- キ 黒褐色土 (10YR3/2) 暗褐色土 (10YR3/3) 少量。

13-2 トレンチ H-H'

- 1 灰黄褐色土 (10YR4/2) 粘性なし・しまる。As-B 混入。
- 1' 黒褐色土 (10YR3/2) ブロック状含む。焼土ブロック (小) 微量。
- 1'' 黒褐色土 (10YR3/2) 含む。焼土ブロック (小) まばらに含む。
- 2 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・しまる。As-C まばらに混入。焼土ブロック径 5mm 以下まばらに含む。
- 3 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・しまる。焼土ブロック状密に含む。炭片密に含む。As-C まばらに含む。
- 4 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・しまる。黄褐色土 (10YR4/3) (やや粗い) 含む。炭片 (小) 微量。As-C まばらに含む。
- 5 黒褐色土 (10YR3/2) 黄褐色土 (10YR4/3) やや粘性・しまる。As-C まばらに含む。凝灰岩片径 1cm 以下微量。
- 6 黄褐色土 (10YR4/3) 主体 黒褐色土 (10YR3/2) 含む。全体に土質粗い。やや粘性・しまる。As-C まばらに含む。凝灰岩片径 1cm 以下少量。
- 7 黄褐色土 (10YR4/3) 主体 黒褐色土 (10YR3/2) ブロック状に混ざる。全体に土質粗い。やや粘性・しまる。
- 7' 粘性わずか・ややしまる。ザラつく。砂粒混入。土質かなり粗い。
- 8 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・しまる。As-C まばらに混入。凝灰岩片径 2cm 以下少量。黄色土ブロック径 2cm 以下まばらに含む。
- 9 8 層とほぼ同じ。凝灰岩片含まない。
- 10 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・よくしまる。As-C まばらに混入。黄色土ブロック径 1cm 以下まばらに含む。
- 10' 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・よくしまる。黄色土ブロック径 5mm 以下少量。
- 10'' 黄色土ブロック径 1cm 以下まばらに含む。地山黒褐色土 (10YR2/2) ブロック状まばらに含む。
- 11 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・しまる。As-C まばらに混入。地山黒褐色土 (10YR2/2) 含む。
- 12 地山土ブロック主体 黄褐色土 (10YR4/3-5/4)

a-e 層 地業

- a 黒褐色土 (10YR3/2) 暗褐色土 (10YR3/3) 黄色土ブロック径 1cm 以下まばらに含む。
- b 黒褐色土 (10YR3/2) 暗褐色土 (10YR3/3) 地山黄褐色土 (10YR4/3) ブロック状含む。黄色土ブロック径 1cm 以下まばらに含む。
- c 黒褐色土 (10YR3/2) 暗褐色土 (10YR3/3) 地山黄褐色土 (10YR4/3) ブロック状少量。黄色土ブロック径 1cm 以下まばらに含む。
- d 黒褐色土 (10YR3/2) 暗褐色土 (10YR3/3) 地山黄褐色土 (10YR4/3) ブロック状含む。黄色土ブロック径 1cm 以下やや密に含む。
- e 黒褐色土 (10YR3/2) 暗褐色土 (10YR3/3) 地山黄褐色土 (10YR4/3) ブロック少量。黄色土ブロック径 1cm 以下まばらに含む。

A-キ層 整地土

A 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・よくしまる。黄褐色土 (10YR4/3) 含む。As-C まばらに含む。焼土ブロック (小) 微量。

A' 黒褐色土 (10YR3/2) As-C まばらに混入。黄色土ブロック径 1cm 以下まばらに含む。

I 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・よくしまる。黄色土ブロック径 1cm 以下まばらに含む。

ウ 灰黄褐色土 (10YR4/2) 地山土主体 やや粘性・よくしまる。As-C 少量。

エ 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・よくしまる。As-C まばらに混入。

オ 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・よくしまる。地山灰黄褐色土 (10YR4/2) 含む。As-C まばらに含む。

カ 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・よくしまる。As-C まばらに混入。

キ 暗褐色土 (10YR3/3) やや粘性・しまる。As-C まばらに混入。

13-2 トレンチ G-G'

- 1 灰黄褐色土 (10YR4/2) 粘性なし・As-B 混入。表土
- 2 暗褐色土 (10YR3/3) 1 層をカクラン状に含む。

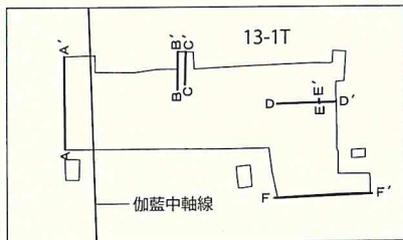
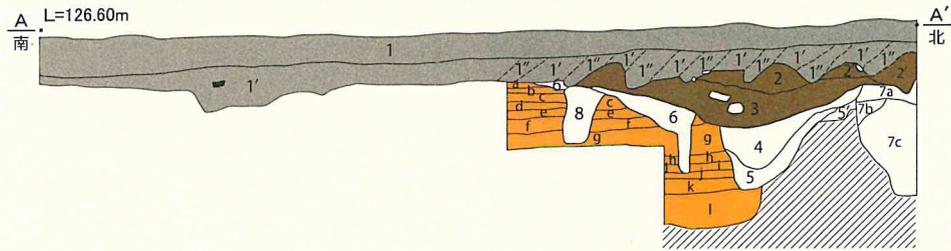
A-Q 層 地業

- A M-M' 層 黒褐色土 (10YR3/2) 暗褐色土 (10YR3/3)
- B M-M' 層 黄褐色土 (10YR5/4) ブロック主体
- C 黒褐色土 (10YR3/2) 暗褐色土 (10YR3/3)
- D M-M' 層 黒褐色土 (10YR3/2) 暗褐色土 (10YR3/3) 黄色土ブロック径 1cm 以下少量。
- E M-M' 層 暗褐色土 (10YR3/3) 主体 黒褐色土 (10YR3/2) 含む。
- F 黒褐色土 (10YR3/2) 暗褐色土 (10YR3/3) 黄色土ブロック状密。
- G M-M' 層 黒褐色土 (10YR3/2) 暗褐色土 (10YR3/3)
- H 黒褐色土 (10YR2/2) ブロック主体
- I M-M' 層 黒褐色土 (10YR3/2) 暗褐色土 (10YR3/3) 黒褐色土 (10YR2/2) ブロック状含む。
- J 黒褐色土 (10YR2/2) ブロック主体
- K M-M' 層 暗褐色土 (10YR3/3) 黒褐色土 (10YR3/2) 黄色土ブロック径 1cm 以下少量。
- L M-M' 層 暗褐色土 (10YR3/3) 黒褐色土 (10YR3/2)
- M M-M' 層 暗褐色土 (10YR3/3) 黒褐色土 (10YR3/2) 黄色土ブロック状まばらに含む。
- N M-M' 層 黒褐色土 (10YR3/2) 暗褐色土 (10YR3/3) 暗褐色土 (10YR3/4) ブロック状含む。
- O 黒褐色土 (10YR3/2) 暗褐色土 (10YR3/3) 暗褐色土 (10YR3/4) ブロック状含む。
- P M-M' 層 黒褐色土 (10YR3/2) 暗褐色土 (10YR3/3) 凝灰岩片径 1cm 以下少量。
- Q 暗褐色土 (10YR3/3) 黒褐色土 (10YR3/2) 暗褐色土 (10YR3/4) ブロック状多量。

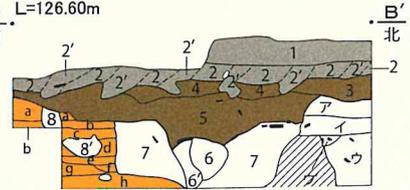
a-け層 地業 やや粘性・よくしまる。As-C まばらに混入。

- a 暗褐色土 (10YR3/3) 黒褐色土 (10YR3/2)
- い 地山黄褐色土 (10YR5/4) ブロック主体
- う 暗褐色土 (10YR3/3) 黒褐色土 (10YR3/2)
- え 暗褐色土 (10YR3/3) 黒褐色土 (10YR3/2) 地山黄色土ブロック状含む。
- お 暗褐色土 (10YR3/3) 黒褐色土 (10YR3/2) 暗褐色土 (10YR3/4) 含む。
- か 暗褐色土 (10YR3/3) 黒褐色土 (10YR3/2) 黄色土ブロック (小) 径 5mm 以下少量。
- き 地山黄色土ブロック主体
- く 暗褐色土 (10YR3/3) 黒褐色土 (10YR3/2)
- け 暗褐色土 (10YR3/3) 黒褐色土 (10YR3/2) 暗褐色土 (10YR3/4) ブロック状含む。

13-1 トレンチ



13-1 トレンチ B L=126.60m 南 北



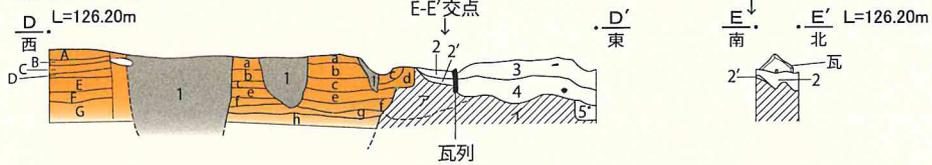
各セクション図共通

- As-B混入土
- 炭片・焼土ブロック混入土
- 地業
- 地山

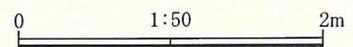
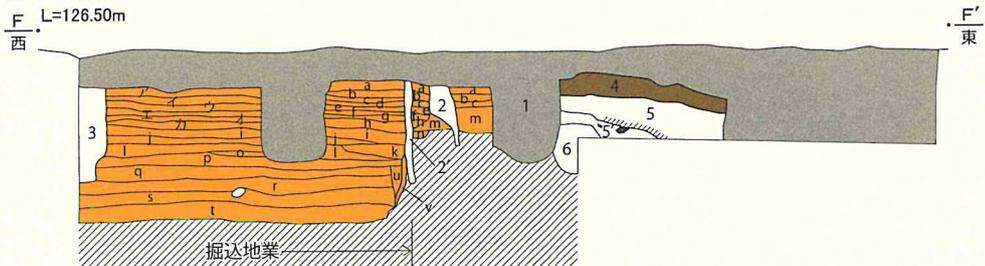
13-1 トレンチ C L=126.00m 南 北



13-1 トレンチ D L=126.20m 西 東

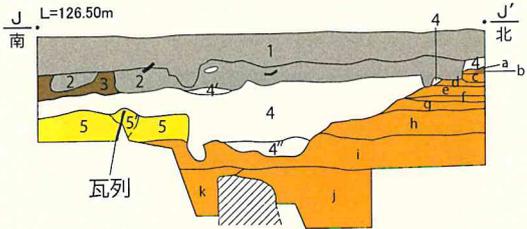


13-1 トレンチ F L=126.50m 西 東

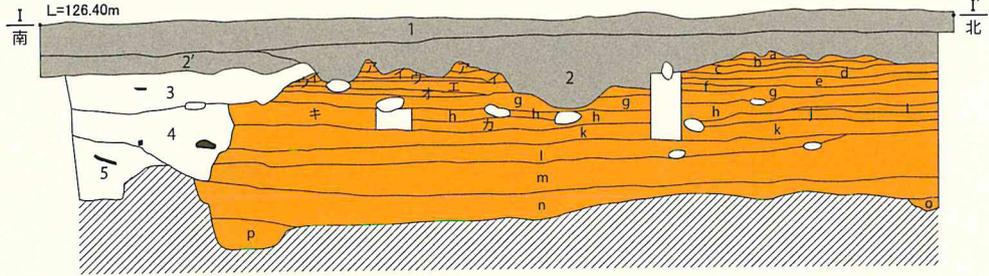


第22図 (1) 金堂跡 断面図-1

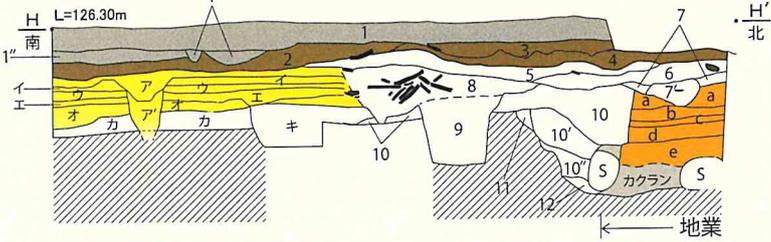
13-3 トレンチ



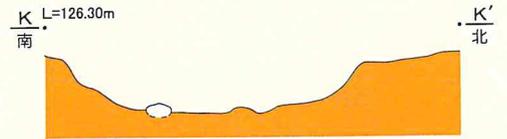
13-3 トレンチ



13-2 トレンチ



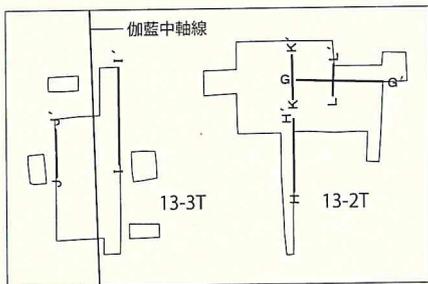
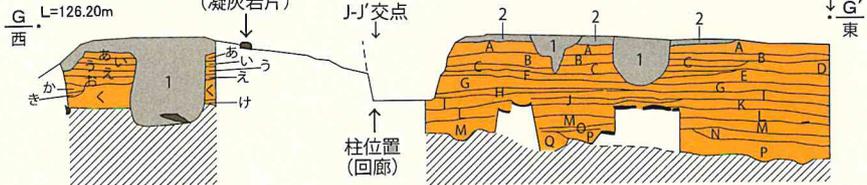
13-2 トレンチ



13-2 トレンチ

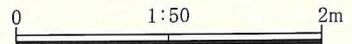


13-2 トレンチ

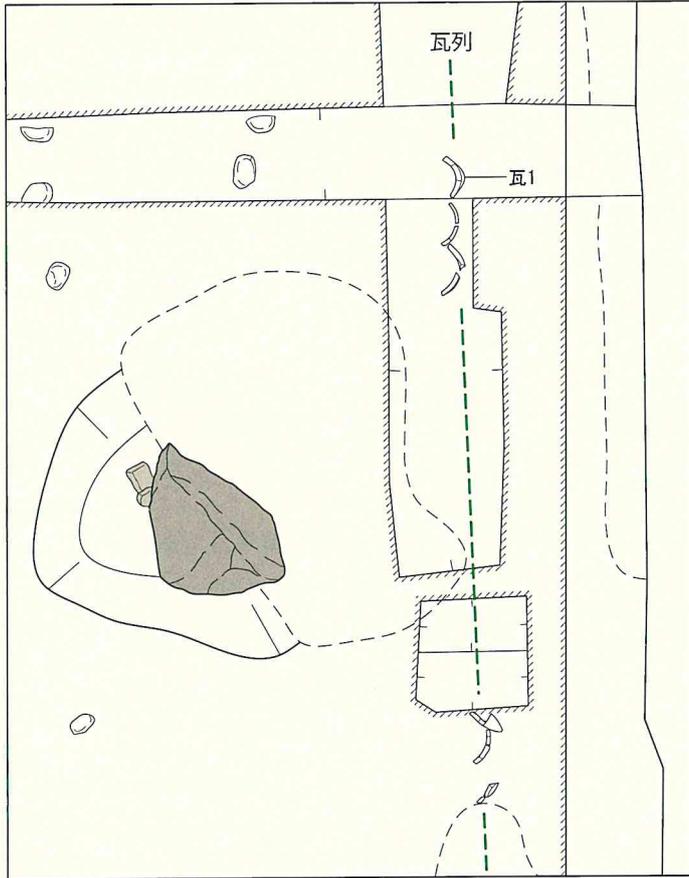


各セクション図共通

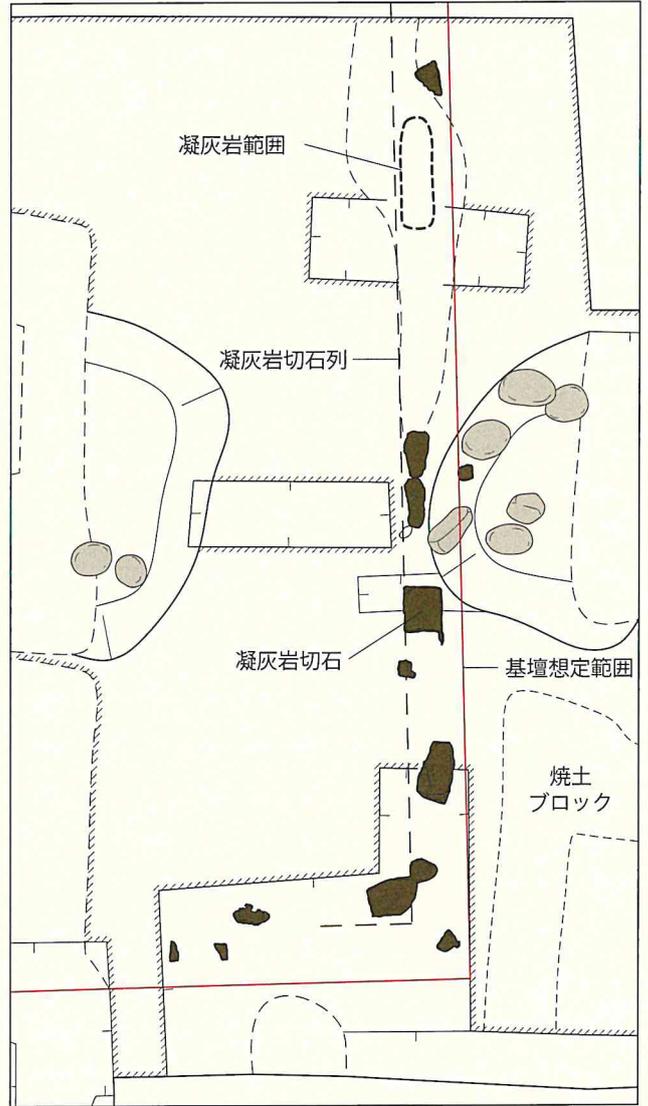
- As-B混入土
- 炭片・焼土ブロック混入土
- 地業
- 整地土か
- 地山



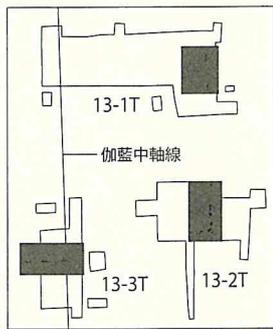
第23図 (1) 金堂跡 断面図-2



13-1トレンチ



13-2トレンチ



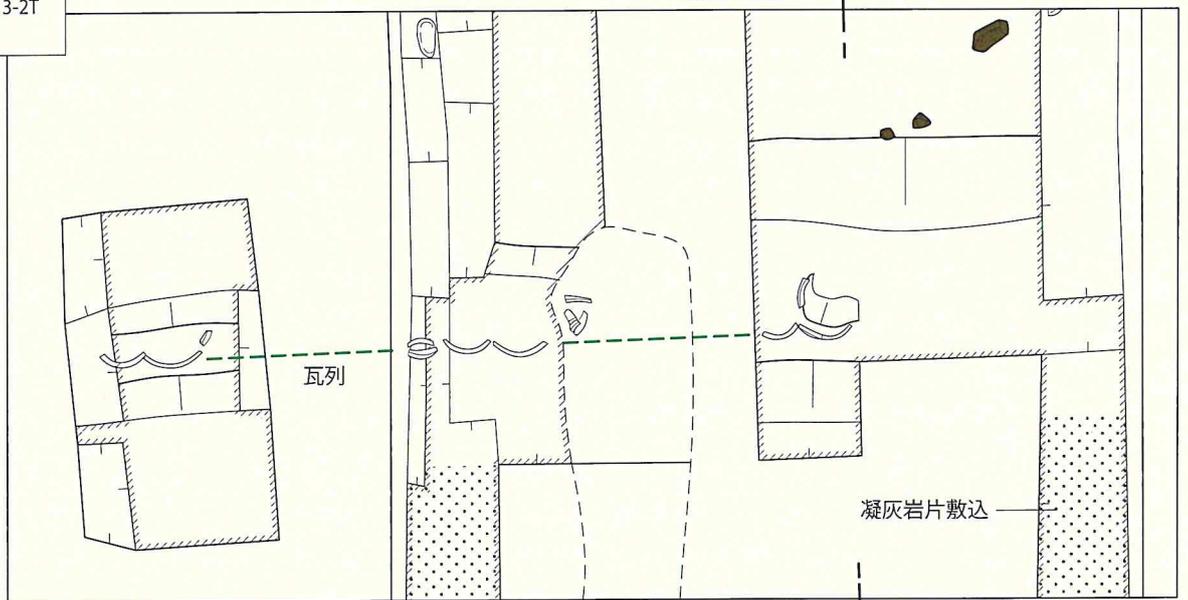
▨ 尼寺に関連する遺構確認面

◻ 凝灰岩片敷込

○ カクラン

■ 凝灰岩

0 1:40 1m



13-3トレンチ

第24図 (1) 金堂跡 瓦列・凝灰岩切石列 平面図

(2) 回廊跡(第 25 図～第 39 図)

1) 調査経過

① 調査の目的 昭和期調査で不明であった回廊跡の存在を確認し、柱痕跡や基壇の状況を調べて平面規模や建物構造を明らかにする。

② 調査区の設定

1. 伽藍地南辺の確認調査と並行し、8 トレンチを設定して南面回廊の確認をおこなった。これに当たって、伽藍地南辺区画正面付近に設定した 7-3 トレンチの北延長線上に 8-1 トレンチを設定して基礎地業の確認につとめた。さらに、回廊南東隅を確認するため 8-2・8-3 トレンチを設定した(第 26 図)。

2. 伽藍地西辺の確認調査と並行し、11 トレンチを設定して西面回廊の確認をおこなった。これに当たっては、尼坊跡の位置から導いた伽藍中軸線および 8 トレンチの調査成果から回廊北西隅の位置を特定し、以下のトレンチを設定した(第 31 図)。

11-1 トレンチ：西面回廊内筋柱列確認を目的とし、一部回廊の地業幅を確認するため東西方向の 11-1W トレンチ、北面回廊部分確認のため 11-1E トレンチを加えた。

11-2 トレンチ：西面回廊中央付近の地業幅および出入口施設確認などを目的として設定した。

11-3 トレンチ：北西隅部の確認を目的として設定した。

11-4 トレンチ：西面回廊外筋柱列の確認を目的として設定した。

3. 金堂と回廊の取り付け部分の調査(13-2 トレンチ)と並行して、回廊北東隅部および東面回廊北半部を確認するため 14 トレンチ・15 トレンチを設定した。なお、15 トレンチでは土地所有者の聞き取りから残存する礎石の位置を特定し、抜き取り跡も含め周囲を広範囲に拡張した。さらに、地業の幅を確認するため 15-1～15-4 トレンチを設定した(第 37 図)。

2) 調査概要

① 8 トレンチ(第 26 図～第 30 図)

1. 基壇構築面および礎石は既に失われていた。また、根石の残存などから明確に礎石の抜き取り痕と判断されるものは 8-3 トレンチと 8-1 トレンチで 1 か所ずつみられ、前者は回廊南東隅の柱、後者は外筋柱列のもので、両者の距離は 16.0m 前後である。

2. 南面回廊では、回廊南東隅にかけての地業の外縁ラインおよび外筋柱列の位置が概ね確定した。8-1 トレンチと 8-2 トレンチで地業南端部、8-3 トレンチで地業東端部を確認し、地業南東隅には人頭大の自然礫が埋設されていた。なお、該当部では現耕作土直下が地業面で、南面回廊および回廊南東隅における地業の内側端部は、調査区内では明瞭には確認できず今後の課題となった。

② 11 トレンチ(第 31 図～第 36 図)

1. 礎石は、北西隅のものがほぼ原位置で残存していた。また、礎石抜き取り痕は、ほぼ原位置に根石を残すものが内筋柱列で 3 か所確認されている。以上の状況から建物規模は、梁間 4.2m (14 尺)・桁行方向の柱間が 3.0m(10 尺)等間であることが推定できた。

2. 基壇構築面は後世の開墾の影響を受けるが、11-1WT や 11-4T の所見から外側縁でわずかな高まりが認められ、該当部には白橙色系シルト質土の分布がみられた。基壇外装の痕跡はみられなかった。

3. 西面回廊では回廊北西隅にかけた地業の外縁ラインが確定した。一方、内縁ラインは中世以降に構築された溝で該当箇所が広範囲に失われているため不明である。注意されるのは、11-1E-T 南端部で同溝の東に接して凝灰岩片の分布がみられ、13-3 トレンチなどで確認された金堂正面

の凝灰岩片敷きの連続を示すものとみられる。また、8-3 トレンチの所見から、地業の工法が外側と内側で異なり、前者は掘込地業、後者はやや粗い盛土により構築され、盛土の下部は整地土と判別しにくいことが判明している。このため西面回廊においても地業内縁ラインの確定にはさらなる検討が必要である。

③ 金堂と北面回廊の取り付け部分(13-2 トレンチ・第 37 図、断面図は第 23 図)

1. 礎石抜き取り痕から、金堂南辺側柱列と北面回廊内筋柱列の筋が通ることが判明した。柱間は、金堂南東隅柱と回廊端部の柱で 3.6m(12 尺)、回廊端部の柱から東面回廊内筋の柱まで 3.6m(12 尺))・2 間である。
2. 金堂基壇外装の可能性のある凝灰岩切石列付近を境に、金堂側と回廊側の地業の厚みが異なり、回廊側のほうが厚く施工されていることが判明した。
3. 東面回廊 15-4 トレンチの所見とあわせて 回廊北東隅の地業内縁ラインがほぼ確定した。なお、該当部地業の内側裾部は、金堂正面に広く分布する凝灰岩片敷きの直上に盛土で構築されていた。
4. 回廊の地業が金堂正面に敷かれた凝灰岩片層を掘り込み、また、同地業裾部が凝灰岩片層上に構築されることから地業の構築順は金堂→回廊であったと推定できる。

④ 14 トレンチ(第 37・38 図) 回廊北東隅を調査し、北辺の地業外縁ラインを確認した。基壇構築面や礎石は後世の開墾で失われていた。なお、回廊上から北方向に移動して埋めたとみられる礎石 1 個が認められた。地業の外側裾部分は整地表面上に盛土で構築される。また、地業肩部分には黄橙色シルト質土の分布がみられた。

⑤ 15 トレンチ(第 37 図～第 39 図)

1. 東面回廊では、内筋柱列のうち 5 か所で礎石が原位置に近い良好な状態で残存していた。また、礎石が失われた箇所では抜き取り痕が比較的明瞭に確認できたため、柱位置の特定が高い精度で可能となった。この結果、建物規模は西面回廊(11 トレンチ)の所見と同様、梁間は 4.2m(14 尺)・桁行方向の柱間は 3.0m(10 尺)等間であるのが確認できた。
2. 基壇構築面は後世の開墾の影響を受けているが、わずかに高まりが認められ、縁部には白橙色系シルト質土の分布がみられたが、基壇外装の痕跡は確認できなかった。なお、攪乱により不明瞭ではあるが、基壇縁は内外とも柱列から 2m 前後外側で、基壇幅は 8m ほどであったとみることができる。
3. 東面回廊の地業は、礎石が設置される中央部分では掘込地業となる一方、内外両裾部では整地表面上に盛土で構築されており、地業の幅は 15-3・15-4 トレンチでは 10.94m(ほぼ 36 尺)である。なお、地業内には補強目的と考えられる径 10～20 cm の自然礫が多数混ぜられていた。
4. 15-3 トレンチで、回廊地業下部に別工程と思われる掘込地業が存在することが確認された。同掘込地業の平面形状は未調査のため不明であるが、断面の観察から外筋柱列の約 1.4m 外側から東に向かって掘り込まれ、東西幅は 4.5m 以上を測る。

⑥ 建物の規模と構造 回廊は金堂南庇の間に取り付き、梁間 1 間・柱間約 14 尺(4.2m)の単廊で、東面・西面は桁行 13 間と推定され、柱間は各々南北端が 14 尺(4.2m)で他は 10 尺(3m)となる。北面は、金堂の東側で桁行 3 間で、柱間は東端が 14 尺(4.2m)で他は 12 尺(3.6m)となる。金堂側柱との間は約 12 尺で、金堂西側も同様であったとみられる。また、南面は柱跡の確認箇所が限られ、判断材料が十分でないが、東西両端部柱間が 14 尺(4.2m)で他は約 10 尺(3m)となるが、現段階では中門規模が不明なため桁行の間数は不明である。なお、回廊四隅の外側柱芯々距離について、北東隅

及び南西隅の柱跡は未確認だが、確認部の所見から復元すると、北西隅-北東隅間及び南西隅-南東隅間は 52.8m(約 176 尺)、北東隅-南東隅間及び北西隅-南西隅間は 41.4m(約 138 尺)となる。

- ⑦ 基壇・地業の状況 基礎地業は総地業で、原則として掘込地業により入念な版築がおこなわれる。ただし、柱の外側となる地業の裾部分では、整地面上に盛土で施工されており、西面回廊の外側裾部のみ掘込地業となっていた。版築の厚みは南面で 60～65 cm、西面で 55～68 cm、東面で 95～106 cm、北面で 60～80 cmを確認した。また、地業の幅について、裾部盛土と下部整地土との判別が困難な個所では平坦化する地点を目安とすると、南面で 9.6m 以上(内側端部不明瞭)、西面で 11.3m 以上(内側端部不明瞭)、東面で 11m 前後(外側端部不明瞭)、金堂東側取付き部は概ね 11m と推定できる。

基壇構築面の残存はみられなかった。ただし、礎石が残る箇所などでかろうじて縁部の高まりが認められ、15 トレンチでは基壇縁は内外筋柱列から各々 2m の箇所にあり、基壇の幅は約 8m であることが判明した。また、柱から基壇縁までの平坦部には黄橙色系のシルト質土が 2～6 cm の厚さでみられた。なお、調査個所では基壇外装や雨落溝の痕跡は確認できなかった。

3) 基礎地業の状況

① 8 トレンチ(第 27 図)

ア. 南面回廊(8-1 トレンチ SPA ライン) 現耕作土直下で地業面を確認した。厚さは 60 cm 以上で、地山整地面を 20 cm 以上掘り込んで版築により構築する。地業内には瓦片の敷き込みがみられ、特に地業確認面下 20～15 cm と 60 cm 前後のレベルに集中していた。なお、下部の瓦片敷き込み面を現状保存したため、地業基底部は確認していない。また、地業内には径 10～20 cm ほどの自然礫が混入しており、瓦片同様に補強材とみられる。

地業の外側裾部は、廃絶後～As-B 降下以前の時期に削られ、当初の形状をとどめていない。該当部の埋没土内から凝灰岩片が複数出土しており、基壇外装に用いられていた可能性がある。

イ. 南面回廊(8-2 トレンチ SPA ライン) 現耕作土直下で地業面を確認し、65 cm ほどの厚さの版築を確認した。版築の下部には整地土あるいは別遺構覆土と判断される黒褐色土が分布し、地業外側裾部は同黒褐色土表面を 10 cm 前後掘り込んで構築され、掘り込みは地業中央部付近では相対に深くなるようである。なお、地業縁部には径 20 cm ほどの自然礫が埋設されていた。

一方、地業内側裾部では、版築端部に地山整地面上に構築された盛土が取り付つく(6 層)。盛土の裾はトレンチ北端で地山整地面まで下がり、該当部が地業の端部とみられる。ただし、盛土上面に廃絶後～As-B 降下以前の掘り込みがみとめられ、当初の形状をとどめていない可能性が強く、地業端部がさらに北へ延びることを考慮する必要がある。

以上から南面回廊の地業幅は、外側縁部に埋設された自然礫の端部から計測すると 9.7m 以上となる。

ウ. 回廊南東隅東辺北側(8-3 トレンチ SPA ライン) 現耕作土直下で地業面を確認し、それより下 94 cm まで版築を確認した。版築は地山整地面を 20 cm 以上掘り込んで構築される。なお、版築内には瓦片が多数敷き込まれていた。地業外側裾部は地山整地面上に盛土で構築され、縁部には礫の埋設など化粧や補強はみられなかった。

エ. 回廊南東隅東辺南側(8-3 トレンチ SPB ライン) 現耕作土直下で地業面を確認し、それより下 92 cm まで版築を確認した。外側裾部は厚み 40 cm 程度の整地土上から 30 cm ほど掘り込み、版築状に構築される。縁部の形状は東辺北側と同様だが、構築法は南面回廊外側(8-2 トレンチ SPA ライン)の状況と類似する。

オ. 回廊南東隅(8-3 トレンチ SPC ライン) 現耕作土直下で地業面を確認し、それより下 64 cm まで版築を確認した。地業の南東隅外側縁部に人頭大の自然礫が埋設されていた。

② 11 トレンチ(第 32 図～第 34 図)

ア. 回廊北西隅北辺東側(11-1E トレンチ SPA ライン・第 32 図) As-B 混入土層直下で地業面を確認し、それより下 55 cm 程度の厚みで版築がみとめられ、地業内には補強目的とみられる瓦片が散見された。地業の外側縁部は廃絶後～As-B 降下以前に掘り込まれ、当初の形状をとどめていない。版築直下には厚さ 40～30 cm で整地土状の黒褐色土層が存在する。この黒褐色土層は、地山整地面を掘り込んで構築された堅穴状の落ち込み内に充填されており、その範囲は、北側は地業外縁部付近、東側は地業断面観察面のやや手前で立ち上がりを確認し、西側は隣接の 11-W トレンチまでは広がらず、南側は不明である。同黒褐色土層は搗き固めによる硬化がみられないが、掘り込み地業下部の可能性もある。一方、出土遺物が無く構築時期が不明であることなどから別遺構の可能性についても検討を要する。

イ. 回廊北西隅部北辺西側(11-1W トレンチ SPA ライン・第 33 図) As-B 混入土層直下で地業面を確認し、それより下 50 cm 程度の厚みで版築が認められた。地業の外側縁部は廃絶後～As-B 降下以前、さらに近年の開墾などで掘り込まれ、当初の形状をとどめていない。また、版築は地山整地面を 15 cm 以上掘り込んで構築されている。

ウ. 回廊北西隅北側(11-3 トレンチ SPB ライン・第 33 図) 廃絶後～As-B 降下以前に堆積した、焼土ブロックを含む黒褐色土層下で地業外縁部の上面を確認し、それより下に 93 cm の厚みで版築がみられ、地山整地面を 55 cm 程度掘り下げて構築されている。なお、版築下に厚さ 25 cm ほどで、瓦片を包含する黒褐色土層(h)が存在し、該当部は以上と比べ搗き固めによる硬化が顕著ではないことから別工程と考えた。地業の外側縁部には、廃絶後間もない時期のものと思われるピット状の掘り込みがみられた。

エ. 回廊北西隅西側(11-3 トレンチ SPA ライン・第 32 図) 廃絶後～As-B 降下以前に堆積した、焼土ブロックを含む黒褐色土層直下で地業外側裾部の上面を確認し、それより下 55 cm の厚みで版築がみられた。版築は厚さ 13 cm ほどの整地土上から 40 cm 程度掘り下げて構築され、端部の掘り込みは相対的に浅くなる。地業上面は平坦で、黄橙色系のシルト質土がブロック状に分布し、縁部は緩やかに傾斜して整地面にすり付いている。なお、地業掘り込み部の外側 45 cm ほどの箇所から整地面は緩やかに低くなり、該当部は瓦片を包含する黒褐色土などで埋没している。

オ. 西面回廊外側裾部(11-1W トレンチ SPB ライン・第 32 図) 廃絶後～As-B 降下以前に堆積した、焼土ブロックを含む黒褐色土層直下で地業の上面を確認し、それより下に 55 cm の厚みで版築がみられた。版築は地山整地面から 40 cm 程度掘り下げて構築され、端部の掘り込みはやや浅くなる。なお地業上面に白色系のシルト質土の分布が少量みられた。地業縁部は廃絶後に削り込まれているため、当初の形状は不明である。

一方、地業掘り込み部から外側 90 cm 付近より整地面が緩やかに下がり、埋没過程で瓦片が多量に廃棄されていた。該当部下面の状況について断ち割り調査をおこなったところ、整地面は地山土を削り込んだ上部に厚さ 5 cm ほどで黄褐色系地山土ブロックを貼っており、地業縁部へと立ち上がる箇所では、整地面下に土坑状あるいは溝状の掘り込みが重複していた。同掘り込みは上幅 1.22m・基底幅 1.0m・深さ 50 cm ほどで底面は平坦である。出土遺物は無く具体的な構築時期は不明で、自然埋没の可能性が高いため、回廊構築に伴うものでは無いと判断される。

カ. 西面回廊外側裾部(11-4 トレンチ SPB ライン・第 32 図) 地業裾部分上面のみ形状を確認し、廃絶後～As-B 降下以前に堆積した焼土ブロックを含む黒褐色土層直下で、基壇裾とみられる高まりを確認した。基壇裾は下部地業面から比高差 15 cm程度で緩やかな段をなして立ち上がり、斜面部には黄橙色系のシルト質土が厚さ 4 cmほどで貼られていた。

キ. 西面回廊外側裾部(11-4 トレンチ SPA ライン・第 32 図) 上記 f から南 8m の地点で、同様に基壇裾部の残存および黄橙色系のシルト質土の分布を確認した。

ク. 西面回廊内側裾部(11-1E・W トレンチ SPA ライン・第 32 図) 地業内側裾部は中世以降に構築された溝のため広範囲に失われている。この溝は N-14° -E で走行し、上幅 3m 前後で深さ約 1m、断面形は上端が大きく開く「V」あるいは「U」状で、埋没土内に As-B を濃密に混入し、3 トレンチで確認された尼坊跡と重複する溝の南への延長部と同一遺構とみられる。

溝の西側壁面では、厚さ 60 cmほどの版築の断面が観察された。東側では版築は認められず、地山上に厚さ 15～10 cmの整地土(d)が存在し、整地面上には 10 cmほどの厚さで凝灰岩片を主体とする層(c)がみられ、さらに上部に厚さ 12 cmほどの黒褐色・暗褐色系地山土ブロックからなる層(b)がみられた。凝灰岩片の敷き込みは東方の 13 トレンチなどの調査で金堂正面に広がる事が判明し、東面回廊では同敷き込み上に地業内側縁部が構築されていた。こうしたことから、該当部が西面回廊の地業内側縁部付近である可能性が高い。

ケ. 西面回廊(11-2 トレンチ SPA ライン・第 36 図) As-B 混入土層直下で地業面を確認した。基壇構築面は失われており、内筋の柱列では礎石抜き取り痕がみられ、根石が残存していた。外筋の柱列では抜き取り痕は特定できず、柱列の軸線上付近に凝灰岩切石および径 20 cm前後の自然礫複数がみられたが、根石が動かされたものであろう。

地業外側縁部では、地山整地面を 50 cm以上掘り込んで版築が構築されており、堰板の痕跡とみられる箇所も認められた。なお、外筋柱列付近の掘り込みはやや深く、版築の厚みは 68 cm以上となる。

地業掘り込み部のすぐ外側に溝あるいは土坑状の掘り込みが存在し、東側立ち上がり部分を調査したところ、上幅は 1.6m 以上・底部幅は 70 cm以上で深さは 92 cm、底面は平坦でその上方 25 cmで幅 40 cmほどの段をなし、それより上は緩やかに外傾している。この遺構の埋没土上に厚さ 15 cm前後で硬化した黄褐色土(5)・暗褐色土(6)が概ね平坦にみられ、直上から瓦片が多量に確認された。瓦片は硬化層直上の As-B 混入土層内に廃棄されたものとみられるが、硬化層内には As-B の混入が顕著でなく、同層が As-B 降下以前のもので回廊の地業構築に関連する可能性もある。地業外側に溝・土坑状掘り込みが隣接する点で、北側の 11-1W トレンチ SPB ライン(上記オ)の状況と類似していることに注意される。

地業内側裾部では、地業は地山整地面上に盛土で構築されており、トレンチ端部よりさらに東へと延びている。盛土の厚みは内筋柱列付近で 52 cm、トレンチ東端で 15 cmを測り、緩やかに縁部へ向け傾斜している。なお、内筋柱列から 2m ほど外側に上端径 50 cm・深さ 45 cm以上のピット状の掘り込みがみられる。同掘り込みは盛土の直上から行われ、該当部の南側は不正な溝状の窪みとなってトレンチ外へ延びることなどから、廃絶後間もない時期の基壇外装抜き取りに伴うものである可能性がある。

以上から、確認された地業の幅は 11.3m 以上で基壇外装抜き取り痕の可能性のある内側裾部のピット状掘り込みまで 9.2m を測る。

③ 13-2 トレンチ(第 37 図・断面図第 38 図)

ア. 回廊北東隅内側裾部(13-2 トレンチ SPM ライン・第 38 図) 廃絶後～As-B 降下以前に堆積した、焼土ブロックを含む黒褐色土直下で地業面を確認した。地業の構造は、北辺回廊内筋柱列の外側 1m ほどまで掘込みによる版築、さらに外側は凝灰岩片が敷かれた整地面上に盛土で版築状に構築され、同盛土は掘込部分版築上部と連続している。このことから、該当部の地業構築工程は、掘込地業→縁部付近の盛土→地業上面の版築および版築状盛土による仕上げとなる。なお、地業の厚みは、柱跡付近のトレンチ北端で 63 cm、地業縁部付近で 38 cm である。

地業面は、北辺回廊内筋柱列の外側 1.4m で段をなしてわずかに低くなり、さらに外側 1.2m で縁部となって、傾斜角 45° の斜面をなし、比高差 27 cm で整地面に擦り付いている。なお、地業縁部やや内側に、盛土上から掘られた上端部径 20 cm・深さ 39 cm のピットがみられた。同ピット埋没土内には、基壇面に貼っていたと思われる黄橙色系シルト質土がブロック状に含まれており、回廊と関連する可能性がみられる。

④ 14 トレンチ(第 38 図)

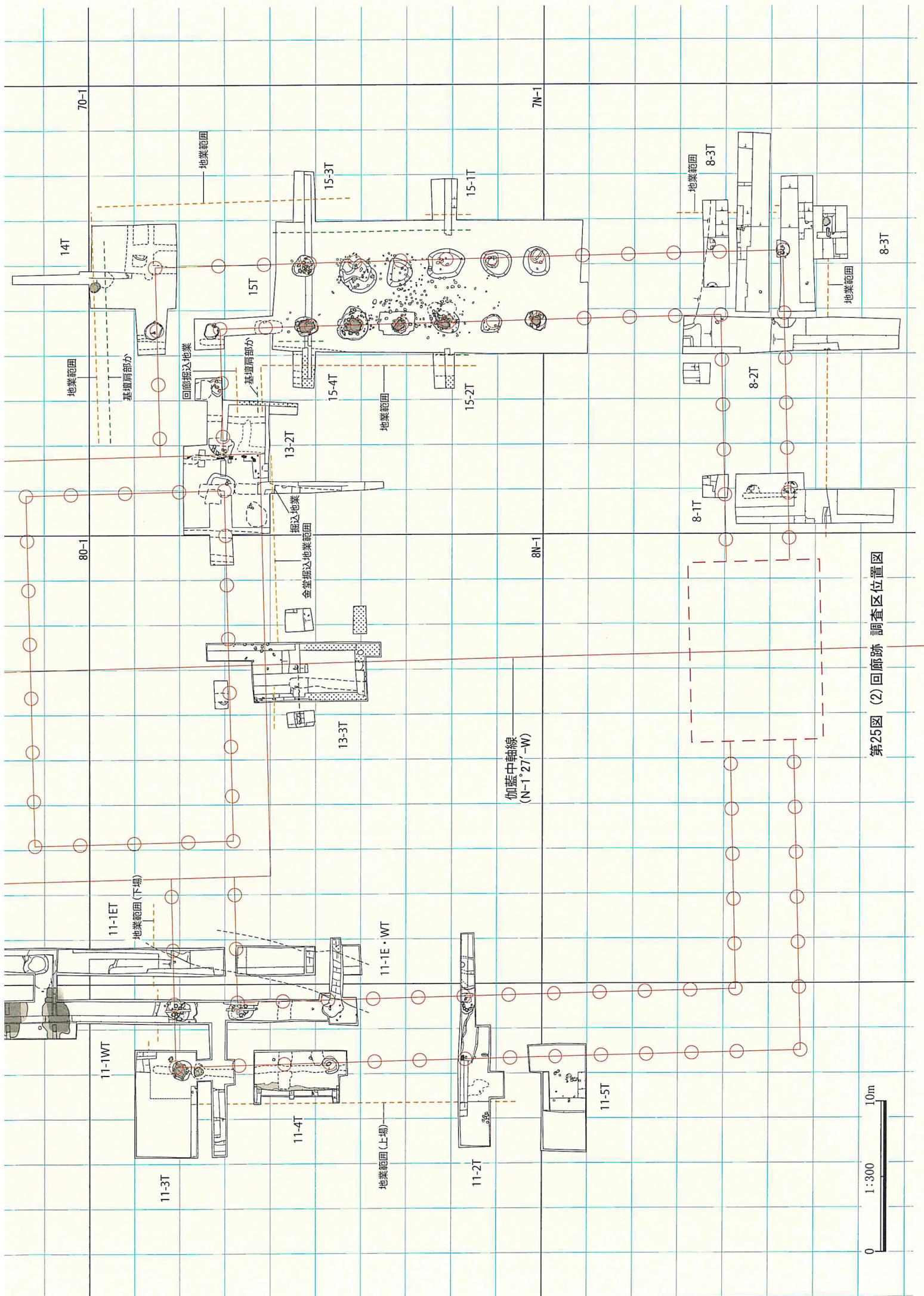
ア. 回廊北東隅外側裾部(14 トレンチ SPA ライン) As-B 降下以前に堆積した暗褐色土層下で地業面を確認した。なお、同暗褐色土層の下部には黄橙色シルト質土がブロック状に含まれ、回廊地業上に貼られていたものが流出して再堆積したものとみられる。地業裾部分は、地山整地面上に厚さ 40 cm 前後の版築状に構築される。なお、地業縁部付近の外側では、地山が低くなった箇所整地土を充填している。地業縁部は後世の掘り込みが顕著にみられないことから、当初の形状を概ね保っているようで、比高差 43 cm、傾斜角度 26° で整地面から立ち上がっている。なお基壇外装や雨落溝は未確認である。

⑤ 15 トレンチ(第 38 図)

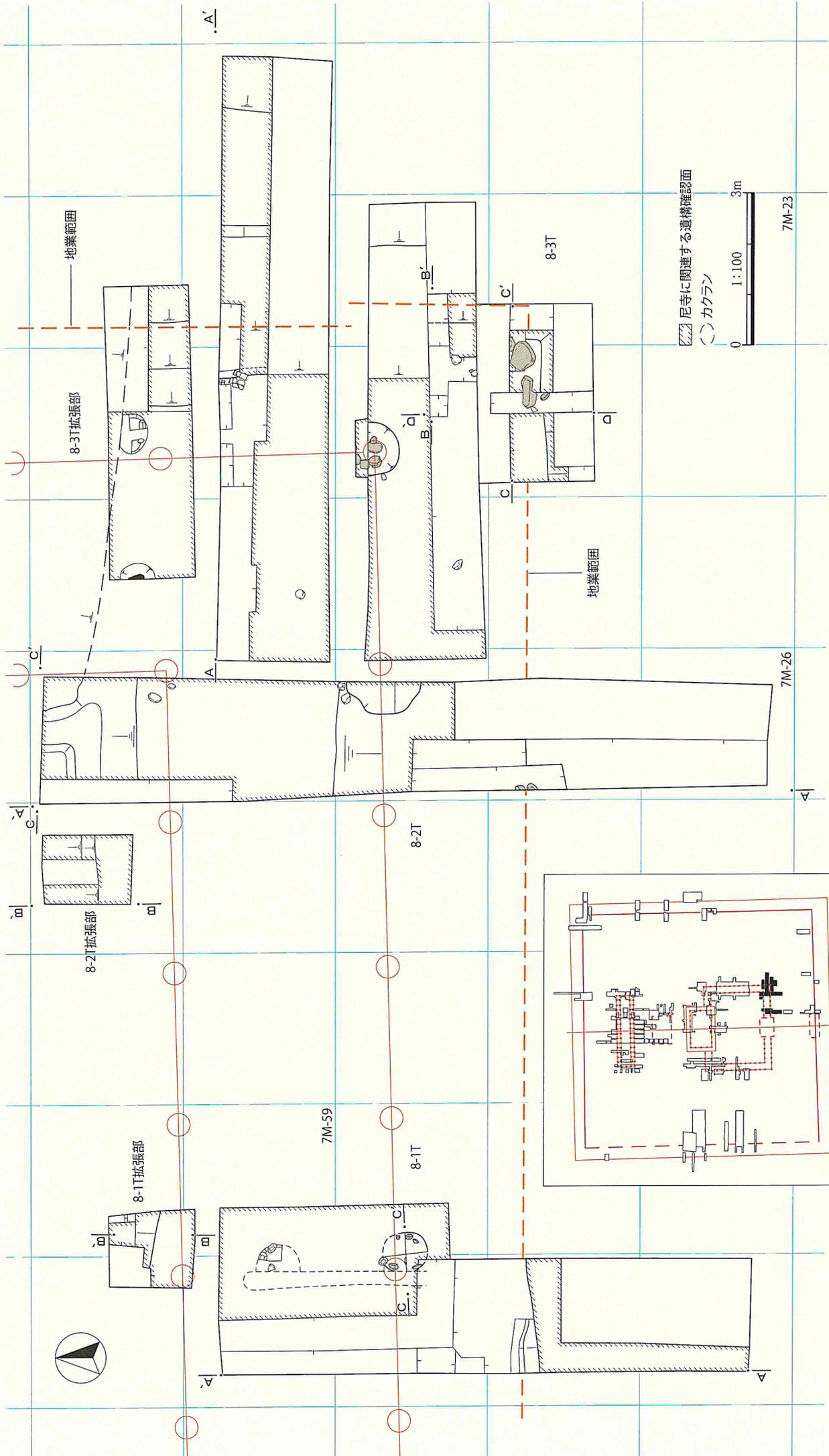
ア. 東面回廊北側(15 トレンチ SPA ライン) 内筋柱列の柱跡 3 と外筋柱列の柱跡 14 を横断するトレンチで土層観察を行った。As-B 混入土直下で地業面を確認し、柱跡 3 では礎石がほぼ原位置で残り、柱跡 14 では礎石は失われているが根石が多数残存していた。このことから、該当部では基壇構築面に比較的近い高さが保たれていると判断される。版築の厚みは、内筋・外筋両柱跡の下部付近から内側は相対に厚く(1.6m)掘込地業であることに對し、各々の柱跡の外側では相対に薄く(50～60 cm ほど)、掘り込みは明瞭ではない。なお、地業内には、径 10～30 cm の自然礫が散見されたが補強目的で混ぜたものであろう。

内側裾部(15-4 トレンチ)の盛土は柱跡 3 から 2.4m 延び、凝灰岩片敷(12 層)の整地面上に構築される。また、同 3 から 1.25m の間は、凝灰岩片敷を掘り込んで版築を構築しており、版築下部に凝灰岩片を含むコ層がみられる。

一方、外側裾部(15-3 トレンチ)の盛土は、柱跡 14 から 4.34m 延び、厚みは 50 cm 前後で、同柱跡から 2.17m 付近で段をなし縁部は緩やかに傾斜する。なお、柱跡と段部肩との間の幅 2m ほどの平坦部では、黄橙色系シルト質土(a 層)が確認面下 12 cm 前後の厚みでみられ、同層最上部には白色系粒子層が厚さ 2 cm 程度で分布していた。注意されるのは、回廊裾部盛土の下部に別工程とみられる掘込地業が存在することである。同地業は柱跡 14 から 1.4m の地点から掘り込まれ、厚さ 35～40 cm で東方向へ 4.5m 以上延びる。下部地業は上部回廊裾部と比べると丁寧な版築で構築されているため、両者の境界は明瞭で、ほぼ平坦面で整合している。下部地業の性格は不明で、平面分布の範囲調査は今回は実施していない。また、土層断面の観察で、下部地業掘込部直上に回廊裾盛土に埋め込まれたピットの痕跡(6 層)がみられたが、関連は不明である。



第25図 (2) 回廊跡 調査区位置図



第26図 (2) 南面回廊 平面図

8-1 トレンチ A-A'

- 1 黒褐色土 (10YR3/2) 粘性なし・ややしめる。As-B 混入。
- 1' 黄色土ブロック密に含む。
- 2 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・ややしめる。As-C 混入。
- 3 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・ややしめる。As-C 混入。
地山黒褐色土 (10YR3/2-2/2) 含む。
- a-u 層共通 やや粘性・よくしめる。As-C まばらに混入。
- a 黒褐色土 (10YR3/2-2/2) ブロック主体 黄色土ブロック状やや密に含む。
- b 暗褐色土 (10YR3/2) ブロック主体 黄色土ブロック状やや密に含む。
- c 黒褐色土 (10YR3/2-2/2) ブロック
・黒褐色土 (10YR2/1) ブロック主体 黄色土ブロック状まばらに含む。
- c' c層とほぼ同じ
- d 黒褐色土 (10YR3/2-2/2) ブロック主体 黄色土ブロック状含む。
- e 黒褐色土 (10YR3/2-2/2) ブロック主体 黄色土ブロック状少量。
- f 黒褐色土 (10YR3/2) 主体 黄色土ブロック状密に混入。
- g 黒褐色土 (10YR3/2) 主体 黄色土ブロック径 1cm 以下少量。
黒褐色土 (10YR2/1) ブロック状少量。
- h 黒褐色土 (10YR3/2) 主体 黒褐色土 (10YR2/1) ブロック状まばらに含む。
黄色土ブロック状少量。⑦層と同じか。
- i 黒褐色土 (10YR3/2) 主体 黒褐色土 (10YR2/1) ブロック状少量。
黄色土ブロック径 1cm 以下少量。
- i' i層とほぼ同じ 黒褐色土 (10YR2/2) 含む。
- j 黒褐色土 (10YR3/2-2/2) ブロック・黒褐色土 (10YR2/1) ブロック主体
- k 黒褐色土 (10YR3/2) 黒褐色土 (10YR2/1) ブロックまばらに含む。
黄色土ブロック径 1cm 以下少量。
- l 黒褐色土 (10YR3/2) 主体
- m 黒褐色土 (10YR3/2)・暗褐色土 (10YR3/3) 主体 黒褐色土 (10YR2/1) ブロック状少量。
- n 黒褐色土 (10YR3/2) 主体 黒褐色土 (10YR2/1) ブロック状含む。
- o 黒褐色土 (10YR3/2) 主体 周囲と比べわずかにしり弱い。
- p 黒褐色土 (10YR3/2)・黒褐色土 (10YR2/1) ブロック主体
- q 黒褐色土 (10YR3/2) 主体 黄色土ブロック径 1cm 以下微量。
- r 黒褐色土 (10YR3/2) 主体 黒褐色土 (10YR2/1) 密に含む。
- s 黒褐色土 (10YR3/2) 暗褐色土 (10YR3/3) 含む。黄色土ブロック径 2cm 以下少量。
- t 黒褐色土 (10YR3/2-2/2) 暗褐色土 (10YR3/3) 含む。
- u 黒褐色土 (10YR3/2) 黄色土ブロック径 1cm 以下微量。⑩層と同じか。

8-2 トレンチ B-B'

- 1 黒褐色土 (10YR3/2) 粘性なし・ややしめる。As-B 混入。
- 2 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・しめる。As-C まばらに混入。
焼土ブロック (小) まばらに含む。炭片 (小) 少量。
- 3 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・しめる。地山黒褐色土 (10YR2/2) 含む。
As-C まばらに混入。

8-2 トレンチ A-A'

- 1 黒褐色土 (10YR3/2) 粘性なし・ややしめる。As-B 混入。
- 1' 下層土含む。
- 1'' 1層主体 2層含む。
- 2 黒褐色土 (10YR3/1) 色調暗い。粘性なし・ややしり劣る。As-B 混入。
- 3 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・ややしめる。As-C 混入。
地山黒褐色土 (10YR3/2-2/2) ブロック状含む。
黄色土ブロック状まばらに含む。瓦の廃棄坑か。
- 4 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・しめる。As-C まばらに混入。
地山黒褐色土 (10YR3/2) ブロック状含む。
- 5 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・しめる。As-C 混入。地山黒褐色土 (10YR3/2-2/2) 含む。
- 6 暗褐色土 (10YR3/2) やや粘性・ややしめる。As-C まばらに混入。
地山黒褐色土 (10YR3/2-2/2) ブロック状まばらに含む。
※盛土の堆積土かの判断は現状では難しい。地山土ブロックか。
- 7 黒褐色系地山土 (10YR3/2-2/2) ブロック状主体 やや粘性・しめる。As-C まばらに混入。
地山黄色土ブロック径 1cm 以下まばらに含む。盛土。
- 8 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・しめる。As-C まばらに混入。
黒褐色系地山土 (10YR3/3) 含む。
黄色系地山土ブロック径 1cm 以下まばらに含む。
- 9 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・しめる。As-C まばらに混入。
黒褐色系地山土 (10YR3/2-2/2) まばらに含む。
- 10 黒褐色土 (10YR2/2) やや粘性・しめる。As-C まばらに混入。
黄色系地山土ブロック径 1cm 以下まばらに含む。
地山黒褐色土 (10YR3/2) 含む。
- 11 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・しめる。As-C まばらに混入。
黒褐色系地山土 (10YR3/2-2/2) ブロック含む。

A-R 層 粘性あり・よくしめる。As-C まばらに混入。

- A 黒褐色土 (10YR2/2) ブロック主体
- B 暗褐色土 (10YR3/3)・黒褐色土 (10YR2/2) ブロック主体
- C 黒褐色土 (10YR2/2) 主体 暗褐色土 (10YR3/3) 含む。
- D 暗褐色土 (10YR3/3)・黒褐色土 (10YR2/2) ブロック主体
- E 黒褐色土 (10YR3/2) 主体 暗褐色土 (10YR3/3) 含む。
- F 黒褐色土 (10YR2/2) 主体 黒褐色土 (10YR3/2) 含む。
- G 黒褐色土 (10YR3/2)・暗褐色土 (10YR3/3) 主体 黒褐色土 (10YR2/2) ブロック状含む。
黄色土ブロック径 1cm 以下少量。
- H 黒褐色土 (10YR2/2) 主体 黒褐色土 (10YR3/2) 含む。黄色土ブロック径 1cm 以下少量。
- I 黒褐色土 (10YR3/2) 主体 黒褐色土 (10YR2/2) 少量。
- J 黒褐色土 (10YR3/2-2/2) 主体
- K 黒褐色土 (10YR2/1) 主体
- L 黒褐色土 (10YR3/2) 主体
- M 黒褐色土 (10YR2/1) 主体 黄色土ブロック (FA 系) 径 2cm 以下少量。
- N 黒褐色土 (10YR3/2) 主体
- O 黒褐色土 (10YR2/1) 主体
- P 黒褐色土 (10YR3/2-2/2)・黒褐色土 (10YR2/1) 主体
- Q P層とほぼ同じ 同一であろう。
- R 黒褐色土 (10YR3/2) 主体 黒褐色土 (10YR2/2) 含む。
黄色土ブロック (FA ブロック) 径 2cm 以下少量。

a-r 層 粘性あり・よくしめる。As-B まばらに混入。

- a 黒褐色土 (10YR3/2-2/2) ブロック主体 黒褐色土 (10YR2/1) 少量。
黄色土ブロック径 1cm 以下やや密に含む。
- b 黒褐色土 (10YR3/2-2/2) ・暗褐色土 (10YR3/3) 黄褐色 (10YR5/4) ブロック主体 よくしまつて硬い。
- c 黒褐色土 (10YR3/2-2/2) ・黒褐色土 (10YR2/1) 黄色土ブロック状やや密に含む。
- d 黒褐色土 (10YR2/2) 主体 黒褐色土 (10YR3/2) 含む。
- e 黒褐色土 (10YR2/2) 主体 黒褐色土 (10YR3/2) 含む。
- f 暗褐色土 (10YR3/3) 主体 黒褐色土 (10YR3/2-2/2) 含む。
- g 黒褐色土 (10YR2/1) 主体 (特に「C黒」を用いる) 黒褐色土 (10YR3/2-2/2) 含む。
- h 黒褐色土 (10YR3/2) 主体
- i 黒褐色土 (10YR2/1) 主体
- j 黒褐色土 (10YR3/2) 主体 黒褐色土 (10YR2/2) 含む。
- k 黒褐色土 (10YR3/2) 主体 黒褐色土 (10YR2/2)・暗褐色土 (10YR3/3) 含む。
黄色土ブロック径 1cm 以下まばらに含む。
上下の層より相対的にしり良い。
- l k層とほぼ同じ 黒褐色土 (10YR2/1) ブロック含む。
- m 黒褐色土 (10YR2/2)・黒褐色土 (10YR2/1) 主体 黒褐色土 (10YR3/2) 含む。
- n 黒褐色土 (10YR3/2-2/2) 主体 やや粘性・ややしめる。
- o 黒褐色土 (10YR3/2-2/2) 主体 暗褐色土 (10YR3/3) ブロック状まばらに含む。
6層とほぼ同質の土か。
- p 黒褐色土 (10YR3/2) 主体
- q 黒褐色土 (10YR2/1) 主体
- r 黒褐色土 (10YR3/2) 主体

8-3 トレンチ D-D' C-C'

- 1 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・しめる。As-C まばらに混入。
黄色土ブロック径 1cm 以下少量。
焼土ブロック (小) まばらに含む。
- 2 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・しめる。As-C まばらに混入。
地山黒褐色土 (10YR3/2-2/2) ブロック状含む。
- 3 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・しめる。As-C まばらに混入。
黄色土ブロック径 1cm 以下まばらに含む。
- A-F 層 やや粘性・よくしめる。As-C まばらに混入。
- A 黒褐色土 (10YR3/2) 主体 黒褐色土 (10YR2/2) 含む。
- B 黒褐色土 (10YR3/2-2/2) ブロック主体
- C A とよく似る。同一層と思われる。
- D 黒褐色土 (10YR3/2-2/2)・暗褐色土 (10YR3/3) 主体 黒褐色土 (10YR2/1) ブロック含む。
- E 黒褐色土 (10YR3/2) 主体 黒褐色土 (10YR2/2) 含む。
- F 黒褐色土 (10YR3/2) 主体 黒褐色土 (10YR2/2) 含む。
- b, d, e, f, h, i, p 層は B-B' と同様

8-3 トレンチ E-E'

- 1 黒褐色土 (10YR3/2) 粘性なし・ややしめる。As-B 混入。
- 1' 黄色土ブロック状含む。盛土の土。
- 2 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・しめる。As-C まばらに混入。黄色土ブロック含む。
- 3 黄色土ブロック主体 黒褐色土 (10YR3/2) 含む。

8-1 トレンチ C-C'

- 1 黒褐色土 (10YR3/2) 粘性なし・ややしめる。As-B 混入。
- 2 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・ややしめる。As-C 混入。
地山黒褐色土 (10YR3/2-2/2) ブロック状含む。
黄色土ブロック状まばらに含む。瓦の廃棄坑か。(A-A' 3層)
- 3 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・ややしめる。As-C まばらに混入。
黒褐色土 (10YR3/2) ブロック状含む。
- 4 暗褐色土 (10YR3/2) やや粘性・ややしめる。As-C まばらに混入。
地山黒褐色土 (10YR3/2-2/2) ブロック状まばらに含む。
※盛土の堆積土かの判断は現状では難しい。
地山土ブロックか。(A-A' 6層)

あ-え層 やや粘性・よくしめる。As-C まばらに混入。

- あ 黒褐色土 (10YR3/2-2/2) ブロック主体 黒褐色土 (10YR2/1) 少量。
黄色土ブロック径 1cm 以下やや密に含む。(A-A' a層)
- い 黒褐色土 (10YR3/2-2/2) ・暗褐色土 (10YR3/3) 黄褐色 (10YR5/4) ブロック主体
よくしまつて硬い。(A-A' b層)
- う 暗褐色土 (10YR3/3)・黒褐色土 (10YR2/2) 主体
- え 黒褐色土 (10YR2/1) 主体

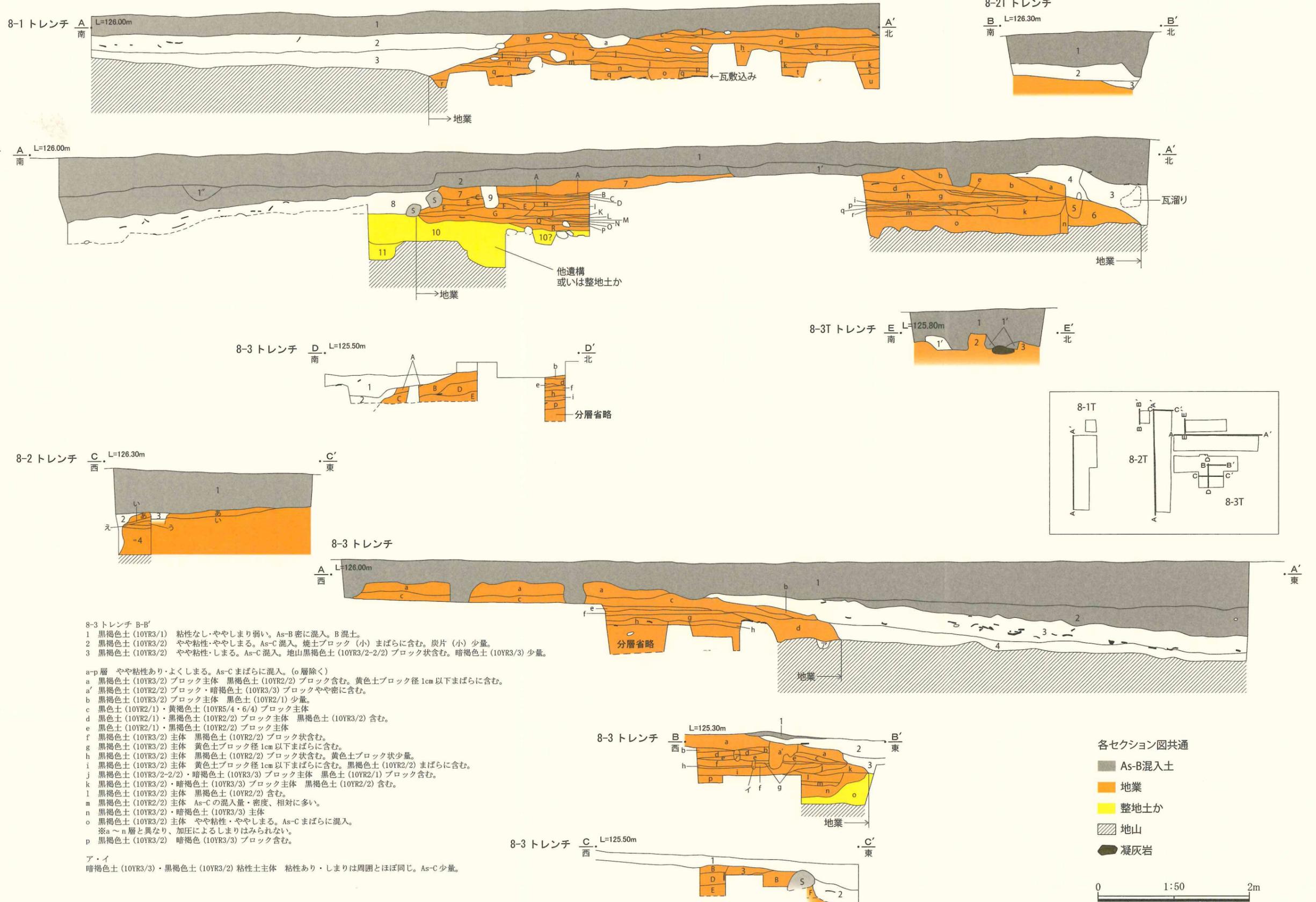
8-3 トレンチ A-A'

- 1 黒褐色土 (10YR3/2) 粘性なし・ややしめる。As-B 混入。
- 2 黒褐色土 (10YR3/1) 粘性なし・ややしり弱い。As-B 密に混入。
- 3 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・ややしめる。As-C 混入。
焼土ブロック (小) まばらに含む。炭片 (小) 少量。
- 4 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・しめる。As-C 混入。
地山黒褐色土 (10YR3/2-2/2) ブロック状含む。
暗褐色土 (10YR3/3) 少量。

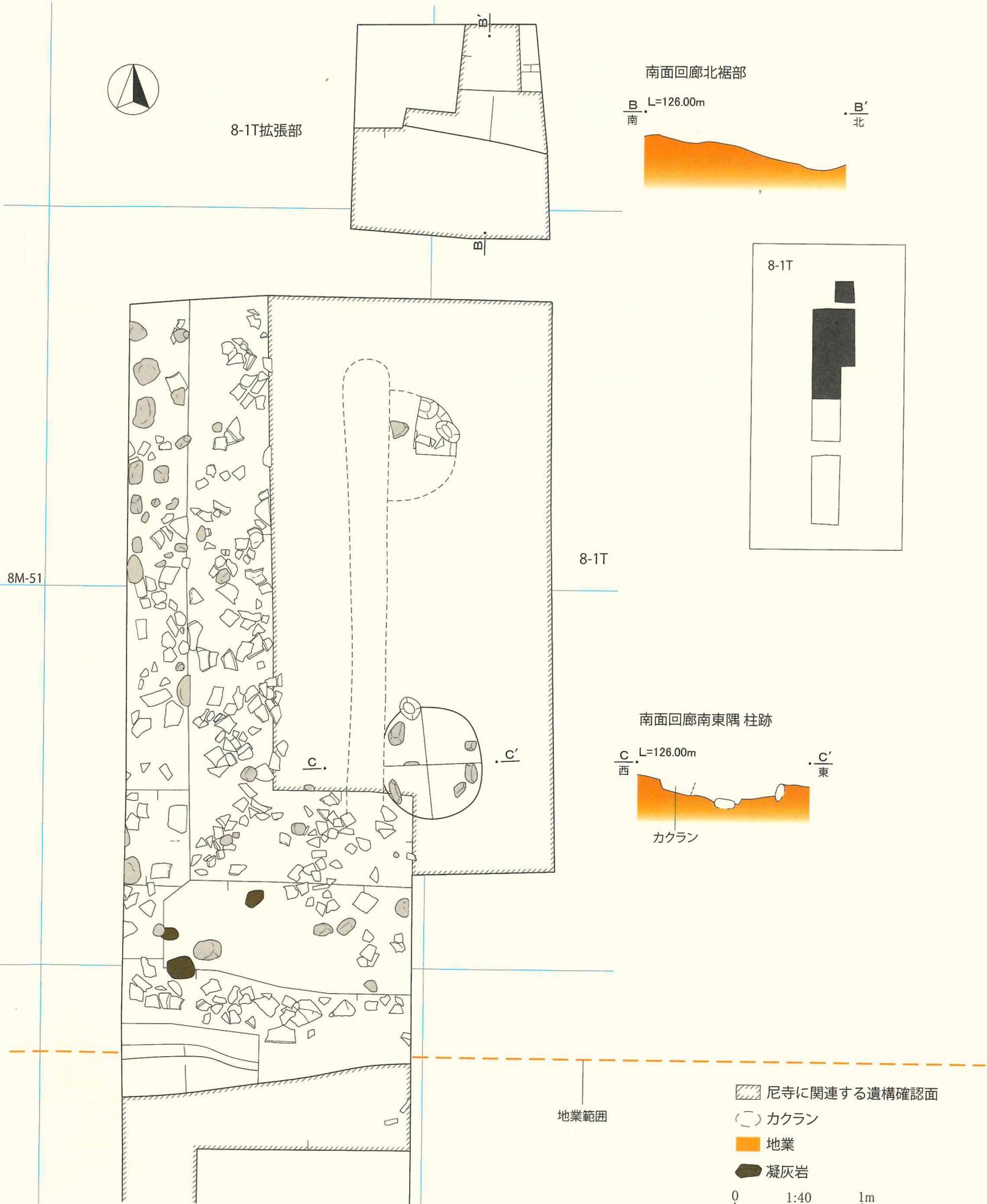
a-h 層 粘性あり・よくしめる。As-C 混入。(dを除く)

- a 黒褐色土 (10YR3/2-2/2) ブロック主体 暗褐色土 (10YR3/3) ブロック含む。
黄色土ブロック径 1cm 以下まばらに含む。
- b 黄褐色土 (10YR4/3) ・黄褐色土 (10YR5/4) ・黄褐色土 (10YR6/4) ブロック主体 暗褐色土 (10YR3/3) ブロック含む。
- c 黒褐色土 (10YR2/1) ・黒褐色土 (10YR2/2) ブロック主体 暗褐色土 (10YR3/3) ブロック含む。
- d 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・よくしめる。As-C 混入。
地山黒褐色土 (10YR3/2)・暗褐色土 (10YR3/3) ブロック状含む。
黄色土ブロック径 1cm 以下まばらに含む。
- e 黒褐色土 (10YR3/2) ・暗褐色土 (10YR3/3) ブロック主体 黄色土ブロック径 1cm 以下少量。
- f 黒褐色土 (10YR3/2-2/2) ブロック主体 黒褐色土 (10YR2/1) ブロック含む。
- g 黒褐色土 (10YR3/2) ・暗褐色土 (10YR3/3) ブロック主体 黒褐色土 (10YR2/2)・黒褐色土 (10YR2/1) 含む。
黄色土ブロック或は FA ブロック径 1cm 以下まばらに含む。
- h 暗褐色土 (10YR3/3) 主体 黒褐色土 (10YR2/1) ブロック少量。

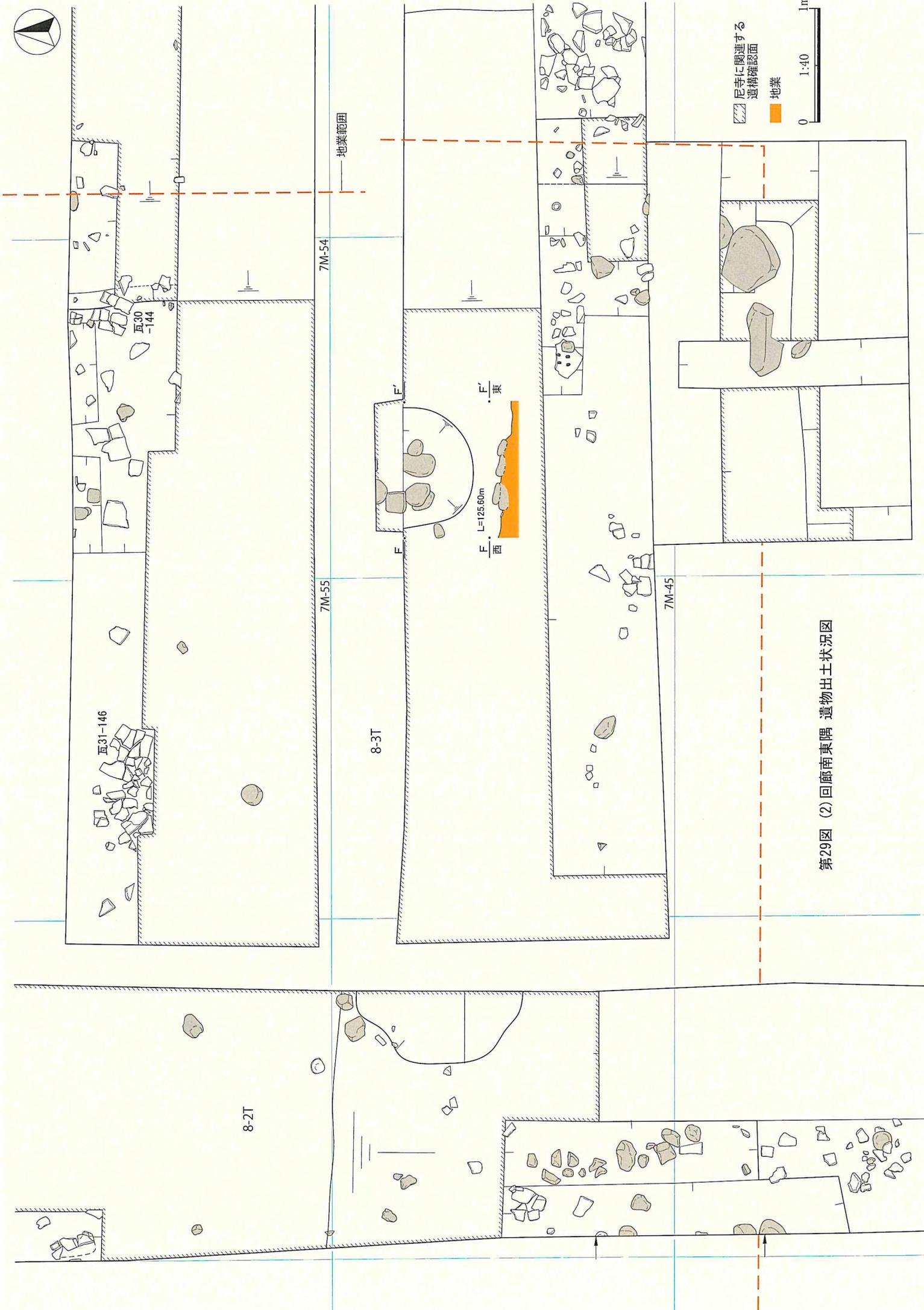
ア C黒ブロック主体



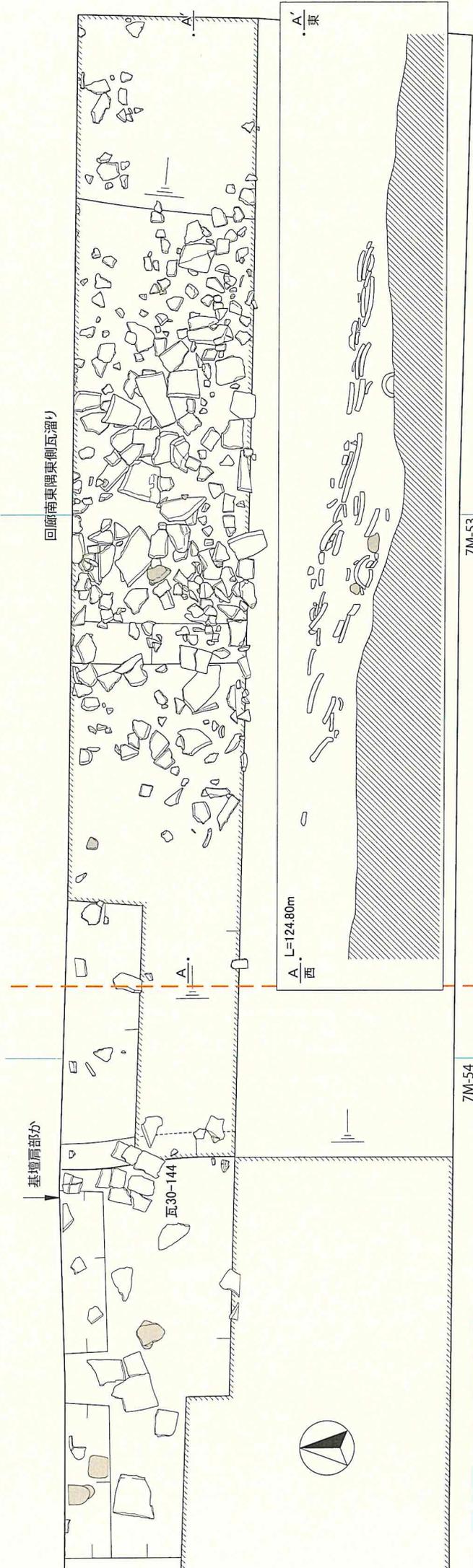
第27図 (2) 南面回廊 断面図



第28図 (2) 南面回廊 平面図・断面図



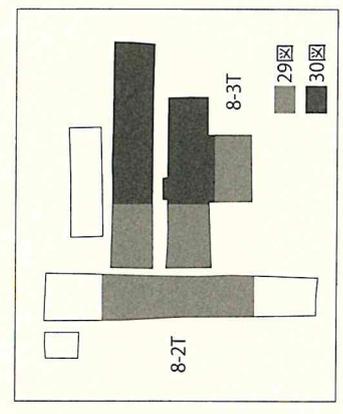
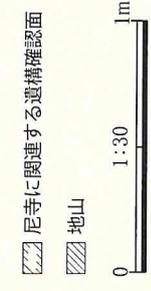
第29図 (2) 回廊南東隅 遺物出土状況図



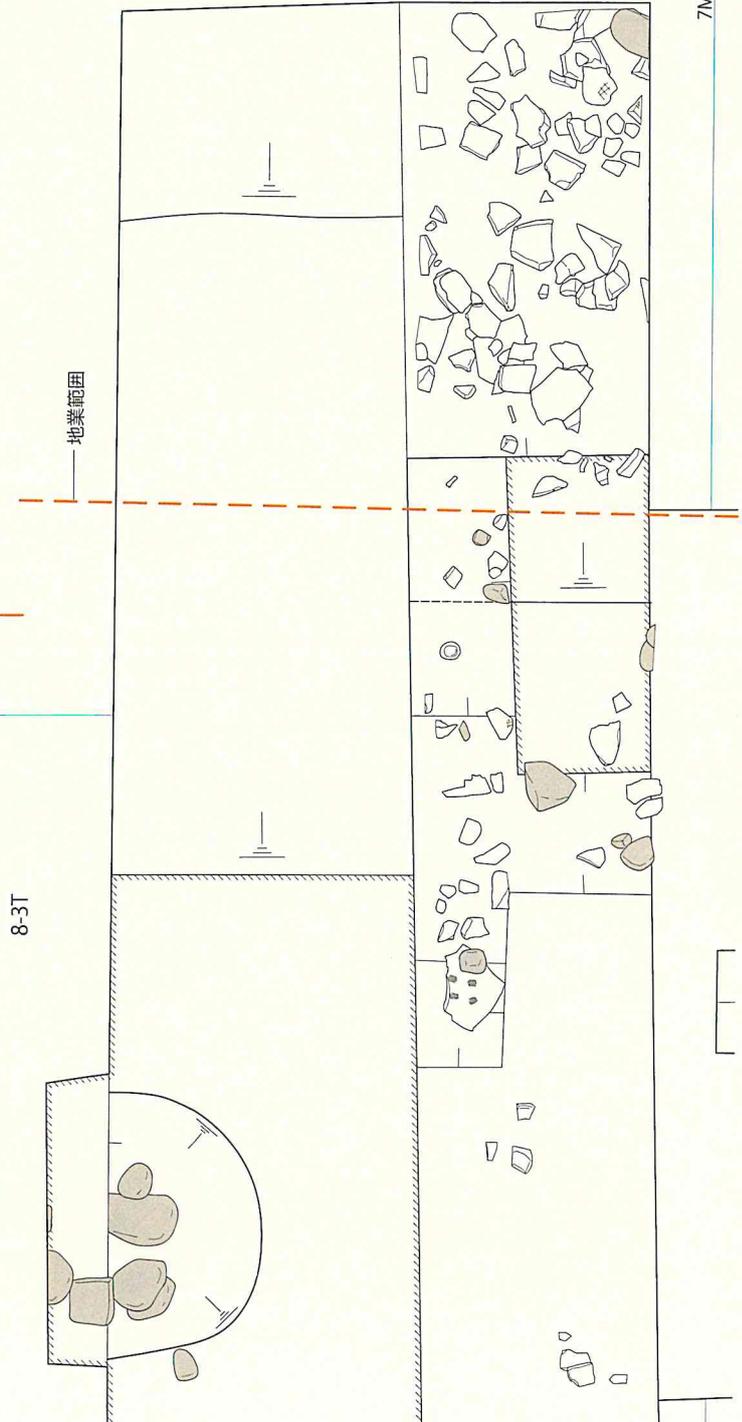
7M-53

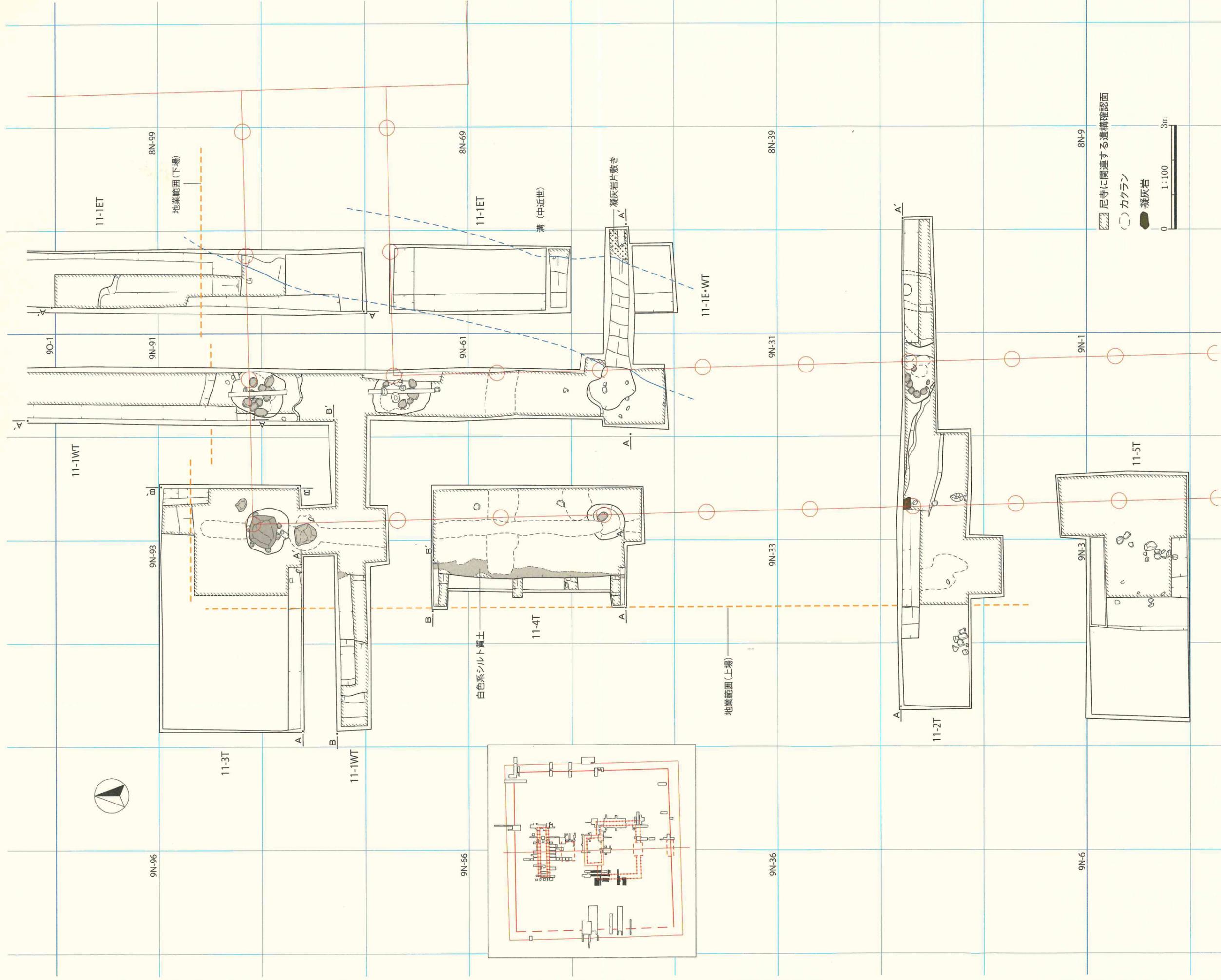
7M-54

7M-43



第30図 (2) 南面回廊 遺物出土状況図





第31図 (2) 西面回廊 平面図

11-3 トレンチ A-A'

- 1 灰黄褐色土 (10YR4/2)・黒褐色土 (10YR3/2) 粘性なし・しまる。As-B 混入。現耕作土。
- 2 黒褐色土 (10YR3/2) 粘性なし・ややしまる。As-B 混入。(1層より量・密度増)
- 3 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・よくしまる。As-C まばらに混入。(1層より量・密度増) 焼土ブロック (小) 少量。
- 4 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・よくしまる。As-C まばらに混入。焼土ブロック (小) やや密に含む。炭片 (小) 微量。
- 5 黒褐色土 (10YR3/2)・暗褐色土 (10YR3/3) やや粘性・よくしまる。As-C まばらに混入。炭片 (小) 微量。
- 6 灰黄褐色土 (10YR4/2)・黄褐色土 (10YR4/3) やや粘性・よくしまる。地山土か。黄褐色土 (10YR7/2・7/3) (シルト質) ブロック状やや密に含む。As-C まばらに混入。
- 7 黒褐色土 (10YR3/2)・暗褐色土 (10YR3/3) やや粘性・よくしまる。As-C まばらに含む。地山土か。黄褐色土 (10YR7/2・7/3) まばらに含む。
- 8 黒褐色土 (10YR3/2)・暗褐色土 (10YR3/3) やや粘性・よくしまる。As-C まばらに混入。黒褐色土 (10YR2/2) ブロック状に含む。黄色土ブロック状少量。
- 9 黒褐色土 (10YR2/2) 主体 やや粘性・よくしまり硬い。As-C 含む。

- a 灰黄褐色土 (10YR4/2)・黄褐色土 (10YR4/3) やや粘性・よくしまり硬い。地山土黄褐色土 (10YR7/2・7/3) (シルト質) ブロック状密に含む。As-C 含む。
- b 暗褐色土 (10YR3/3) やや粘性・よくしまり硬い。黄褐色土ブロック状密に含む。As-C 含む。
- c 黒褐色土 (10YR2/2) やや粘性・しまる。As-C 含む。
- d 暗褐色土 (10YR3/2)・黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・よくしまり硬い。黄褐色土ブロック状含む。As-C 含む。
- e 暗褐色土 (10YR3/3) やや粘性・よくしまり硬い。黒褐色土 (10YR2/2) ブロック状含む。黄褐色土ブロック少量。
- f 黒褐色土 (10YR3/2)・暗褐色土 (10YR3/3) やや粘性・よくしまる。黄褐色土ブロック状含む。As-C 含む。
- g 黒褐色土 (10YR3/2)・暗褐色土 (10YR3/3) やや粘性・よくしまる。黒褐色土 (10YR2/2) ブロック状少量。As-C 含む。
- h 黒褐色土 (10YR3/2)・暗褐色土 (10YR3/3) やや粘性・しまる。As-C まばらに含む。黄褐色土ブロック少量。
- i 黒褐色土 (10YR3/2)・暗褐色土 (10YR3/3) やや粘性・ややしまる。As-C 含む。
- j 黒褐色土 (10YR3/2)・暗褐色土 (10YR3/3) やや粘性・よくしまり硬い。As-C 含む。黒褐色土 (10YR2/2) ブロック状含む。黄褐色土ブロック状少量。
- k 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・ややしまる。As-C まばらに含む。

11-1W トレンチ B-B'

- 1 11-3 A-A' 1層と同じ。灰黄褐色土 (10YR4/2)・黒褐色土 (10YR3/2) 粘性なし・しまる。As-B 混入。現耕作土。
- 2 11-3 A-A' 2層と同じ。黒褐色土 (10YR3/2) 粘性なし・ややしまる。As-B 混入。(1層より量・密度増)
- 3 11-3 A-A' 3層と同じ。黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・よくしまる。As-C まばらに混入。(1層より量・密度増) 焼土ブロック (小) 少量。
- 4 11-3 A-A' 4層と同じ。黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・よくしまる。As-C まばらに混入。焼土ブロック (小) やや密に含む。炭片 (小) 微量。
- 5 11-3 A-A' 5層と同じ。黒褐色土 (10YR3/2)・暗褐色土 (10YR3/3) やや粘性・よくしまる。As-C まばらに混入。炭片 (小) 微量。
- 6 11-3 A-A' 6層と同じ。灰黄褐色土 (10YR4/2)・黄褐色土 (10YR4/3) やや粘性・よくしまる。地山土か。黄褐色土 (10YR7/2・7/3) (シルト質) ブロック状やや密に含む。As-C まばらに混入。
- 7 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・よくしまる。As-C まばらに混入。地山黒褐色土 (10YR3/2)・暗褐色土 (10YR3/3) ブロック状含む。
- 8 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・しまる。7層と比べ土質粗い。As-C まばらに混入。黒褐色土 (10YR2/2) ブロック状含む。
- 9 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・ややしまる。8層と同様土質粗い。黄褐色土ブロック状少量。As-C まばらに混入。
- 10 黄褐色土ブロック主体 粘性なし・しまる。
- 11 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・しまる。As-C まばらに混入。
- 12 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・ややしまる。As-C まばらに混入。地山黒褐色土 (10YR3/2)・暗褐色土 (10YR3/3) ブロック状含む。
- 13 12層に加え黄褐色土ブロック状まばらに含む。
- 14 暗褐色土 (10YR3/3) 粘性なし・ややしまる。地山黄褐色土ブロック状含む。
- 15 地山黄褐色土ブロック主体 粘性なし・よくしまる。
- 16 地山黄褐色土ブロック主体 粘性なし・ややしまる。15層より小ぶりのブロックで構成される。

- a 黒褐色土 (10YR3/2)・暗褐色土 (10YR3/3) やや粘性・よくしまって硬い。黄褐色土ブロック状含む。As-C 含む。
- b 黒褐色土 (10YR3/2)・暗褐色土 (10YR3/3) やや粘性・よくしまる。As-C 含む。黒褐色土 (10YR2/2) ブロック状含む。黄褐色土ブロック状含む。
- c 暗褐色土 (10YR3/3) やや粘性・よくしまる。黄褐色土ブロック状密に含む。As-C 含む。
- d 暗褐色土 (10YR3/3) やや粘性・よくしまる。黄褐色土ブロック状含む。As-C 含む。
- e 暗褐色土 (10YR3/3)・黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・よくしまる。地山暗褐色土 (10YR3/3) ブロック状含む。As-C 含む。
- f 暗褐色土 (10YR3/3) やや粘性・よくしまる。E層に加え黄褐色土ブロック状状含む。
- g 黒褐色土 (10YR3/2)・暗褐色土 (10YR3/3) やや粘性・よくしまる。As-C 含む。地山暗褐色土 (10YR3/3) ブロック状含む。黄褐色土ブロック状少量。
- h 11-3 A-A' j層と同様。
- i 11-3 A-A' h層と同様。

11-4 トレンチ A-A' B-B'

- 1 黒褐色土 (10YR3/2) 粘性なし・しまる。As-B 混入。
- 1' 2層をブロック状に含む。
- 2 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・しまる。As-C まばらに混入。焼土ブロック径1cm以下まばらに含む。炭片 (小) 微量。
- 3 暗褐色土 (10YR3/3)・黄褐色土 (10YR4/3) やや粘性・よくしまる。As-C まばらに混入。焼土ブロック (小) 少量。
黄褐色土 (10YR6/3) シルト質土ブロック主体 やや粘性・よくしまる。暗褐色土 (10YR3/3)・黄褐色土 (10YR4/3) 含む。As-C 少量。白色土ブロック (小) 微量。
- 4 黄褐色土 (10YR6/3) シルト質土ブロック主体 やや粘性・よくしまる。暗褐色土 (10YR3/3)・黄褐色土 (10YR4/3) 含む。As-C 少量。白色土ブロック (小) 微量。
- 5 暗褐色土 (10YR3/3)・黒褐色土 (10YR3/2) ブロック主体 やや粘性・よくしまる。As-C 含む。
- 6 黄褐色地山土 (10YR5/4) ブロック主体 やや粘性・よくしまる。暗褐色土 (10YR3/3) ブロック含む。
- 7 暗褐色土 (10YR3/3) やや粘性・しまる。As-C 含む。

11-1E・W トレンチ A-A'

- 1 黒褐色土 (10YR3/2) 粘性なし・しまる。As-B 混入。現耕作土。
- 2 黒褐色土 (10YR3/2) 粘性なし・しまる。As-B 混入。白黄色系パミス粒径5mm以下含む。白黄色系パミス粒など夾雑物1層より目立つ。
- 3 黒褐色土 (10YR3/2) 1・2層より色調やや暗い。粘性なし・ややしまる。As-B 混入。白黄色系パミス粒2層より目立たない。
- 4 黒褐色土 (10YR3/2・2/2) 粘性なし・ややしまる。3層よりややしまり弱い。As-B 混入。白黄色系パミス粒3層より目立たない。
- 5 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・しまる。As-C まばらに混入。白黄色系パミス粒径5mm以下。As-B 混入。
- 6 5層に加え地山黄褐色土ブロック状含む。

- a 暗褐色土 (10YR3/3) やや粘性・よくしまる。As-C まばらに混入。
- b 地山黒褐色土 (10YR3/2)・暗褐色土 (10YR3/3) ブロック主体 As-C まばらに混入。凝灰岩片径1cm以下まばらに含む。
- c 凝灰岩片主体
- d 地山黒褐色土 (10YR3/2)・暗褐色土 (10YR3/3)・黒褐色土 (10YR2/2) ブロック主体 やや粘性・しまる。As-C まばらに混入。

11-1E トレンチ A-A'

- 1 黒褐色土 (10YR3/2) 粘性なし・しまる。As-B 混入。現耕作土。
- 2 黒褐色土 (10YR3/2) 粘性なし・ややしまる。As-B 混入。4層土含む。黒褐色土 (10YR2/2)・As-B 混入。
- 3 黒褐色土 (10YR3/2) 粘性なし・しまる。As-B 混入。As-C など白色・白黄色系パミス粒径5mm以下まばらに含む。焼土ブロック (小)・炭片 (小) 微量。
- 4 黒褐色土 (10YR2/2) 粘性なし・ややしまり弱い。As-B 密に混入。部分的に純層 (汚れないB軽石の凝集) みられる。
- 5 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・よくしまる。As-C まばらに混入。焼土ブロック (小) まばらに含む。炭片 (小) 微量。
- 6 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・ややしまる。As-C まばらに混入。地山黒褐色土 (10YR3/2) ブロック状に含む。
- 7 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・よくしまる。上層からの加圧みられる。地山黒褐色土 (10YR2/2) ブロック状密に含む。As-C まばらに混入。

- a 黄褐色系 (10YR5/3・5/4) 地山土ブロック主体 やや粘性・しまる。
- b 地山暗褐色土 (10YR3/3) 主体 やや粘性・しまる。As-C まばらに混入。
- c 黒褐色系 (10YR3/2) 地山土主体 黄褐色系地山土ブロック少量。やや粘性・よくしまる。As-C 含む。
- d 黒褐色系 (10YR3/2) 地山土主体 やや粘性・よくしまる。黒褐色土 (10YR2/2) ブロック状少量。As-C 含む。
- e 黒褐色系 (10YR3/2)・暗褐色系 (10YR3/3) 地山土主体
- f 黄褐色系地山土ブロック主体 やや粘性・よくしまる。
- g 黒褐色系 (10YR3/2) 地山土主体 やや粘性・よくしまる。黒褐色系 (10YR2/2) 地山土ブロック状含む。As-C 含む。
- h 黒褐色系 (10YR2/2・3/2) 地山土主体 やや粘性・しまる。As-C まばらに含む。
- i 黒褐色系 (10YR3/2) 地山土主体 やや粘性・しまる。As-C まばらに含む。黒褐色系 (10YR3/2) 地山土ブロック状含む。
- j 黒褐色系 (10YR3/2)・暗褐色系土 (10YR3/3) 地山土主体 やや粘性・しまる。As-C まばらに含む。
- k 黒褐色系 (10YR3/2) 地山土主体 やや粘性・よくしまる。As-C 少量。
- l 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・ややしまる。As-C まばらに混入。黒褐色系 (10YR3/2)・暗褐色系土 (10YR3/3) 地山土ブロック状含む。
黄褐色土ブロック径2cm以下少量。黒褐色系 (10YR2/2) 地山土ブロック状少量。

11-1W トレンチ A-A'

- 1 灰黄褐色土 (10YR4/2)・黒褐色土 (10YR3/2) 粘性なし・しまる。As-B 混入。現耕作土。
- 1' 2層をブロック状に含む。しまりやや劣る。
- 2 黒褐色土 (10YR2/2) 粘性なし・ややしまる。As-B 密に混入。
- 3 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・しまる。As-C まばらに混入。(瓦片まばらに認められる)
※下層と比べ土質きめ細かく、ややシルト質でAs-Cの混入量・密度減少。
- 3' 焼土ブロック (小) まばらに含む。
- 4 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・しまる。As-C まばらに混入。Hr-FA ブロック状少量。黒褐色系地山土(C黒)ブロック状少量。FA・C黒ブロック、主に下層付近でみられる。
※瓦片の包含は5層よりも減少する。
- 5 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・しまる。As-C まばらに混入。炭片 (小) 微量。焼土ブロック (小) まばらに含む。
- 6 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・よくしまって硬い。As-C まばらに混入。黒褐色 (10YR2/2) 系地山土ブロック状含む。
- 7 黒褐色土 (10YR3/2)・灰黄褐色土 (10YR4/2) 粘性なし・しまる。As-B 混入。2層土含む。黄褐色土 (10YR5/4)・褐色土 (10YR4/4) 地山砂性土ブロック状含む。
小レキ径1cm以下・白黄色系パミス粒径1cm以下まばらに含む。

- i 黒褐色土 (10YR3/2) 粘性なし・ややしまる。As-B 混入。全体に土質粗い。黄褐色 (10YR5/4)・褐色 (10YR4/4) 系地山砂性土ブロック状まばらに含む。
黒褐色土 (10YR2/2) 地山土ブロック状少量。As-C まばらに混入。

- u 黒褐色土 (10YR3/2) 粘性なし・ややしまる。全体に土質粗い。As-B 混入。黄色系地山土ブロック状密に含む。As-C まばらに含む。
 - エ 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・しまる。As-C まばらに混入。黄色 (7/3・/8/3・/5/2・/5/4) 系地山土ブロック状やや密に含む。(As-Bの混入は明瞭でない)
- ※イ・ウ層はAs-B混入するカクラン土。エ層はAs-B混入明確でないが、古い段階のカクランと思われる。

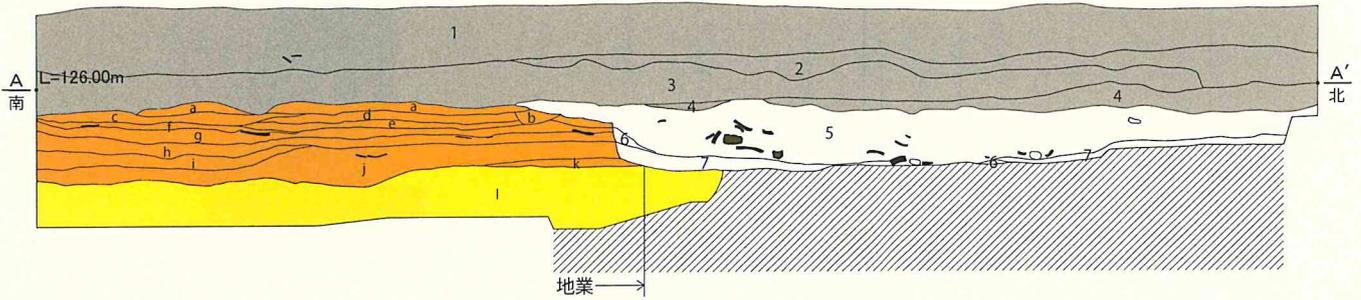
- a 黄褐色系地山土主体 よくしまる。
- b 黒褐色土 (10YR3/2・2/2 相対的に多い) やや粘性・しまる。As-C 含む。
- c 黒褐色土 (10YR3/2・2/2) やや粘性・しまる。As-C 含む。黄褐色系地山土ブロック状密に含む。
- d 黒褐色土 (10YR3/2・2/2) やや粘性・しまる。As-C 含む。黄褐色系地山土ブロック状含む。
- e 黒褐色土 (10YR3/2・2/2 相対的に多い) やや粘性・しまる。As-C 含む。黄褐色系地山土ブロック状まばらに含む。
- f 黒褐色土 (10YR3/2・2/2) やや粘性・しまる。As-C 含む。黄褐色系地山土ブロック状やや密に含む。

11-3 トレンチ B-B'

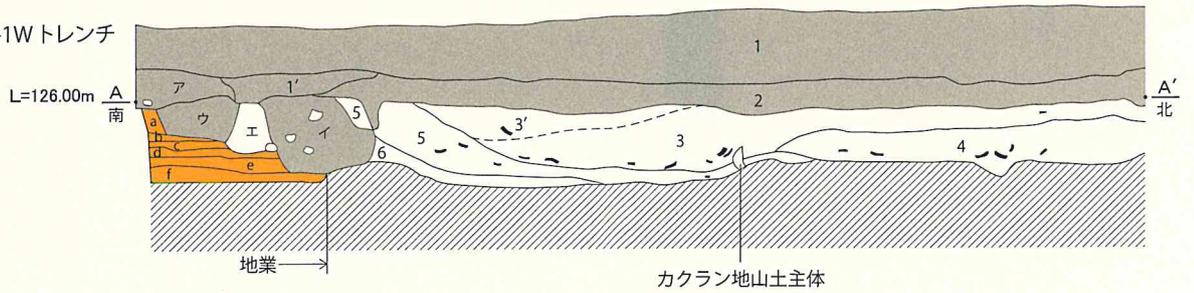
- 1 11-3T A-A' 1層
- 2 11-3T A-A' 2層
- 3 11-3T A-A' 4層とほぼ同じ。焼土ブロックの量・密度減少。
- 4 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・よくしまる。地山暗褐色土 (10YR3/3) ブロック状含む。As-C まばらに混入。焼土ブロック (小) 微量。
- 5 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・しまる。As-C まばらに混入。地山黄褐・暗褐色土ブロック状含む。黄褐色土 (10YR7/2・7/3) (シルト質) ブロック状少量。
- 6 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・ややしまる。As-C まばらに混入。地山暗褐・黄褐色土ブロック状含む。
- 7 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・よくしまる。As-C まばらに混入。地山黒褐色土 (10YR3/2・2/2) ブロック状含む。

- a 地山黄褐色土ブロック主体 粘性なし・よくしまる。
- b 地山暗褐色土ブロック主体 黄褐色土ブロック密に含む。やや粘性・よくしまり硬い。As-C 含む。
- c 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・しまる。暗褐色土ブロック含む。黄褐色土ブロック少量。
- d 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・よくしまる。暗褐色系・黒褐色 (10YR2/2・3/2) 系地山土ブロック含む。黄褐色土ブロック径2cm以下少量。As-C まばらに混入。
- e 暗褐色系 (10YR3/3) 地山土ブロック主体 やや粘性・よくしまり硬い。黄褐色土ブロック少量。As-C まばらに混入。
- f 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・しまる。暗褐色系地山土ブロック状含む。As-C まばらに混入。
- g e層と構成土同様 やや粘性・よくしまる。
- h 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・しまる。As-C まばらに混入。地山暗褐色土ブロック状含む。

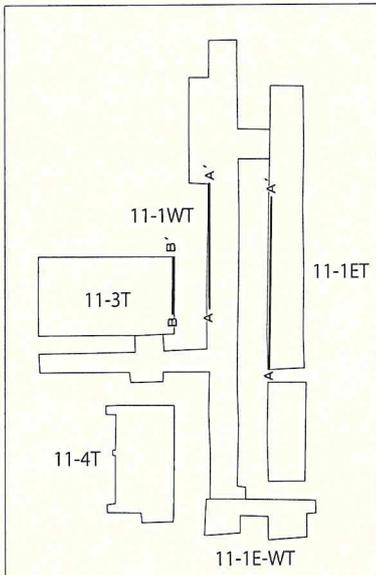
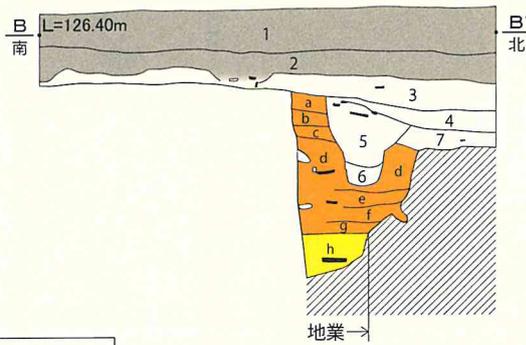
11-1E トレンチ



11-1W トレンチ



11-3 トレンチ



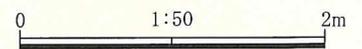
各セクション図共通

As-B混入土

地業

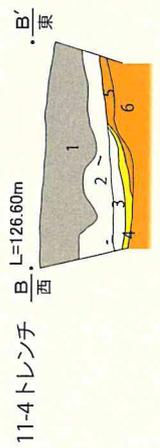
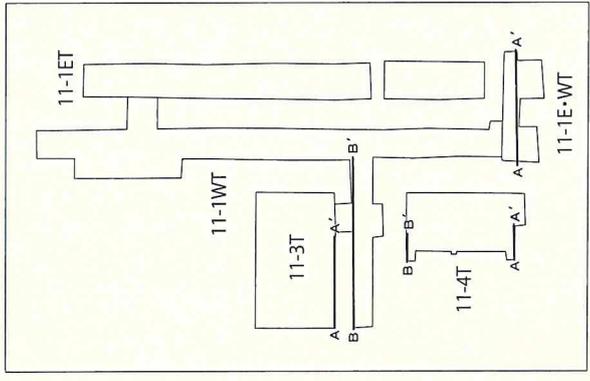
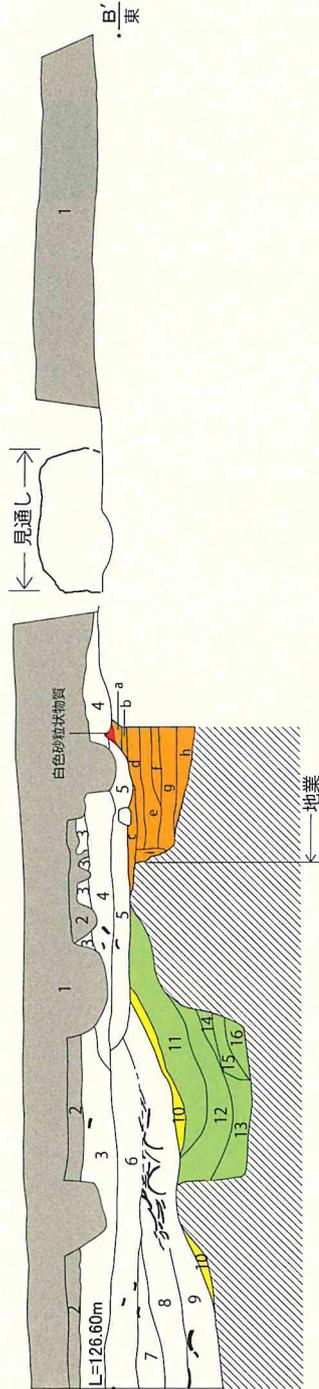
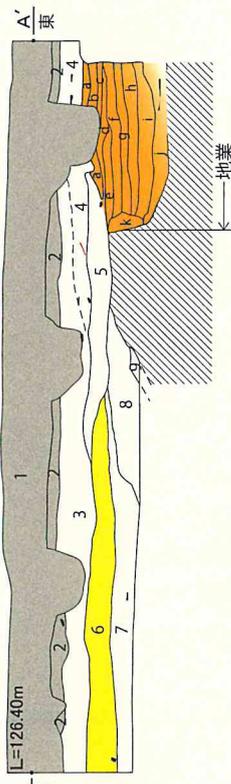
整地土か

地山



第32図 (2) 西面回廊 断面図-1

957㌧+12m ↓
 957㌧+9m ↓
 957㌧+6m ↓
 957㌧+3m ↓

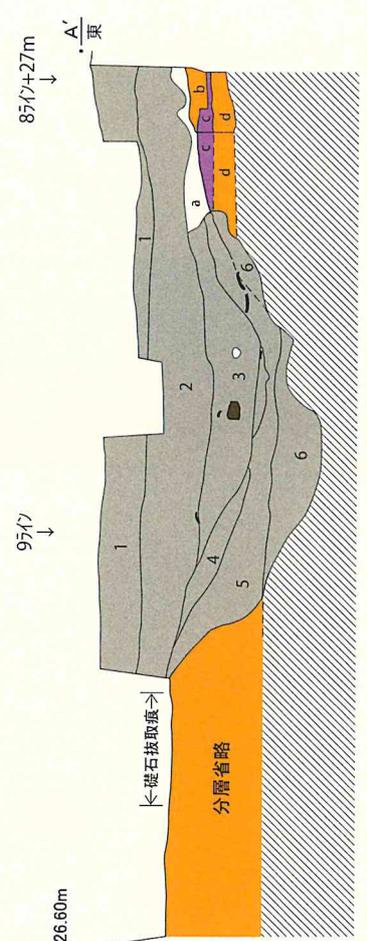
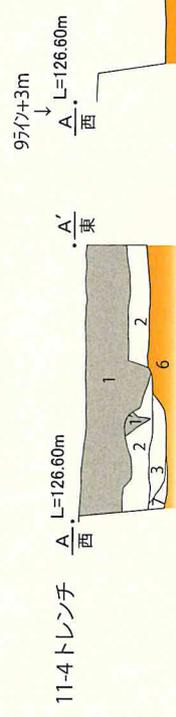


各セクション図共通

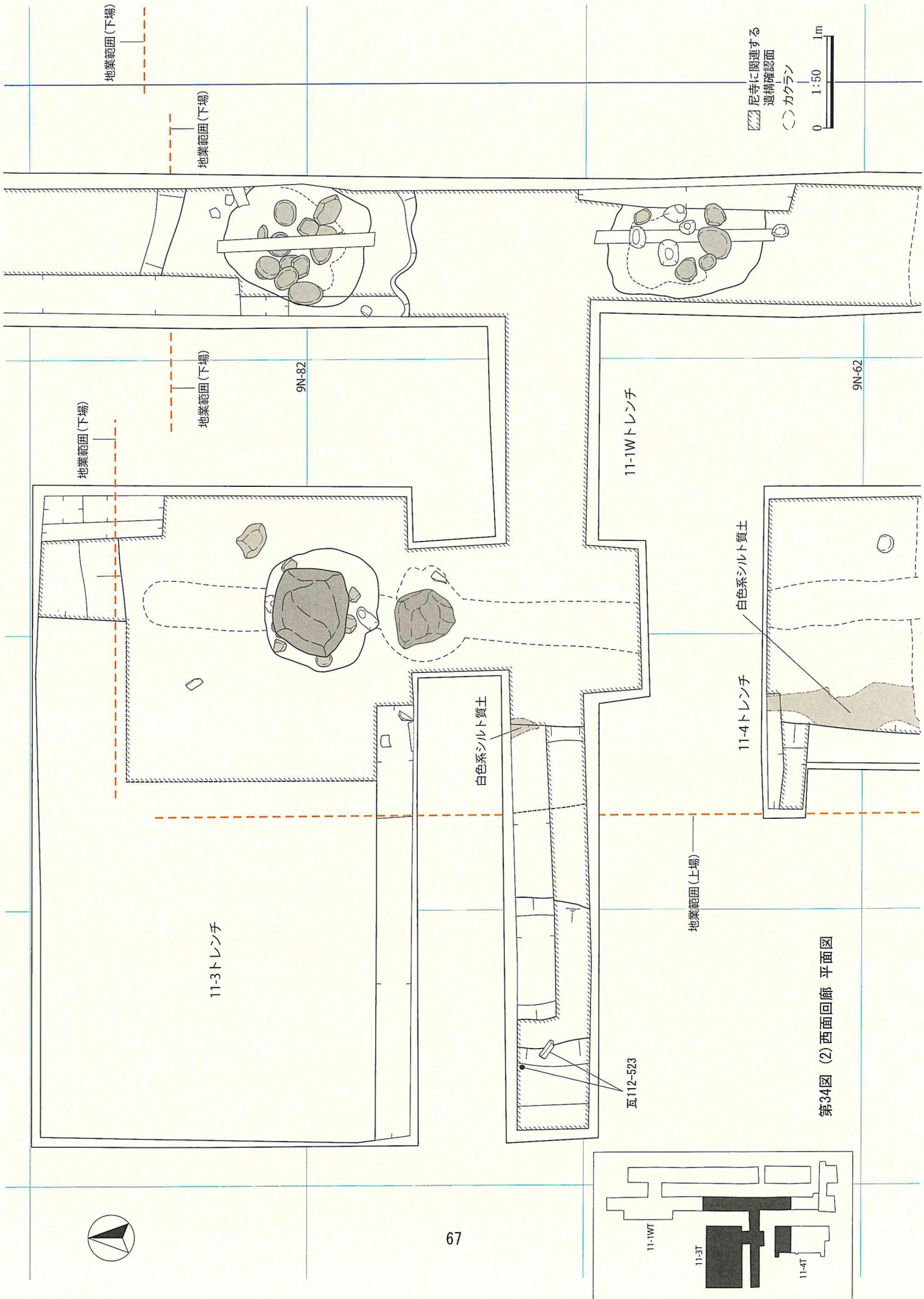
- As-B混入土
- 凝灰岩片主体
- 地業
- 整地土か
- 別遺構覆土(尼寺創建前)
- 地山



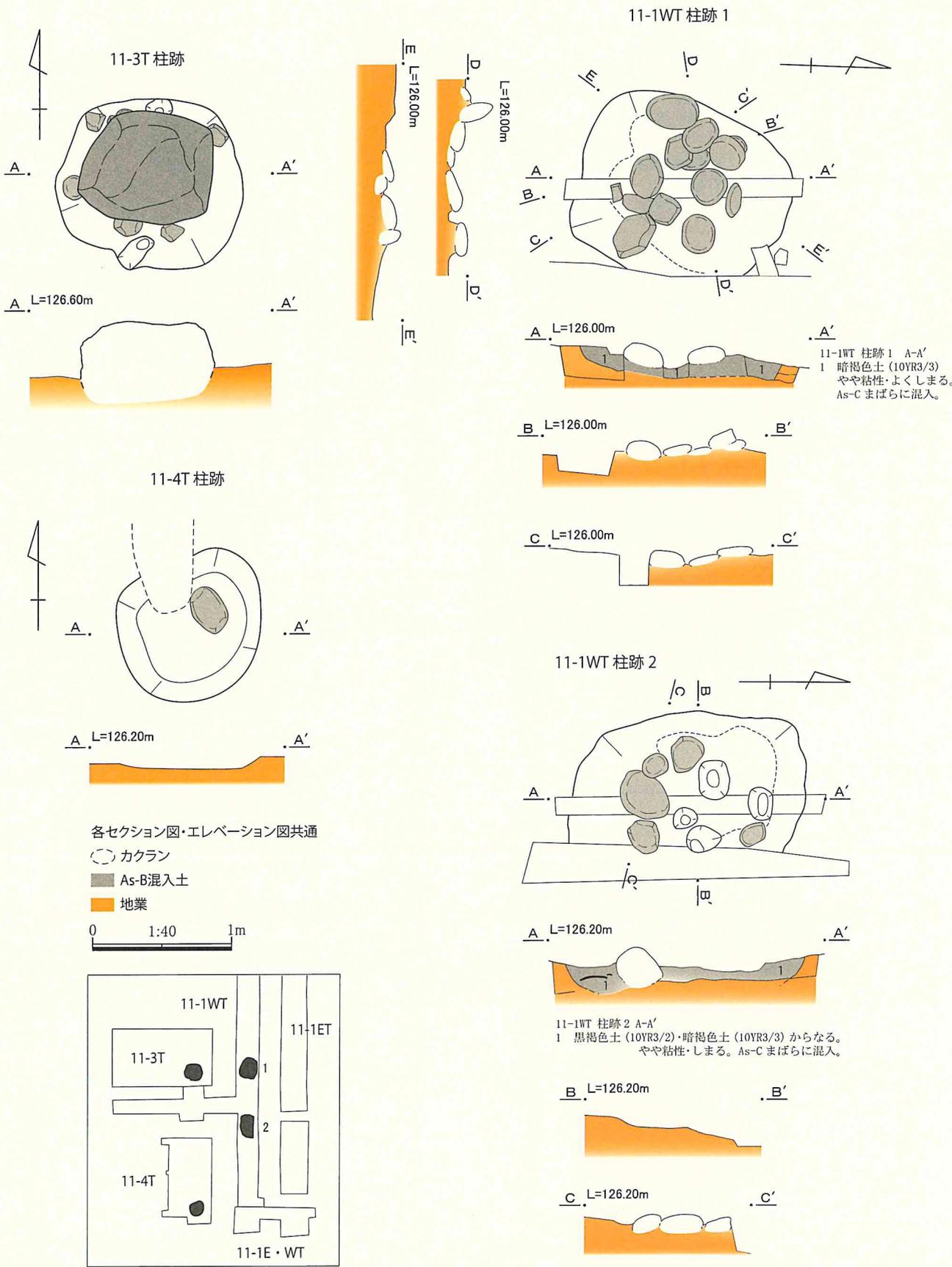
11-1E-Wトレンチ



第33図 (2) 西面回廊 断面図-2



第34図 (2) 西面回廊 平面図



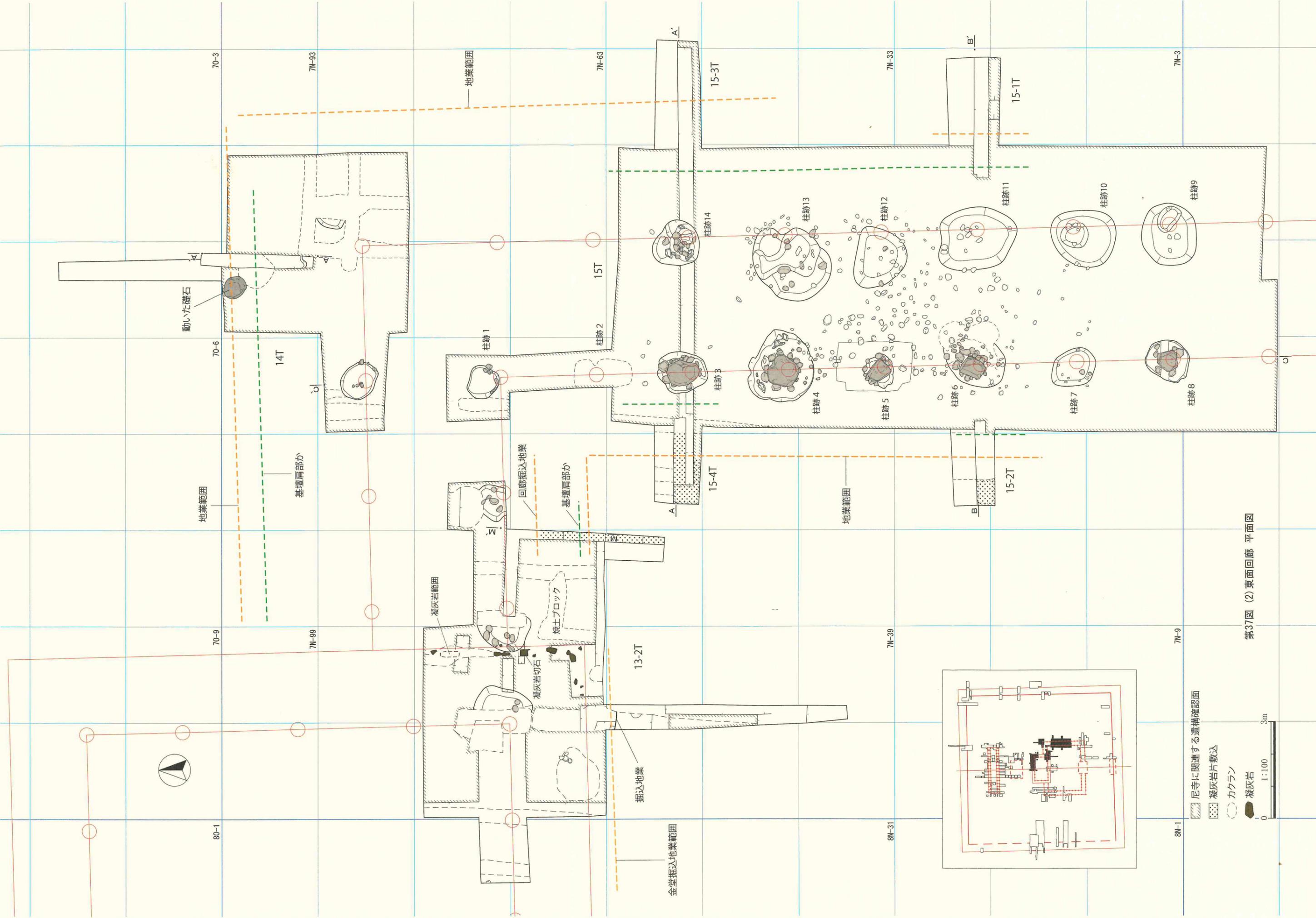
第35図 (2) 西面回廊 柱跡 平面図・断面図

イ. 東面回廊中央付近(15 トレンチ SPB ライン) 内筋柱列の柱跡 6 と外筋柱列の柱跡 11 を横断する位置に設定したトレンチで土層観察を行った。

柱跡 6 は礎石が原位置に近い状態で残存し、一方で柱跡 11 は礎石が失われ、抜取痕内に根石に用いられていたとみられる礫が残存していた。地業面は、廃絶後～As-B 降下以前に堆積した黒褐色土層下で確認し、基壇構築面が残存する可能性があるため慎重に掘り下げを行ったが、明瞭な整地面を見出すことはできなかった。なお、該当部周辺の地業確認面に径 10～30 cm の自然礫が散在しており、その一部は後世の開墾等による攪乱土内に混入し、除去した根石に由来するとみられる。ただし、多くは地業内に含まれており、基壇構築面が失われたことで、補強材として混ぜた礫が露出したものである。

内側裾部(15-2 トレンチ)の盛土は柱跡 6 から 2.38m 延び、地山整地面上に盛土で構築され、地業端部は 75° で立ち上がる。なお、地業端部に埋没土に瓦片を混入する掘り込みが認められ、端部の形状は本来のものでは無い可能性がある。また、肩部に基壇上から掘られた径 18 cm のピットが存在し、外側裾肩部にも径 7 cm 前後で根穴状の掘り込みが確認された。回廊地業では、基壇肩部付近に同様のピットが存在する例が回廊北東隅内側(3-2 トレンチ)および南面回廊外側(8-2 トレンチ)や西面回廊外側(11-2 トレンチ)にあり、何らかの施設の工法に関連するものである可能性がある。

外側裾部(15-1 トレンチ)は、柱跡 11 から外側 1.9m で段をなし、概ね 42° で傾斜して外側 2.4m 付近で平坦となる。地業は地山整地面上に版築で構築され、確認部では掘込地業かどうか明確では無く、厚みは段の内側で 80 cm ほど、外側では 40～30 cm で外側ほど薄い。版築の工程をみると、段内側の版築は外側の版築延長部の上部に構築されており、両者は明確に区分される。このことは、15-3 トレンチでみられた下部が別工程になる状況に類似し、当箇所版築は相対的に粗く 15-3 トレンチと比べ下部地業の底面レベルは 10 cm ほど高い。なお、段内側の版築最上部には厚さ 6 cm ほどで黄橙色系シルト質土(a 層)が分布していた。



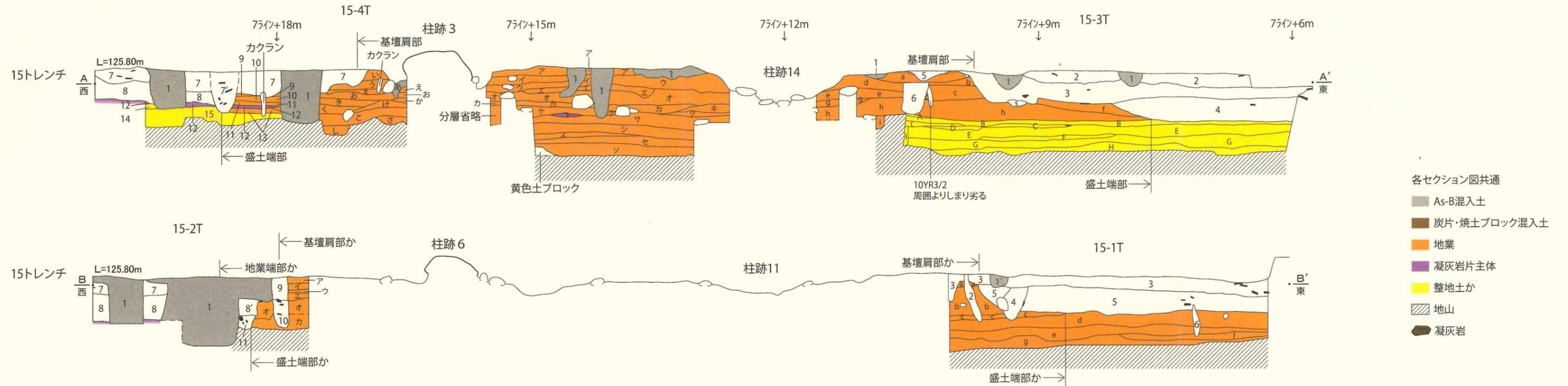
第37図 (2) 東面回廊 平面図

- 尼寺に関連する遺構確認面
- 凝灰岩片敷込
- カケラン
- 凝灰岩

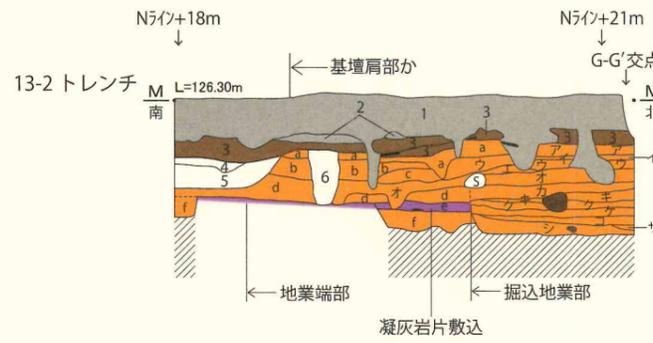
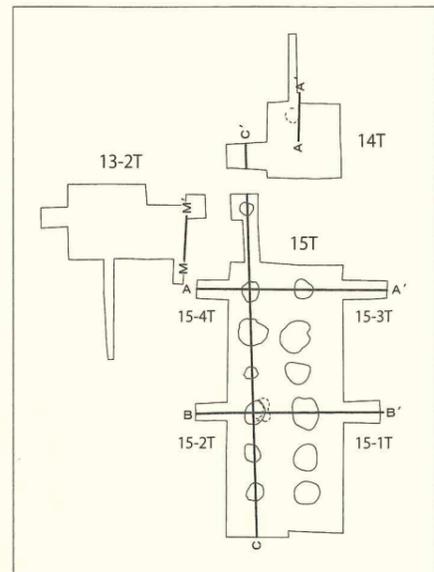
1:100
0 3m

- 15 トレンチ A-A'
- 1 灰黄褐色土 (10YR4/2) 粘性なし・ややしまる。As-B 混入。
 - 2 黒褐色土 (10YR3/2)・暗褐色土 (10YR3/3) やや粘性・しまる。As-C まばらに混入。黄橙色 (10YR6/3) シルト質土ブロック状まばらに含む。
 - 3 黒褐色土 (10YR3/2)・暗褐色土 (10YR3/3) やや粘性・しまる。As-C まばらに混入。黄色土ブロック径 1cm 以下少量。焼土ブロック (小) 微量。
 - 4 黒褐色土 (10YR3/2)・暗褐色土 (10YR3/3) やや粘性・しまる。As-C まばらに混入。黄色土ブロック径 2cm 以下少量。3層よりも夾雑物や少ない。
 - 5 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・しまる。As-C まばらに含む。白色バミス粒径 5mm 以下少量。
 - 6 暗褐色土 (10YR3/3) やや粘性・よくしまる。As-C まばらに混入。黄色土ブロック径 1cm 以下まばらに少量。上層境特によくしまる。(上方からの圧による)
 - 7 黒褐色土 (10YR3/2)・暗褐色土 (10YR3/3) やや粘性・ややしまる。As-C まばらに混入。黄色土ブロック径 1cm 以下微量。白色粒径 2mm 以下微量。
 - 7' 7層と比べ、しまりやや劣る。
 - 8 黒褐色土 (10YR3/2)・暗褐色土 (10YR3/3) やや粘性・よくしまる。As-C まばらに混入。凝灰岩片径 2cm 以下微量。(全体にザラつく)
 - 9 黒褐色土 (10YR3/2)・暗褐色土 (10YR3/3) やや粘性・よくしまる。As-C まばらに含む。地山黄色土ブロック状密に含む。
 - 10 黒褐色土 (10YR3/2)・暗褐色土 (10YR3/3) やや粘性・よくしまる。As-C まばらに混入。
 - 11 暗褐色土 (10YR3/3) 主体 黒褐色土 (10YR3/2) 含む。やや粘性・よくしまる。As-C まばらに含む。
 - 12 黒褐色土 (10YR3/2)・暗褐色土 (10YR3/3) やや粘性・よくしまる。砕けた凝灰岩片密に多量。
 - 13 黒褐色土 (10YR3/2)・暗褐色土 (10YR3/3) やや粘性・よくしまる。As-C まばらに混入。
 - 14 黒褐色土 (10YR3/2)・暗褐色土 (10YR3/3) 主体 やや粘性・よくしまる。黒褐色土 (10YR2/2) ブロック状少量。As-C まばらに混入。
 - 15 黒褐色土 (10YR3/2)・暗褐色土 (10YR3/3) 主体 褐色土 (10YR4/4) ブロック状含む。As-C まばらに混入。
- あ 黒褐色土 (10YR3/2)・暗褐色土 (10YR3/3) やや粘性・ややしまり劣る。As-C まばらに含む。黄色土ブロック径 1cm 以下まばらに含む。カクラン土か。
- い ア層とほぼ同様。
- う 黒褐色土 (10YR3/2)・暗褐色土 (10YR3/3) 黄色土ブロック径 2cm 以下まばらに含む。
- え 黒褐色土 (10YR3/2)・暗褐色土 (10YR3/3) 黄色土ブロック密に含む。
- お 黒褐色土 (10YR3/2)・暗褐色土 (10YR3/3) 黄色土ブロック径 2cm 以下まばらに含む。
- か 黒褐色土 (10YR3/2)・暗褐色土 (10YR3/3) 黄色土ブロック径 1cm 以下少量。
- き 黒褐色土 (10YR3/2)・暗褐色土 (10YR3/3) 黄色土ブロック状やや密に含む。
- く 黒褐色土 (10YR3/2)・暗褐色土 (10YR3/3) 黄色土ブロック径 2cm 以下まばらに含む。
- け 黒褐色土 (10YR3/2)・暗褐色土 (10YR3/3) 黄色土ブロック状密含む。
- こ 黒褐色土 (10YR3/2)・暗褐色土 (10YR3/3) 主体 褐色土 (10YR4/4) 含む。凝灰岩片?径 1cm 前後微量。黄色土ブロック径 2cm 以下少量。
- さ 黒褐色土 (10YR3/2)・暗褐色土 (10YR3/3)・褐色土 (10YR4/4) ブロックからなる。相対的にブロック大ぶり。
- し 褐色土 (10YR4/4) ブロック主体 黄色土ブロック状含む。
- う～し層 やや粘性・よくしまる。As-C まばらに含む。
- ア 暗褐色土 (10YR3/3) 黄色土ブロック径 1cm 以下少量。黄橙色 (10YR6/3) シルト質土ブロック状少量。
- イ 地山黒褐色土 (10YR3/2)・暗褐色土 (10YR3/3) ブロック主体 黄色土ブロック径 1cm 以下少量。
- ウ 地山黒褐色土 (10YR3/2)・暗褐色土 (10YR3/3) ブロック主体 黄色土ブロック径 2cm 以下まばらに含む。
- エ 地山黒褐色土 (10YR3/2)・暗褐色土 (10YR3/3) ブロック主体 黄褐色土ブロック状まばらに含む。
- オ 地山黒褐色土 (10YR3/2)・暗褐色土 (10YR3/3) ブロック主体 黄色土ブロック径 2cm 以下まばらに含む。黒褐色土 (10YR2/2) ブロック状少量。
- カ 地山黒褐色土 (10YR3/2)・暗褐色土 (10YR3/3) ブロック主体 黄褐色土ブロック状密含む。
- キ 地山黒褐色土 (10YR3/2)・暗褐色土 (10YR3/3) ブロック主体 黄色土ブロック径 1cm 以下まばらに含む。
- ク 地山黒褐色土 (10YR3/2)・暗褐色土 (10YR3/3) ブロック主体 地山褐色土 (10YR4/4) 含む。黄色土ブロック径 1cm 以下少量。
- ケ 地山黒褐色土 (10YR3/2)・暗褐色土 (10YR3/3) ブロック主体 地山褐色土 (10YR4/4) 含む。黒褐色土 (10YR2/2) ブロック状まばらに含む。黄色土ブロック径 1cm 以下少量。
- コ 地山黒褐色土 (10YR3/2)・暗褐色土 (10YR3/3) ブロック主体 砕けた凝灰岩含む。
- サ 地山黒褐色土 (10YR3/2)・暗褐色土 (10YR3/3) ブロック主体 黄色土ブロック径 1cm 以下少量。砕けた凝灰岩片少量。
- シ 地山黒褐色土 (10YR3/2)・暗褐色土 (10YR3/3) ブロック主体 黄色土ブロック径 3cm 以下まばらに含む。
- ア～シ層 As-C まばらに混入。
- ス 地山黄褐色土ブロック主体 As-C まばらに含む。
- セ 黒褐色土 (10YR3/2)・暗褐色土 (10YR3/3)・褐色土 (10YR4/4) ブロック主体 黄色土ブロック径 1cm 以下少量。As-C まばらに含む。
- ソ 地山黒褐色土 (10YR3/2)・暗褐色土 (10YR3/3) ブロック主体 地山黄褐色土ブロック状まばらに含む。As-C まばらに含む。
- ア 黄橙色 (10YR6/3) シルト質土ブロック主体 黒褐色土 (10YR2/2) 含む。/// 白色粒子層状にみられる。
- b 地山黒褐色土 (10YR3/2) 黄色土ブロック径 1cm 以下まばらに含む。
- c 地山黒褐色土 (10YR3/2) 黄色土ブロック径 2cm 以下まばらに含む。
- d 地山黒褐色土 (10YR3/2) 黄色土ブロック径 1cm 以下まばらに含む。
- e 地山黒褐色土 (10YR3/2) 地山暗褐色土 (10YR3/3) ブロック状含む。
- f 地山黒褐色土 (10YR3/2) 地山暗褐色土 (10YR3/3) ブロック状含む。黄色土ブロック径 2cm 以下まばらに含む。
- g 地山黒褐色土 (10YR3/2) 黄色土ブロック径 5mm 以下微量。
- h 地山黒褐色土 (10YR3/2) 地山暗褐色土 (10YR3/3) ブロック状少量。黄色土ブロック径 1cm 以下少量。
- i 地山黒褐色土 (10YR2/2)・暗褐色土 (10YR3/3) ブロック主体 黄色土ブロック径 1cm 以下少量。

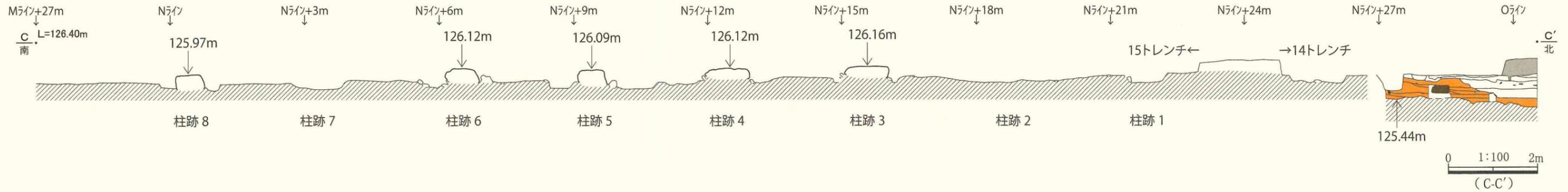
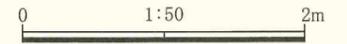
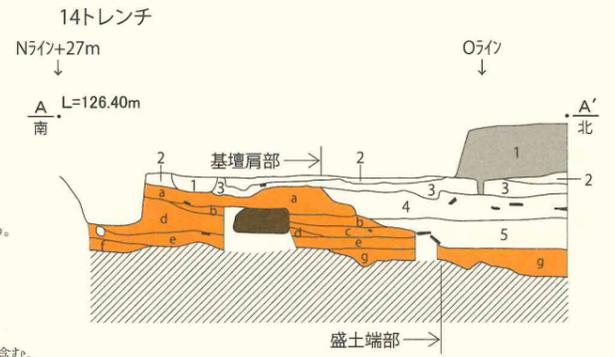
- A 地山黒褐色土 (10YR3/2)・暗褐色土 (10YR3/3) ブロック・黄色土ブロック径 1cm 以下微量。
- B 黄褐色土 (10YR5/4) ブロック主体
- C 地山黒褐色土 (10YR2/2) ブロック主体
- D 地山暗褐色土 (10YR3/3)・地山黒褐色土 (10YR3/2) ブロック主体 黄褐色土 (10YR5/4) 含む。
- E 地山暗褐色土 (10YR3/3)・地山黒褐色土 (10YR3/2) ブロック主体 黄色土ブロック径 3cm 以下まばらに含む。
- F 地山暗褐色土 (10YR3/3)・地山黒褐色土 (10YR3/2) ブロック主体 黄褐色土 (10YR5/4) ブロック状含む。
- G 地山暗褐色土 (10YR3/3)・地山黒褐色土 (10YR3/2) ブロック主体 黄色土ブロック径 3cm 以下まばらに含む。黒褐色土 (10YR2/2) ブロック状まばらに含む。
- H 地山暗褐色土 (10YR3/3)・黄褐色土 (10YR4/4) ブロック主体 黄褐色土 (10YR5/4) ブロック状密に含む。
- A～H層 As-C あまり目立たない、よくしまる。
- I 地山黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・周囲よりしまり劣る。黄褐色土 (10YR5/4)
- 15 トレンチ B-B'
- 1 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・ややしまる。As-B 混入。
 - 1' 黒褐色土 (10YR3/2) 含む。
 - 2 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・ややしまる。As-C まばらに含む。
 - 3 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・しまる。As-C まばらに混入。黄褐色土 (10YR6/3) シルト質土ブロック状少量。
 - 4 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・ややしまる。As-C まばらに混入。赤色顔料?希薄まばらに含む。
 - 5 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・しまる。As-C まばらに混入。※瓦小片混入顕著。
 - 6 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・ややしまる。As-C まばらに含む。
 - 7 黒褐色土 (10YR3/2)・暗褐色土 (10YR3/3) やや粘性・しまる。As-C まばらに混入。
 - 8 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・しまる。As-C まばらに混入。
 - 8' 暗褐色土 (10YR3/3) 含む。
 - 9 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・しまる。As-C まばらに混入。
 - 10 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・しまる。As-C まばらに混入。暗褐色土 (10YR3/3) 含む。
 - 11 黒褐色土 (10YR3/2) 主体 暗褐色土 (10YR3/3) 含む。As-C まばらに混入。※瓦小片混入顕著。
- a 黄褐色土 (10YR6/3) シルト質土ブロック主体 よくしまる。As-C まばらに混入。
- b 黒褐色土 (10YR3/2) 主体 暗褐色土 (10YR3/3) 少量。
- c 黒褐色土 (10YR3/2) 主体 褐色土 (10YR4/4) ブロック状密に含む。
- d 黒褐色土 (10YR3/2) 主体 黄色土ブロック径 1cm 以下微量。
- e 黒褐色土 (10YR3/2) 主体 褐色土 (10YR4/4) 含む。黄色土ブロック状まばらに含む。
- a～e層 よくしまる。As-C まばらに混入。
- f 地山暗褐色土 (10YR3/3)・褐色土 (10YR4/4) ブロック主体 よくしまる。黒褐色土 (10YR2/2) 含む。As-C まばらに含む。
- g 地山褐色土 (10YR4/4) ブロック主体 よくしまる。As-C 少量。暗褐色土 (10YR3/3) 含む。
- ア～エ層 黒褐色土 (10YR3/2) 主体 暗褐色砂性土 (10YR3/3) 混入。As-C まばらに混入。※いずれも構成土、混入物同様だが、構成土のあり方や粒子の粗密などから分層した。
- オ 黒褐色土 (10YR3/2) 主体 黒褐色土 (10YR3/2)・黒褐色土 (10YR2/2) ブロック状含む。
- カ 暗褐色土 (10YR3/3)・黒褐色土 (10YR2/2) ブロック主体 As-C まばらに含む。黒褐色土 (10YR3/2) 含む。
- 13-2 トレンチ M-M'
- 1 灰黄褐色土 (10YR4/2) 粘性なし・しまる。As-B 混入。表土
 - 2 3層とほぼ同じ。As-B 混入。
 - 3 黄褐色土 (10YR4/3) やや粘性・しまる。As-C まばらに含む。焼土ブロック (小)・白色粒子径 5mm 以下微量。
 - 3' 凝灰岩片径 1mm 以下少量。
 - 4 黄褐色土 (10YR4/3) やや粘性・しまる。As-C まばらに含む。黄褐色 (10YR6/3-6/4) シルト質土ブロック少量。白色粒子径 2mm 以下微量。
 - 5 暗褐色土 (10YR3/3) やや粘性・しまる。As-C まばらに含む。
 - 6 暗褐色土 (10YR3/3)・黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・よくしまる。As-C まばらに混入。黄褐色 (10YR6/3-6/4) シルト質土ブロック状まばらに含む。
- a-f層 地業 やや粘性・よくしまる。As-C まばらに混入。
- a 暗褐色土 (10YR3/3)・黒褐色土 (10YR3/2) 黄褐色 (10YR6/3-6/4) シルト質土ブロック状密に含む。
- b 黒褐色土 (10YR3/2)・暗褐色土 (10YR3/3) 黒褐色土 (10YR2/2) ブロック状含む。
- c 黒褐色土 (10YR3/2)・暗褐色土 (10YR3/3) 凝灰岩片径 1cm 以下まばらに含む。
- d 黒褐色土 (10YR3/2)・暗褐色土 (10YR3/3) 凝灰岩片密に多量。
- e 黒褐色土 (10YR3/2)・暗褐色土 (10YR3/3) 凝灰岩片密に多量。
- f 黒褐色土 (10YR3/2)・暗褐色土 (10YR3/3)
- ア～シ層 地業 やや粘性・よくしまる。As-C まばらに混入。
- ア 黒褐色土 (10YR3/2)・暗褐色土 (10YR3/3)
- イ 黄褐色土 (10YR5/4) ブロック主体
- ウ 黒褐色土 (10YR3/2)・暗褐色土 (10YR3/3) 黄色土ブロック径 1cm 以下少量。
- エ 黒褐色土 (10YR3/2)・暗褐色土 (10YR3/3) 黄色土ブロック状含む。
- オ 暗褐色土 (10YR3/3) 主体 黒褐色土 (10YR3/2) 含む。
- カ 黒褐色土 (10YR3/2)・暗褐色土 (10YR3/3)
- キ 黒褐色土 (10YR3/2)・暗褐色土 (10YR3/3) 黒褐色土 (10YR2/2) ブロック状含む。
- ク 暗褐色土 (10YR3/3)・黒褐色土 (10YR3/2) 黄色土ブロック径 1cm 以下少量。
- ケ 暗褐色土 (10YR3/3)・黒褐色土 (10YR3/2)
- コ 暗褐色土 (10YR3/3)・黒褐色土 (10YR3/2) 黄色土ブロック状まばらに含む。
- サ 黒褐色土 (10YR3/2)・暗褐色土 (10YR3/3) 暗褐色土 (10YR3/4) ブロック状含む。
- シ 黒褐色土 (10YR3/2)・暗褐色土 (10YR3/3) 凝灰岩片径 1cm 以下少量。



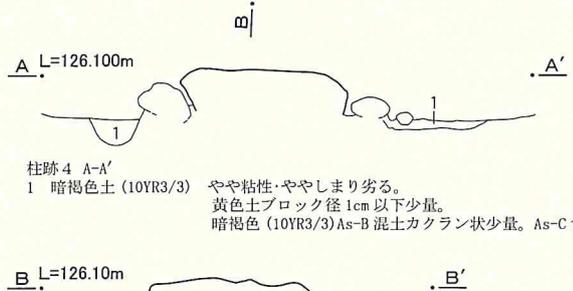
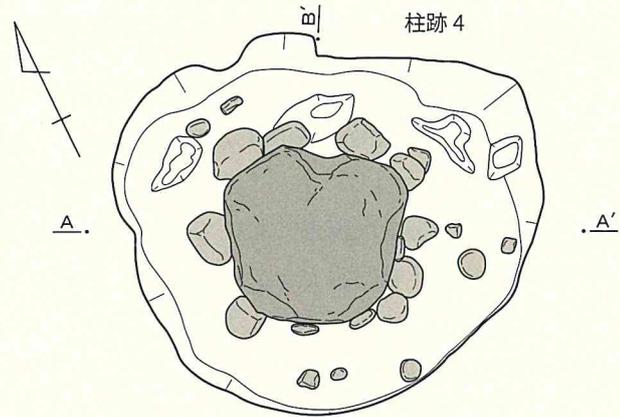
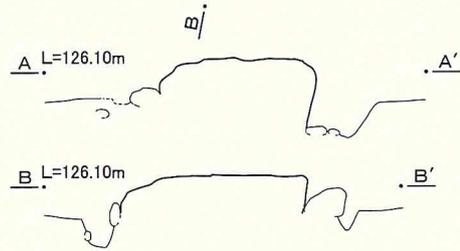
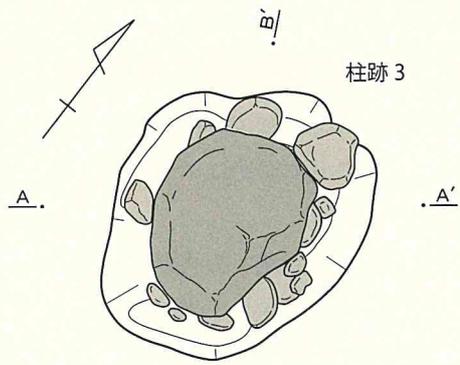
- 各セクション図共通
- As-B混入土
 - 炭片・焼土ブロック混入土
 - 地業
 - 凝灰岩片主体
 - 整地土か
 - 地山
 - 凝灰岩



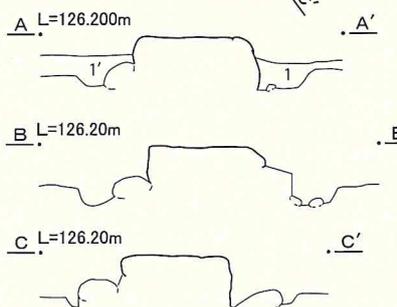
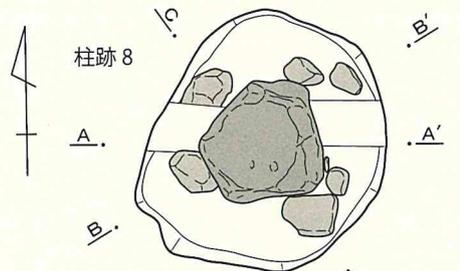
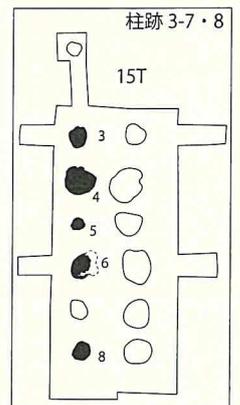
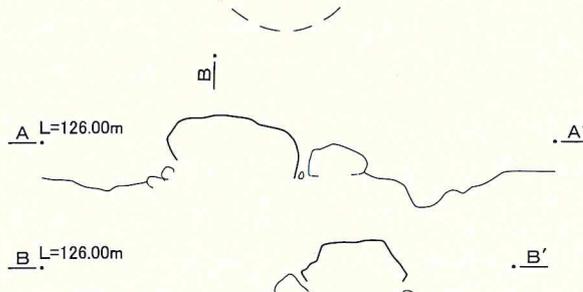
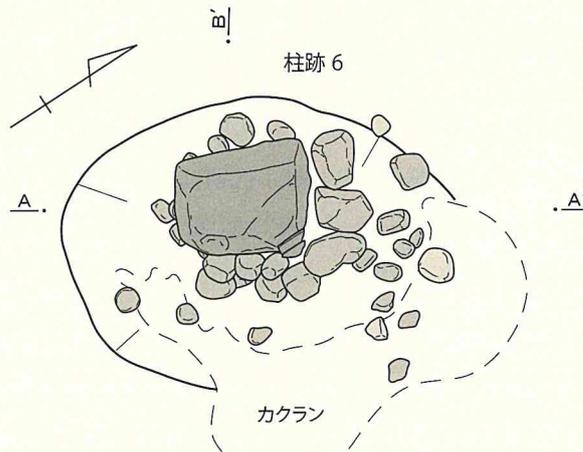
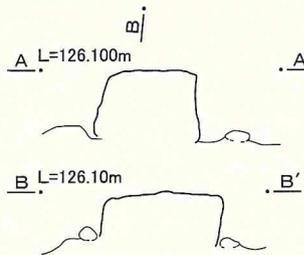
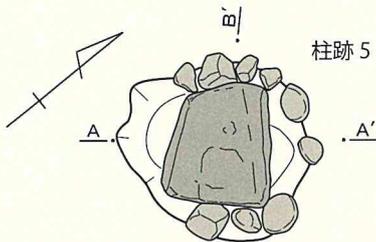
- 14 トレンチ A-A'
- 1 灰黄褐色土(10YR4/2) 粘性なし・しまる。As-B混入。表土
 - 2 暗褐色土(10YR3/3) やや粘性・しまる。As-Cまばらに含む。
 - 3 暗褐色土(10YR3/3) やや粘性・しまる。As-Cまばらに混入。黄橙色(10YR6/3・6/4)シルト質土ブロック状少量。
 - 4 黒褐色土(10YR2/2) やや粘性・しまる。As-Cまばらに混入。白色粒径1cm以下微量。5層と比べ瓦片多くみられる。
 - 5 黒褐色土(10YR3/2) やや粘性・しまる。As-Cまばらに混入。
- a-g層共通 地業 よくしまる。As-Cまばらに混入。
- a 黒褐色土(10YR3/2)・暗褐色土(10YR3/3)
 - b 暗褐色土(10YR3/3)主体 黒褐色土(10YR3/2)含む。
 - c b層とほぼ同じ。夾雑物の状況から分層される。
 - d 黒褐色土(10YR3/2)・暗褐色土(10YR3/3) 黒褐色土(10YR2/2)ブロック状含む。
 - e 暗褐色土(10YR3/3)主体 黒褐色土(10YR3/2)含む。凝灰岩片径2cm以下まばらに含む。
 - f 黒褐色土(10YR3/2)・暗褐色土(10YR3/3) 地山黄色土ブロック状含む。
 - g 黒褐色土(10YR3/2)・暗褐色土(10YR3/3) 黒褐色土(10YR2/2)ブロック状まばらに含む。黄色土ブロック径1cm以下少量。



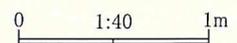
第38図 (2) 東面回廊 断面図



柱跡 4 A-A'
 1 暗褐色土 (10YR3/3) やや粘性・ややしまり劣る。
 黄色土ブロック径 1cm 以下少量。
 暗褐色 (10YR3/3) As-B 混土カクラン状少量。As-C 含む。



柱跡 8 A-A'
 1 暗褐色土 (10YR3/3) やや粘性・ややしまる。As-B 混土。
 黄褐色土 (10YR4/3) カクラン状少量。
 As-C まばらに含む。黄色土ブロック径 1cm 以下まばらに含む。
 焼土ブロック (小) 微量。
 1' 黄色土ブロック含まない。



第39図 (2) 東面回廊 柱跡 平面図・断面図

(3) 尼坊跡(第40図～第48図)

1) 調査経過

- ① 調査の目的 昭和44・45年調査時に確認された礎石の残存状況を確認し、礎石抜き取り痕を確認することで建物規模や構造を明らかにする。また、基壇及び地業の残存状況や構造について精査する。
- ② 調査区の設定 第1次調査において、昭和44・45年調査で確認された「講堂跡」の再検証を行うため3・4トレンチを設定した。この結果、桁行6間とされていた建物範囲がさらに東へ延び、桁行11間以上となることが判明した。このため、同建物跡は尼坊跡である可能性が強くなり、第3次調査では3トレンチの東側に調査区を追加し、建物東端部の確認を行った。

2) 調査概要

- ① 建物の規模と構造 建物規模は、東西45.0m(150尺)・南北10.8m(36尺)である。身舎は桁行15間×梁行2間で南北に各1間の庇がつき、柱間寸法は桁行10尺等間、梁行は身舎が10尺で庇間は8尺である。礎石は6か所で残存し、いずれも昭和期の調査で確認されているものである。なお、講堂跡と推定された際、桁行6間とした根拠になっていた東側棟持柱に該当する礎石(C7)は失われ、根石とみられる礫が地業確認面上に3点残存していた。

建物内の間仕切り痕跡について、上総国分尼寺跡では棟通り房境柱の痕跡が3間ごとにみられ、5房に仕切られていたことなどから、本尼坊跡の同様箇所にとレンチを掘削し、地業面の精査を行ったが、柱痕跡は確認できなかった。ただし、前記した昭和期調査で東側棟持柱とされた礎石は、房境柱跡の可能性があり、確認状況から礎石据付穴の規模が極めて小さいと判断され、他の箇所では後世の開墾などで失われている可能性がある。

- ② 基壇・地業の状況 基礎地業は総地業で、東西51.3m・南北13.6mの範囲を掘り込んで構築している。掘込の深さは整地面上から10～70cmで、東側ほど深い。南北では顕著な差は無かった。このことは、同箇所の基盤層(基本層序IX層)のレベルと概ね一致しており、基礎の耐久性と作業効率を両立させたものとみられる。地業は版築で強固に築かれ、相対的に上部が丁寧に施工されるようであるが明瞭では無い。また、地業縁部は内傾気味に掘られ、堰板痕跡はみられなかった。なお、版築の断面観察について、第1次調査では、比較的明瞭に視認される部分で分層していたが、第3次調査時に詳細な観察をおこなったところ、さらに細かく分層が可能であることが判明した。このため1次調査の記録について、版築がさらに細かく分層される可能性があり、搗き固めによる硬化が認められる地業部分は、複数層に分層されていなくても、すべて版築で構築されているものとみなされる。

基壇構築面は全面にわたり失われ、ほぼ原位置と思われる礎石(B7)天端と現況の地業確認面の差から、現状より20～30cmほど高い位置になる可能性がある。また、基壇縁部は削平のため当初の形状をとどめておらず、位置を特定することは困難である。なお、地業掘込ラインが建物平側では側柱から5尺ほど、妻側では側柱から11尺ほど出るが、総じて地業外縁付近から整地面がやや下がり、平側では地業縁部から整地面上にかけて一定の幅で「黄褐色系粘性土」が厚さ5～20cm堆積するのがみられた。同粘性土は基壇裾の整地用土の可能性があり、基壇外縁の範囲を示すものとみられる。なお、同粘性土は基壇崩落土の可能性もあるが、その場合、版築面及び整地面と接し、該当部には基壇外装の痕跡が無いことから、基壇下部の版築や整地面が露出していたことになる。

基壇および基礎地業の外側では、廃絶後からAs-B降下前までに掘られた不整な土坑状掘り込みが多数存在し、当初の形状が広範囲に失われている。これらの掘り込みは、基壇裾上から連続する

焼土ブロック・炭・瓦片などを含む黒褐色土層で埋没しており、廃材の処理に伴う廃棄坑であると推定される。

昭和 44・45 年調査の際に根石として凝灰岩切石 2 点が利用されていることが確認されており、尼坊の基壇外装構築材転用の可能性もあるが、残存量が少ないことや、整地面から立ち上がる基壇外装の痕跡が無いことから、尼坊のものでは無い可能性が強い。

- ③ 地業縁部外側にみられるピットについて 地業縁部外側に小規模ピット(第 40 図 P1～P11)が存在しており、造作に伴う足場穴の可能性もある。P1～3・7～11 は明確に構築面上から掘られており、埋没土内に焼土ブロックや炭片の混入が認められ、自然埋没と判断されるため、柱の抜取後は放置されたものとみられる。なお、P7 と P9 は各々南東隅・南西隅の柱から南へ 2m、P2 は北東隅の柱から北へ 2m と、配置に一定の規則性が認められる。

一方で P4・5 は整地土内に埋め込まれており、構築時あるいは補修時の作業に伴うものとみられ、P4 は北辺側柱の柱筋から 3.2m、P5 は 4.9m 外側に位置する。

- ④ 白色物質について 建物のほぼ中央部、柱跡 B9 南面で現耕作土と地業面の間で、3m×1.4m ほどの範囲に白色砂粒上の物質が厚さ 4～8 cm で分布しており(2 層)、部分的にわずかに赤みを帯びていた。白色物質層と地業面の間には 4～6 cm の黒褐色土層(3 層)が存在し、同黒褐色土を床面の整地に伴う土とすれば、尼坊の床面化粧材の可能性も考えられる。なお、同物質を分析したところ、明礬を主成分とすることが判明したため、性格を確定するにあたっては類例の増加を待ちたい。

3) 基礎地業の状況

① 南辺部

ア. 3 トレンチ(735)SPA ライン(第 41 図) 現耕作土直下で地業面を確認し、それより下 68 cm の厚さで版築がみられた。版築は地山(標準層序 VI 層)上に 30～40 cm ほど黒褐色土を盛った整地面上から掘り込んで構築される。地業外側の整地面は、開墾等で当初の形状をとどめていないが、残存部上面レベルは外側に向かい僅かずつ低くなっている。

版築上部の厚さ 7 cm ほどは整地面上に 30 cm ほど延び、さらに上部には、厚さ 4～10 cm ほどで基壇裾整地土と判断される黄褐色系の粘性土がみられ、版築端部の外側 1.25m 付近まで延びる。

また、地業端部の外側で構築面上から掘られた造作時の足場穴とみられるピットが 3 か所(P7～9)確認された(第 45 図)。P7 は径 25 cm で残存部の深さ 40 cm 以上、P8 は径 25 cm ほどで残存部の深さ 39 cm、P9 は径 10 cm ほどで残存部の深さ 43 cm である。いずれも自然埋没で、P8 では埋没土内に焼土ブロックや炭片の混入が顕著に認められた。

イ. 3 トレンチ(735)SPB ライン(第 41 図) 現耕作土直下で地業面を確認し、それより下 78 cm の厚さで地山整地面を掘り込んで構築される版築がみられた。版築上部の 25 cm ほどは、整地面上を外側に 20 cm ほど延びて 32° の傾斜をなして内側へ立ち上がっており、基壇裾とみられる。また、同基壇裾上に整地土と判断される黄褐色系粘性土(9 層)が厚さ 5～10 cm でみられ、版築端部の外側 1.15m 付近まで延びている。

地業外側の整地面は、地山上に黒褐色土・暗褐色土(10 層)を 10～20 cm 盛って概ね平坦に仕上げている。なお、この整地面は基壇裾から 98 cm 外側で段をなして 45 cm ほど下がり、段下は概ね平坦につくられ、さらに外側へ 2.3m 以上連続している。この段下部分は基壇裾整地土を掘り込んで構築されることや、埋没土の底部付近まで焼土ブロックや炭片、瓦片などが混入することから、廃絶後から As-B 降下前の時期に掘られた廃棄坑の可能性がある。

ウ. 3 トレンチ (679) SPC ライン(第 41 図) 現耕作土直下で地業面を確認し、それより下 60 cm以上の厚さで版築がみられた。版築は堅穴状掘込の埋没土上整地面を掘り込んで構築される。同堅穴状掘込は深さ 60 cm以上で、底面は未確認だが規模から堅穴建物跡の可能性があり、一部が 2m 西の SPD ラインでも確認されており、構築時期は埋没土の観察から Hr-FA 降下以降と判断される。

整地面は、地業端部から外側 1 m ほどで段をなして 60 cmほど下がり、焼土ブロックや炭片を含む黒褐色土で埋没することから、廃絶後から As-B 降下前の時期に掘られた廃棄抗の可能性はある。

エ. 3 トレンチ (679) SPD ライン(第 41 図) 現耕作土直下で地業面を確認し、それより下 65 cmの厚さで版築がみられた。版築は堅穴状掘込の埋没土上整地面を掘り込んで構築される。同堅穴状掘り込みは、地業端部から 1.5m ほど外側で立ち上がり、深さは 70 cm以上で底面は未確認であるが、規模から堅穴建物跡の可能性もあり、東の SPC ラインと同一遺構とみられる。

地業の掘込端部について、上部 10 cmほどは整地面上で約 50° の傾斜をなし内側へ立ち上ることから基壇裾の可能性はある。また、同裾状部の上に整地土と判断される黄褐色系粘性土主体層(6・5 層)が厚さ 5~10 cmでみられ、版築端部の外側 75 cm付近まで延びている。

整地面は、地業端部から外側 1.5m で段をなして 30 cmほど下がり、焼土ブロックや炭片・瓦片を含む黒褐色土で埋没することから、廃絶後から As-B 降下前の時期に掘られた廃棄抗の可能性はある。

オ. 3 トレンチ (679) SPE ライン(第 42 図) 現耕作土直下で地業面を確認し、それより下 65 cmの厚さで版築がみられた。版築は地山整地面を掘り込んで構築され、上部 15 cmほどは約 50° の傾斜をなし内側へ立ち上ることから基壇裾の可能性はある。また、同裾状部に接して整地土と判断される黄褐色系粘性土主体層(4 層)が厚さ 10~15 cmでみられ、版築端部の外側 1.5m 付近まで延びており、該当部直下の整地面は浅い皿状に窪む。なお、基壇裾の整地土及び整地面上には、廃絶後から As-B 降下前における廃材の処理によるものとみられる焼土ブロックや炭片を混入する黒褐色土が堆積する。

カ. 3 トレンチ (679) SPF ライン(第 42 図) 現耕作土直下で地業面を確認し、それより下 55 cmの厚さで版築がみられた。版築は堅穴状掘込の埋没土上整地面を掘り込んで構築される。この堅穴状掘込は地業端部から外側 1.4m 付近で立ち上がり、深さは 50 cm以上で、底面は未確認だが堅穴建物跡とみられ、構築時期は Hr-FA 降下以前と判断される。

版築確認部の上端付近に接して、基壇裾整地土と判断される黄褐色系粘性土層が厚さ 5 cm前後であり、直下の整地土面は外側に向け緩やかに傾斜する。なお、整地土面は地業端部から外側 55 cmで段をなして 30 cmほど下がり、該当部が焼土ブロックや炭片・瓦片を含む黒褐色土で埋没することから、廃絶後から As-B 降下前の時期に掘られた廃棄抗の可能性はある。

キ. 3 トレンチ (679) SPG ライン(第 42 図) 現耕作土直下で地業面を確認し、以下 60 cmの厚さで版築がみられた。版築は堅穴状掘込の埋没土上整地面を掘り込んで構築される。この堅穴状掘込は地業端部から外側 2.0m 付近で立ち上がり、深さは 50 cm以上で、底面は未確認だが堅穴建物跡で、構築時期は Hr-FA 降下以前と判断される。東 3m の SPD ラインの堅穴状掘込と同一の遺構であろう。

版築確認部の上端付近に接して、基壇裾整地土と判断される黄褐色系粘性土層(5 層)が厚さ 7~15 cmであり、版築端部の外側 90 cm付近まで延びる。この直下の整地面は外側に向け緩やかに

傾斜る。なお、基壇裾整地土下に性格不明の攪乱状掘り込みがみられるが(6・7層)、尼坊に伴うものかどうか不明である。

ク. 3 トレンチ(679)SPH ライン(第43図) 現耕作土直下で地業面を確認し、それより下55cmの厚さで版築がみられた。版築は地山整地面を掘り込んで構築される。版築確認部の上端付近に接して、基壇裾整地土と判断される黄褐色系粘性土層(3層)が厚さ5~15cmほどであり、版築端部の外側2.4m付近まで延びる。この整地土の下には黒褐色土・暗褐色土で埋没する深さ5~20cmの不整な掘込があるが、尼坊との関連や構築時期は不明である。なお、基壇裾整地土の外側端部付近から地山整地面が緩やかに下がり、この直上は基壇裾付近から連続する、焼土ブロックや炭片を含む暗褐色土が堆積する。

ケ. 4 トレンチ SPA ライン(第43図) 現耕作土直下で地業面を確認し、それより下58cmの厚さで版築がみられた。版築は地山整地面を掘り込んで構築され、端部は63°で内傾する。また、版築端部に接して基壇裾整地土と思われる黄褐色系地山土ブロックを混入する暗褐色土(4層)があり、版築端部の外側2.5m付近まで延びる。なお、4層直下の地山整地面は版築端部に近いほど低くなる傾向があるため、4層確認部の厚さは版築と接する部分が25cmで外側端部は10cmとなる。

コ. 4 トレンチ SPB ライン(第43図) 現耕作土直下で地業面を確認し、それより下50cm以上の厚さ(底部未確認)で版築がみられた。版築は地山整地面を掘り込んで構築され、該当部に攪乱が存在するため明確では無いが、整地面上には基壇裾整地土と判断される黄褐色系粘性土層(3・4層)が厚さ10cmほどで版築端部から外側へ2.0m延び、直上に焼土ブロックや炭片を含む暗褐色土が堆積する。また、版築端部から外側1.6m付近に整地面上から20cmほど下がる小規模な落ち込みがあり、基壇裾整地土同様の黄褐色系粘性土ブロック(5層)で整地面レベルまで埋められ上面は硬化していた。この落ち込みは尼坊と関連するとみられるが、性格は不明である。

サ. 4 トレンチ SPC ライン(第43図) 現耕作土直下で地業面を確認し、それより下25cmの厚さで版築がみられた。版築は地山整地面を掘り込んで構築される。東のSPAおよびSPDとくらべ、地業面の確認レベルがやや低いことを考慮しても、版築の厚みは半分ほどになる。また、版築端部から外側1.3m、側柱列の延長上に径70cm、深さ15cmのピット(P10)が存在し、焼土ブロックや炭片を含む黒褐色土で埋没しており、足場穴の可能性も考えられる。

② 北辺部

ア. 3 トレンチ(735)SPA ライン(第41図) 現耕作土直下で地業面を確認し、それより下70cmの厚さで版築がみられた。版築は、地山上に25cm前後黒褐色土(A層)を盛った整地面上から掘り込んで構築される。地業外側の整地面レベルはやや下がるが概ね平坦である。版築上部の厚さ18cmほどは、整地面上に40cm程度延びて20°以内の傾斜をなして内側に立ち上がっており基壇裾とみられる。また、この裾上には整地土と判断される黄褐色系粘性土主体層(4層)が厚さ5cm・幅1.1mで有る。基壇裾整地土から外側の整地面にかけ、直上には焼土ブロックや炭片を含む黒褐色土(3層)が堆積する。なお、側柱から外側2mの位置に、基壇裾整地土上から掘られた径23cm・深さ30cmのピット(P2)があり、前記の黒褐色土で埋没しており足場穴の可能性はある。

イ. 3 トレンチ(735)SPI ライン(第41図) 現耕作土直下で地業面を確認し、それより下15cm以上(底部未確認)の厚さで版築がみられた。版築は、地山上に整地土を35cm前後盛った整地面上から掘り込んで構築される。同整地土は下層部が黒褐色土、上層部が黄褐色系の土を主体とし、上層部は他の箇所を確認される基壇裾整地土に類似する。

また、版築端部付近には廃絶後～As-B 降下前に掘られた焼土ブロック等で埋没する廃棄坑が存在するため当初の形状は失われている。

ウ. 3 トレンチ (679) SPJ ライン(第 41 図) 地業北縁と重なり、南北上幅 1.85m・東西上幅 2m 以上・深さ 50 cm の堅穴状掘込が存在し、焼土ブロックや炭片及び瓦片を混入する黒褐色土で埋没するため廃棄坑とみることができる。この堅穴状掘込の南壁に壊された状態で版築が 40 cm ほどの厚みで残存し、北壁側では地山上に厚さ 25 cm ほどの整地土と思われる黄褐色系の堆積土がみられた。なお、版築底部の地山レベルと整地土下の地山レベルの差は 30 cm ほどである。

エ. 3 トレンチ (679) SPK ライン(第 42 図) 現耕作土直下で地業面を確認し、それより下 50 cm 前後の厚さで版築がみられた。版築は地山整地面上から掘込んで構築される。地業外側の地山整地面レベルは版築端部から 30 cm ほど落ち込み、焼土ブロックや炭片及び瓦片を混入する黒褐色土で埋没することから、SPJ でみられた堅穴状掘込と同様に廃材の処理に伴い後世に形状が改変されている可能性がある。ただし、版築残存部上端付近から外側の地山整地面上にかけて、黄褐色系粘性土層(5 層)が厚さ 5～12 cm・90 cm ほどの幅で存在し、他の調査箇所で見られた基壇裾整地土の状況と類似するため、かろうじて廃絶以前の形状をとどめていることも推定される。

オ. 3 トレンチ (679) SPL ライン(第 42 図) 現耕作土直下で地業面を確認し、それより下 60 cm 程度の厚さで版築がみられた。版築は地山整地面上から掘込んで構築される。版築端部の外側に南北上幅 1.6m・東西上幅不明・深さ 50 cm 以上の溝状あるいは堅穴状の落ち込みが存在し、焼土ブロックや炭片及び瓦片を混入する黒褐色土で埋没する廃棄坑とみられるこの付近には多量の瓦片の混入が認められた。

この廃棄坑の外側では、地山面レベルは版築端部から 30 cm～40 cm ほど落ち込み、外側ほど緩やかに高くなる。地山上には 15～25 cm の厚さで暗褐色土(4 層)、さらに上部には 20～25 cm の厚みで黄褐色系の土(3 層)が堆積し、後者は焼土ブロックや炭片及び瓦片を含むことから、上層は廃絶後～基壇端部に廃棄坑が掘られる以前の堆積土、下層の暗褐色土は整地土と判断した。なお、同整地土上面のレベルは、地業北側の整地面が比較的良好に残るとと思われる(735)SPF ラインの同様箇所と比べて 5 cm ほど低くなる。

カ. 4 トレンチ SPD ライン(第 43 図) 現耕作土直下で地業面を確認し、それより下 44 cm の厚さで版築がみられた。版築は地山整地面上から掘込んで構築される。版築端部の上面には基壇裾整地土と思われる黄褐色系粘性土が厚さ 5～15 cm・幅 70 cm ほどで存在する。そして基壇裾外側の地山面は一旦落ち込み(版築残存部上面との差は 40 cm ほど)、さらに外側へ向け緩やかに上がり、焼土ブロックや炭片及び瓦片を含む黒褐色土で埋没しており、廃絶後の廃材の処理に伴い形状が改変されている可能性がある。

キ. 4 トレンチ SPE ライン(第 43 図) 現耕作土直下で地業面を確認し、それより下 39 cm の厚さで版築がみられた。版築は堅穴建物跡の埋没土を掘り込んで構築される。この建物跡の構築時期は、埋没土内に Hr-FA 層が存在するため古墳時代とみられる。

版築残存部を観察すると、端部は 2 段になっており、10 cm ほど下がる段下の面は外側に 43 cm 延びてわずかに傾く。この上面からやや下がる外側整地面上にかけ、基壇裾整地土とみられる黄褐色系粘性土が厚さ 10 cm 前後・幅 1.1m ほどである。

ク. 4 トレンチ SPC ライン(第 43 図) 現耕作土直下で地業面を確認し、側柱(A1)から外側ではそれより下 60 cm の厚さで版築がみられた。版築は地山整地面上から掘込んで構築される。なお、SPC ラインでは建物西辺側柱に沿って地業断面の観察を行っており、版築の厚さは側柱(A1)から

内側では南辺端部に至るまで確認面以下 10～15 cmで極端に薄くなる。ただし、柱跡の直下は E1 を除いて未確認であるが、礎石の重量を考慮すれば柱下のみ版築が厚くなっていた可能性がある。なお、E1 直下の地業基底レベルに特に変化は認められなかった。

版築端部から外側では縦穴状の掘込がみられ、確認部では深さ 58 cmで、焼土ブロックや炭片を含む暗褐色土で埋没し、廃絶後～As-B 降下前に掘られた廃棄坑の可能性もある。また、同掘込の下部では版築端部から外側整地面上にかけて基壇裾整地土とみられる黄褐色系粘性土がみられ、厚さ 10～15 cmで外側に 35 cm以上延びている。

③ 東辺部

ア. 3 トレンチ (735) SPN ライン(第 44 図) 現耕作土直下で地業面を確認し、範囲のみ記録した。地業は地山を掘り込んで構築され、端部は東辺側柱列ラインより外側に 3.1m(約 10 尺)伸びる。地業外側の地山整地面は緩やかに落ち込み、直上に整地土の可能性のある黒褐色土が厚さ 25 cmでみられる。なお、地業縁部から外側整地面にかけて廃絶後～As-B 降下以前の廃材の処理に伴う掘り込みがみられ、当初の形状は改変されている。

イ. 3 トレンチ (735) SP0 ライン(第 44 図) 建物北東隅の柱跡である A16 上を、東西に通るラインで地業の断面観察を行った。

現耕作土直下で地業面を確認し、それより下 60 cmの厚さで版築がみられた。版築は地山上に 10 cm以上盛った整地土面上から掘り込んで構築され、端部は A16 から 3.3m(約 11 尺)伸びる。版築端部では上面からピット(P11)が掘られ、断面を観察すると柱痕状の箇所(6 層)と重複あるいは掘方部とみられる箇所(7 層)からなり、前者では確認部上端の径が 40 cm・深さが 54 cmを測る。同ピットは造作に伴う足場穴の可能性はあるが、硬い地業面に設置していることから仮設の柱とは考え難い。

④ 西辺部

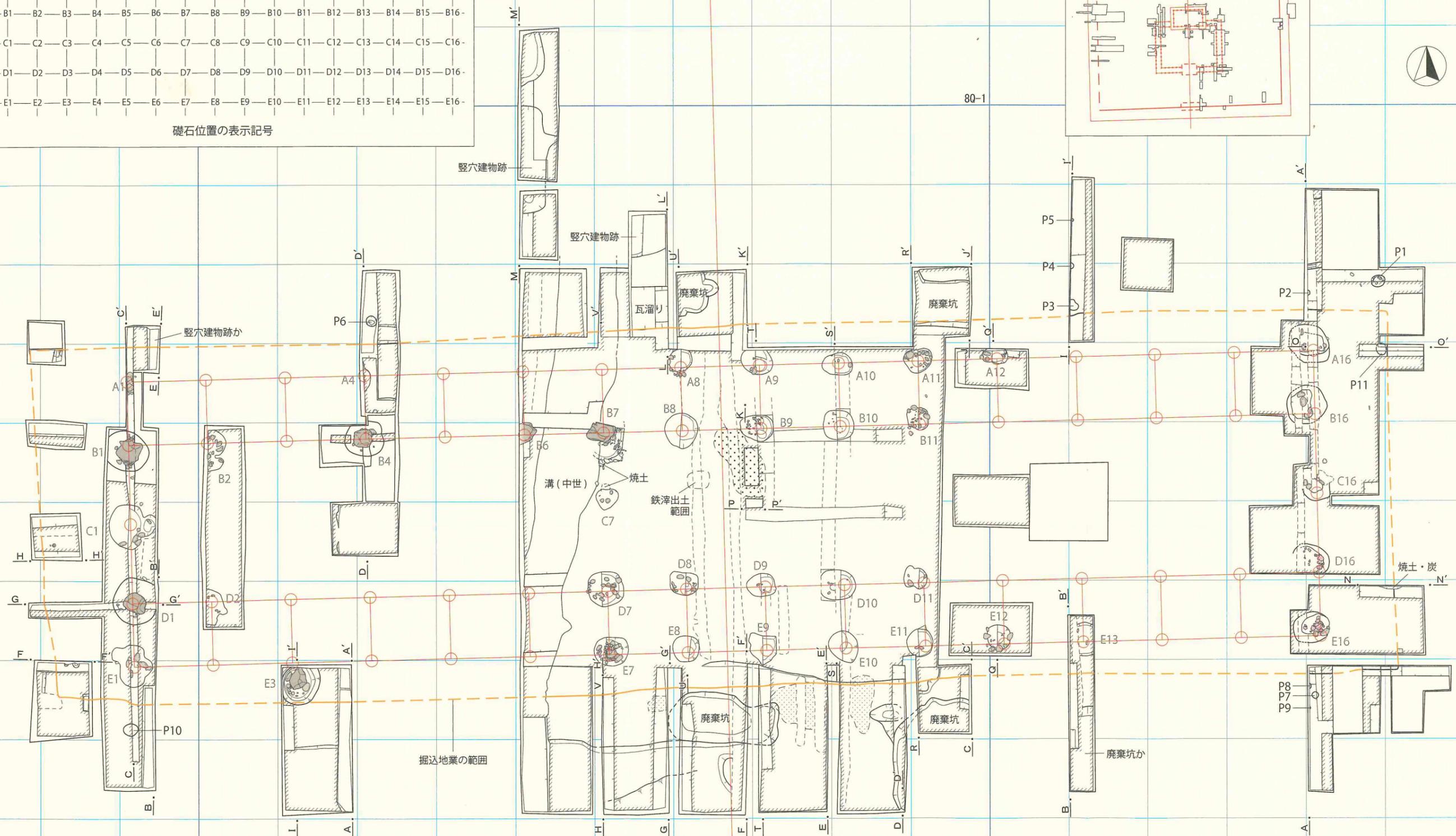
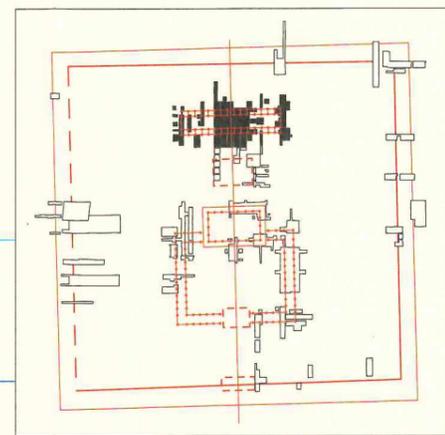
ア. 4 トレンチ SPF ライン(第 44 図) 現耕作土直下で地業面を確認し、それより下 18 cmの厚さで版築がみられた。版築は地山整地面を掘り込んで構築され、確認された端部は側柱(E1)から 2.7m(約 9 尺)出た位置となる。ただし、廃絶後～As-B 降下以前に掘り込まれ形状が改変されている可能性がある。版築の底面レベル(125.95m)は 2.5m 東の SPC ライン南端部確認箇所(125.87m)と比べ 8 cmほど高く、端部は小規模なピット状に落ち込む(4 層)。版築端部の外は地山面が 10 cmほど上がり、直上に暗褐色土層(3 層)がみられる。これは整地土とみられるが、地業上からの掘込みに伴う埋没土の可能性はある。

イ. 4 トレンチ SPG ライン(第 44 図) 身舎南西隅の柱跡で礎石を残す D1 上を、東西に通るラインで地業の断面観察を行った。現耕作土直下で地業面を確認し、それより下 23 cmの厚さで版築がみられた。版築は、地山上に整地土(4 層)を 14 cm以上盛った整地面上から掘り込んで構築され、端部は D1 から 3.0m(約 10 尺)外側に位置する。整地土内には瓦片が含まれていた。また、版築の底面レベル(125.86m)は南東隅の SPC ライン南端部確認箇所(125.87m)とほぼ同じである。

ウ. 4 トレンチ SPH ライン(第 44 図) 廃絶後～As-B 降下前の堆積とみられる、焼土ブロックや炭片を含む暗褐色土層下で地業面を確認し、それより下 15 cm前後の厚さで版築がみられた。端部は 7 cmほどで極端に薄くなる。版築は地山整地面を掘り込んで構築しており、底面レベル(125.95m)は SPF ラインとほぼ同じである。

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
A-A1	A2	A3	A4	A5	A6	A7	A8	A9	A10	A11	A12	A13	A14	A15	A16
B-B1	B2	B3	B4	B5	B6	B7	B8	B9	B10	B11	B12	B13	B14	B15	B16
C-C1	C2	C3	C4	C5	C6	C7	C8	C9	C10	C11	C12	C13	C14	C15	C16
D-D1	D2	D3	D4	D5	D6	D7	D8	D9	D10	D11	D12	D13	D14	D15	D16
E-E1	E2	E3	E4	E5	E6	E7	E8	E9	E10	E11	E12	E13	E14	E15	E16

礎石位置の表示記号



4トレンチ

3トレンチ (679)

3トレンチ (735)

0 1:150 6m

- 白色物質範囲
- 焼土・炭範囲
- 尼寺に関する遺構確認面
- カクラン
- 礎石の破片

第40図 (3) 尼坊跡 平面図-1

- 3 トレンチ (679) D-D'
- 1 灰黄褐色土 (10YR4/2) 粘性なし・ややしまる。As-B 密に混入。現耕作土。
 - 2 黒褐色土 (10YR3/2) 粘性なし・ややしまる。As-B 密に混入。
 - 3 黒褐色土 (10YR2/3) やや粘性・ややしまる。As-C まばらに混入。焼土ブロック・炭片径 1cm 以下まばらに含む。※瓦片等遺物包含。
 - 4 黒褐色土 (10YR2/3) やや粘性・ややしまる。As-C まばらに混入。炭片・焼土ブロック密に多量。壁材片含む。
 - 5 黄褐色土 (10YR4/3) 黒褐色土 (10YR3/2) 含む。やや粘性・ややしまる。As-C まばらに混入。整地土か。
 - 6 黄褐色土 (10YR4/3) やや粘性・ややしまる。As-C まばらに混入。地葉
- A 黒褐色土 (10YR3/2)・暗褐色土 (10YR3/3) 粘性わずか・よくしまる。As-C 混入。
 B 黒褐色土 (10YR3/2) 黒色土 (As-C 黒) ブロック状含む。黒色土ブロックの混入具合などで分層できる。よくしまつて硬い。As-C 混入。

別遺構
 ア 黒褐色土 (10YR3/2) 粘性わずか・ややしまる。As-C まばらに混入。焼土ブロック (小) 微量。
 イ 黒褐色土 (10YR3/2) 粘性わずか・ややしまる。As-C まばらに混入。アより混入密度高い。地山黒色土ブロック状少量。

- 3 トレンチ (679) C-C'
- 1 灰黄褐色土 (10YR4/2) 粘性なし・しまる。As-B 混入。現耕作土。
 - 2 暗褐色土 (10YR3/3) やや粘性・ややしまる。As-C まばらに混入。焼土ブロック (小)・炭片 (小) まばらに含む。
 - 3 暗褐色土 (10YR3/3) やや粘性・ややしまる。As-C まばらに混入。炭片・焼土ブロック径 1cm 以下やや密に含む。廃棄坑か。
 - 4 暗褐色土 (10YR3/3) 粘性わずか・よくしまつて硬い。As-C まばらに混入。炭片 (小)・焼土ブロック (小) まばらに含む。
 - 5 暗褐色土 (10YR3/3) やや粘性・ややしまる。As-C まばらに混入。(炭・焼土含まず) 他遺構覆土か。
 - 6 黄褐色土 (10YR4/3) 粘性わずか・ややしまる。As-C まばらに混入。炭片 (小)・焼土ブロック (小) 少量。他遺構覆土か。

- 3 トレンチ (679) J-J'
- 1 灰黄褐色土 (10YR4/2) 粘性なし・しまる。As-B 混入。現耕作土。
 - 2 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・ややしまる。As-C まばらに含む。炭片径 2cm 以下やや密に含む。焼土ブロック (小) まばらに含む。瓦片の包含多い。廃棄坑或は溝。
- 3 黄褐色土 (10YR4/3) やや粘性・ややしまる。As-C まばらに含む。(焼土含まない)

- 3 トレンチ (735) B-B'
- 1 灰黄褐色土 (10YR4/2) 粘性なし・ややしまる。As-B 混入。現耕作土。
 - 2 黒褐色土 (10YR3/2) 粘性なし・よくしまる。As-B やや密に混入。
 - 2' 黒褐色土 (10YR3/2) 粘性なし・ややしまり劣る。As-B やや密に混入。
 - 3 黒褐色土 (10YR3/2) 粘性なし・ややしまる。As-B 密に混入。
 - 4 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・ややしまる。As-C まばらに混入。焼土ブロック (小)・炭片 (小) まばらに含む。
 - 5 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・ややしまる。As-C まばらに混入。焼土ブロック (小) まばらに含む。炭片径 1cm 以下まばらに含む。
 - 6 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・ややしまり弱い。As-C まばらに混入。炭片やや密に含む。焼土ブロック径 2cm 以下まばらに含む。
 - 7 黒褐色土 (10YR2/2) やや粘性・ややしまる。As-C まばらに混入。炭片径 1cm 以下・焼土ブロック (小) まばらに含む。
 - 8 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・ややしまる。暗褐色土 (10YR3/3) 含む。As-C まばらに混入。焼土ブロック (小)・炭片 (小) 微量。
 - 9 黄褐色土 (10YR4/3) やや粘性・ややしまる。As-C まばらに混入。※ 4 層・10 層と比べると粘性・しまりやや増す
 - 9' ブロック状となり黒褐色土 (10YR3/2) 含む。
 - 10 黒褐色土 (10YR3/2) 暗褐色土 (10YR3/3) やや粘性・ややしまる。As-C まばらに混入。地山土 (C 黒) ブロック状まばらに下層境付近に含む。

- 9・9'・10 層 基壇裾か
 11 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・よくしまり硬い。地山暗褐色土 (10YR3/3) ブロック状に含む。炭片 (小) 微量。焼土ブロック (小) 少量。As-C まばらに混入。
- 11' やや粘性・ややしまる。炭・焼土ブロック (小) 含まない。
- 12 黄褐色土 (10YR5/3・4/3) 主体 焼土ブロック (小)・炭片 (小) 微量。As-C まばらに混入。礎石掘付け穴。
- a 黒褐色土 (10YR2/2) やや粘性・しまる。As-C まばらに混入。地山黒褐色土 (10YR3/2) - 暗褐色土 (10YR3/3) ブロック状に含む。
 - b 地山黒褐色土 (10YR2/2-3/2) - 暗褐色土 (10YR3/3) ブロック主体 やや粘性・よくしまり硬い。As-C まばらに混入。
 - c 地山黒褐色土 (10YR3/2) - 暗褐色土 (10YR3/3) ブロック主体 やや粘性・よくしまり硬い。As-C まばらに混入。FA ブロック径 1cm 以下少量。
 - d 地山黒褐色土 (10YR2/2-3/2) - 暗褐色土 (10YR3/3) ブロック主体 やや粘性・よくしまる。As-C まばらに混入。(※ (10YR2/2) の割合が比較的高い) FA ブロック径 1cm 以下まばらに含む。
 - e 地山暗褐色土 (10YR3/3) ブロック主体 やや粘性・よくしまる。As-C まばらに含む。地山黒褐色土 (10YR2/2-3/2) ブロック状含む。
- a-e 層 地葉
 A 黒色土 (10YR2/1) - 黒褐色土 (10YR2/2) 粘性わずか・ややしまる。As-C 混入。C 黒。地山。
 B 黒褐色土 (10YR2/2) やや粘性・ややしまる。地山。
 C 暗褐色土 (10YR3/3) やや粘性・ややしまる。地山。

- 3 トレンチ (735) I-I'
- 1a 灰黄褐色土 (10YR4/2) 粘性なし・しまる。As-B 混入。耕作土。
 - 1b 灰黄褐色土 (10YR4/2) やや粘性・しまる。As-B 混入。黒褐色土 (10YR3/2) 含む。As-C・焼土ブロック (小) まばらに含む。炭片 (小) 少量。
 - 1c 灰黄褐色土 (10YR4/2) 粘性わずか・ややしまる。As-B 混入。黒褐色土 (10YR3/2) ブロック状少量。
 - 1d 黒褐色土 (10YR3/2) 粘性なし・よくしまる。As-B 密に混入。
 - 2 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・しまる。As-C まばらに混入。炭片径 2cm 以下まばらに含む。焼土ブロック (小) 径 1cm 以下まばらに含む。壁材か。焼土化した粘土ブロック少量。
 - 3 黄褐色土 (10YR4/3) やや粘性・よくしまる。As-C まばらに混入。
 - 4 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・よくしまる。(3 層と比べるとやや粘性劣る) As-C まばらに混入。黄褐色土 (10YR4/3) 含む。炭径 1cm 以下微量。
- ※ 3-4 層 総じてブロック状。人為的に盛つた土か。

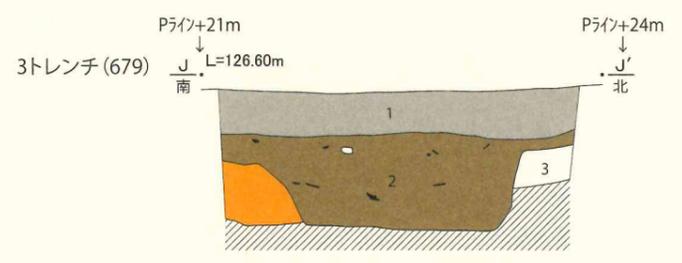
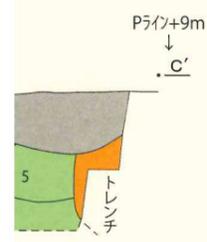
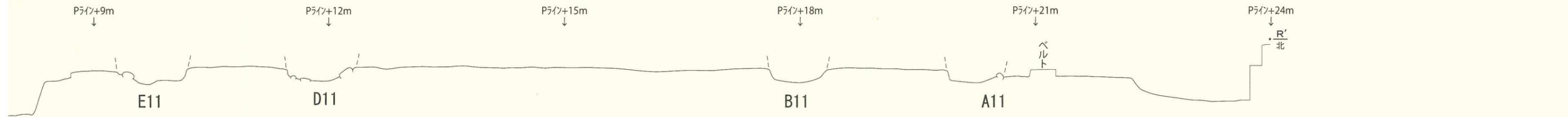
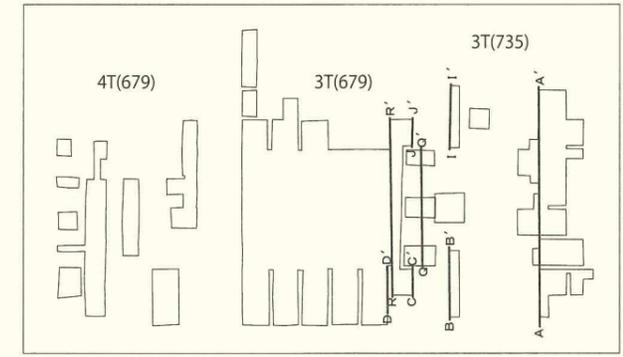
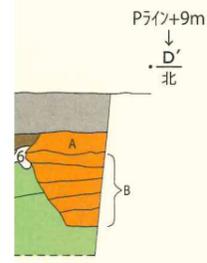
- 3 トレンチ (735) A-A'
- 1 灰黄褐色土 (10YR4/2) 粘性なし・ややしまる。As-B 混入。現耕作土。
 - 2 灰黄褐色土 (10YR4/2) 粘性なし・ややしまる。As-B 混入。焼土ブロック (小)・炭片 (小) 微量。土地改良前耕作溝フク土。
 - 3 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・しまる。As-C まばらに混入。焼土ブロック (小) まばらに含む。炭片径 1cm 以下少量。
 - 4 黄褐色粘性土 (10YR5/3) 主体 黒褐色土 (10YR3/2) 含む。しまる。As-C まばらに含む。
 - 5 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・しまる。As-C まばらに混入。黄褐色土 (10YR4/3) 含む。炭片 (小)・焼土ブロック (小) 微量。
- A 黒褐色土 (10YR2/2) C 黒主体。As-C 密に混入。粘性なし・よくしまる。地山黒褐色土 (10YR2/2)・暗褐色土 (10YR3/3) 含む。C 黒と黒褐色土系地山土が大ぶりのブロック状に混在する。不陸生成によるものか。

- ① 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・しまる。As-C まばらに混入。炭片径 1cm 以下・焼土ブロック径 1cm 以下まばらに含む。半焼けの壁材片か。径 2cm 以下少量。
- ①' 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・ややしまり劣る。As-C まばらに混入。地山黒褐・暗褐色土ブロック状含む。炭片 (小)・焼土ブロック (小) 微量。
- ② 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・ややしまる。(下半部ややしまり劣る) As-C まばらに混入。炭片 (小) 微量。
- ③ 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・しまる。As-C まばらに含む。黄褐色土 (10YR4/3・5/3) ブロック状多量に含む。主体は黄褐色土か。
- ④ 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・よくしまる。As-C まばらに混入。地山黒褐色土 (10YR3/2)・暗褐色土 (10YR3/3) 含む。
- ⑤ 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・しまる。As-C まばらに混入。黒褐色土 (10YR2/2-3/2)・暗褐色土 (10YR3/3) 系地山土含む。
- ⑥ 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・しまる。As-C まばらに混入。

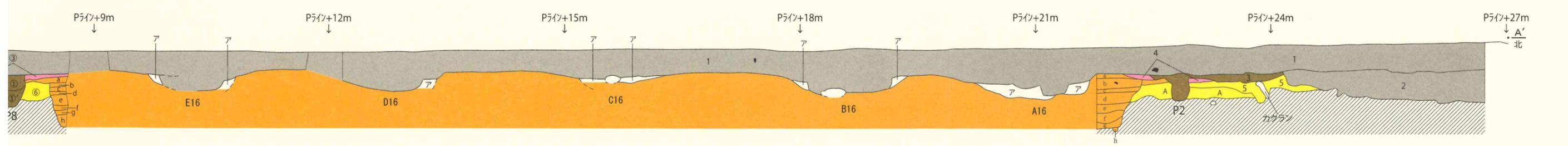
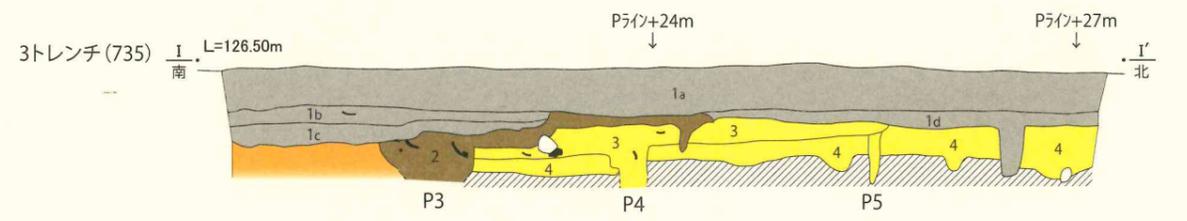
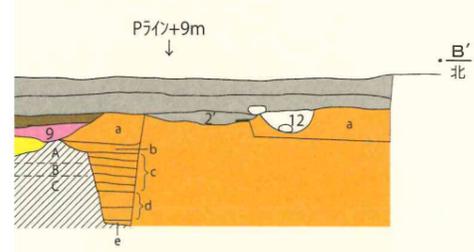
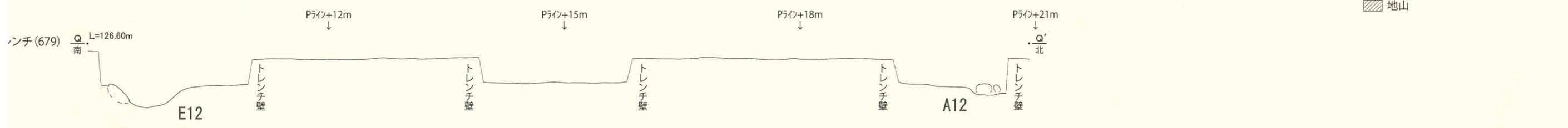
- a 黒褐色土 (10YR2/2-3/2)・暗褐色土 (10YR3/3) 系地山土ブロック主体 よくしまり硬い。As-C まばらに混入。
- b 黒褐色土 (10YR2/2-3/2)・暗褐色土 (10YR3/3) 系地山土ブロック主体 (暗褐色土やや多い) やや粘性・しまる。As-C まばらに混入。
- c 黒褐色土・暗褐色系地山土ブロック主体 やや粘性・しまる。黒褐色土 (10YR2/2) 多い。As-C まばらに含む。黄色土ブロック径 1cm 以下微量。
- d c 層とほぼ同じ。よくしまり硬い。相対的に As-C 混入量多い。
- e 黒褐色土・暗褐色系地山土ブロック主体 よくしまり硬い。As-C まばらに含む。暗褐色土ブロック相対的にない。
- f e 層と同様。地山暗褐色土相対的に少ない。
- g 黒褐色土 (10YR3/2)・暗褐色系 (多い) 地山土ブロック主体 やや粘性・よくしまる。As-C まばらに含む。
- h 黒褐色土 (10YR2/2-2/3)・暗褐色土 (やや多い) 系地山土ブロック主体 やや粘性・よくしまり硬い。As-C まばらに混入。

- a 黒褐色土 (10YR2/2-3/2) 系地山土ブロック主体 やや粘性・よくしまり硬い。As-C まばらに混入。
- b 黒褐色土 (10YR3/2)・暗褐色土 (10YR3/3) 系地山土ブロック主体 やや粘性・よくしまり硬い。黄褐色土 (10YR4/3) 少量。As-C まばらに混入。
- c 黒褐色土 (10YR3/2)・暗褐色土 (10YR3/3) 系地山土ブロック主体 やや粘性・よくしまり硬い。黄褐色土 (10YR4/3) 含む。As-C まばらに混入。
- d 黒褐色土 (10YR3/2)・暗褐色土 (10YR3/3) 系地山土ブロック主体 やや粘性・よくしまる。As-C まばらに混入。
- e 黒褐色土 (10YR3/2)・暗褐色土 (10YR3/3) 系地山土ブロック主体 やや粘性・よくしまり硬い。As-C まばらに混入。
- f 黒褐色土 (10YR3/2)・暗褐色土 (10YR3/3) 系地山土ブロック主体 やや粘性・よくしまる。As-C まばらに混入。
- g 暗褐色土 (10YR3/3)・黄褐色土 (10YR4/3) 系地山土ブロック主体 やや粘性・よくしまる。As-C 微量。黄褐色土 (10YR4/3) 含む。
- h 黄褐色土 (10YR4/3) 主体 暗褐色土 (10YR3/3) 含む。

ア 礎石掘付け穴。掘方。

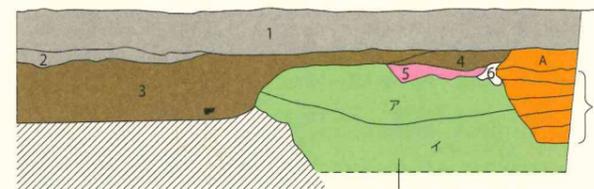


- 各セクション図共通
- As-B混入土
 - 炭片・焼土ブロック混入土
 - 基壇裾整地土
 - 地業
 - 整地土か
 - 別遺構覆土(尼寺創建前)
 - 地山

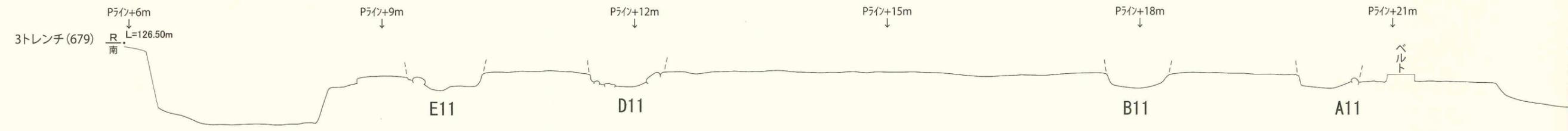


第41図 (3) 尼坊跡 断面図-1

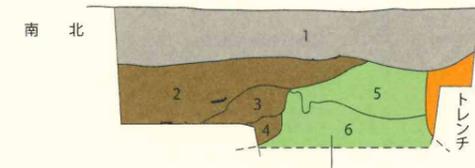
3トレンチ (679) D L=126.60m
 Pライン+6m Pライン+9m
 南 D' 北



竪穴建物跡か

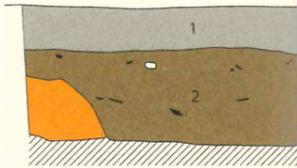


3トレンチ (679) R L=126.50m
 Pライン+6m Pライン+9m
 南 R' 北

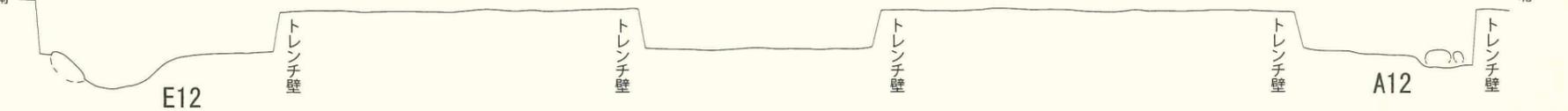


竪穴建物跡か

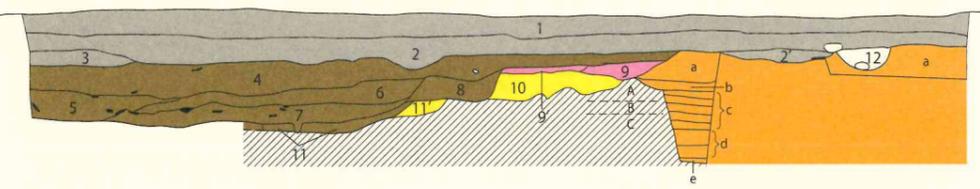
3トレンチ (679) J L=126.60m
 Pライン+21m
 南 J' 北



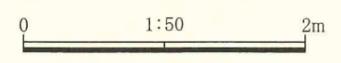
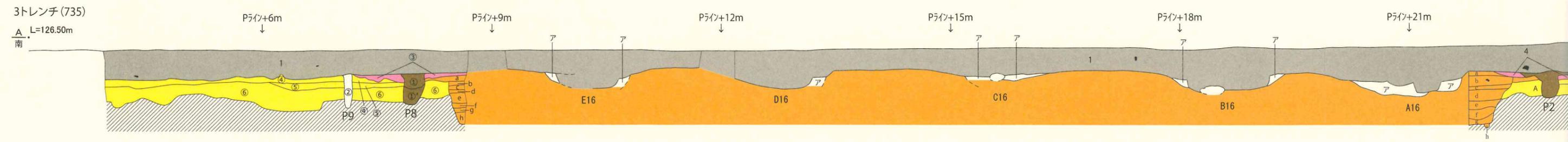
3トレンチ (679) Q L=126.60m
 Pライン+12m Pライン+15m Pライン+18m Pライン+21m
 南 Q' 北



3トレンチ (735) B L=126.50m
 Pライン+3m Pライン+6m Pライン+9m
 南 B' 北



3トレンチ (735) I L=126.50m
 Pライン+9m
 南 I' 北



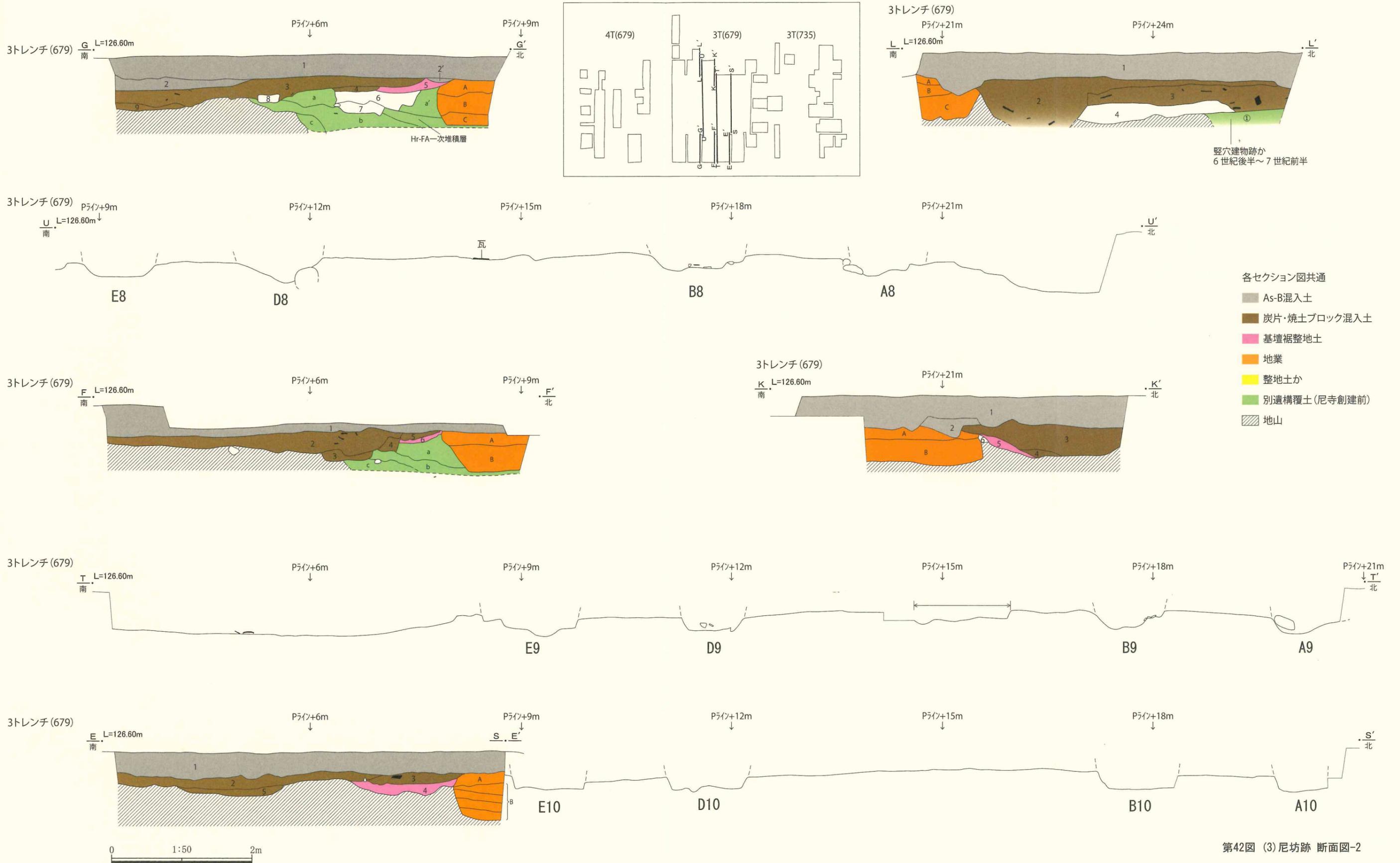
- 3 トレンチ (679) G-G'
- 1 灰黄褐色土 (10YR4/2) 粘性なし・しまる。As-B 混入。現耕作土。
 - 2 灰黄褐色土 (10YR4/2) 粘性なし・ややしまる。As-B 密に混入。
 - 2' 2層とほぼ同じ
 - 3 暗褐色土 (10YR3/3) やや粘性・ややしまる。As-Cまばらに混入。焼土ブロック径1cm以下・炭片径1cm以下まばらに含む。
 - 4 暗褐色土 (10YR3/3) やや粘性・ややしまる。炭片多量。焼土ブロック状少量。
 - 5 黄褐色土 (10YR4/3) やや粘性・ややしまる。As-Cまばらに混入。炭片 (小) 少量。整地土か。
 - 6 黄褐色土 (10YR4/3) やや粘性・ややしまる。As-Cまばらに混入。
 - 7 暗褐色土 (10YR3/3)・黄褐色土 (10YR4/3) 黄色系・黒色系地山土ブロック状まばらに含む。
 - 6・7層 火災前或は整地前の落ち込み。
 - 8 黄褐色土 (10YR4/3) やや粘性・しまる。周辺より硬い。As-Cまばらに混入。瓦片含む。
 - 9 暗褐色土 (10YR3/3) やや粘性・ややしまる。As-Cまばらに混入。黄色系地山土ブロック状含む。
炭片 (小)・焼土ブロック (小) まばらに含む。
- a 灰黄褐色土 (10YR4/2)・黄褐色土 (10YR4/3) 粘性わずか・ややしまる。As-Cまばらに混入。(炭片含まない)
- a' a層とほぼ同じ
- b 黒褐色土 (10YR3/2)・暗褐色土 (10YR3/3) 粘性わずか・ややしまる。As-Cまばらに混入。黒色系地山土ブロック状含む。
- c b層に加え、黄色系地山土ブロック状含む。
- ※ 地業 混入物の状況によりA～Cに分層した
暗褐色土 (10YR3/3) 主体 よくしまつて硬い。(C層のみ相対にしまりやや劣る。)
黄褐色系地山土ブロック状含む。As-Cまばらに含む。C層のみHr-FAブロック状含む。

- 3 トレンチ (679) L-L'
- 1 H-H' の1層と同じ。現耕作土。
 - 2 H-H' の3層とほぼ同じだが炭・焼土の混入量減少。
 - 3 黄褐色土 (10YR4/3) やや粘性・よくしまる。As-Cまばらに混入。
炭片 (小)・焼土ブロック (小) まばらに含む。瓦片まばらに含む。
 - 4 暗褐色土 (10YR3/3) やや粘性・よくしまる。As-Cまばらに混入。炭片・焼土ブロック (小) 少量。瓦はみられない。
- A H-H' のA層とほぼ同じ。しまる。
- B H-H' のA層とほぼ同じだが、黒褐色土 (10YR2/2) ブロック状含む。しまる。
- C H-H' のB層と同じ。よくしまつて硬い。
- ①暗褐色土 (10YR3/3) やや粘性・ややしまり弱い。As-Cまばらに混入。黄褐色系・黒褐色系地山土含む。
堅穴建物埋土。(6世紀後半-7世紀前半) 模倣坏出土。

- 3 トレンチ (679) F-F'
- 1 灰黄褐色土 (10YR4/2) 粘性なし・しまる。As-B 混入。現耕作土。
 - 2 暗褐色土 (10YR3/3) やや粘性・ややしまる。As-Cまばらに混入。炭片径1cm以下・焼土ブロック径1cm以下まばらに含む。
 - 3 黄褐色土 (10YR4/3) やや粘性・しまる。As-Cまばらに混入。
黄褐色土 (10YR5/4)・黄褐色土 (10YR6/4) (黄褐色系地山土或はFAか) ブロック状やや密に含む。
暗褐色土 (10YR3/3) 含む。焼土ブロック (小)・炭片 (小) まばらに含む。
 - 4 黄褐色土 (10YR4/3) やや粘性・しまる。As-Cまばらに混入。暗褐色土 (10YR3/3) 含む。
 - 5 暗褐色土 (10YR3/3) やや粘性・ややしまる。As-Cまばらに混入。炭片密に多量。焼土ブロック状まばらに含む。壁材片少量。
 - 6 黄褐色系 (10YR4/3)・褐色系 (10YR4/4) やや粘性・ややしまる。As-Cまばらに混入。炭片 (小) 微量。整地土か。地業
- A 黒褐色土 (10YR3/2)・暗褐色土 (10YR3/3) やや粘性・しまる。As-Cまばらに混入。
- B 黄褐色土 (10YR4/3)・暗褐色土 (10YR3/3) 主体 やや粘性・よくしまつて硬い。As-Cまばらに混入。
黄色系地山土或はFA径2cm以下ブロック状まばらに含む。
他遺構覆土。(堅穴建物か)
- a 灰黄褐色土 (10YR4/2)・黄褐色系 (10YR4/3) 粘性わずか・ややしまる。As-Cまばらに混入。炭片 (小) 微量。
- b Hr-FA 一次堆積層
- c 暗褐色土 (10YR3/3) 粘性わずか・ややしまる。As-Cまばらに混入。黒褐色 (10YR3/2) 系地山土ブロック状含む。

- 3 トレンチ (679) K-K'
- 1 灰黄褐色土 (10YR4/2) 粘性なし・ややしまる。As-B 混入。現耕作土。
 - 2 灰黄褐色土 (10YR4/2) 粘性なし・ややしまり弱い。As-B 密に混入。
 - 3 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・ややしまる。As-Cまばらに混入。炭片・焼土ブロック径1cm以下やや密に混入。
壁材片径3cm以下含む。瓦片多い。
 - 4 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・ややしまる。As-Cまばらに混入。炭片径1cm以下・焼土ブロック (小) まばらに含む。
黄褐色系 (10YR4/3)・褐色系 (10YR4/4) 含む。
 - 5 褐色土 (10YR4/4)・黄褐色土 (10YR4/3) やや粘性・ややしまる。As-C含む。黒褐色土 (10YR3/2)・暗褐色土 (10YR3/3) 含む。
 - 6 黒褐色土 (10YR3/2)・暗褐色土 (10YR3/3) やや粘性・ややしまり弱い。As-Cまばらに含む。
- A 黒褐色土 (10YR3/2)・暗褐色土 (10YR3/3) やや粘性・しまる。As-Cまばらに混入。地業と考えるとよいと思われる。
- B 黒褐色土 (10YR3/2)・暗褐色土 (10YR3/3)・黒褐色土 (10YR2/2) 主体 ブロック状に混在。黄褐色系地山土ブロック状少量。
As-Cまばらに混入。よくしまつて硬い。堀込地業。

- 3 トレンチ (679) E-E'
- 1 灰黄褐色土 (10YR4/2) 粘性なし・ややしまる。As-B 密に混入。現耕作土。
 - 2 黒褐色土 (10YR2/3) やや粘性・ややしまる。As-Cまばらに混入。焼土ブロック・炭片径1cm以下まばらに含む。
※瓦片等遺物包含。
 - 3 炭片多量。焼土ブロック密に含む。壁材・瓦片含む。F-F' 4層に対応。
 - 4 黄褐色土 (10YR4/3)・黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・ややしまる。As-Cまばらに混入。
炭片 (小) 少量。焼土ブロック (小) 微量。F-F' 5層に対応。
 - 5 黒褐色土 (10YR2/3) 粘性わずか・ややしまる。As-Cまばらに混入。炭片 (小)・焼土ブロック (小) 少量。地業
- A 黒褐色土 (10YR3/2)・暗褐色土 (10YR3/3) 粘性わずか・よくしまる。As-C混入。
- B 黒褐色土 (10YR3/2) 黒色土 (As-C黒) ブロック状含む。黒色土ブロックの混入具合などで分層できる。
よくしまつて硬い。As-C混入。



4 トレンチ (679) C-C'

- 1 灰黄褐色土 (10YR4/2) 粘性なし・しまる。As-B 混入。現耕作土。
 - 2 暗褐色土 (10YR3/3) やや粘性・ややしまる。As-C まばらに混入。焼土ブロック (小)・炭片 (小) 少量。
 - 3 黄褐色土 (10YR4/3)・褐色土 (10YR4/4) やや粘性・ややしまる。As-C まばらに混入。整地土か。
 - 4 黄褐色土 (10YR4/4) 系地山土主体 暗褐色土 (10YR3/3) 含む。しまり劣る。
 - 5 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・ややしまる。As-C まばらに混入。炭片径 1cm 以下・焼土ブロック (小) まばらに含む。地業
 - A 暗褐色土 (10YR3/3)・暗褐色土 (10YR3/4) やや粘性・よくしまる。As-C まばらに混入。黒褐色系地山土ブロック状含む。
 - B 暗褐色土 (10YR3/3) よくしまつて硬い。As-C まばらに混入。黒褐色系・黄褐色系地山土ブロック状含む。
 - C 暗褐色土 (10YR3/3)・暗褐色土 (10YR3/4) やや粘性・ややしまる。As-C 少量。黒褐色系地山土ブロック状含む。礎石掘方か。
 - D A 層とほぼ同じ。加えて黄褐色系地山土ブロック状含む。
- ※ 残存する礎石は、落とし込みの可能性あり。

4 トレンチ (679) B-B'

- 1 灰黄褐色土 (10YR4/2) 粘性なし・ややしまる。As-B 混入。現耕作土。
- 2 暗褐色土 (10YR3/3) やや粘性・ややしまる。As-C まばらに混入。焼土ブロック (小)・炭片 (小) まばらに含む。
- 3 黄褐色土 (10YR4/3)・褐色土 (10YR4/4) 主体 やや粘性・ややしまる。As-C まばらに混入。暗褐色土 (10YR3/3) 含む。
- 4 3 層とよく似る。
- 5 暗褐色土 (10YR3/3) やや粘性・ややしまる。黄褐色系 (10YR4/3)・褐色系 (10YR4/4) 地山土ブロック状含む。As-C まばらに混入。

4 トレンチ (679) E-E'

- 1 灰黄褐色土 (10YR4/2) 粘性なし・ややしまる。As-B 混入。現耕作土。
- 2 暗褐色土 (10YR3/3) やや粘性・ややしまる。As-C まばらに混入。炭片 (小)・焼土ブロック (小) まばらに含む。
- 3 褐色土 (10YR4/4) やや粘性・しまる。As-C まばらに混入。
- 4 D-D' の 5 層と同様、よくしまつて硬い。堀込地業。
- A 灰黄褐色土 (10YR4/2)・黄褐色土 (10YR4/3) やや粘性・ややしまる。As-C まばらに混入。
黄褐色系・黒褐色系・黒褐色系地山土ブロック状まばらに含む。
FA ブロック状少量。住居覆土 (FA 降下以前の住居であろう)。カメバラ状=亀腹

4 トレンチ (679) A-A'

- 1 暗褐色土 (10YR3/3) 粘性なし・ややしまる。As-B 混入。現耕作土。
- 2 黒褐色土 (10YR3/2) 粘性なし・ややしまり弱い、As-B 密に混入。
- 3 暗褐色土 (10YR3/3) やや粘性・ややしまる。As-C まばらに混入。焼土ブロック (小)・炭片 (小) まばらに含む。
- 4 暗褐色土 (10YR3/3) やや粘性・しまる。As-C まばらに混入。褐色系・黄褐色系地山土ブロック状まばらに含む。
- 5 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・しまる。As-C まばらに混入。基壇か。
- 6 黒褐色土 (10YR3/2)・暗褐色土 (10YR3/3) 粘性わずか・よくしまり硬い。As-C まばらに混入。黄色土ブロック径 1cm 以下微量。地業。
- 6' 黄色土 (地山? FA?) ブロック状含む。地業。
- 6'' 地山黄褐色・褐色土ブロック状含む。地業。
- 7 黒褐色土 (10YR3/2)・暗褐色土 (10YR3/3) 黄褐色系・褐色系地山土ブロック状含む。やや粘性・6 層よりしまりやや劣る。
As-C まばらに含む。

4 トレンチ (679) D-D'

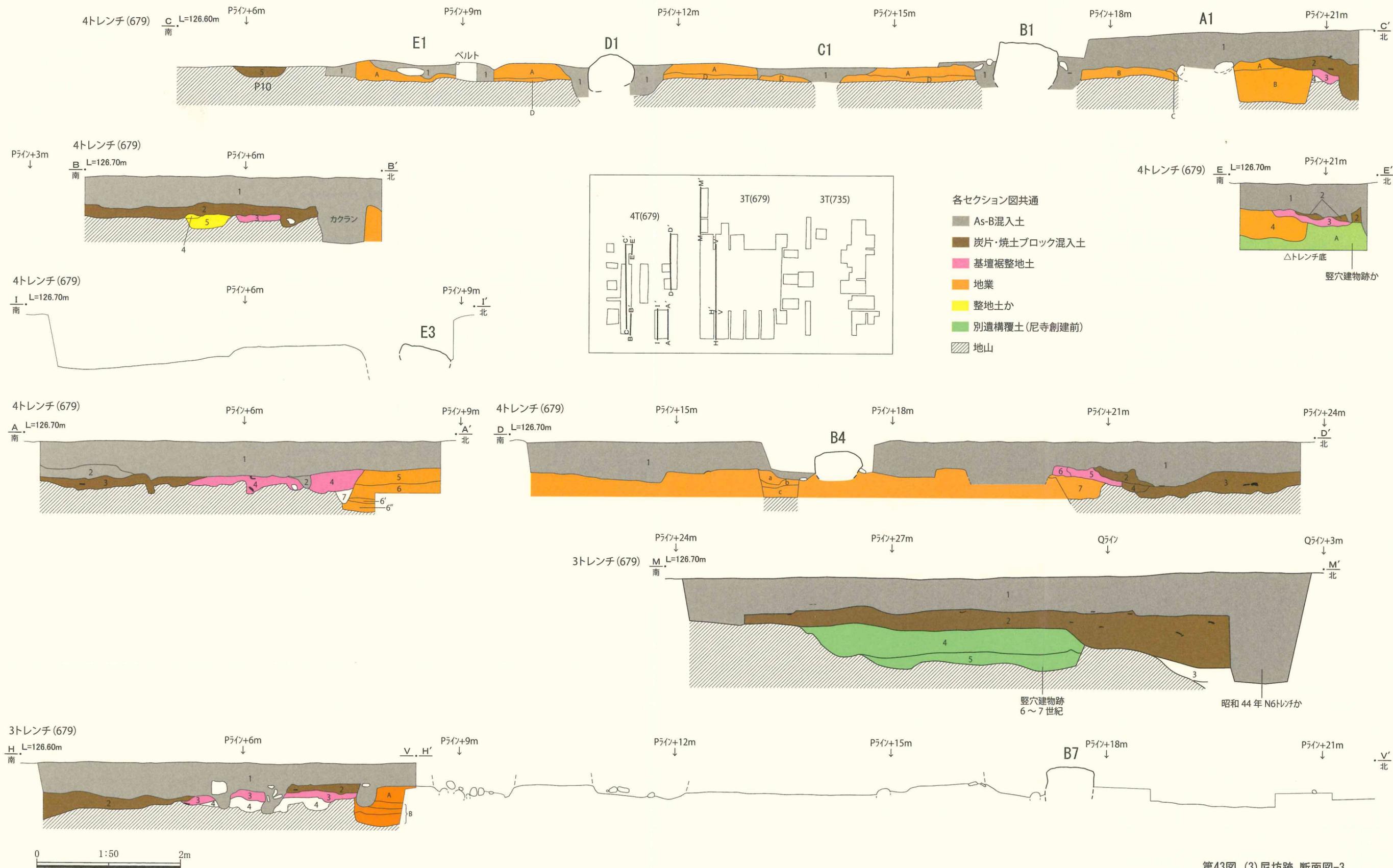
- 1 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・ややしまり弱い、As-C 密に混入。
 - 2 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・ややしまる。As-C まばらに混入。焼土ブロック (小)・炭片 (小) まばらに含む。
 - 3 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・ややしまる。As-C まばらに混入。焼土ブロック (小)・炭片径 1cm 以下まばらに含む。
 - 4 褐色土 (10YR4/4)・黄褐色土 (10YR4/3) 黒褐色土 (10YR3/2) 含む。炭片径 1cm 以下・焼土ブロック (小) まばらに含む。
 - 5 褐色土 (10YR4/4)・黄褐色土 (10YR4/3) やや粘性・しまる。As-C まばらに混入。
 - 6 灰黄褐色土 (10YR4/2) やや粘性・しまる。As-C まばらに混入。
 - 7 黒褐色土 (10YR3/2) 粘性わずか・よくしまつて硬い。As-C まばらに混入。(地業)
- 地業 暗褐色土 (10YR3/3)・暗褐色土 (10YR3/4) As-C まばらに混入。黒褐色系地山土ブロック状含む。
- a b・c 層と比べしまり劣る。
 - b よくしまつて硬い。
 - c よくしまつて硬い。

3 トレンチ (679) M-M'

- 1 灰黄褐色土 (10YR4/2) 粘性なし・しまる。As-B 混入。現耕作土。
 - 2 暗褐色土 (10YR3/3) やや粘性・しまる。As-C まばらに混入。炭片 (小)・焼土ブロック (小) 少量。瓦片まばらに含む。
 - 3 黒褐色土 (10YR3/2) 粘性わずか・ややしまる。As-C まばらに混入。黒褐色系地山土ブロック状含む。
 - 4 暗褐色土 (10YR3/3) 粘性わずか・ややしまる。As-C まばらに混入。炭片 (小)・焼土ブロック (小) 少量。
 - 5 黒褐色土 (10YR3/2)・暗褐色土 (10YR3/3) 粘性わずか・ややしまる。As-C まばらに混入。炭片 (小)・焼土ブロック (小) 少量。
黒褐色系・黄褐色系地山土ブロック状まばらに含む。5 層・4 層 住居 (6~7 世紀) 覆土
- ※ 2 層と 4 層はほぼ同じ。瓦片混入の有無で分層した。

3 トレンチ (679) H-H'

- 1 灰黄褐色土 (10YR4/2) 粘性なし・ややしまる。As-B 混入。現耕作土。
- 2 暗褐色土 (10YR3/3) やや粘性・ややしまる。As-C まばらに混入。焼土ブロック (小)・炭片 (小) まばらに含む。
- 3 黄褐色土 (10YR4/3) やや粘性・ややしまる。As-C まばらに混入。黄褐色土 (10YR5/4) ブロック状含む。整地土か。
- 4 暗褐色土 (10YR3/3)・黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・ややしまる。As-C まばらに混入。
- A 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・よくしまる。As-C まばらに混入。黒褐色系地山土ブロック状含む。
- B 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・よくしまつて硬い。黒褐色系地山土ブロック状密に含む。黄色系地山土ブロック状まばらに含む。



第43図 (3) 尼坊跡 断面図-3

- 4 トレンチ (679) H-H'
1 D-D' の1層と同じ。現耕作土。
2 黒褐色土 (10YR3/2) 粘性なし・ややしり弱い。As-B 密に混入。
3 暗褐色土 (10YR3/3) やや粘性・ややしり弱い。As-C まばらに混入。
炭片径 1cm 以下・焼土ブロック (小) まばらに含む。
4 3層とほぼ同じ。黒褐色土 (10YR3/2) ブロック状少量。
5 D-D' の5層と同じ。堀込地業。よくしまつて硬い。
6' 炭片径 1cm 以下・焼土ブロック (小) まばらに含む。よくしまつて硬い。

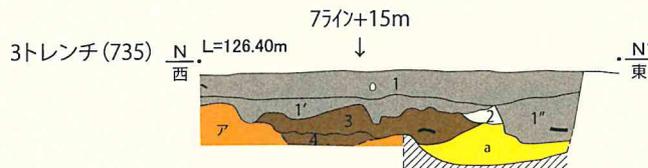
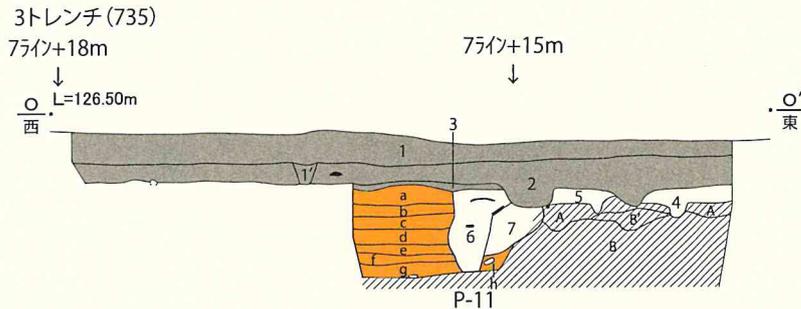
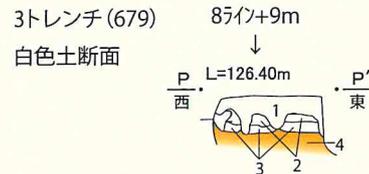
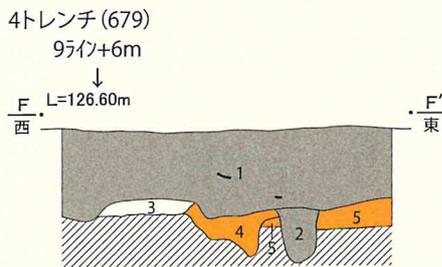
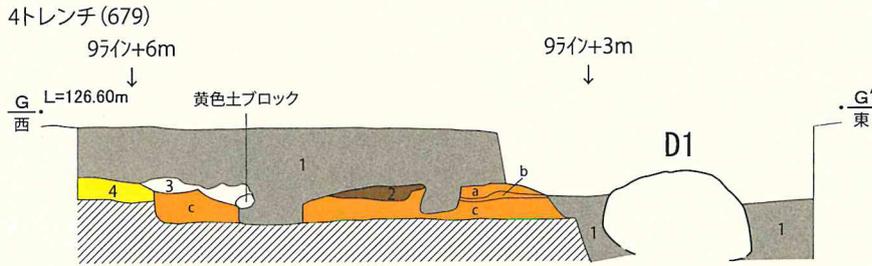
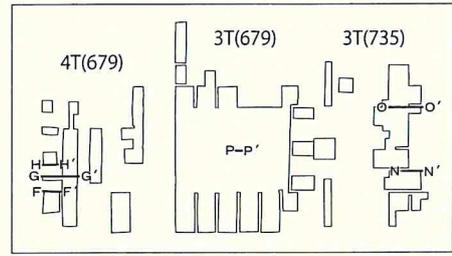
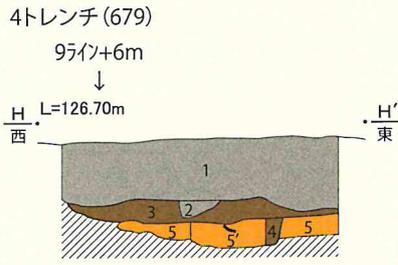
- 4 トレンチ (679) G-G'
1 現耕作土
2 暗褐色土 (10YR3/3) やや粘性・ややしまる。As-C まばらに混入。炭片 (小)・焼土ブロック (小) まばらに含む。
3 暗褐色土 (10YR3/3) やや粘性・しまる。As-C まばらに混入。黒褐色系地山土ブロック状含む。
4 黄褐色土 (10YR4/3)・褐色土 (10YR4/4) やや粘性・よくしまる。As-C まばらに含む。
黄褐色系・黒褐色系地山土ブロック状含む。瓦片包含。
a 暗褐色土 (10YR3/3) 黄褐色系・黒褐色系地山土ブロック状含む。As-C まばらに混入。
b 黄褐色系地山土ブロック主体
c 暗褐色土 (10YR3/3)・暗褐色土 (10YR3/4) よくしまつて硬い。As-C まばらに混入。
黒褐色系・黄褐色系地山土ブロック状含む。

- 4 トレンチ (679) F-F'
1 灰黄褐色土 (10YR4/2) 粘性なし・ややしまる。As-B 混入。現耕作土。
2 暗褐色土 (10YR3/3) やや粘性・ややしり弱い。As-C まばらに混入。黄褐色系地山土ブロック状含む。
3 暗褐色土 (10YR3/3) やや粘性・しまる。As-C まばらに混入。
4 暗褐色土 (10YR3/3) 黒褐色土 (10YR3/2) ブロック状混在。やや粘・しまる。
黄褐色系地山土ブロック状や密に含む。As-C 含む。地業か。
5 暗褐色土 (10YR3/3) 黒褐色土 (10YR3/2) ブロック状混在。
黄褐色系地山土ブロック (径 2cm 以下) まばらに含む。As-C まばらに混入。
よくしまつて硬い。地業。

- 3 トレンチ (679) 白色土断面 P-P'
1 灰黄褐色土 (10YR4/2) 粘性なし・しまる。As-B 混入。現耕作土。
2 白色土 粘性なし。荒い粒子径 1cm 以下からなる。部分的漸移的に赤味 (被熱か)。
3 黒褐色土 (10YR3/2) 粘性わずか・よくしまる。As-C 含む。地業或は地業直上の床土か。
4 暗褐色土 (10YR3/3) よくしまつて硬い。As-C まばらに混入。黒褐色系地山土含む。地業。

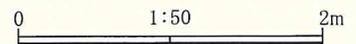
- 3 トレンチ (735) O-O'
1 黒褐色土 (10YR3/2) 粘性なし・ややしまる。As-B 混入。角安粒? 径 2mm 以下・白色バミス少量。
As-C 粒? 径 2mm 以下・白黄色バミス少量。
1' 2層をブロック状に含む。土地改良整地土。
2 黒褐色土 (10YR3/2) 粘性なし・よくしり硬い。As-B 混入。暗褐色土 (10YR3/3) ブロック状含む。
As-C まばらに含む。焼土ブロック (小) 微量。炭片 (小) 微量。
3 黒褐色土 (10YR3/2) 粘性なし・しまる。As-B 混入。焼土ブロック (小)・炭片 (小) 少量。
4 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・ややしまる。As-C まばらに混入。As-B ? 径 1mm 以下軽石粒含む。ザラつく。
5 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・ややしまる。As-C まばらに混入。
6 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・ややしまる。As-C まばらに混入。土層部に炭片 (小)・焼土ブロック (小) 微量。
黄褐色土 (10YR4/3) やや粘性・しまる。含む。
7 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・しまる。As-C まばらに混入。
a 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・しまる。As-C まばらに混入。黒褐色系地山土 (10YR2/2) ブロック状含む。
b 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・よくしまる。As-C まばらに混入。
黒褐色 (10YR2/2・3/2) 暗褐色 (3/3) 系地山土ブロック状含む。
c 黒褐色 (10YR2/2・3/2) 暗褐色 (3/3) 系地山土ブロック主体 やや粘性・よくしり硬い。As-C まばらに混入。
d d層と似る。やや粘性・しまる。
e c層と似る。やや粘性・よくしり硬い。
f c層と似る。(10YR3/2・3/3) 混入量やや多い。やや粘性・よくしり硬い。
g 黒褐色系地山土ブロック主体 (10YR3/2・3/3) 多い。(10YR2/2) 含む。
h f層と似る。やや粘性・よくしり硬い。
A 黒褐色土 (10YR2/2) やや粘性・ややしまる。As-C 密に混入。(C黒)
B 黒褐色土 (10YR3/2) - 暗褐色土 (10YR3/3) やや粘性・ややしまる。
B' A層を含む。

- 3 トレンチ (735) N-N'
1 灰黄褐色土 (10YR4/2) 粘性なし・ややしまる。As-B 混入。現耕作土。
1' 灰黄褐色土 (10YR4/2) 粘性なし・よくしまる。As-B 混入。小レキ径 1cm 以下まばらに少量。
1'' 灰黄褐色土 (10YR4/2) 粘性なし・よくしまる。As-B 混入。小レキ径 1cm 以下まばらに含む。
焼土ブロック (小) 少量。
2 黒褐色土 (10YR3/2) 主体 黄褐色土 (10YR4/3) 含む。やや粘性・よくしまる。As-C まばらに含む。
焼土ブロック (小)・炭片 (小) 少量。
3 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・よくしまる。As-C まばらに混入。炭片径 1cm 以下まばらに含む。
壁材か。漸移に焼土化する。焼土ブロック径 2cm 以下まばらに含む。
焼土ブロック (小) 径 1cm 以下まばらに含む。
4 灰黄褐色土 (10YR4/2) やや粘性・ややしまる。As-C まばらに混入。炭片 (小)・焼土ブロック (小) まばらに含む。
a 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・ややしまる。As-C まばらに混入。
A 黒褐色土 (10YR3/2) 主体 硬い

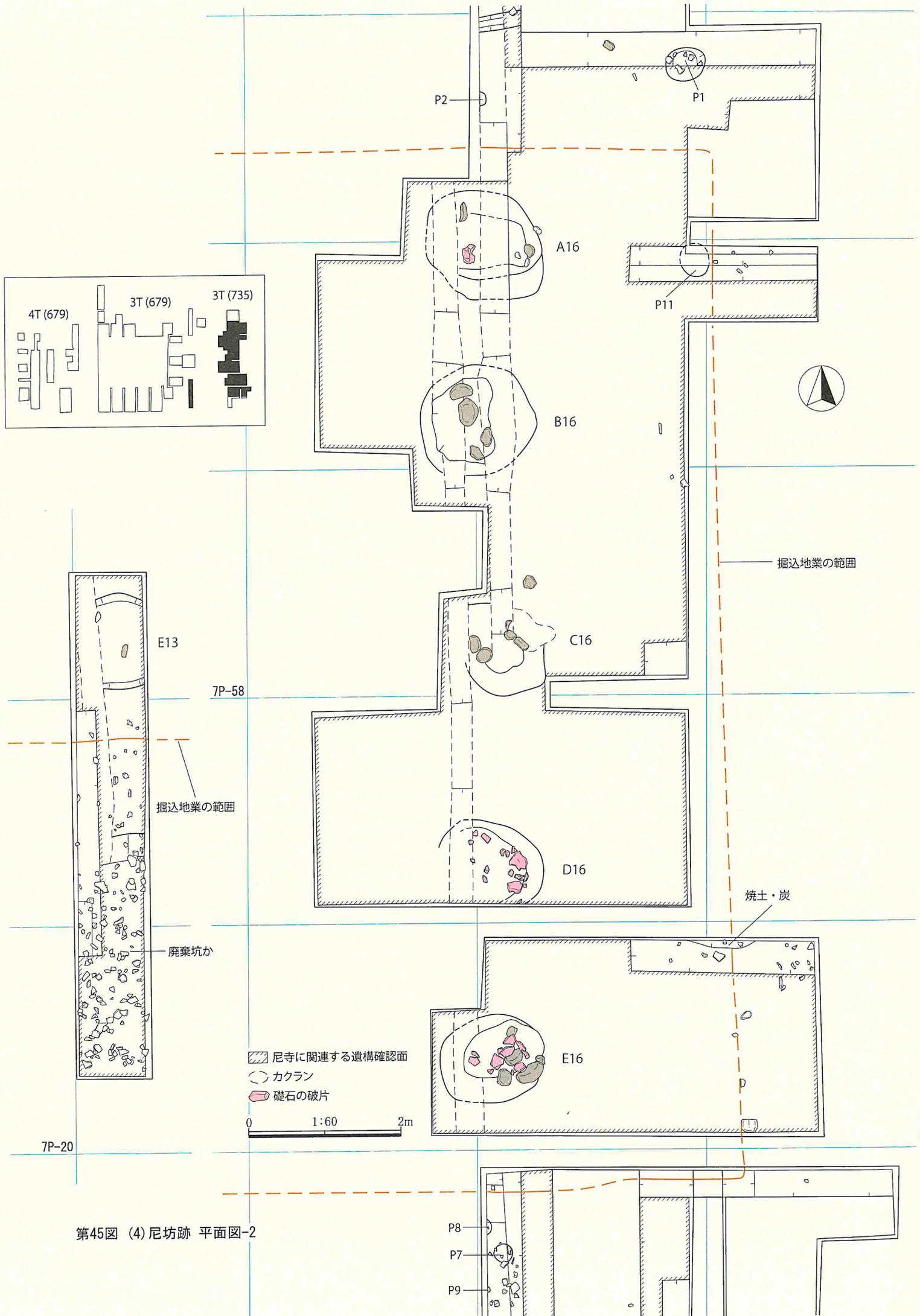


各セクション図共通

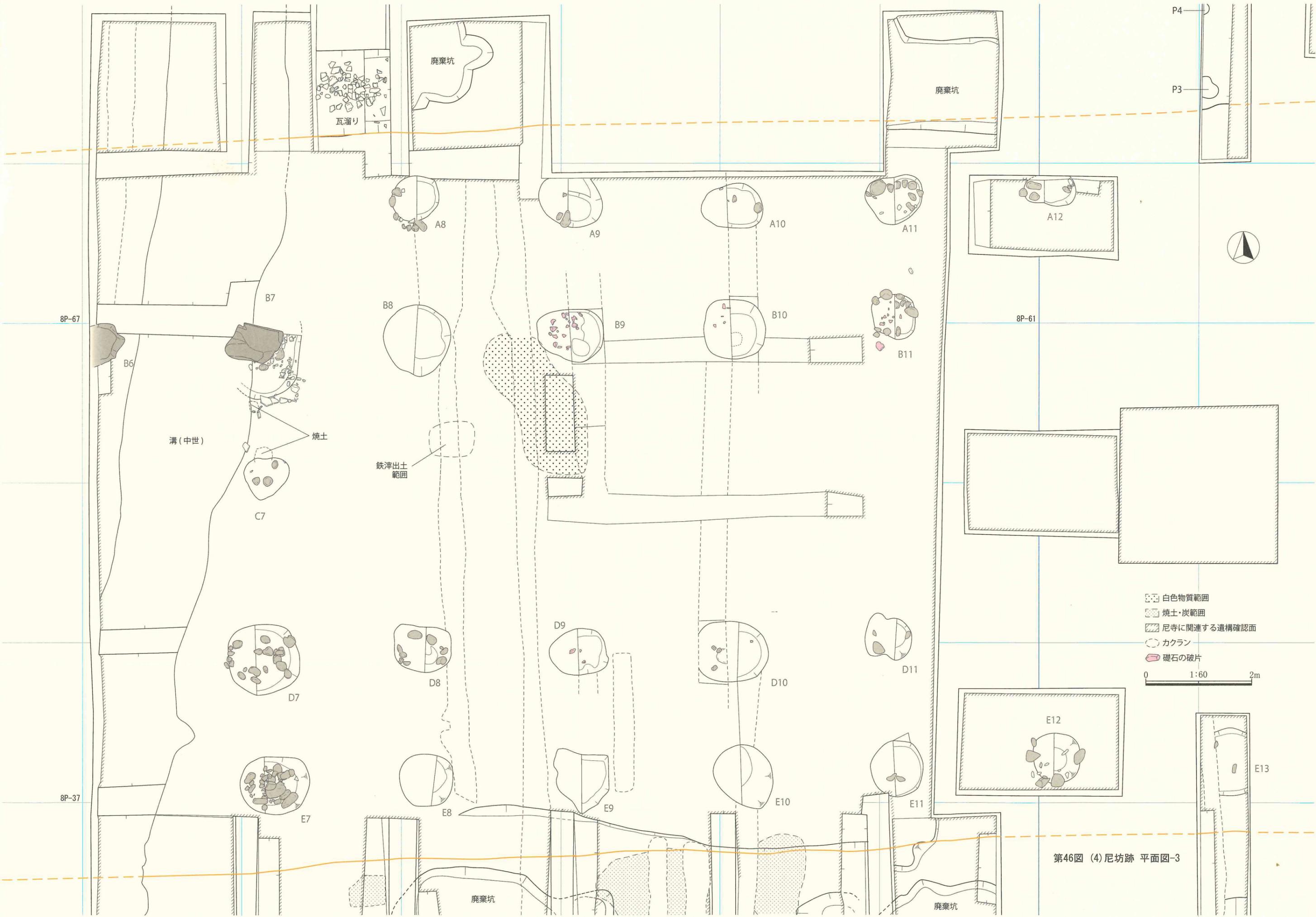
- As-B混入土
- 炭片・焼土ブロック混入土
- 地業
- 整地土か
- 地山



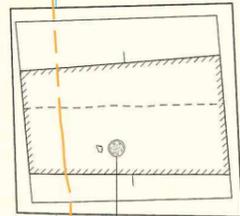
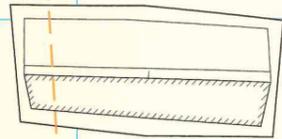
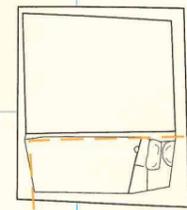
第44図 (3) 尼坊跡 断面図-4



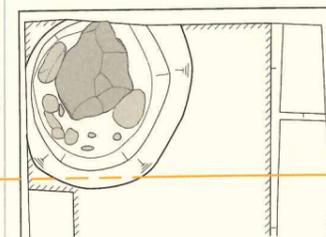
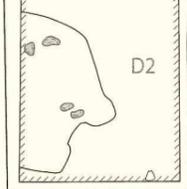
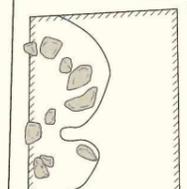
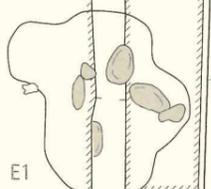
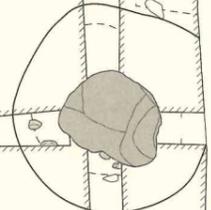
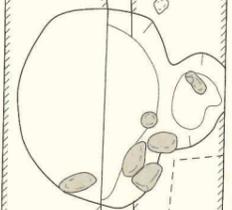
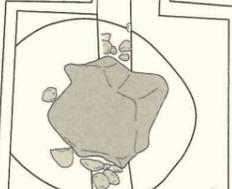
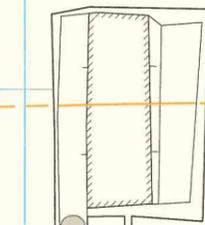
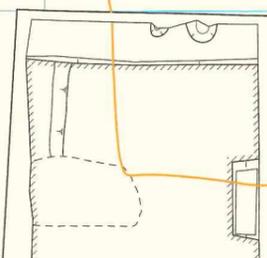
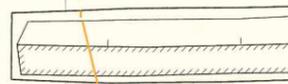
第45図 (4) 尼坊跡 平面図-2



第46図 (4) 尼坊跡 平面図-3



瓦56-290



P6

A4

B4

9P-61

B2

9P-31

8P-67

B6

B7

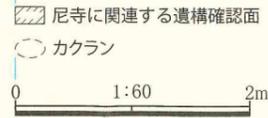
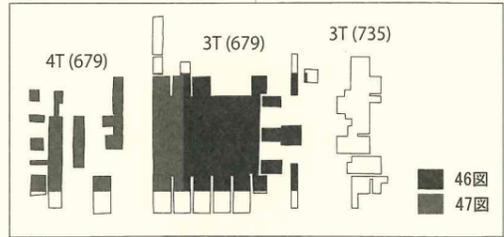
焼土

C7

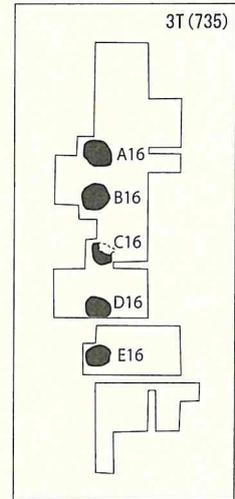
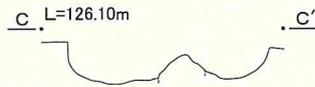
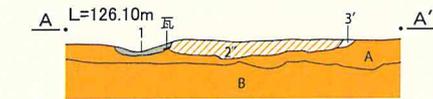
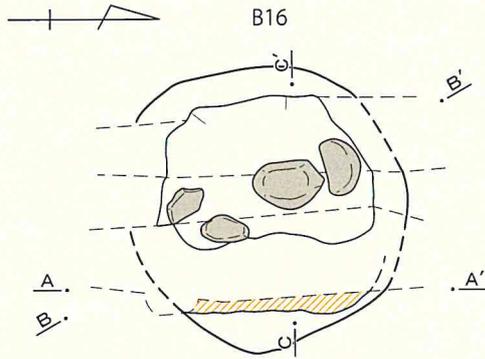
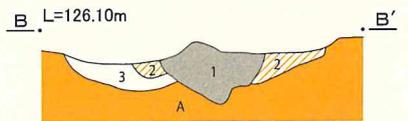
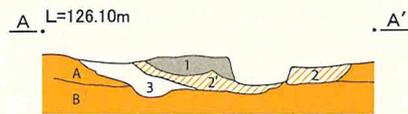
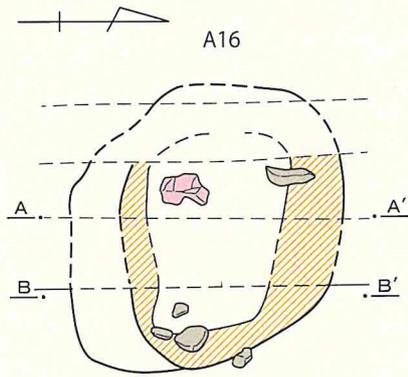
D7

E7

溝(中世)



第47図 (3) 尼坊跡 平面図-4

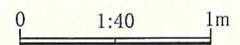
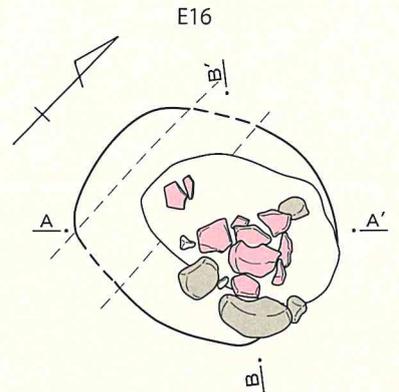
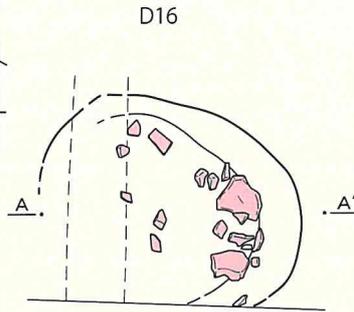
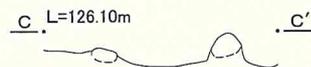
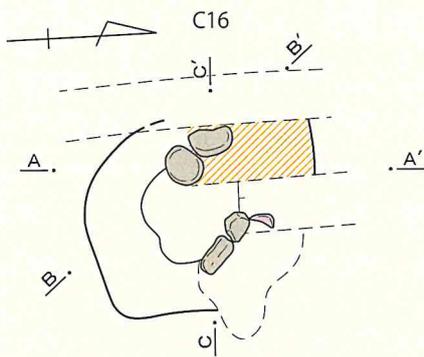


各平面図・セクション図共通

- 礎石の破片
- カクラン
- 礎石据付穴表層土
- 地業

A16 B16 C16

- 1 褐灰色土 (10YR4/1)・灰黄褐色土 (10YR4/2) 粘性なし・しまる。As-B 混入。
- 2 褐色土 (10YR4/4)・黄褐色土 (10YR4/3) 主体 やや粘性・しまる。
As-C まばらに混入。
- 2' 黒褐色系地山土ブロック状含む。黄褐色 (10YR5/3・5/4) ブロック状含む。
- 2'' 焼土ブロック (小) 少量。
- 3 黒褐色系地山土主体 やや粘性・ややしまる。As-C まばらに混入。
黄褐色土 (10YR4/3) 含む。
灰黄褐色 (10YR5/2)・黄褐色 (10YR5/4) 系地山土ブロック状少量。
- 3' 黄褐色系粘性土主体
- A 黒褐色系地山土主体 よくしまる。As-C まばらに混入。地業
- B 黒褐色系地山土主体 よくしまり硬い。地業



第48図 (3) 尼坊跡 16列柱跡 平面図・断面図

(4) 伽藍地北辺・北東隅(第 49・52・53 図)

1) 調査経過

① 調査の目的 伽藍地の北辺範囲を明らかにするため、築垣など区画施設の存在を確認する。

② 調査区の設定 第 2 次調査において、伽藍地の北東隅の区画施設を確認するため、土地改良以前の地割図(第 5 図)及び地形の現況などをもとに 5 トレンチを設定し調査を行ったところ、南北方向の 5-1 トレンチで、築垣の基礎とみられる地山削り出しによる堤状の高まりを確認した。このため、東側に 5-2 トレンチを設定してこの高まりの延長部を確認し、さらに東側に延ばして区画外側の状況を調査した。

第 3 次調査において、尼坊東辺を北に延長した線上に 9 トレンチを設定したところ、5 トレンチで確認した堤状高まりの西延長部を確認し、上部に版築状の盛土の残存を認めた。また、5 トレンチと 9 トレンチの基部外側裾部で多数の瓦が廃棄された状態で出土し、盛土上に瓦を伴う構造物が存在した可能性が強くなった。これにより、伽藍地北辺区画として築地塀が存在していたことが明らかとなった。

2) 調査概要 残存状況が最も良好な 9 トレンチでは、築垣基部が高さ 1m ほどで残存し、上部 20cm ほどに版築が認められ、底部から 80cm ほど上で内外両縁に犬走状の平坦部がみられた。なお、残存部上面の標高値は 9 トレンチと比べ 5 トレンチのほうが 60cm ほど低く、5 トレンチでは盛土部分は確認されなかった。また、犬走状の平坦面は、9 トレンチ東側や 5 トレンチではみられなかったが、上部の残存状況が良くないことを考慮する必要がある。

築垣基部は内外ともに不整な溝状に掘られ、上幅は内側で 2.1m 前後、外側で 2.3m 前後をはかり、深さは、築垣基礎と対する整地面から、内側で 30~65cm・外側で 35cm~1m である。また、溝基底の標高は 9 トレンチと比べ、5 トレンチの方が内側で 50cm・外側で 54cm 低い。

なお、今回調査個所では明確な寄柱痕跡はみられなかった。また、改築の痕跡及び先行する掘立柱塀の存在も未確認である。

3) 各トレンチの状況

① 9 トレンチ(第 52・53 図) As-B 降下以前の堆積と判断される黒褐色土層下で、築垣残存部の上面を確認した。同残存部についてトレンチ西壁断面(SPA ライン)で観察すると、基部幅 4.58m・残存高 1.10m で基部は 40°~50° で立ち上がり、基底から 80cm ほど上で内外両縁が犬走状に平坦となり、幅は内側が 50cm・外側が 1.0m ほどで、平坦部にはさまれた幅 2.05m の部分はさらに 30cm ほど立ち上がり、残存部での上端幅は 1.60m を測る。基底上 60cm までは地山を削り出しで構築する。この際、北側の 3 分の 1 ほどの地山面は 30cm ほど低くなる。それより上は盛土で構築され、幅狭となる上部 20cm ほどは版築が認められた。

築垣基部の内外は不整な溝状に掘られ、上幅は内側で 2.18m・外側で 1.9m 以上、深さは各々築垣基礎と対する整地面から、内側は 65cm・外側は不明であるが、外側整地面レベルが東壁断面と同様とすれば 70cm ほどとなる。また、基部の北側(外側)裾から溝基底の直上に地山土ブロックを含む層が厚さ 8~18cm みられ、整地土の可能性はある。

一方、トレンチ東断面(SPB ライン)では、基部幅 4.46m・残存高 1.15m で、犬走状平坦部はみられない。底部から 40° 前後で立ち上がり、上端部幅は 1.30m で底部上 10~20cm ほどは地山を削り出して構築する。なお、地山直上に 40~60cm ほどの厚さで黒色系地山土主体層(e 層)がみられ、同層は地山土の二次堆積と判断されるが、大雑把に攪拌されており、上部に構築される盛土層のように細かいブロック構成や、上方から加圧された様子もみられない。また、e 層を基部に伴う盛土

とすると、地山を 50～70 cm 掘り下げてから構築していることになる。このため e 層は基部盛土とは直接関係のない整地、あるいは構築以前の別遺構の覆土の可能性も考えられる。

基部の内外両側は西壁面同様に不整な溝状に掘られ、上幅は内側で 2.07m・外側で 2.32m、深さは築垣基礎と対する整地面から内側で 28 cm・外側は 1.0m となる。なお、基部の北側(外側)裾下から幅 1.3m の範囲で、地山整地面上に厚さ 20～25 cm で整地土(14 層)がみられ、溝はこの整地土上から構築される。

また、整地土の上部堆積土(10 層～13 層)は、基部構築後のものであるが、地山土ブロックを多く含むことや、尼坊跡基壇整地土に類似する黄褐色系シルト質土(11 層)がみられることから、人為的に盛られている可能性もある。

基部内側裾から溝状掘り込みの埋没土上にかげ、壁体上部が崩落したものとみられる土塊(第 52 図 SPC・D) が確認された。この土塊は範囲 60 cm 四方・高さ 20 cm ほどで、断面を確認したところ一部に版築状の構造がみられ、残存部の盛土と比べても構成土に違いはみられなかった。

② 5 トレンチ

ア. 5-1 トレンチ(第 52・53 図) As-B 一次堆積層下の黒褐色土層(6 層)下で、築垣残存部の上面を確認した。これについてトレンチ西壁断面(SPA ライン)で観察すると、基部幅 5.80m・残存高 95 cm で基部は 45° 前後で立ち上がり、上端幅は 2.53m を測る。残存部は全て地山の削出しで構築され、上部に盛土は認められなかった。なお、基部残存部南側の肩部付近に上端径 50 cm 前後・深さ 35 cm のピットが認められたが、寄柱の痕跡の可能性もある。また、北側肩部にもピット状の掘り込みがみられ、廃絶後の埋没土上から構築されたものであった。

築垣基部の内外両側は不整な溝状に掘られ、上幅は内側で 3.37m・外側で 3.25m、深さは築垣基礎と対する整地面から内側は 30 cm・外側は 35 cm である。また、基部南側裾下では溝状掘り込みとの間の幅 90 cm 程度が平坦に整地されていた。

築垣基部の内外には、溝状掘込以外にも複数の掘込が存在した。いずれもトレンチ内の確認にとどめ、尼寺との関連を含め詳細は今後に委ねることとした。以下にこれらの掘り込みの概要を記しておく。築垣基部の南側では、基部裾の溝状掘込の外側に上端径 1.45m・深さ 20 cm 以上の土坑状掘込があり、尼寺の整地面上から構築され溝状掘込と埋没土を同じくする。また、基部裾から 7m ほどの地点を北側壁とする竪穴建物跡と判断される遺構が確認され、出土遺物が無く構築時期は不明であるが、埋没状況から尼寺の廃絶後～As-B 降下前と判断される。また、同遺構の埋没土上に構築された溝跡がみられ、走行軸は N-32° -E、上幅 44～32 cm・深さ 15 cm で砂粒・シルトからなる水成堆積土で埋没し、直上に As-B 一次堆積層が認められた。

一方、築垣の北側では基部裾から 4.5m の箇所から掘り込まれる遺構がみられ、埋没状況から築垣基部が埋没しつつある段階には廃絶していたようである。また、基部裾の溝状遺構外側の地山上に 15～25 cm の厚みで整地土が存在するが、地山との境に数 mm の厚さで灰・炭層がみられ、直下が平坦で硬化することから尼寺構築以前の竪穴建物の残痕の可能性もある。

イ. 5-2 トレンチ(第 52・53 図) 築垣基部の北東隅では、一辺 5m 前後の方形となる古墳時代(Hr-FA 降下以降～7 世紀)の竪穴建物跡があり、該当部の築地塀は同建物跡埋没土の上に構築されている。なお、As-B 混入土直下で竪穴建物跡埋没土面を確認したことから、築垣基部上部の盛土は失われていると判断される。基部残存部は高さ 75 cm ほどで、上端の標高値をみると 5-1 トレンチ確認部と比べ 26 cm ほど低い。また、東西基部幅は SPB ライン+SPC ラインで 4.0m を測り、南側の SPD ラインでは 4.14m を測る。

基部裾外側には溝状掘込がみられ、SPA ラインでは上幅 4.18m で外側地山整地面からの深さ 65 cm を測る。南側では溝状掘込と重複して堅穴建物とみられる遺構が存在し、構築時期は埋没土内の出土遺物から 9 世紀後半頃と判断される。また、築垣基部北東隅の内縁部では裾部から一段深く掘り込みが存在することが確認され、平面形状等の詳細は今後の調査に委ねることとした。

(5) 伽藍地東辺(第 49・54～62 図)

1) 調査経過

- ① 調査の目的 伽藍地の東辺範囲を明らかにするため、築垣など区画施設の存在を確認する。
- ② 調査区の設定 第 1 次調査では、昭和 45 年調査で指摘された「東門跡」の検証をするため 1 トレンチを設定し、さらに「東門跡」南側の東辺区画に関連する遺構を確認するため 2 トレンチを設定した。調査の結果、東辺区画を想定し得る遺構の確認が無かったため、第 2 次調査では土地改良以前の地割図(第 5 図)や現況地形をあらためて検討し、5 トレンチを設定して調査をおこなったところ、区画施設(築垣)基礎部北東隅の痕跡を確認し、あわせて東辺北端部の状況が判明した。このことから、5 トレンチの南に 6 トレンチを設定し東辺区画施設の延長部を調査した。なお、トレンチの位置については 5-2 トレンチから南 27m に 6-1 トレンチ、それより南 15m に 6-2 トレンチを配した。

2) 調査概要

- ① 6-1・6-2 トレンチ 5 トレンチから南に伸びる区画施設の基礎部を確認した。上面は土地改良以前に存在した農道の影響で大きく削り込まれ、盛土の有無は不明である。この基礎部の両側の溝状掘込の埋没土内から多数の瓦片が出土することから、伽藍地東辺の区画施設は瓦葺き屋根を有する築垣であったとみられる。6-1 トレンチでは、区画施設外側の土坑から築垣壁体が崩落した可能性がある地山土ブロックが出土した。

6-2 トレンチでは、内側の溝状掘込埋没土上で堅穴建物跡が 2 棟(SI1・SI2)確認され、SI1 は区画施設基礎裾部に接している。SI1・SI2 の構築時期は、出土遺物から 10 世紀代と判断され、僧寺南辺築垣の伽藍地側基部盛土を掘り込む SJ21・SJ22 の状況と似る。SJ21・SJ22 は 11 世紀初頭～中期の間に相次いで構築され僧寺南辺築垣の壊滅時期を示す資料となっている。

- ② 2 トレンチ 攪乱の規模が大きく区画施設基礎部残痕は認識出来なかった。トレンチ東縁部で建物基礎地業と思われる硬化面の一部とその南端付近から南へ伸びる溝(SD1)を確認し、硬化面西側に溝状掘込が無いことや該当部に区画施設が無かった可能性があることから、硬化面は東門の基礎の可能性はある。
- ③ 1 トレンチ 昭和 45 年の「東門トレンチ」を再調査し、東門跡とされた東西に並ぶ柱穴 3 基の残存を確認した。トレンチを南北に拡張したところ、梁行 2 間(5.40m)・桁行 3 間(6.80m)以上となる南北棟の掘立柱建物跡となるのが確認され、構築時期は古墳時代後期から平安時代の間とみられる。なお、構築箇所や主軸方向は伽藍地東辺区画と関連しているようで、さらなる検討が必要である。

3) 各トレンチの状況

- ① 6-1 トレンチ(第 55・56 図) As-B 混入土下で、区画施設の基礎残存部である地山面を確認した。基部幅は 4.40m と判断され、東側(伽藍地外側)裾部には自然礫がみられ、礫の周囲に黒褐色系の土が少量みられるため、意図的に埋設している可能性がある。なお、この基礎残存部は区画整理以前に存在した南北方向の農道と重なっており、広範囲に削り込まれているため、盛土の有無など上部構造は不明である。

区画施設基礎部の内外には溝状掘込と不整形な土坑状がみられ、埋没土に As-B を含まないこと

や多数の瓦片が出土することから尼寺に関連する遺構と判断される。

東側(伽藍地外側)の溝状掘込では埋没後に不整形な土坑が掘られ、この土坑の埋没土内には一部が硬化した黄色系地山土ブロックが多く含まれることから、築垣壁体が崩落した可能性がある。溝状掘込の規模は、上幅は埋没後の掘り込みもあわせて4m前後、深さは東側の伽藍地外側の地山確認面から50cmほどで、土坑は一段深く70cmほどになる。

西側(伽藍地内側)の溝状掘込は、上幅2m以上で深さは東側の伽藍地外側の地山確認面から45cmほど、底部には東西方向で幅80cm前後の土橋状の高まりがみられた。なお、掘り込み西縁部は今回確認できず、詳細の把握は今後の課題とする。

- ② 6-2 トレンチ(第55・57図) As-B混入土下で区画施設の基礎残存部である地山面を確認し、基部幅は4.7m前後と判断され、区画整理以前に存在した南北方向の農道と重なっており、広範囲に削り込まれているため、盛土の有無など上部構造は不明である。

区画施設基礎部の東西両側には不整形な溝状掘込がみられ、埋没土にAs-Bを含まないことや多数の瓦片が出土することから尼寺に関連する遺構と判断される。

東側(伽藍地外側)の溝状掘込は上幅2.5~2.9mで、埋没過程で外縁部に不整形な土坑状の掘込がなされており、両者を合わせた幅は4.7m前後で深さは東側(伽藍地外)の整地面から30~40cm、土坑状掘り込み部はやや深く45cm前後である。

西側(伽藍地内側)では、溝状掘込は上幅2.2m前後、深さは東側(伽藍地外)の整地面から40~50cmを測る。ただし、SPBラインで土層断面を観察すると、トレンチ西端部の埋没土が相対的に厚く、溝状掘り込みがさらに西へと延びる可能性を示している。なお、当箇所(トレンチ)の埋没土上に堅穴建物跡2棟(SI1・SI2)が構築されており、SI1は出土遺物から構築時期は10世紀後半と判断される。SI1の東壁は区画施設基部を掘り込んでおり、SI2は溝状掘込の西縁辺部を掘り込んで構築されていた。また、SI1・SI2とも東壁にカマドをもち、SI1ではカマド補強材に瓦が使用されていた。

- ③ 2 トレンチ(第58・59図) 6-2 トレンチから21m南に設定した。トレンチの東端で南北方向に4.4m以上延びる硬化面と、硬化面の南端付近から方向を同じくして構築される溝状遺構(SD1)を確認し、埋没土の観察や出土遺物から尼寺に関連する遺構と判断された。なお、硬化面及びSD1の東縁部は調査区外へ延びるため、上幅は不明である。

硬化面は、SPDラインの土層断面から、地山を30cmほど掘り込み、版築は明瞭ではないが搗き固めにより構築されており、建物の基礎地業である可能性が高い。SD1は硬化面南端部付近から掘り込まれ、上幅は80cm以上、深さは西側肩部の地山面から40~50cmである。なお、調査区北端部で硬化面への掘り込みがみられ、埋没土内から須恵器椀(第226図4)が出土している。

5・6 トレンチでみられた区画施設基礎の延長部は、硬化面およびSD1の西側に推定される。該当部は、現耕作土下に硬化が顕著なAs-B混入土層(2層)が存在し、6 トレンチでみられた土地改良以前の農道痕跡の南延長部とみられる。このことから2 トレンチ東を南北に走る現在の農道は、土地改良を契機に若干東へ移動した可能性がある。なお、同農道に関連した削り込みなどにより、区画施設基礎部に該当する部分は高まりを確認できず、伽藍地内と思われる部分までトレンチを延長したが溝状掘込も認められなかった(SPEライン)。建物基礎と思われる硬化面付近には築垣と溝状掘込が存在しないことから、この箇所に東門が存在した可能性がある。

- ④ 1 トレンチ(第60図~第62図) 昭和45年の「東門トレンチ」を再調査したところ、東門のものとされる東西に並ぶ3基の柱穴が調査時のまま保存されていたのを確認した。そこで、東門トレンチの南北を拡張したところ、梁行2間・桁行3間以上となる南北棟の掘立柱建物跡が確認された。

なお、「東門トレンチ」における柱穴の確認面は黄色系地山土(基本層序Ⅸ層)面で、このトレンチ壁面を精査したところ上部に黒色系地山土(基本層序Ⅵ層)面が残存していた部分があり、柱穴は少なくとも40～50 cm上面から構築されていたことが判明した。このことから、拡張部ではAs-B混入土除去後は慎重に確認作業を行い9か所の柱穴を確認した。柱穴は建物跡南西隅から東へP1・P2・P3とし、西辺は南からP4・P5・P6、東辺は南からP7・P8・P9とした。

建物の規模は梁行が5.40m(P1-2.70m-P2-2.70m-P3)、桁行が6.80m以上(P1/P3-2.40m-P4/P7-2.20m-P5/P8-2.20m-P6/P9)である。なお、P1・P2・P3の柱間は調査概報では2.50m・2.70m、平成5年(1993)刊行の調査報告書内では2.70m等間と変更されており、新規に確認された柱穴を含めて平面形を推定した場合、梁行は後者による2.70m等間の5.40mとなる。

確認された柱穴はいずれも平面は円形を呈し、規模は確認レベルによって異なるが径1.1m前後で、深さは構築面が確認できたP6で80 cm前後である。P1・P3・P5・P6・P7では柱穴の底上20 cm前後(P3では35 cm)の位置に扁平な自然礫が1個あるいは複数置かれ、柱受けの機能が考えられる。

今回確認された掘立柱建物跡の構築時期は、瓦片や平安時代の須恵器片を含む黒褐色土層下で柱穴が確認されることから平安時代以前、柱穴の埋没土内に含まれる土師器杯片から6～7世紀以後と判断される。構築箇所が尼寺伽藍地東辺にほぼ接して金堂東方に位置すること、建物の主軸方向(N-1° 34' -W)が尼寺伽藍の方位と近いことから、尼寺に関連する施設の可能性が高い。

(6) 伽藍地南辺(第50・63図～第65図)

1) 調査経過

- ① 調査の目的 伽藍地の南辺範囲を明らかにするため、築垣など区画施設の存在を確認する。
- ② 調査区の設定 第2次調査において、区画南辺を確認するため土地改良以前の地割図(第5図)や平成12年(2000)の前橋市教育委員会調査の成果などから、現在高崎・前橋両市の行政境となる東西方向の農道北側に7トレンチを設定し調査を行った。7トレンチは次の通り3か所に配した。7-1トレンチ：推定伽藍地区画の南東隅付近、7-2トレンチ：7-1トレンチと7-3トレンチの中間付近、7-3トレンチ：推定伽藍地区画の南正面付近。また、第3次調査とあわせ前橋市教育委員会により7-2・7-3トレンチ南延長部の調査(61aT・61bT)が実施された。

2) 調査概要

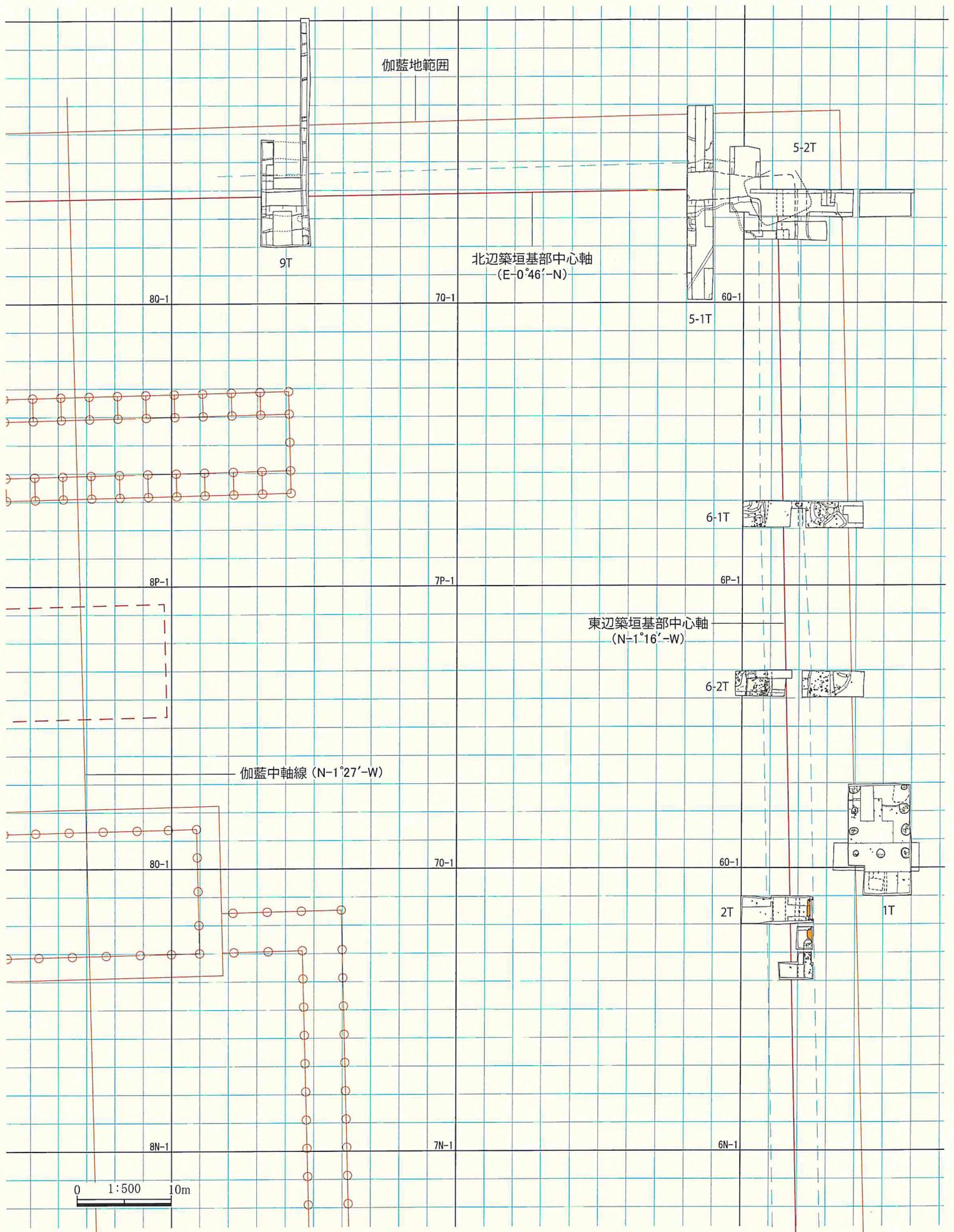
- ① 区画に関連する溝 7-1～7-3トレンチの南端部で掘込を確認し、構築時期を埋没状況や出土遺物などから検討した結果、尼寺の南辺区画施設に関連する溝状遺構と判断した。7-3トレンチでは、溝状遺構の埋没土上で版築がみられ、南門基礎地業の可能性もある。このことは、南門構築のため該当部の溝状遺構を埋め戻したことになる、建築技法に関連するもの、あるいは計画変更による可能性が考えられるが、これの確認は今後の調査に委ねる。なお、溝状遺構底面の標高値は、7-1トレンチ：124.08m・7-2トレンチ：124.50m・7-3トレンチ：124.64mで東へと低くなり、自然地形の傾斜に則している。
- ② 築垣など区画施設 溝状遺構の北側(伽藍地内)では、尼寺廃絶後～As-B降下以前の堆積と判断される黒褐色土の堆積が一様にみられ、その直下には地山面が平坦に広がり、尼寺構築時の整地面に近い状況を保つとみられた。このことから、溝状遺構の北側には築垣など区画施設は存在しないと判断した。一方、溝状遺構の南側を唯一確認した7-3トレンチでは、地山上に整地土の可能性のある黒褐色土層の残存が15 cm前後みられ、前橋市教育委員会の調査でも同様の状況(61bAライン・Ⅲ層)であった。また、埋没土中に黄色系地山土ブロックを主体とする硬化した土塊が散見された

が、築垣など区画施設の崩落土の可能性はある。

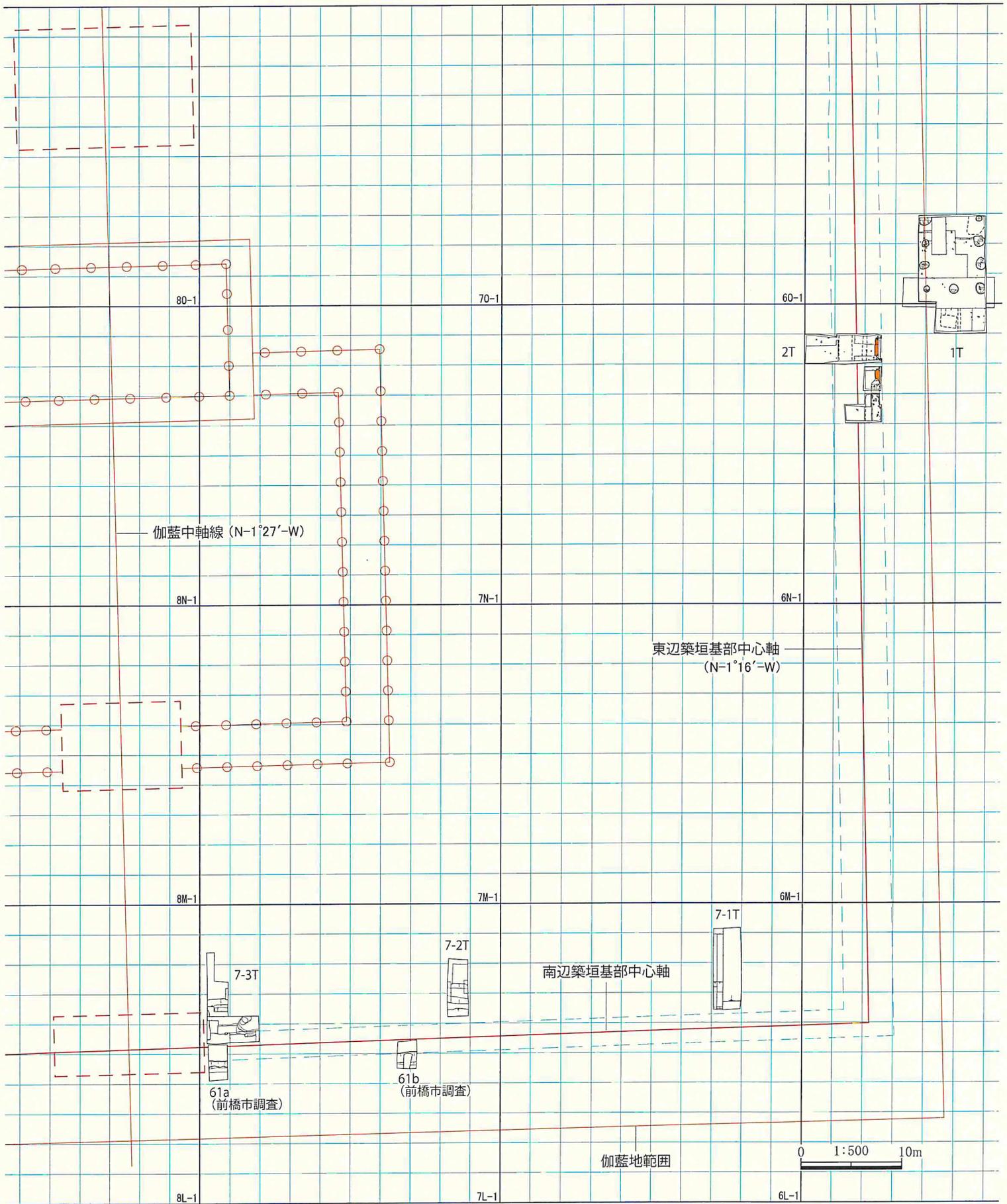
- ③ 前橋市側の調査 高崎市側で確認された溝状遺構の2.7m南に、概ね同方向で溝が構築されていることが確認された。この溝跡は平成12年の調査で指摘されていたもので、当時の調査所見では幅3m内外・深さ60cm内外で尼寺に関連するものと判断されている。今回の調査成果で検証すると、上幅は5mほど、深さは溝跡北側肩上の整地土残痕上から1.1~1.3mを測り、以前の推定より規模が大きい。また、溝跡埋没土の下半にはAs-Bの混入がみられず、尼寺区画施設との関連を推定した場合、時期的な矛盾は無いとみられる。

3) 各トレンチの状況

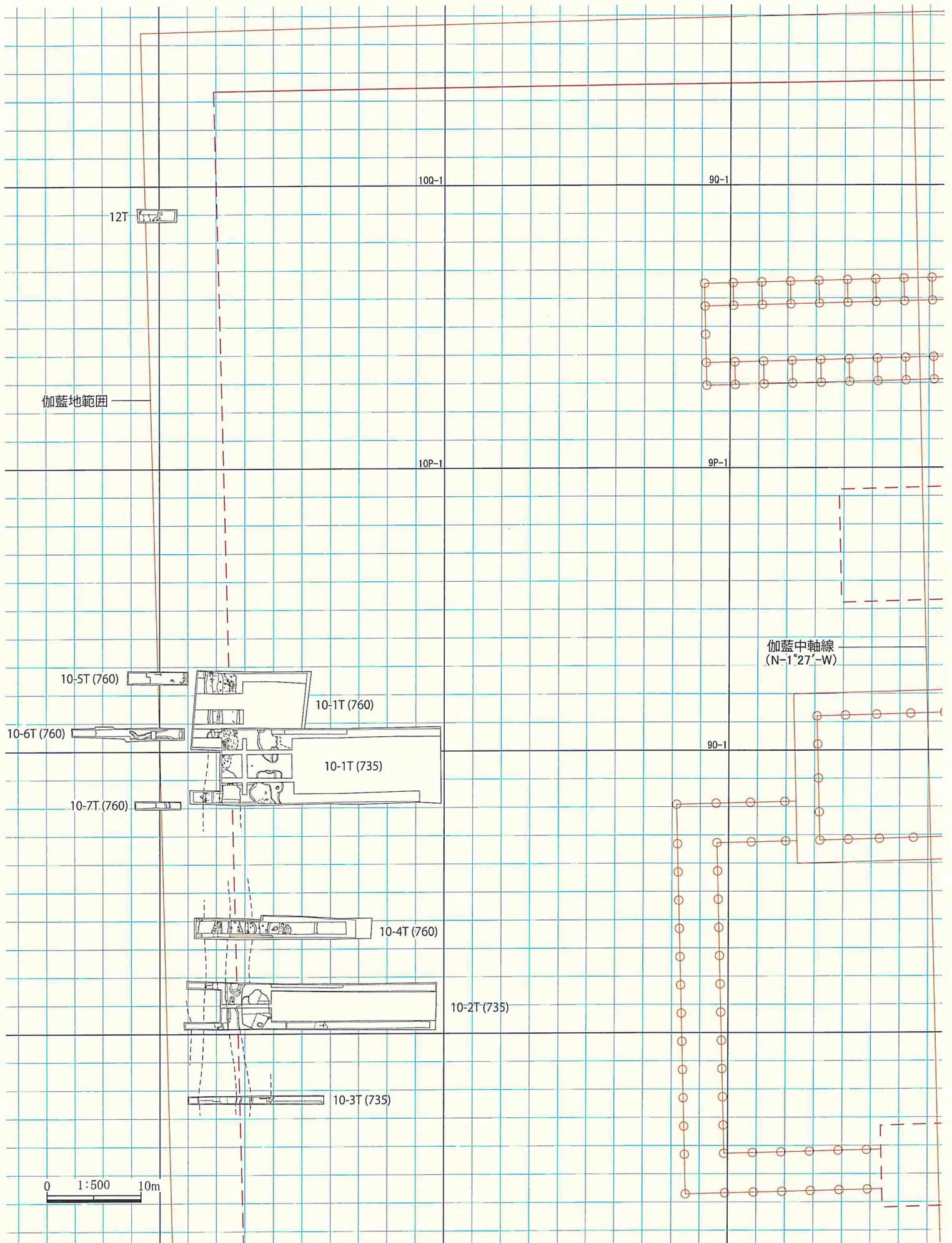
- ① 7-1 トレンチ(第65図) 溝状遺構はトレンチ南端で確認され、上幅は2.6m以上で、底面最深部と北側肩部との比高差は46cm、南側肩部は調査区外へと延びている。なお、立ち上がり傾斜は北側24°・南側50°である。溝の北側(伽藍地内)は地山面上に厚さ5~10cmの整地土がみられ、伽藍地内に向け徐々に高くなっている。溝状遺構埋没土及び整地面上には黒褐色土(3層)が堆積し、さらに上部にAs-B主体層(一次堆積層残痕)がみられることから、尼寺廃絶時の状況が良好に保たれているようである。なお、3層の上面レベルは南ほど高くなり3層直下の整地面も高くなるとみられ、トレンチ外の農道下に築垣基部の存在を推定することができる。
- ② 7-2 トレンチ(第65図) 溝状遺構はトレンチ南半部で確認され、上幅は3mほどで底面最深部と北側肩部との比高差は30cmを測る。なお、トレンチ南端で溝状遺構は立ち上がりを見せ、該当部の地山面上に地山土ブロック混土層(8層)が存在し、8層を区画施設に関連する盛土あるいは整地土とした場合、溝状遺構の上幅は2.5mとなる。ただし、20mほど西の7-3トレンチでは、溝状遺構南肩の地山レベルは同箇所より1.4m高いが裾部に盛土がみられず、同様の構造を考えた場合、7-2トレンチにおける溝状遺構の立ち上がりは調査区外となる可能性もある。
- ③ 7-3 トレンチ SPA・B ライン(第64図) 溝状遺構は上幅3.80m、底面から北側肩部地山面との比高差は70cm前後である。底面は概ね平坦で、下部30cmほどは65°前後、それより上部で30°前後で立ち上がる。特筆されるのは、埋没土を掘り込んで版築が構築されており、調査箇所が伽藍地南辺の中央付近であることから、南門の基礎地業との関連が推定される。版築はAs-B降下以前に堆積した黒褐色土層(5層=Ⅲa層)下で確認され、それより下60cmほどの厚みで入念に構築される。版築の確認範囲は南北3m・幅30cmで、瓦葺建物の基礎地業東端部の可能性がある。その東端から伽藍中軸線までの距離は7.9mで、南門が僧寺と同様10尺等間の五間門とすれば概ね符号する規模である。また、版築は溝状遺構の南辺寄りに構築され、北側は溝状遺構埋没土上から肩部地山面上にかけ、黄色系・黒褐色系地山土ブロックを多く含む整地土が厚さ20cm以内でみられた。この南側では版築上から南肩の地山面上にかけ前記5層が堆積しており、築垣など区画施設の痕跡はみられなかった。
- ④ 7-3 トレンチ SPC・D ライン(第64図) 版築構築部東側について、溝状遺構埋没土の東西方向断面をSPDラインで観察したところ、SPAラインから3mほどの地点で50°程度の傾斜をなして土坑あるいは溝状遺構が掘り込まれることが判明した。このことは、溝状遺構の一部を埋め戻して版築を構築した後に埋め戻し部分の斜面を削りなおして整えた可能性がある。なお、版築構築部の溝状遺構埋没土は、建物基礎地業に関わる工程としては大雑把な成層であり、搗き固めによる硬化はみられなかった。また、埋め戻し部分を削って構築された掘り込みの埋没状況は、上層部(3層)を中心に瓦片や地山土ブロックなど夾雑物が多く混入し、築地塀など区画施設崩落土の可能性のある黄色系地山土ブロックを主とする土塊(4層)の混入がみられた。



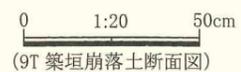
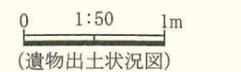
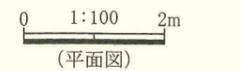
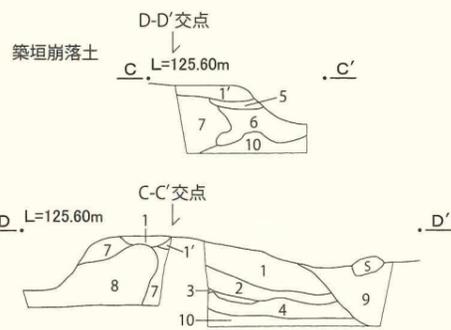
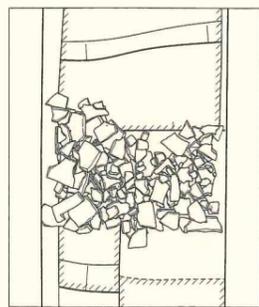
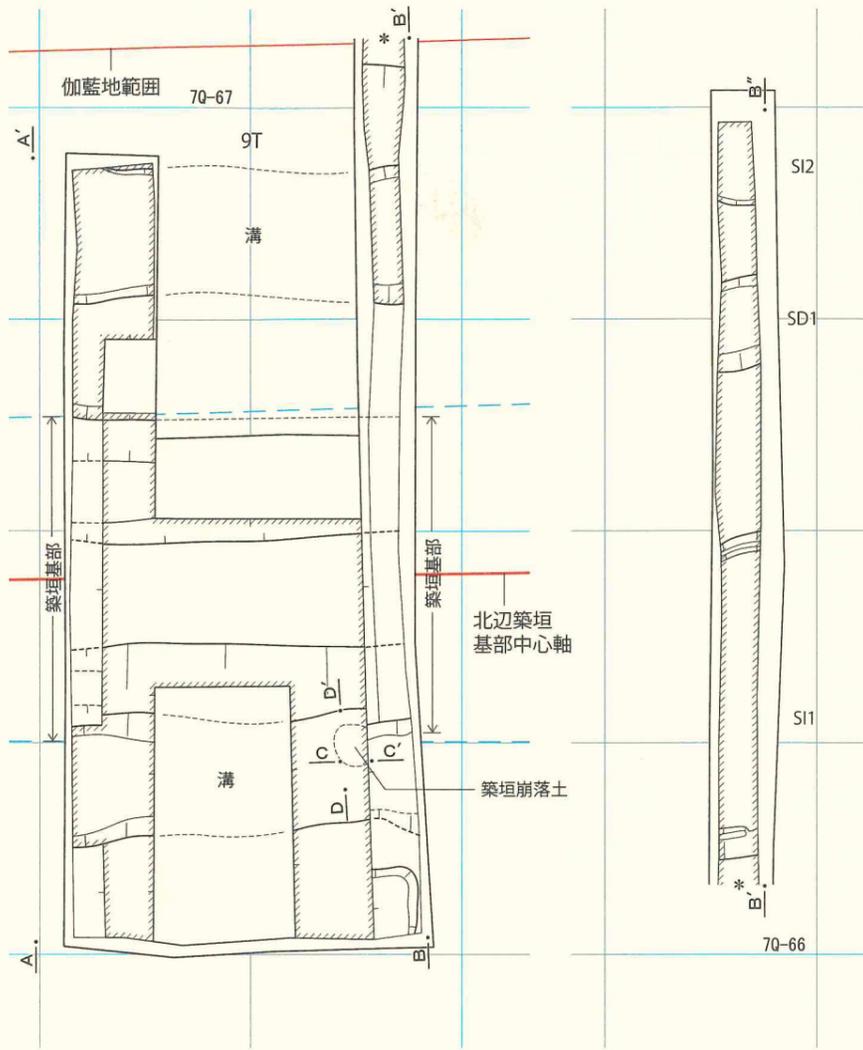
第49图 (4) 伽藍地北辺東辺 調査区位置图



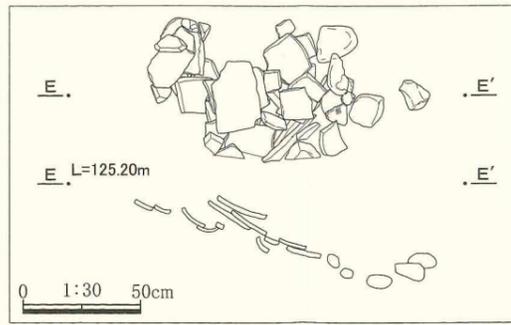
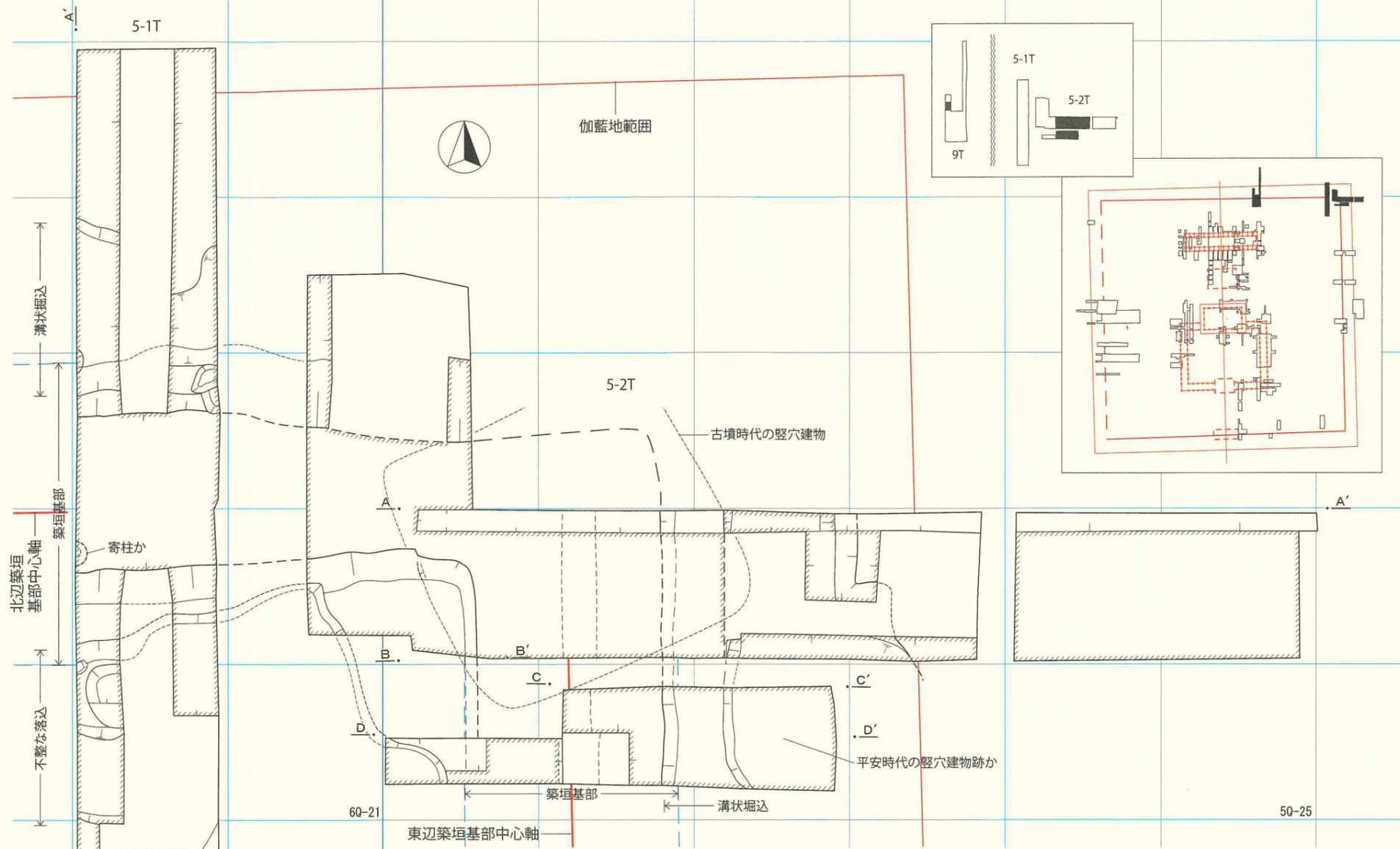
第50图 (6) 伽藍地南边 調査区位置图



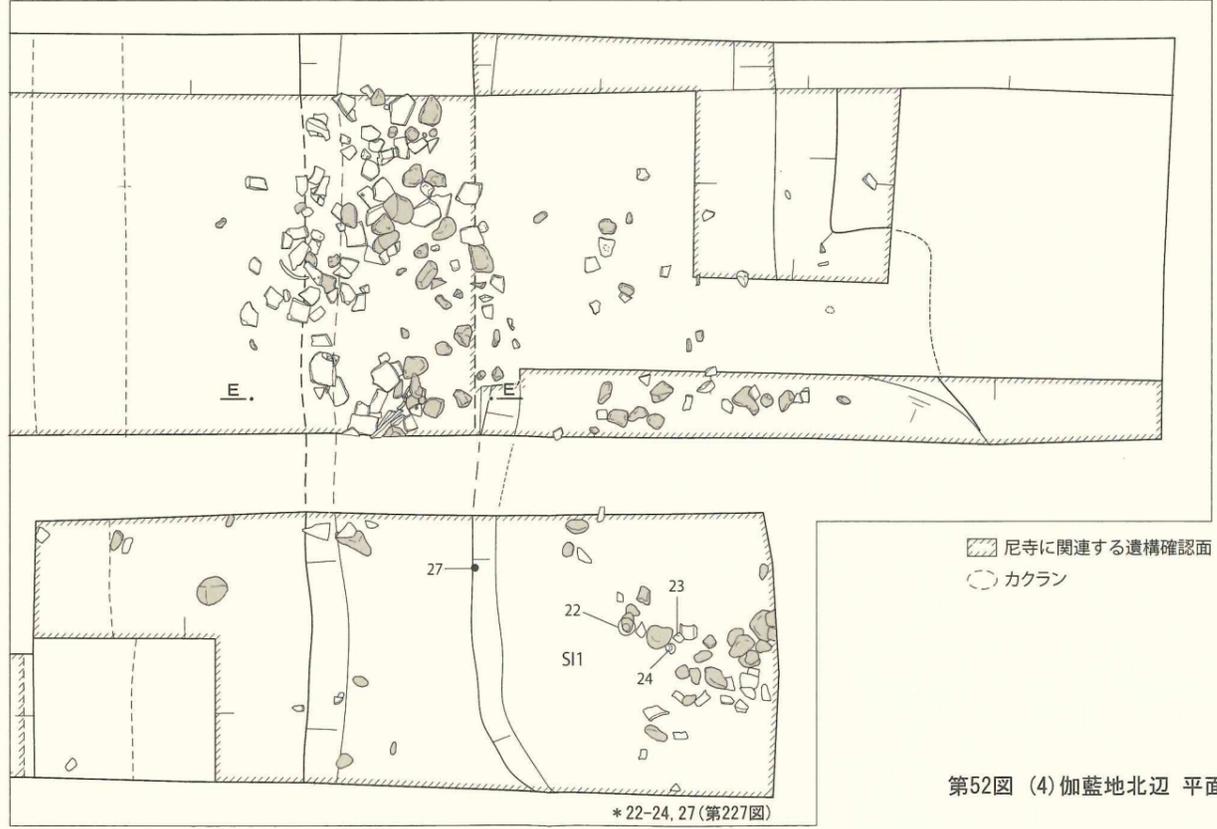
第51图 (7) 伽藍地西辺 調査区位置图



- 9 トレンチ 崩落土 C-C' D-D'
- 1 黄褐色土 (10YR4/3) 黄褐色地山土ブロック含む。小レキ径 1.5cm 以下少量。
 - 1' 黄褐色土 (10YR4/3) やや粘性・ややしまる。黄褐色土ブロック状まばらに含む。
 - 2 黄褐色土ブロック主体 黒褐色土 (10YR3/2) 含む。
 - 3 黒褐色土 (10YR3/2) 粘性あり・ややしまる。夾雑物ほとんどなし。
 - 4 地山黄色土ブロック主体 小レキ径 2cm 以下少量。
 - 5 3層と似る。
 - 6 4層と似る。
 - 7 1層と似る。
 - 8 黄褐色土 (10YR4/3) やや粘性・ややしまる。黒褐色系地山土 (10YR3/2) 含む。黄褐色系地山土ブロック状まばらに含む。As-C まばらに混入。
 - 9 黄褐色土 (10YR4/3) やや粘性・ややしまる。黒褐色系地山土 (10YR3/2) 含む。黄褐色系地山土ブロック状やや密に含む。As-C まばらに混入。
 - 10 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・ややしまる。As-C まばらに混入。



5-2トレンチ 遺物出土状況図・エレベーション図



5-2トレンチ 遺物出土状況図

- 尼寺に関連する遺構確認面
- カクラン

第52図 (4) 伽藍地北辺 平面図

- 9 トレンチ A-A'
- 1a 灰黄褐色土 (10YR4/2) 粘性なし・ややしめる。As-B 混入。
 - 1b 灰黄褐色土 (10YR4/2) 粘性なし・よくしまり硬い。
 - 1c しまりやや劣る。礫石片含む。
 - 1d 黒褐色土 (10YR3/2) ブロック状含む。
 - 2 灰黄褐色土 (10YR4/2) 粘性なし・ややしめる。As-B 密に混入。1層より色調暗い。
 - 3 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・よくしめる。As-C まばらに混入。
径 1cm 以下白黄色～白色パミス粒 (角安粒など) まばらに含む。
径 1mm 以下パミス粒 (As-B 小) 目立つ。下層と比べ粗く夾雑物多い印象。
- 3' 径 1mm 以下パミス粒。3層ほど目立たない。地山黄褐色土ブロック状微量。
どちらかというところと類似する。
- 4 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・しめる。As-C まばらに混入。
白色～白黄色系パミス粒 (角安粒など) 少量。
 - 5 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・しめる。As-C まばらに混入。
地山黄褐色土 (10YR5/4-5/6) ブロック径 1cm 以下少量。
黒褐色 (10YR3/2)・暗褐色 (10YR3/3) 系地山土ブロック状少量。
 - 6 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・しめる。As-C まばらに混入。炭片 (小)・焼土ブロック (小) 微量。
 - 6' 黒褐色・黄褐色系地山土ブロック状少量。
 - 7 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・しめる。As-C まばらに混入。
黒褐色 (10YR2/2-3/2) 系地山土ブロック状まばらに少量。
 - 8 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・しめる。As-C まばらに混入。
黒褐色 (10YR3/2) 系地山土ブロック状まばらに含む。
黄褐色 (10YR5/6) 系地山土ブロック状少量。
 - 9 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・しめる。As-C まばらに混入。
黒褐色 (10YR3/2)・暗褐色 (10YR3/3) 系地山土ブロック状まばらに含む。
黄褐色 (10YR5/4-5/6) 系地山土ブロック状少量。
 - 10 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・ややしめる。As-C まばらに混入。
黒褐色・暗褐色系地山土ブロック状含む。
黄褐色系地山土ブロック状含む。
 - 11 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・しめる。As-C まばらに混入。
黒褐色・暗褐色系地山土ブロック状やや密に含む。
黄褐色系地山土ブロック径 2cm 以下まばらに含む。
 - 12 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・しめる。As-C まばらに混入。
黒褐色系 (10YR2/2) C 黒の割合が多い) 地山土ブロック状密に含む。
暗褐色・黄褐色系地山土ブロック状含む。
 - 13 地山黄褐色土ブロック径 1cm 以下まばらに含む。
 - a 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・よくしめる。As-C まばらに混入。
黒褐色 (10YR2/2-3/2) 系地山土ブロック状含む。
 - b C 混黒色土主体 粘性わずか・よくしめる。
地山黒褐色土 (10YR3/2)・暗褐色土 (10YR3/3) 主体 やや粘性・しめる。As-C まばらに混入。
地山黄色土褐色土 (10YR5/3) ブロック状含む。
 - d 地山黒褐色土 (10YR3/2) 主体 地山暗褐色土 (10YR3/3) 含む。やや粘性・よくしめる。
As-C まばらに混入。地山黄色土ブロック径 2cm 以下少量。
 - e C 混黒色土主体 やや粘性・しめる。
 - f 黒褐色 (10YR2/2-3/2) 系地山土主体 やや粘性・よくしめる。As-C まばらに含む。
暗褐色 (10YR3/3) 地山土含む。
 - g 黒褐色 (10YR2/2-3/2) 系地山土主体 やや粘性・よくしめる。As-C まばらに含む。
暗褐色土 (10YR3/3) ブロック状含む。
暗褐色土 (YR3/3) がブロック状に入ることから人為盛土と判断。
 - h 黒褐色土 (10YR3/2)・暗褐色土 (10YR3/3) やや粘性・よくしめる。色調変化は漸移。
白黄パミス粒径 5mm 以下まばらに含む。
As-C 上層部に微量。
 - A 混 黒色土主体 粘性なし・ややしめる。地山土か。
 - I 黄褐色土 (10YR5/4-5/6) 粘性なし。土質粗い。

- 9 トレンチ B-B'
- 1a A-A' の 1a・1b 層と同じ。
 - 1b 黒褐色土 (10YR2/2) 含む。
 - 1c 2・3 層をブロック状に含む。
 - 2 A-A' の 2 層と同じ。
 - 3 A-A' の 3 層と同様。
 - 4 A-A' の 4 層と同様。
 - 5 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・しめる。As-C まばらに含む。
黒褐色 (10YR2/2-3/2) 系地山土ブロック状まばらに含む。
黄褐色系地山土ブロック状少量。炭片 (小)・焼土ブロック (小) 微量。
 - 6 A-A' の 6 層と同じ。黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・しめる。As-C まばらに混入。
角安粒径 1cm 以下微量。地山黄色土ブロック径 1cm 以下微量。炭片 (小) 微量。
 - 7 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・しめる。As-C まばらに混入。黄色土ブロック径 1cm 以下少量。
黒褐色 (10YR2/2-3/2) 系地山土ブロック状少量。
 - 8 7 層とほぼ同じ。
 - 9 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・ややしめる。黒褐色土 (10YR3/2)・暗褐色土 (10YR3/3) 地山土ブロック状やや密に含む。黄褐色系地山土ブロック状含む。
As-C まばらに含む。
 - 10 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・しめる。As-C まばらに混入。
黒褐色 (10YR2/2-3/2) 系地山土ブロック状含む。
 - 11 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・しめる。As-C まばらに混入。
灰黄褐色 (10YR4/2)・夾雑物なし) シルト質土多量。
 - 12 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・しめる。As-C まばらに混入。
黒褐色土系地山土ブロック状密に含む。
黄褐色系地山土ブロック状少量。
 - 13 12 層とほぼ同じ。地山黄褐色土ブロック状まばらに含む。
 - 14 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・しめる。As-C まばらに混入。
黒褐色 (10YR3/2) 系地山土ブロック状密に含む。
黒褐色シルト (10YR4/2) ブロック状密に含む。
 - 15 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・しめる。As-C まばらに混入。
黒褐色 (10YR3/2-2/2) ブロック状含む。
地山黄褐色土ブロック状まばらに含む。
 - 16 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・しめる。黄褐色系地山土ブロック状多量。
 - 17 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・しめる。As-C まばらに混入。
黒褐色系地山土 (10YR3/2) ブロック状含む。
黄褐色系地山土ブロック状少量。
 - 18 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・しめる。As-C まばらに混入。
黒褐色系地山土 (10YR2/2-3/2) ブロック状やや密に含む。
黄褐色系地山土ブロック状少量。炭径 1cm 以下微量。
 - 19 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・しめる。As-C まばらに混入。
黒褐色 (10YR2/2-3/2) 系地山土ブロック状密に含む。
黄褐色系地山土ブロック状まばらに含む。
 - 20 地山黒褐色土 (10YR3/2) 主体 やや粘性・よくしめる。As-C 少量。
ブロック状の組成顕著ではない。
 - a 黒褐色系地山土ブロック主体 黒褐色 (10YR2/2-3/2) As-C まばらに混入。
 - b 黒褐色系地山土ブロック主体 黒褐色 (10YR2/2) 主体 As-C まばらに混入。
C 黒ブロック含む。
 - c C 黒ブロック主体 FA ブロック径 1cm 以下少量。
 - d 黒褐色 (10YR3/2-2/2) 系地山土ブロック主体 As-C まばらに混入。
 - e C 黒及び黒褐色系地山土ブロック主体

- 9 トレンチ B' -B''
- 1 灰黄褐色土 (10YR4/2) 粘性なし・よくしめる。As-B 混入。耕作土。
 - 2 黒褐色土 (10YR3/2) 粘性なし・しめる。As-B やや密に混入。
 - 3 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・しめる。As-C まばらに混入。
 - 4 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・ややしめる。As-C まばらに混入。
黒褐色系地山土 (10YR3/2) ブロック状まばらに含む。
 - 5 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・ややしめる。As-C まばらに混入。
黒褐色系地山土 (10YR3/2) ブロック状まばらに含む。
黄褐色系地山土 (10YR5/3) ブロック状まばらに含む。
 - 6 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・ややしめる。As-C まばらに混入。
黒褐色系地山土ブロック状やや密に含む。
 - 7 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・ややしめる。As-C まばらに含む。
黄褐色系地山土 (10YR4/3) ブロック状密に含む。
 - 8 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・ややしめる。黒褐色系地山土ブロック状まばらに含む。
As-C まばらに混入。炭片 (小) 微量。
 - 9 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・ややしめる。黒褐色系地山土ブロック状含む。
(10YR2/2) 多い) 黄褐色土ブロック状少量。
 - 10 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・ややしめる。黒褐色・黄褐色系地山土密に混入。
As-C まばらに含む。
 - 11 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・ややしめる。
黒褐色系 (10YR3/2) 地山土ブロック状まばらに含む。
As-C まばらに混入。
 - 12 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・ややしめる。
黒褐色系 (10YR3/2-2/2) 地山土ブロック状まばらに含む。
As-C まばらに混入。(11 層より量・密度増す)
 - 13 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・ややしめる。
黒褐色系 (10YR3/2 少・2/2 多) 地山土ブロック状密に含む。
As-C まばらに混入。(12 層より量・密度増す。黄褐色系地山土少量)
 - 14 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・ややしめる。
黒褐色系 (10YR3/2-2/2) 地山土ブロック状含む。
黄褐色系地山土ブロック状まばらに含む。As-C まばらに混入。
(量・密度、12 層と同様)

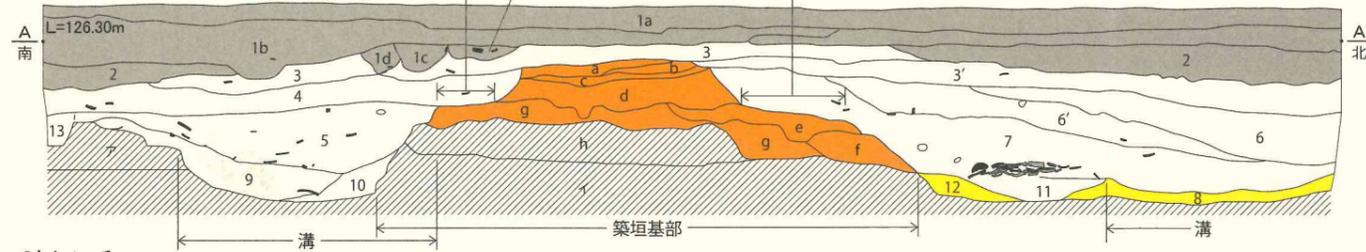
- 5-1 トレンチ A-A'
- 1 黒褐色土 (10YR3/2) 粘性なし・ややしめる。B 混。表土。
 - 2 黒褐色土 (10YR3/2) 粘性なし・ややしめる。B 混。3層を混入する。
 - 3 黒褐色土 (10YR3/1) 粘性なし・ややしまり弱い。As-B 密に混入。
 - 4 As-B 主体 上層にピンク灰のる部分見られる。一次堆積と判断される。
 - 5 暗褐色土 (10YR3/3) やや粘性・ややしまり弱い。シルト質。砂粒含む。As-C 少量。
/// 部、鉄分沈着し硬い。溝フク土。
 - 6 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・ややしめる。As-C 混入。
 - 7 6層とほぼ同様だが相対的にややしめる。As-C 混入。
※ 黒褐色土 (10YR3/2) わずかに色調暗い) をブロック状に含む。
地山黄色土ブロック径 2cm 以下少量。
 - 8 7層と同様。地山黄色土ブロック (小) 微量。
 - 9 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・ややしめる。As-C 混入。黒褐色土 (10YR3/2) ブロック状混入。
(7層より多い) 地山黄色土ブロック径 1cm 以下まばらに含む。
 - 10 褐色土 (10YR3/2) やや粘性・ややしめる。As-C 混入。黒褐色土 (10YR2/2) 含む。
砂粒希薄に含む。
 - 11 7とほぼ同様。
 - 12 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・ややしめる。As-C 混入。
黒褐色系地山土 (10YR3/2-2/2) 含む。地山黄色土ブロック状少量。
 - 12 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・ややしめる。As-C 混入。
黒褐色系地山土 (10YR2/2) ブロック状含む。
 - 13 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・ややしめる。As-C 混入。焼土ブロック (小) 微量。
黒褐色土 (10YR3/2)・暗褐色土 (10YR3/3) 系地山土含む。
 - 14 黒褐色土 (10YR2/2) やや粘性・しまり弱い。As-C 混入。地山黄色土ブロック状少量。
 - 15 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・ややしめる。As-C やや密に混入。
黒褐色系地山土 (10YR2/2-3/2) 含む。黄色土ブロック状少量。
砂粒含む。
 - 16 灰・炭主体 うすい層状に堆積。
 - 17 黒褐色系地山土主体 黄色系地山土ブロック状含む。As-C 少量。
A 灰黄褐色土 (10YR4/2) - 黄褐色土 (10YR4/3) 粘性なし・ややしまり弱い。FA 混入する。
(S-1 を残す降下ユニットをほぼ保つ大ぶりのブロック状)
 - B 黒色土 (10YR2/1) - 黒褐色土 (10YR2/2) As-C 密に混入する。
 - C 黒褐色土 (10YR3/2)・暗褐色土 (10YR3/3) やや粘性・ややしめる。均質。
 - D 黄褐色土 (10YR5/2) 砂質。粘性なし・よくしめる。
 - A 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・ややしめる。As-C 混入。黄色土ブロック径 2cm 以下密に含む。
 - ① 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・ややしめる。As-C 混入。炭片 (小)・焼土ブロック (小) 少量。
地山黄色土ブロック径 1cm 以下。堅穴建物か。

- 5-2 トレンチ A-A'
- 1 黒褐色土 (10YR3/2) 粘性なし・しめる。As-B 混入。表土。
 - 2 灰黄褐色土 (10YR4/2) 粘性なし・よくしまり硬い。As-B 混入。
 - 3 黒褐色土 (10YR3/2) 粘性なし・よくしめる。As-B 混入。
 - 4 黒褐色土 (10YR3/1) 粘性なし・よくしまり硬い。As-B 密に混入。
 - 5 4層とほぼ同じ。
 - 6 黒褐色土 (10YR3/2) 粘性なし・しめる。As-B 混入。
下層付近に黄褐色 (10YR4/3) シルト堆積。溝覆土。
 - 7 黒褐色土 (10YR3/2) 粘性なし・ややしめる。As-B 含む。
 - 8 黒褐色土 (10YR3/2) 暗褐色粘性土 (10YR3/3) ブロック状含む。やや粘性・しめる。As-C 混入。
焼土ブロック (小) 微量。炭片 (小) 少量。黄色土ブロック径 1cm 以下少量。
 - 9 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・しめる。As-C 混入。炭片径 1cm 以下まばらに含む。
黄色土ブロック径 1cm 以下少量。
 - 10 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・ややしめる。As-C 混入。焼土ブロック (小) 微量。
炭片径 1cm 以下少量。
 - 11 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・ややしめる。As-C 混入。
黄色土ブロック径 3cm 以下まばらに含む。
 - 12 黒色土 (10YR2/1) - 黒褐色土 (10YR2/2) やや粘性・ややしめる。As-C 密に含む。
※尼寺以前の遺構覆土
 - A 黒褐色土 (10YR3/2) わずかに粘性・ややしめる。As-C 混入。黄色土ブロック径 1cm 以下少量。
 - B 黒褐色土 (10YR3/2) わずかに粘性・ややしめる。As-C 混入。
地山黄褐色土ブロック状まばらに含む。
 - C 黒褐色土 (10YR3/2) わずかに粘性・ややしめる。As-C 混入。
地山黄褐色土・FA ブロック状密に含む。
- ※A～C層 古墳時代の堅穴建物覆土

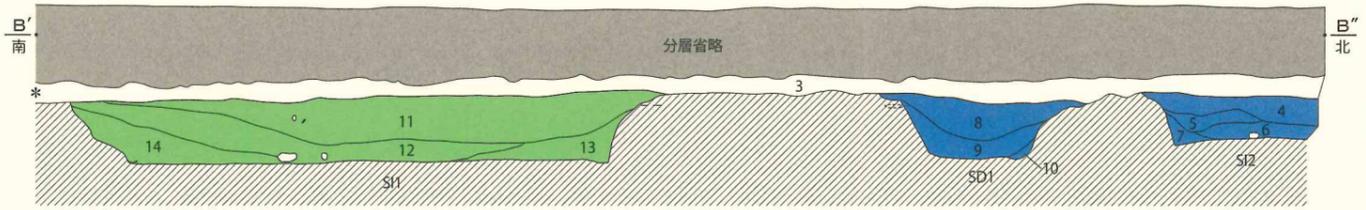
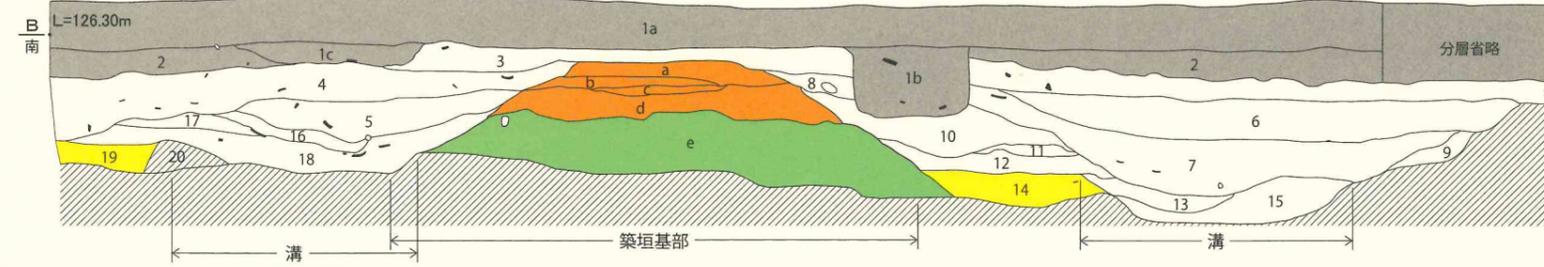
- 5-2 トレンチ B-B'
- 1 黒褐色土 (10YR3/2) 粘性なし・ややしめる。As-B 混入。
 - 2 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・ややしめる。As-C 混入。黄色土ブロック状やや密に含む。
 - 3 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・ややしめる。As-C 混入。地山黄色土ブロック状まばらに含む。
C-C' 7層と同じ。
 - 4 黒褐色土 (10YR3/2) わずかに粘性・ややしめる。As-C 混入。
地山黄褐色土・FA ブロック状密に含む。
- 5-2 トレンチ C-C'
- 1 黒褐色土 (10YR3/2) 粘性なし・しめる。As-B 混入。表土。(A-A' 1層と同じ)
 - 2 灰黄褐色土 (10YR4/2) 粘性なし・よくしまり硬い。As-B 混入。(A-A' 2層と同じ)
 - 3 黒色土 (10YR2/1) 粘性なし・ややしまり弱い。As-B 混入。
 - 4 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・ややしめる。As-C 混入。炭片含む。
黄色土ブロック径 1cm 以下少量。
 - 5 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・ややしめる。As-C 混入。
 - 6 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・ややしめる。As-C 混入。5層と比べややしまり劣る。
黄色土ブロック径 1cm 以下少量。細砂微量。暗褐色土 (10YR3/3) 含む。
- ※5・6層 瓦片包含顕著
- 7 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・ややしめる。As-C 混入。細砂微量。
 - 8 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・ややしめる。As-C 混入。細砂・砂粒希薄に含む。
 - 9 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・しめる。As-C 混入。黄色系地山土ブロック状微量。
黒褐色系地山土含む。
 - A 黒褐色土 (10YR3/2) 粘性なし・しめる。As-B 混入。
下層付近に黄褐色 (10YR4/3) シルト堆積。(A-A' 6層と同じ) 溝覆土。

- 5-2 トレンチ D-D'
- 1 B-B' の 1層と同じ
 - 2 B-B' の 2層・3層と同じ

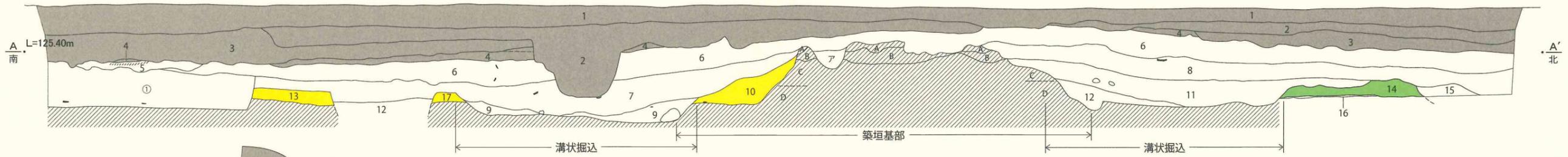
9トレンチ



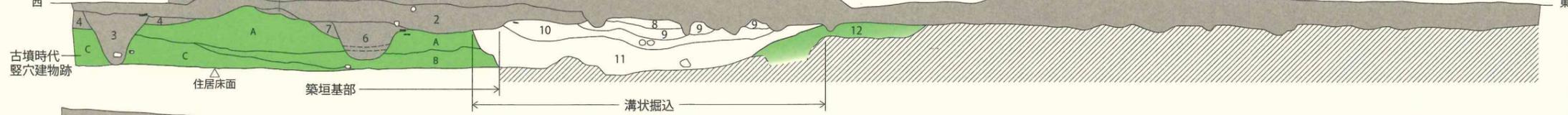
9トレンチ



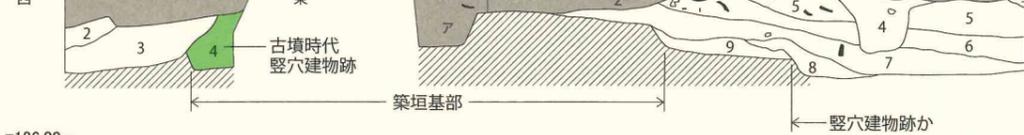
5-1トレンチ



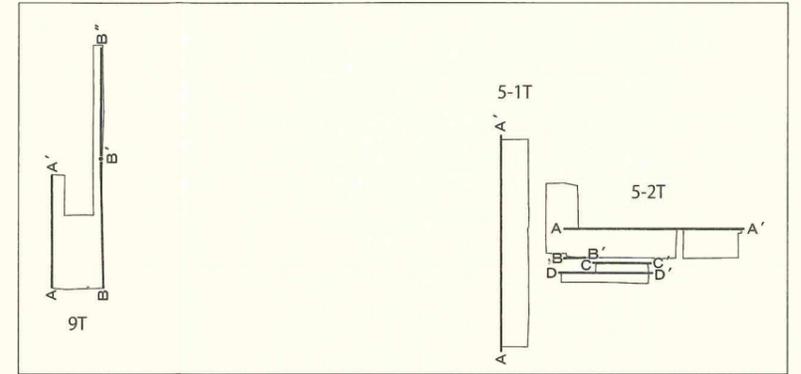
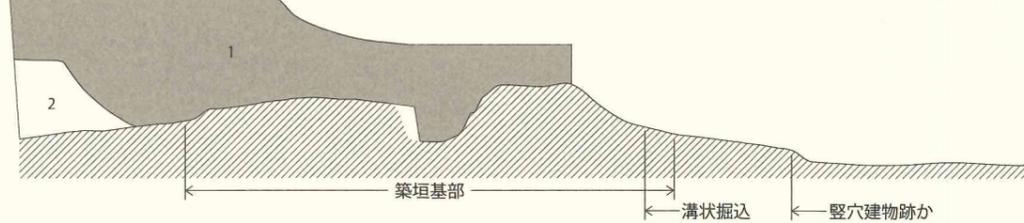
5-2トレンチ



5-2トレンチ

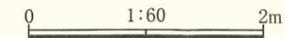


5-2トレンチ

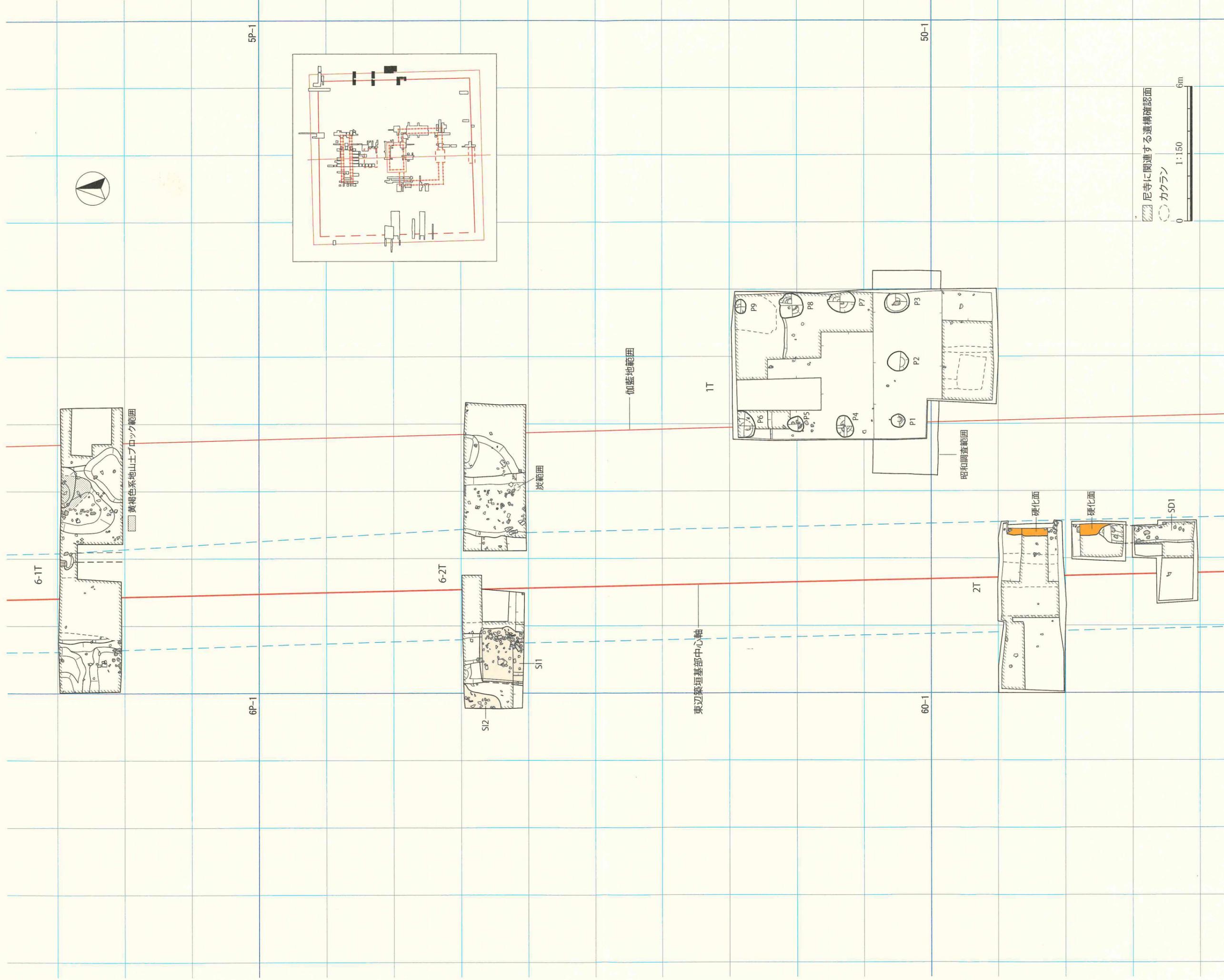


各セクション図共通

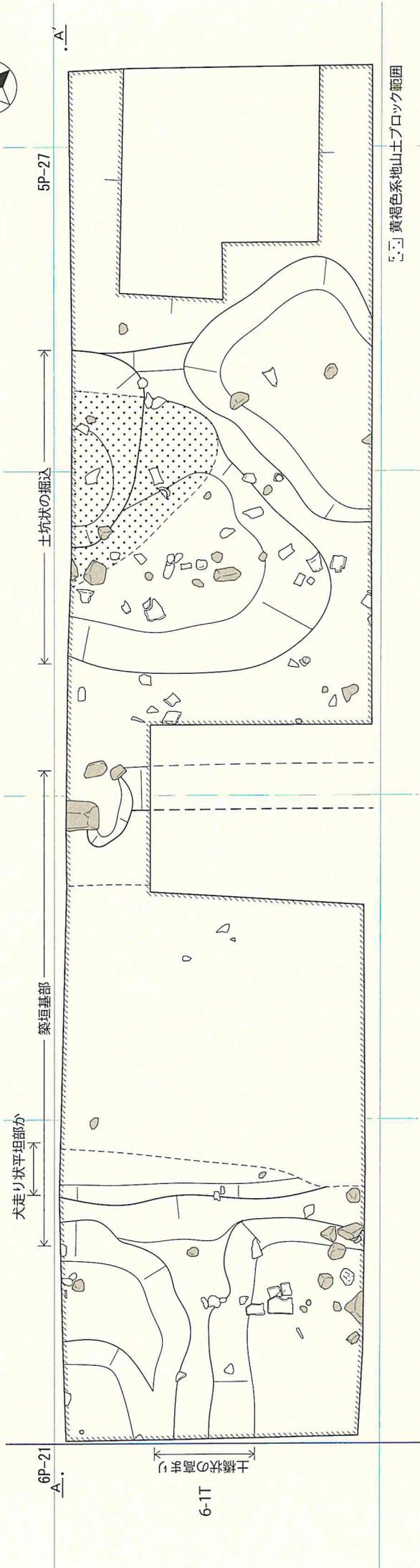
- As-B混入土
- 地業
- 整地土か
- 別遺構覆土(尼寺創建前)
- 別遺構覆土(尼寺創建後)
- 地山



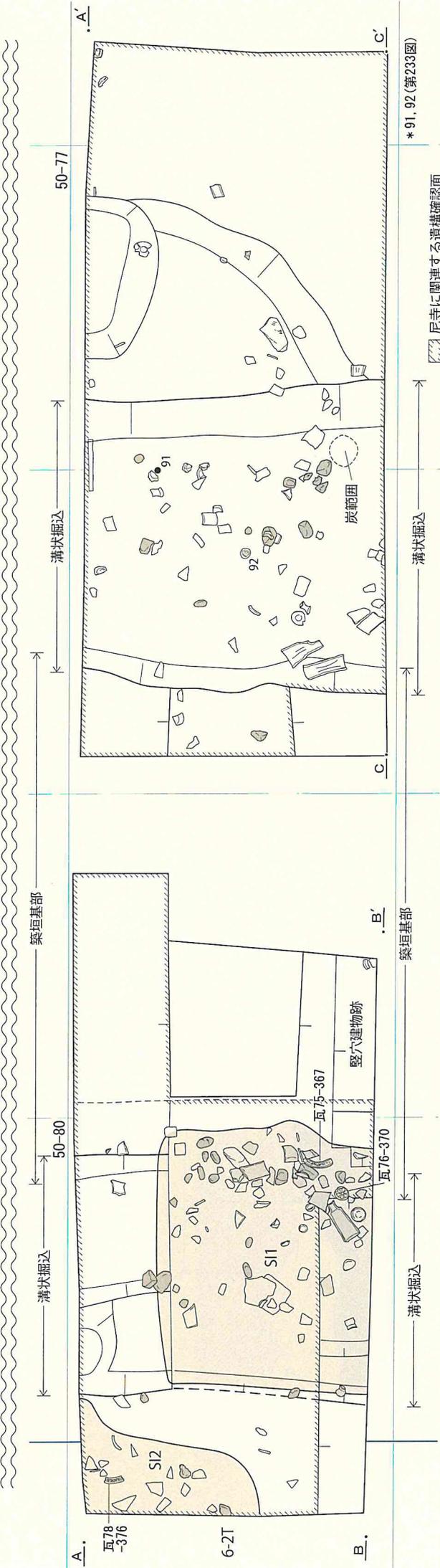
第53図 (4) 伽藍地北辺 断面図



第54図 (5) 加蓋地東辺 平面図-1



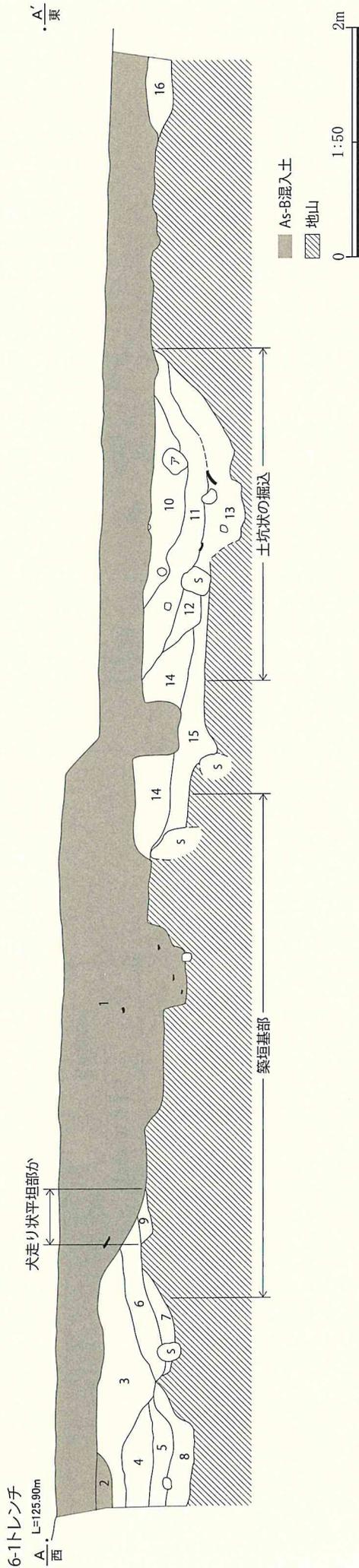
黄褐色系地山土ブロック範囲



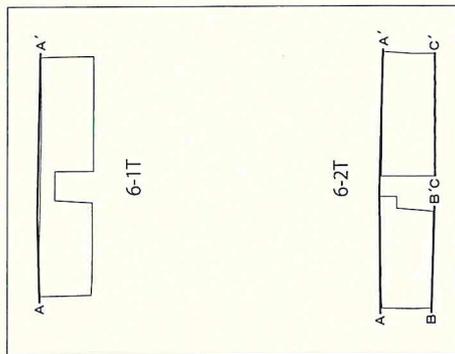
* 91, 92 (第233図)

尾寺に関連する遺構確認面
 カクラン
 0 1:50 2m

第55図 (5) 伽藍地東辺 平面図-2

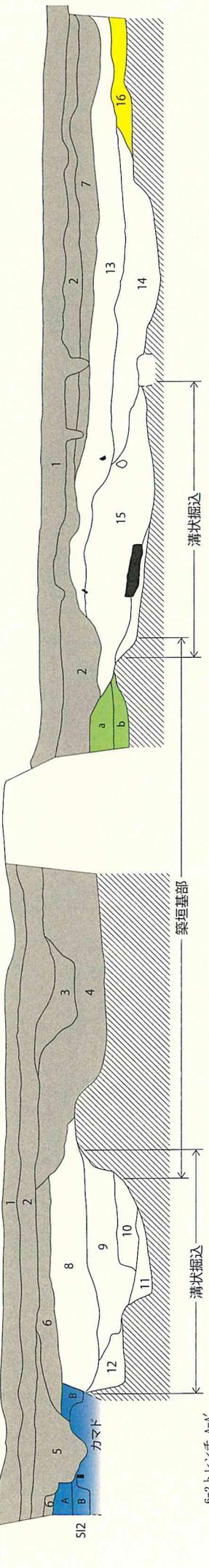


- 6-1トレンチ A-A'
- 1 黒褐色土(10YR3/2)
 - 2 黒褐色土(10YR3/1)
 - 3 黒褐色土(10YR3/2)
 - 4 黒褐色土(10YR3/2)
 - 5 黒褐色土(10YR3/2)
 - 6 黒褐色土(10YR3/2)
 - 7 黒褐色土(10YR3/2)
 - 8 黒褐色土(10YR3/2)
 - 9 黒褐色土(10YR3/2)
 - 10 黒褐色土(10YR3/2)
 - 11 黒褐色土(10YR3/2)
 - 12 黒褐色土(10YR3/2)
 - 13 黒褐色土(10YR3/2)
 - 14 黒褐色土(10YR3/2)
 - 15 黒褐色土(10YR3/2)
 - 16 黒褐色土(10YR3/2)
 - ア 黒褐色土(10YR3/2)
- 粘性なし・ややしめる。As-B混入。
 粘性なし・しまり弱い。As-B密に混入。
 わずかに粘性・ややしめる。As-C混入。黄色土ブロック径1cm以下少量。
 わずかに粘性・ややしめる。As-C混入。3層より色調やや暗い。
 3層と比べて色調やや暗い。やや粘性・ややしめる。As-C混入。黄色土ブロック径1cm以下まばらに含む。
 わずかに粘性・ややしめる。As-Cまばらに混入。3層と比べAs-Cの混入量・密度やや多い。
 黄色土ブロック径1cm以下少量。
 わずかに粘性・ややしめる。As-Cまばらに混入。3層と比べAs-Cの混入量・密度やや多い。砂粒含む。
 やや粘性・ややしめる。As-C混入。地山黒褐色土(10YR2/2)含む。黄色土ブロック状まばらに含む。
 やや粘性・ややしめる。地山黒褐色土(10YR2/2)含む。
 やや粘性・ややしめる。地山黄色土多量・密に含む。As-C混入。
 やや粘性・ややしめる。As-C混入。黄色土ブロック径1cm以下まばらに含む。
 やや粘性・ややしめる。As-C混入。黄色土ブロック状やや密に含む。
 やや粘性・ややしめる。As-C混入。夾雑物少ない。地山黒褐色土(10YR3/2)-暗褐色土(10YR3/3)含む。
 やや粘性・しめる。As-C混入。しまり良い。黒褐色土(10YR3/2)ブロック状に含む。(やや色調暗い)
 黄色土ブロック径1cm以下少量。
 やや粘性・ややしめる。As-C混入。地山黒褐色土(10YR3/2)-黒褐色土(10YR2/2)含む。地山黄色土ブロック状少量。
 やや粘性・ややしめる。As-C混入。
 硬い黄色土径1cm以下含む。As-C含む。砂粒希薄に含む。築地の崩落か。



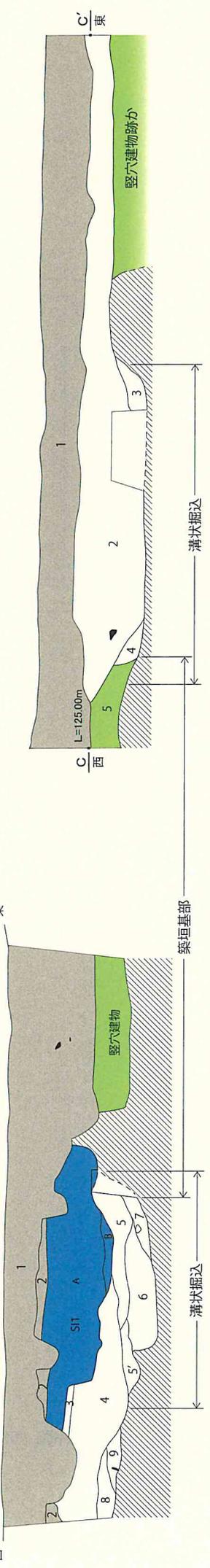
第56図 (5) 伽藍地東辺 断面図-1

6-2トレンチ
A L=125.90m
西



- 6-2トレンチ A-A'
- 黒褐色土(10YR3/2) 粘性なし・ややしめる。As-B混入。表土。
 - 黒褐色土(10YR3/2) 粘性なし・よくしまり硬い。As-B混入。
 - 黒褐色土(10YR3/2) 粘性なし・しめる。As-B混入。
 - 黒褐色土(10YR3/2) 粘性なし・ややしめる。As-B混入。
 - 黒褐色土(10YR3/2) 粘性なし・ややしめる。As-B混入。1-4層に比べやや混入量多く均質。 ※ 1-5層 As-B混土
 - 黒褐色土(10YR3/2) 1-5層にくらべ色調やや暗い。わずかに粘性・ややしめる。As-B混入。
 - 黒褐色土(10YR3/2) わずかに粘性・ややしめる。As-C混入。土質は下層土と似る。As-B混入。
 - 黒褐色土(10YR3/2) わずかに粘性・ややしめる。As-C混入。黄色土ブロック後1cm以下少量。
 - 黒褐色土(10YR3/2) わずかに粘性・ややしめる。As-C混入。黒褐色系(10YR3/2-2/2)地山土ブロック状まばらに含む。
 - 黒褐色土(10YR3/2) 黄色土ブロック後1cm以下少量。
 - 黒褐色土(10YR3/2) やや粘性・ややしめる。As-C混入。黄色土ブロック後1cm以下少量。
 - A層とほぼ同じ。灰黄褐色(10YR4/2)粘土ブロック状含む。
 - A・B層 S11覆土
 - S11カマド 灰褐色土(10YR4/2) 粘土ブロック状含む。

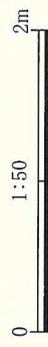
6-2トレンチ
B L=125.90m
西



- 6-2トレンチ B-B'
- 黒褐色土(10YR3/2) 粘性なし・ややしめる。As-B混入。表土。
 - 黒褐色土(10YR3/2) 色調やや暗い。粘性なし・ややしまり弱い。As-B混入。
 - 黒褐色土(10YR3/2) わずかに粘性・ややしまり弱い。As-C含む。細砂含む。
 - 黒褐色土(10YR3/2) わずかに粘性・ややしめる。As-C混入。地山黒褐色土(10YR3/2)含む。
 - 黒褐色土(10YR3/2) A層と比べ土質粗く、夾雑物が多い印象。
 - 黒褐色土(10YR3/2) やや粘性・しめる。As-C混入。地山暗褐色土(10YR3/3)-黒褐色土(10YR3/2)含む。
 - 黒褐色土(10YR2/2)アロックス状密含む。
 - 黒褐色土(10YR3/2) やや粘性・ややしめる。As-C混入。地山黒褐色土(10YR3/2-2/2)ブロック状含む。
 - 地山黒褐色土ブロック(10YR3/2-2/2)-暗褐色土(10YR3/2)主体。黄色土ブロック後1cm以下少量。As-C含む。
 - 黒褐色土(10YR3/2) 4層と比べ色調やや暗い。やや粘性・ややしめる。As-C混入。地山黒褐色土(10YR3/2)含む。
 - 8層とほぼ同じ。地山黒褐色土(10YR2/2)含む。
 - A層とほぼ同じ。粘性・ややしめる。As-C混入。炭片(小)少量。
 - 黒褐色土(10YR3/2) A層とほぼ同じ。炭片・灰多量。
 - A・B層 S11覆土

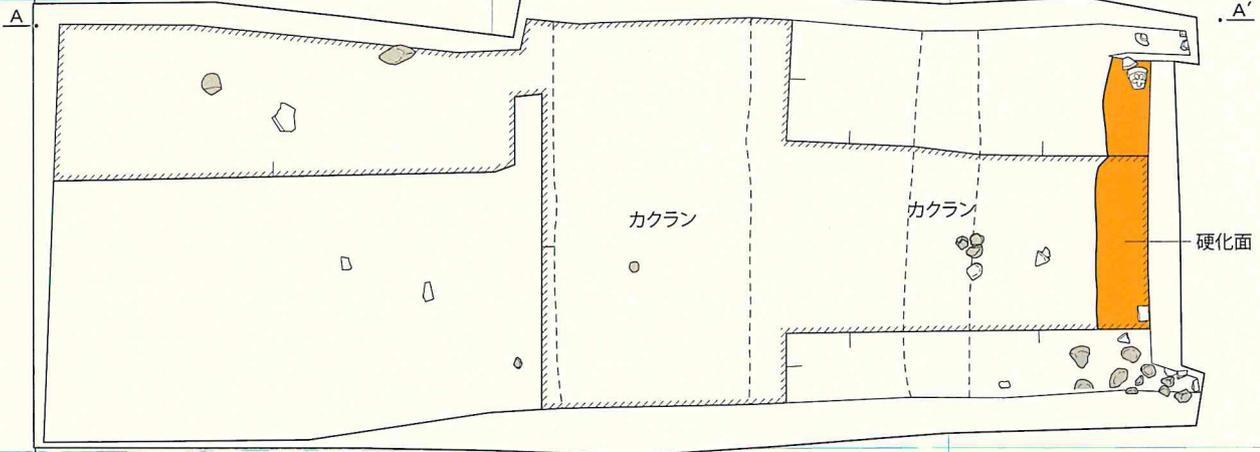
第57図 (5) 伽藍地東辺 断面図-2

- 各セクション図共通
- As-B混入土
 - 別遺構覆土(尼寺創建前)
 - 整地土が
 - 別遺構覆土(尼寺創建後)
 - 地山



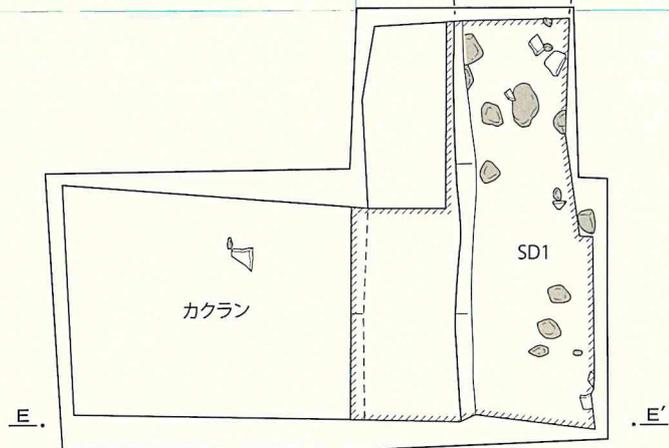
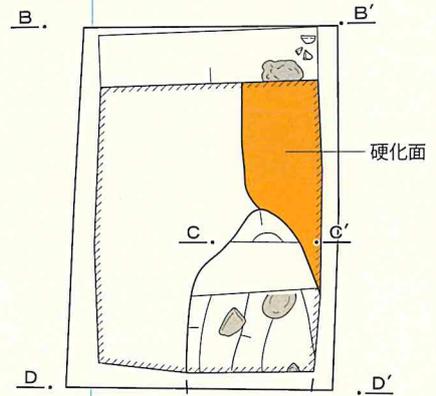
- 6-2トレンチ C-C'
- 黒褐色土(10YR3/2) 粘性なし・ややしめる。As-B混入。表土。
 - 黒褐色土(10YR3/2) わずかに粘性・ややしめる。As-C混入。炭片後1cm以下。黄色土ブロック後1cm以下少量。
 - 黒褐色土(10YR3/2) わずかに粘性・ややしめる。As-C混入。地山黒褐色土(10YR3/2-2/2)ブロック状含む。
 - 黒褐色土(10YR3/2) わずかに粘性・ややしめる。As-C混入。地山暗褐色土(10YR3/2-2/2)-地山暗褐色土(10YR3/3)ブロック状含む。
 - 黒褐色土(10YR3/2) やや粘性・しめる。As-C混入。地山黒褐色土(10YR3/2)-暗褐色土(10YR3/3)ブロック状密に含む。

0 1 2m
1:50



2トレンチ

5N-80

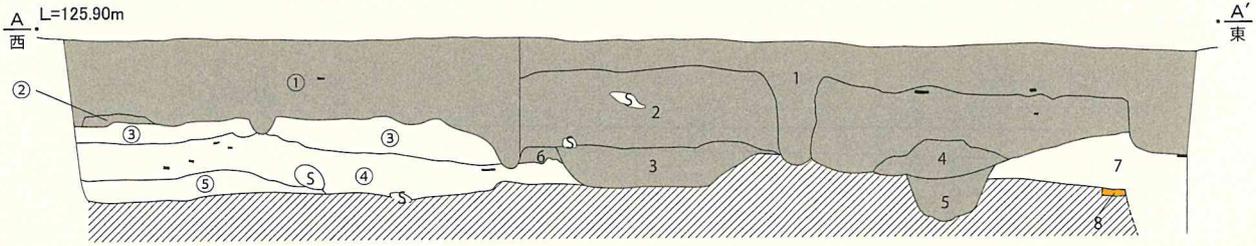


尼寺に関連する遺構確認面

カクラン

0 1:50 2m

第58図 (5) 伽藍地東辺 平面図-3

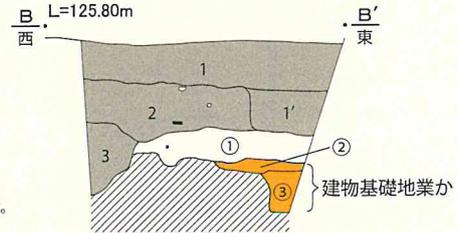


2トレンチ A-A'

- ① 灰黄褐色土(10YR4/2)・黄褐色土(10YR4/3) 粘性なし・しまる。As-B混入。現耕作土。1層2層と同一層。
- ② As-B一次堆積層 降下ユニットみられる。
- ③ 黒褐色土(10YR3/2) やや粘性・ややしまる。As-Cまばらに混入。
- ④ 暗褐色土(10YR3/3) やや粘性・ややしまる。As-Cまばらに混入。(他層と比べ瓦片の包含目立つ)
- ⑤ 黒褐色土(10YR3/2) やや粘性・ややしまる。As-Cまばらに混入。
- 1 灰黄褐色土(10YR4/2) 粘性なし・ややしまり劣る。As-B混入。現耕作土。
- 2 灰黄褐色土(10YR4/2)・黄褐色土(10YR4/3) 粘性なし・よくしまる。上層部極めて硬い。As-B混入。瓦片・礫含む。
- 3 灰黄褐色土(10YR4/2) 粘性なし・しまる。As-B混入。瓦片(小)・焼土ブロック(小)微量。
- 4 灰黄褐色土(10YR4/2) 粘性なし・よくしまる。As-B・砂粒混入。※一部にラミナ認められる。
- 5 灰黄褐色土(10YR4/2)・黄褐色土(10YR4/3) 粘性なし・しまる。As-B・砂粒混入。角安石粒径1cm以下微量。褐色系地山土含む。
- 6 黒褐色土(10YR3/2) 粘性なし・ややしまる。As-B混入。
- 7 暗褐色土(10YR3/3) やや粘性・ややしまる。As-Cまばらに混入。地業を切る遺構覆土。坏出土。
- 8 黒褐色土(10YR3/2)・暗褐色土(10YR3/3) やや粘性・よくしまり硬い。As-C含む。黒色系地山土含む。地業か。

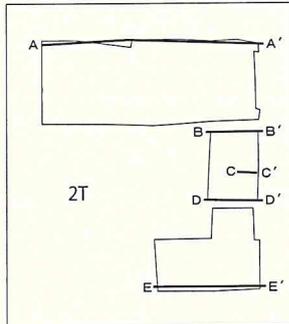
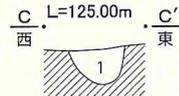
2トレンチ B-B' D-D'

- 1 黒褐色土(10YR3/2) 粘性なし・ややしまる。As-B混入。現耕作土。
 - 1' 灰黄褐色土(10YR4/2)含む
 - 2 黒褐色土(10YR3/2) 粘性なし・極めて硬い。As-B混入。瓦片・礫含む。
 - 3 灰黄褐色土(10YR4/2) 粘性なし・しまる。As-B・砂粒含む。
 - 4 黒褐色土(10YR3/2) やや粘性・ややしまる。As-Cまばらに混入。黄色系地山土ブロック少量。炭片(小)微量。SD-1覆土。
 - ① 暗褐色土(10YR3/3) やや粘性・ややしまる。As-Cまばらに混入。
 - ② 暗褐色土(10YR3/3) 粘性わずか・よくしまり硬い。As-Cまばらに混入。黒色系地山土ブロック状少量。
 - ③ 黒褐色土(10YR3/2)・暗褐色土(10YR3/3) 粘性わずか・よくしまり硬い。As-Cまばらに混入。
- ※ ②・③層 建物基礎地業か



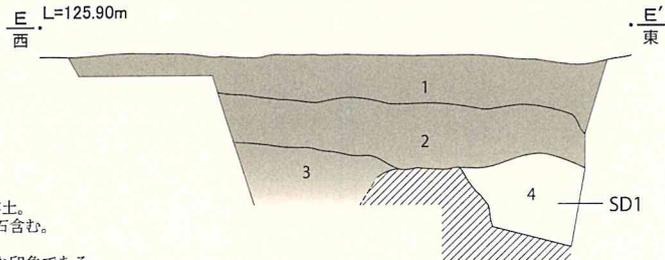
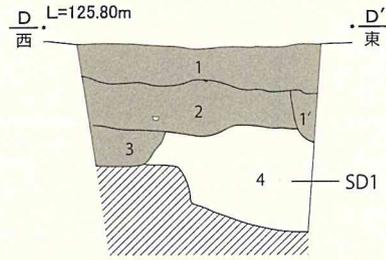
2トレンチ C-C'

- 1 黒褐色土(10YR3/2) やや粘性・ややしまる。As-Cまばらに混入。黄色系地山土ブロック少量。炭片(小)微量。SD1覆土。D-D'の4層と同じ。



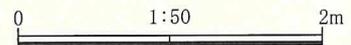
各セクション図共通

- As-B混入土
- 地業
- 地山

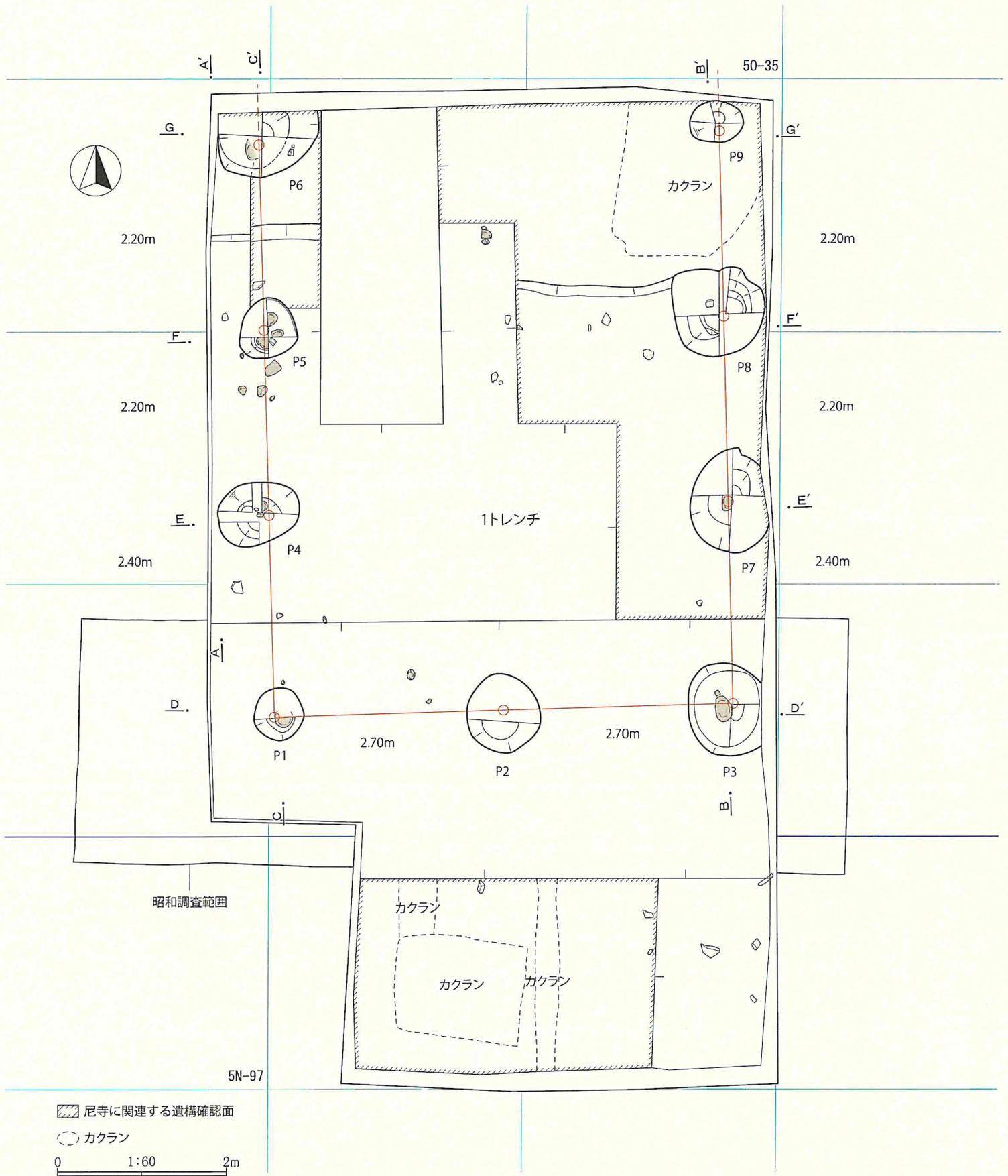


2トレンチ E-E'

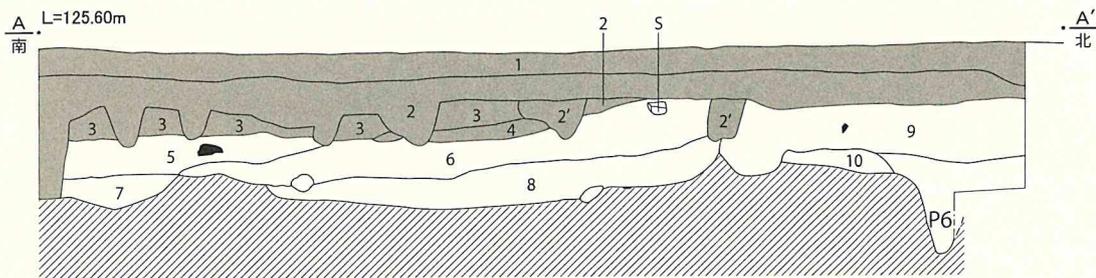
- 1 黒褐色土(10YR3/2) 粘性なし・ややしまる。As-B混入。現耕作土。
- 2 黒褐色土(10YR3/2) 粘性なし・非常に硬い。As-B混入。瓦片・石含む。
- 3 黒褐色土(10YR3/2) 粘性わずか・しまる。As-B・砂粒混入。混入物の粒径は上層と比べ比較的均質な印象である。一部にラミナが認められる。黒褐色シルト質土(10YR3/2)少量。
- 4 黒褐色土(10YR3/2) やや粘性・ややしまる。As-Cまばらに混入。黄色系地山土ブロック少量。炭片(小)微量。SD1覆土。



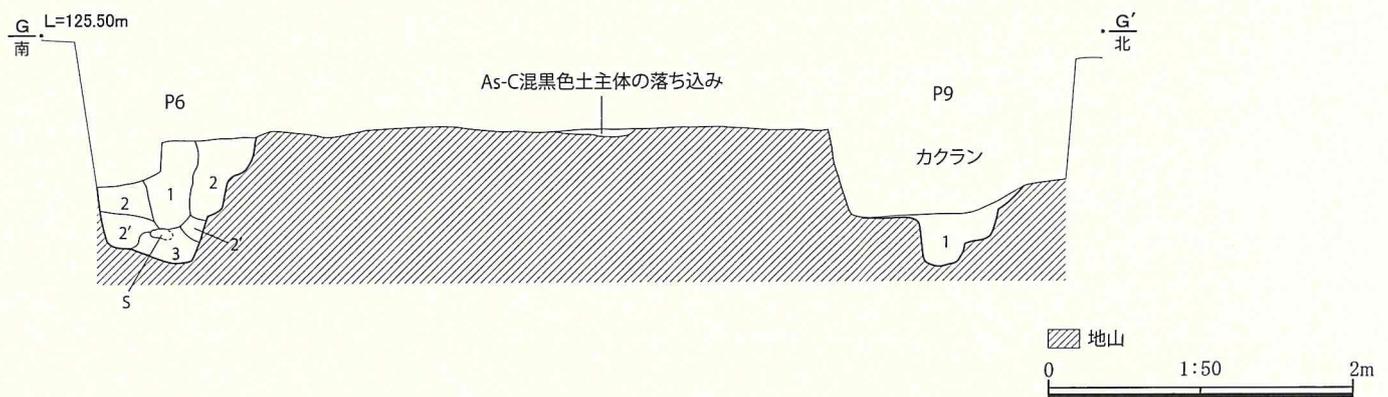
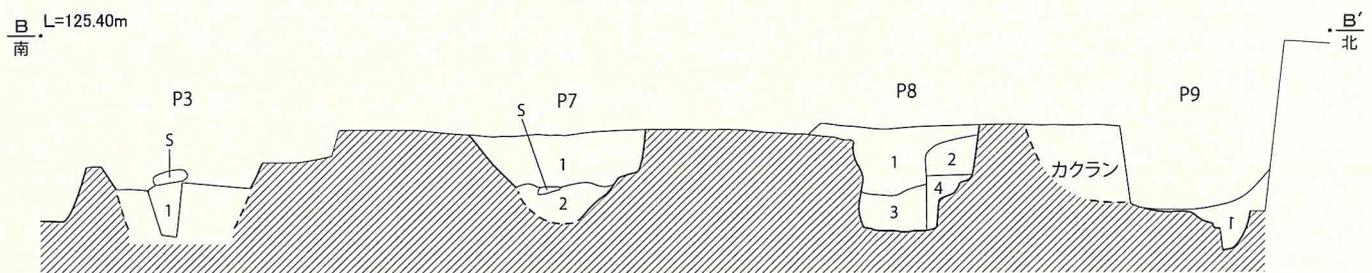
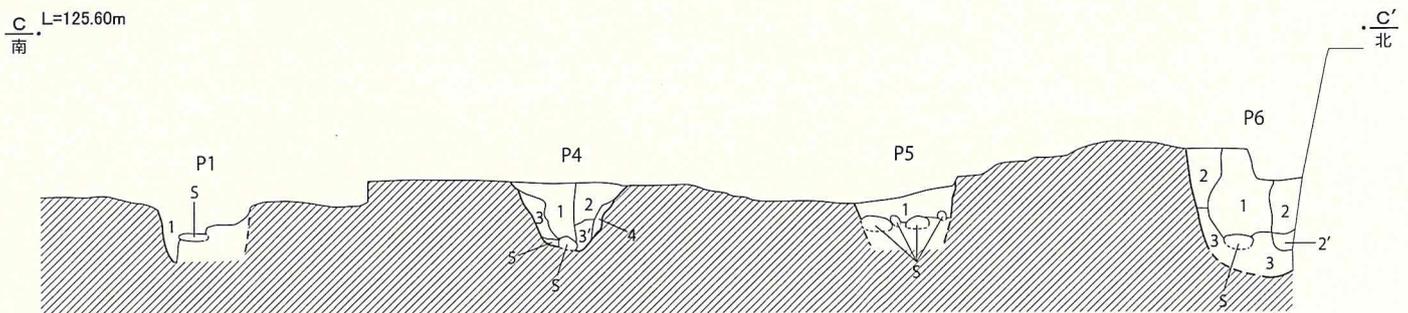
第59図 (5) 伽藍地東辺 断面図-3



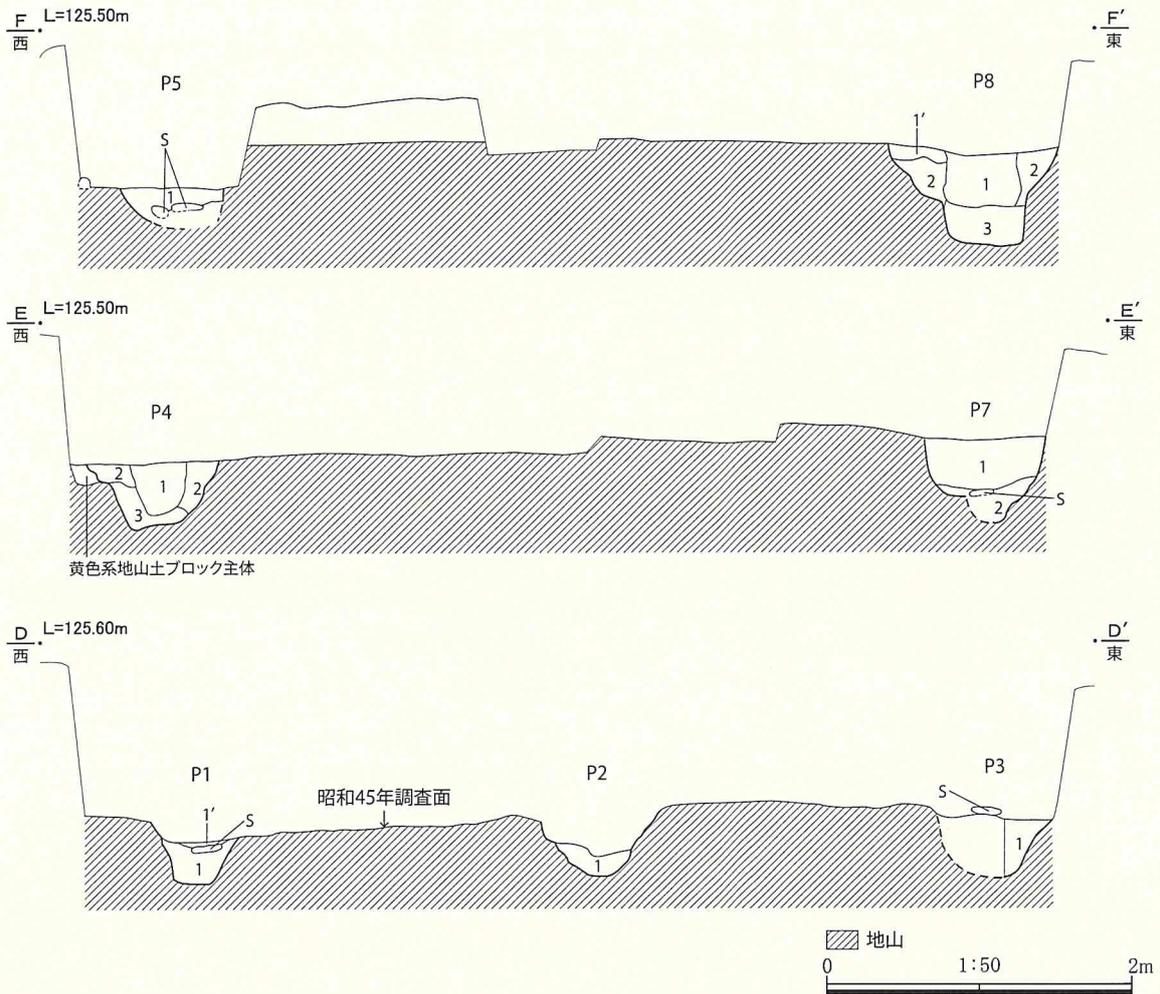
第60図 (5) 伽藍地東辺 掘立柱建物跡 平面図



- 1 トレンチ A-A'
- 1 灰黄褐色土(10YR4/2) 粘性なし・ややしまり弱い。As-B混入。耕作土。
 - 2 灰黄褐色土(10YR4/2) 粘性なし・しまる。As-B混入。
1・2層 B混
 - 2' 褐色土(3層土) ブロック状含む。
 - 3 黒褐色土(10YR3/2) 粘性わずか・ややしまる。As-Cまばらに混入。As-B含む。(2層土含むか)
 - 4 黒褐色土(10YR3/2) 粘性なし・よくしまって硬い。As-Cまばらに混入。As-B含む。(2層土含むか)
3・4層 B混 Bの混入量少ない
 - 5 黒褐色土(10YR3/2) 粘性わずか・ややしまる。As-Cまばらに混入。
 - 6 黒褐色土(10YR3/2) 粘性わずか・ややしまる。As-Cまばらに混入。黒褐色系地山土ブロック状少量。
 - 7 黒褐色土(10YR3/2) 粘性わずか・ややしまる。As-Cまばらに混入。黒褐色系・褐色系地山土ブロック状含む。焼土ブロック(小)微量。黄褐色系地山土ブロック状少量。
 - 8 黒褐色土(10YR3/2) 粘性わずか・ややしまる。As-Cまばらに混入。黒褐色系・黄褐色系地山土ブロック状少量。
 - 9 黒褐色土(10YR3/2) やや粘性・ややしまる。As-Cまばらに混入。
 - 10 黒褐色土(10YR3/2) やや粘性・ややしまる。As-Cまばらに混入。地山黒褐色土・褐色土ブロック状含む。黄褐色土少量。



第61図 (5) 伽藍地東辺 掘立柱建物跡 断面図-1



1 トレンチ ビット1~9

P1

1 黒褐色土(10YR3/2) やや粘性・ややしまる。As-Cまばらに混入。黄色系地山土ブロック径1cm以下少量。
1' しまり劣る。

P2

1 黒褐色土(10YR3/2) やや粘性・よくしまる。As-Cまばらに混入。黄色系地山土ブロック径2cm以下まばらに含む。焼土ブロック径5mm以下微量。

P3

1 黒褐色土(10YR3/2) やや粘性・よくしまる。As-Cまばらに混入。黄色系地山土ブロック径2cm以下まばらに含む。焼土ブロック径5mm以下微量。P-2の1層と同じ。

P4

1 暗褐色土(10YR3/3) 粘性わずか・しまりやや劣る。As-Cまばらに混入。黄色系地山土ブロック径1cm以下少量。
2 黒褐色土(10YR3/2)・暗褐色土(10YR3/3) 粘性わずか・しまる。As-Cまばらに混入。黄色系地山土ブロック径2cm以下まばらに含む。
3 黒褐色土(10YR3/2)・暗褐色土(10YR3/3) 粘性わずか・よくしまる。黄色系地山土ブロック径1cm以下含む。褐色系地山土ブロック状含む。
3' 黄色系地山土ブロック状・褐色系地山土ブロック状やや密に含む。
4 黒褐色土(10YR3/2)・暗褐色土(10YR3/3) 粘性わずか・ややしまり劣る。As-Cまばらに混入。黒褐色系地山土ブロック状含む。黄色系地山土ブロック状まばらに含む。
5 3' 層とほぼ同じ。

P5

1 黄褐色土(10YR4/3) 粘性わずか・しまる。As-Cまばらに混入。黄色系地山土ブロック径2cm以下まばらに含む。

P6

1 黄褐色土(10YR4/3) 粘性わずか・ややしまり劣る。As-Cまばらに混入。
2 黒褐色土(10YR3/2) やや粘性・しまる。As-Cまばらに混入。黒褐色系地山土ブロック状少量。黄色系地山土ブロック径2cm以下まばらに含む。
2' 黒褐色系地山土ブロック状含む。
3 暗褐色土(10YR3/3)・黒褐色土(10YR3/2) やや粘性・よくしまる。As-C含む。

P7

1 黄褐色土(10YR4/3)・暗褐色土(10YR3/3) やや粘性・ややしまる。As-Cまばらに混入。黄色系地山土ブロック径3cm以下まばらに含む。
2 暗褐色土(10YR3/3) やや粘性・よくしまる。As-Cまばらに混入。黄色系地山土ブロック径1cm以下まばらに含む。黒褐色系地山土含む。

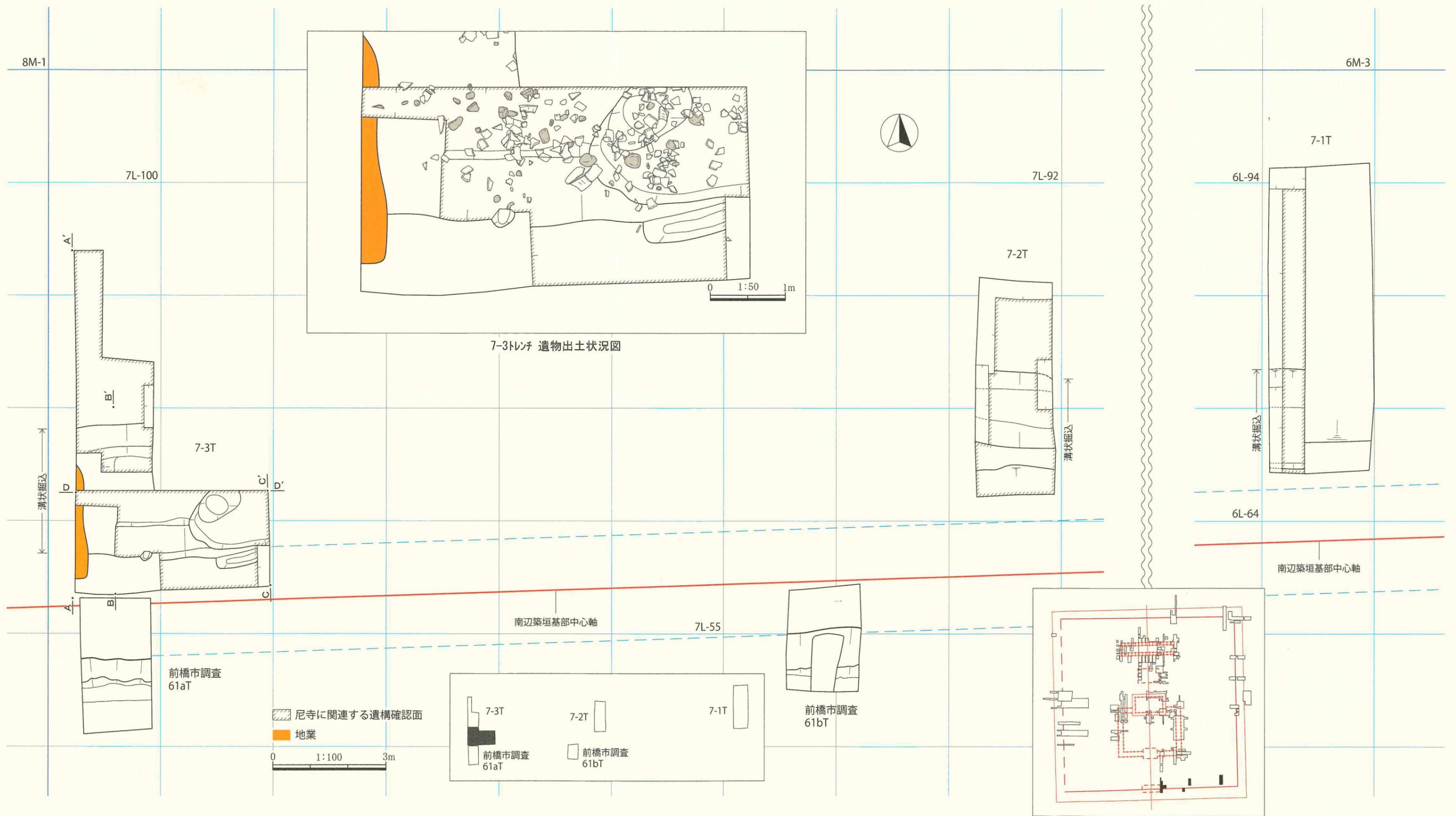
P8

1 暗褐色土(10YR3/3) 粘性わずか・ややしまり劣る。As-Cまばらに混入。黄色系地山土ブロック径1cm以下まばらに含む。
1' 黒褐色系地山土含む。
2 暗褐色土(10YR3/3)・黒褐色土(10YR3/2) As-Cまばらに混入。黒褐色系地山土ブロック状含む。
3 暗褐色土(10YR3/3)・黒褐色土(10YR3/2) よくしまる。As-Cまばらに含む。黒褐色系地山土ブロック状含む。黄色系地山土ブロック状やや密に含む。
4 黒褐色系地山土ブロック主体 粘性わずか・ややしまり劣る。As-C少量。

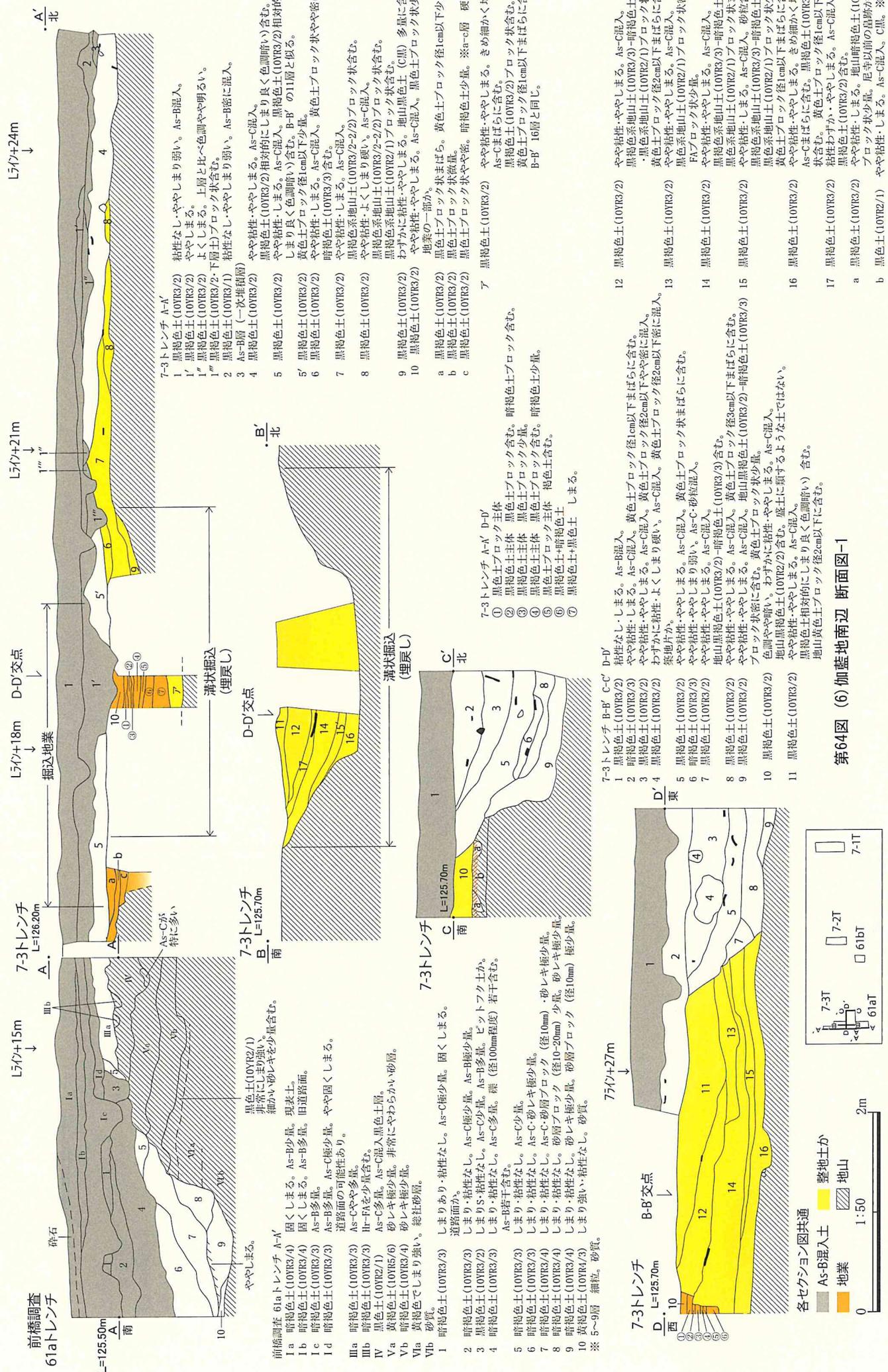
P9

1 黄褐色土(10YR4/3) 粘性わずか・よくしまる。As-Cまばらに含む。黄色系地山土ブロック状やや密に含む。

第62図 (5) 伽藍地東辺 掘立柱建物跡 断面図-2



第63図 (6) 伽藍地南辺 平面図



第64図 (6) 加藍地南辺 断面図-1

- 7-3トレンチ A-A' 粘性なし、ややしまり弱い。As-B混入。
 1 黒褐色土(10YR3/2) ややしまる。
 1' 黒褐色土(10YR3/2) よくしまる。上層と比べ色調やや明るい。
 1'' 黒褐色土(10YR3/2) 下層土)プロック状含む。
 2 黒褐色土(10YR3/1) 粘性なし、ややしまり弱い。As-B密に混入。
 3 As-B層 (一次堆積層) やや粘性、ややしまる。As-C混入。
 4 黒褐色土(10YR3/2) 黒褐色土(10YR3/2) 相対的にしまり良く色調暗い)含む。
 5 黒褐色土(10YR3/2) しまり良く色調暗い)含む。B-B' の11層と似る。
 5' 黒褐色土(10YR3/2) やや粘性、ややしまり弱い。As-C混入。
 6 黒褐色土(10YR3/2) やや粘性、ややしまる。As-C混入。
 7 黒褐色土(10YR3/2) 黒褐色系赤土(10YR3/2-2/2)プロック状含む。
 8 黒褐色土(10YR3/2) やや粘性、よくしまり硬い。As-C混入。
 9 黒褐色土(10YR3/2) 黒褐色系赤土(10YR3/2-2/2)プロック状含む。
 10 黒褐色土(10YR3/2) わずかに粘性、ややしまる。地山黒色土(C黒) 多量に含む。
 a 黒褐色土(10YR3/2) 黒色土プロック径1cm以下少量。
 b 黒褐色土(10YR3/2) 黒色土プロック径1cm以下少量。
 c 黒褐色土(10YR3/2) 黒色土プロック径1cm以下少量。
 7 黒褐色土(10YR3/2) やや粘性、ややしまる。As-C混入。
 12 黒褐色土(10YR3/2) やや粘性、ややしまる。As-C混入。
 13 黒褐色土(10YR3/2) 黒褐色系赤土(10YR3/2) やや粘性、ややしまる。As-C混入。
 14 黒褐色土(10YR3/2) 黒褐色系赤土(10YR3/2) プロック状少量。
 15 黒褐色土(10YR3/2) 黒褐色系赤土(10YR3/2) プロック状少量。
 16 黒褐色土(10YR3/2) 黒褐色系赤土(10YR3/2) プロック状少量。
 17 黒褐色土(10YR3/2) 黒褐色系赤土(10YR3/2) プロック状少量。
 a 黒褐色土(10YR3/2) 黒褐色系赤土(10YR3/2) プロック状少量。
 b 黒褐色土(10YR3/2) 黒褐色系赤土(10YR3/2) プロック状少量。

- 7-3トレンチ A-A' D-D' 粘性なし、ややしまり弱い。As-B混入。
 ① 黒褐色土(10YR3/2) 黒褐色土(10YR3/2) 主体
 ② 黒褐色土(10YR3/2) 黒褐色土(10YR3/2) 主体
 ③ 黒褐色土(10YR3/2) 黒褐色土(10YR3/2) 主体
 ④ 黒褐色土(10YR3/2) 黒褐色土(10YR3/2) 主体
 ⑤ 黒褐色土(10YR3/2) 黒褐色土(10YR3/2) 主体
 ⑥ 黒褐色土(10YR3/2) 黒褐色土(10YR3/2) 主体
 ⑦ 黒褐色土(10YR3/2) 黒褐色土(10YR3/2) 主体
 7-3トレンチ B-B' C-C' 粘性なし、ややしまり弱い。As-B混入。
 1 黒褐色土(10YR3/2) やや粘性、ややしまる。As-C混入。
 2 暗褐色土(10YR3/3) やや粘性、ややしまる。As-C混入。
 3 黒褐色土(10YR3/2) やや粘性、ややしまる。As-C混入。
 4 黒褐色土(10YR3/2) わずかに粘性、よくしまり硬い。As-C混入。
 5 黒褐色土(10YR3/2) 葉地片か。
 6 暗褐色土(10YR3/3) やや粘性、ややしまり弱い。As-C混入。
 7 黒褐色土(10YR3/2) やや粘性、ややしまる。As-C混入。
 8 黒褐色土(10YR3/2) 地山黒褐色土(10YR3/2) 暗褐色土(10YR3/3) 含む。
 9 黒褐色土(10YR3/2) やや粘性、ややしまる。As-C混入。
 10 黒褐色土(10YR3/2) やや粘性、ややしまる。As-C混入。
 11 黒褐色土(10YR3/2) 色調やや暗い。わずかに粘性、ややしまる。As-C混入。
 12 黒褐色土(10YR3/2) 地山黒褐色土(10YR3/2) 含む。盛土に類するよう土ではない。
 13 黒褐色土(10YR3/2) やや粘性、ややしまる。As-C混入。
 14 黒褐色土(10YR3/2) 黒褐色土(10YR3/2) 相対的にしまり良く色調暗い) 含む。
 15 黒褐色土(10YR3/2) 地山黄色土プロック径2cm以下に含む。

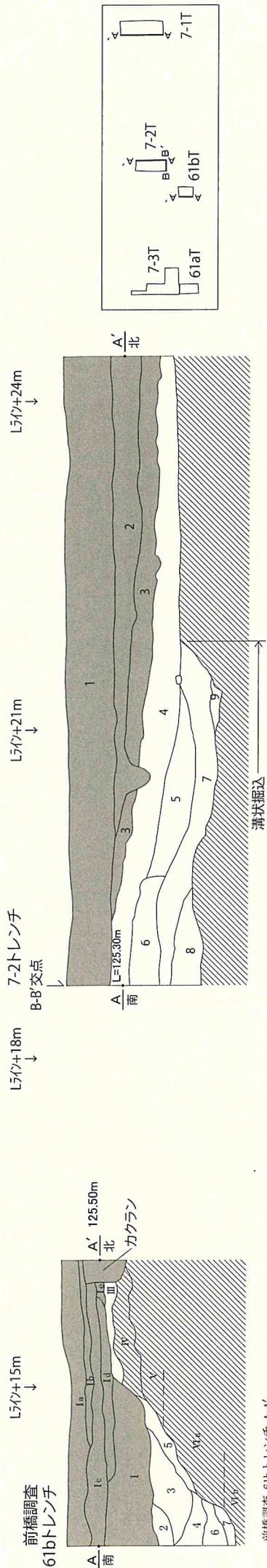
- 7-3トレンチ A-A' L=125.70m 南 黒色土(10YR2/1) 非常にしまり強い、細かい砂レキを少量含む。
 1a 暗褐色土(10YR3/4) 埋表土。
 1b 暗褐色土(10YR3/4) 固くしまる。As-B少量。旧道路面。
 1c 暗褐色土(10YR3/3) As-B多量。
 1d 暗褐色土(10YR3/3) As-B多量。As-C混入少量。As-Cやや多量。道路面の可能性あり。やや固くしまる。
 2 暗褐色土(10YR3/3) As-Cやや多量。
 3 暗褐色土(10YR3/3) II-FNを少量含む。
 4 暗褐色土(10YR3/3) As-C多量。As-C混入黒色土層。
 5 暗褐色土(10YR3/3) 砂レキ極少量。非常にやわらかい砂層。
 6 暗褐色土(10YR3/4) 砂レキ極少量。
 7 暗褐色土(10YR3/4) 砂レキ極少量。
 8 暗褐色土(10YR3/4) 砂レキ極少量。砂層プロック (径10-20mm) 少量。砂レキ極少量。
 9 暗褐色土(10YR3/4) 砂レキ極少量。砂層プロック (径10mm) 極少量。
 10 黄褐色土(10YR4/3) しまり強い、粘性なし。砂質。
 ※ 5-9層 細粒。砂質。
 7-3トレンチ C C' L=125.70m 南 しまりあり、粘性なし。As-C極少量。固くしまる。道路面か。
 1 暗褐色土(10YR3/3) しまり、粘性なし。As-C極少量。As-B極少量。
 2 暗褐色土(10YR3/2) しまりS。粘性なし。As-C少量。As-B多量。ピットフックか。
 3 暗褐色土(10YR3/3) しまり、粘性なし。As-C多量。礫 (径100mm程度) 若干含む。
 4 As-B若干含む。
 5 暗褐色土(10YR3/3) しまり、粘性なし。As-C少量。
 6 暗褐色土(10YR3/3) しまり、粘性なし。As-C砂レキ極少量。
 7 暗褐色土(10YR3/4) しまり、粘性なし。As-C砂層プロック少量。
 8 暗褐色土(10YR3/4) しまり、粘性なし。砂層プロック (径10-20mm) 少量。砂レキ極少量。
 9 暗褐色土(10YR3/4) しまり、粘性なし。砂レキ極少量。砂質。
 10 黄褐色土(10YR4/3) しまり強い、粘性なし。砂質。
 ※ 5-9層 細粒。砂質。
 7-3トレンチ D-D' L=125.70m 西 粘性なし、ややしまり弱い。As-B混入。
 1 黒褐色土(10YR3/2) やや粘性、ややしまる。As-C混入。
 2 暗褐色土(10YR3/3) やや粘性、ややしまる。As-C混入。
 3 黒褐色土(10YR3/2) やや粘性、ややしまる。As-C混入。
 4 黒褐色土(10YR3/2) わずかに粘性、よくしまり硬い。As-C混入。
 5 黒褐色土(10YR3/2) 葉地片か。
 6 暗褐色土(10YR3/3) やや粘性、ややしまり弱い。As-C混入。
 7 黒褐色土(10YR3/2) やや粘性、ややしまる。As-C混入。
 8 黒褐色土(10YR3/2) 地山黒褐色土(10YR3/2) 暗褐色土(10YR3/3) 含む。
 9 黒褐色土(10YR3/2) やや粘性、ややしまる。As-C混入。
 10 黒褐色土(10YR3/2) 色調やや暗い。わずかに粘性、ややしまる。As-C混入。
 11 黒褐色土(10YR3/2) 地山黒褐色土(10YR3/2) 含む。盛土に類するよう土ではない。
 12 黒褐色土(10YR3/2) やや粘性、ややしまる。As-C混入。
 13 黒褐色土(10YR3/2) 黒褐色土(10YR3/2) 相対的にしまり良く色調暗い) 含む。
 14 黒褐色土(10YR3/2) 地山黄色土プロック径2cm以下に含む。

各セクション図共通

- As-B混入土
- 整地土か
- 地業
- 地山

0 1:50 2m

7-3T 7-1T 61bT 61aT



前橋調査 61bトレンチ A-A'

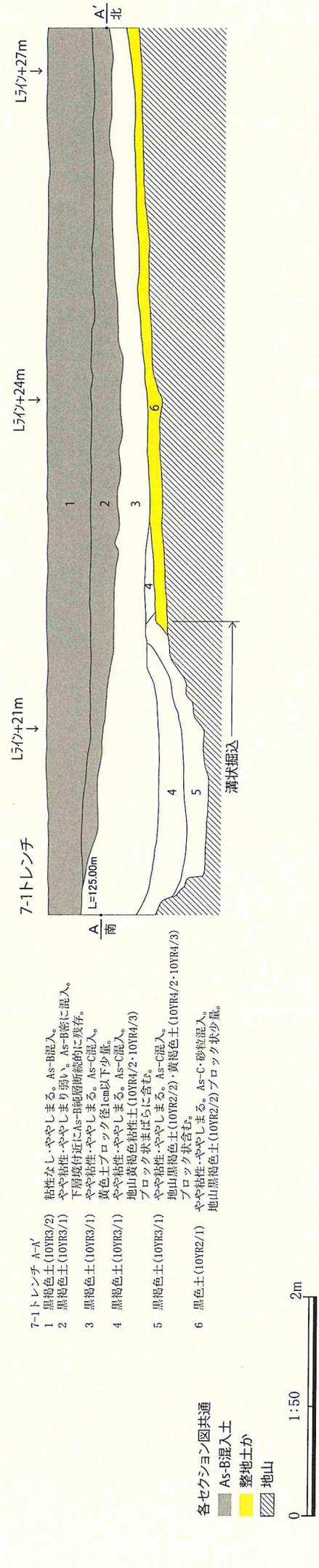
Ia 現表土。
 Ib 暗褐色土(10YR3/4) As-B多量。しまり強い。旧道路面。
 Ic 暗褐色土(10YR3/3) As-B多量。
 Id 暗褐色土(10YR3/3) As-C極少量。しまり強い。旧道路面。
 Ie 暗褐色土(10YR3/3) As-C極少量。As-B多いが、しまりはない。道路面が。
 II 暗褐色土(10YR2/2) As-Cや多量。奈良・平安の遺物を含む。
 III 暗褐色土(10YR2/2) As-C多量。As-C混入黒色土層。61aトレンチよりも黒色が弱い。
 IV 褐色土(10YR4/4) 砂層の漸移層。
 Va 明黄褐色土(10YR6/6) 砂層。
 Vb 黄褐色土(10YR4/3) 砂層。
 1 暗褐色土(10YR3/3) しまり・粘性なし。細かい砂レキ少量。
 2 暗褐色土(10YR3/3) しまり・粘性なし。細い砂レキ少量。As-C極少量。
 3 暗褐色土(10YR3/3) しまり・粘性なし。細い砂レキ少量。
 4 暗褐色土(10YR3/4) しまり・粘性なし。細い砂レキ少量。
 5 暗褐色土(10YR3/4) しまり・粘性なし。砂層土ブロック 極少量。細粒砂質。
 6 暗褐色土(10YR2/3) しまり・粘性なし。細粒砂質。上部に粗い砂レキ少量。
 7 暗褐色土(10YR2/3) しまり・粘性なし。細粒砂質。細かい砂レキ少量。

7-2トレンチ A-A' B-B'

7-2トレンチ A-A' B-B'
 1 黒褐色土(10YR3/2) 粘性なし・しまる。As-B混入。
 2 黒褐色土(10YR3/2) (粗粒と比べて混入粗多く、密度高い。) 粘性なし・しまる。As-B混入。
 3 黒褐色土(10YR3/1) 一次堆積層断続的にみられる。 やや粘性・ややしまる。As-C混入。
 4 暗褐色土(10YR3/3) やや粘性・ややしまる。As-C混入。
 5 暗褐色土(10YR3/3) やや粘性・ややしまる。As-C混入。
 6 5層とほぼ同じ。 ややしまり出す。 黄色土ブロック径1cm以下まばらに含む。
 7 黒褐色土(10YR3/2) やや粘性・ややしまる。As-C混入。
 8 黒褐色土(10YR3/2) 黄色土ブロック径2cm以下まばらに含む。
 9 黒褐色土(10YR3/2) 黄色土ブロック径2cm以下やや密に含む。
 地山粘性暗褐色土(10YR3/3)ブロック状密に含む。

7-1トレンチ A-A'

7-1トレンチ A-A'
 1 黒褐色土(10YR3/2) 粘性なし・ややしまる。As-B混入。
 2 黒褐色土(10YR3/1) やや粘性・ややしまり弱い。As-B密に混入。
 3 黒褐色土(10YR3/1) 下層境付近にAs-B断層断続的に残存。 やや粘性・ややしまる。As-C混入。
 4 黄褐色土(10YR4/2・10YR4/3) 黄色土ブロック径1cm以下少量。 やや粘性・ややしまる。As-C混入。
 5 黒褐色土(10YR3/1) 地山黄褐色粘性土(10YR4/2・10YR4/3) ブロック状まばらに含む。As-C混入。
 6 黒色土(10YR2/1) 地山黒褐色土(10YR2/2)・黄褐色土(10YR4/2・10YR4/3) ブロック状を含む。 やや粘性・ややしまる。As-C・砂粒混入。
 7 黒色土(10YR2/1) やや粘性・ややしまる。As-C・砂粒混入。 地山黒褐色土(10YR2/2)ブロック状少量。



各セクション図共通
 ■ As-B混入土
 ■ 整地土か
 ■ 地山

0 1:50 2m

第65図 (6) 伽藍地南辺 断面図-2

(7) 伽藍地西辺(第 51・66 図～第 71 図)

1) 調査の経過

- ① 調査の目的 伽藍地の西辺範囲を明らかにするため、築垣など区画施設の存在を明らかにする。
- ② 調査区の設定 第 3 次調査において、区画西辺を確認するため、2・5・6 トレンチの所見から判明した東辺築垣ラインを、尼坊跡から導いた伽藍中軸線で折り返した位置に西辺築垣の所在を推定し、これと概ね直交するように 10 トレンチを設定した。この結果、築垣痕跡が認められなかったことから、第 4 次調査の際にトレンチの拡張と追加を行った。各トレンチの設定位置・目的は以下の通りである。

10-1 トレンチ：金堂西側で西門跡の存在が推定される位置である。第 3 次調査では調査区西端で西辺築垣推定ラインと重なる不正な溝状掘込(SD1)を確認した。築垣痕跡や門跡が確認出来なかったため、第 4 次調査でトレンチの北側と西側を拡張した。

10-2 トレンチ：西面回廊中央付近の西側で。10-1 トレンチで確認された SD 1 の南延長部を確認することを主な目的とした。

10-3 トレンチ：10-2 トレンチの南側に、SD1 延長部確認などのため補足的に設定した。

10-4 トレンチ：築垣跡が確認された昭和 52 年(1977)の群馬県教育委員会調査区を検証するために設定した。10-1・10-2 トレンチの間に位置する。

10-5～10-7 トレンチ：10-1 トレンチの西側に補足的に設定した。

また、西辺築垣推定ライン北側の状況を確認するため、第 4 次調査の際に 12 トレンチを設定した。

2) 調査概要

- ① 区画に関連する溝 西辺の築垣推定ラインを概ね西縁とする溝状遺構(SD1)が存在し、10-4 トレンチから 10-3 トレンチに至る延長 20m を確認し、西辺区画と関連する溝と判断した。10-1 トレンチでは SD1 の走行軸と重なるように中世頃の溝状遺構(SD2)が掘り込まれており SD1 の残痕はみられなかった。SD1 の構築時期は、埋没土内に瓦片を含むことなどから尼寺建立後～As-B 降下以前と判断された。また、昭和 52 年度調査個所の再掘から、当時「5 号溝」と呼称された溝が SD1 に該当するとみられる。10-2 トレンチでは SD1 東縁にほぼ接する位置に竪穴建物跡(SI1)が 9 世紀末～10 世紀初頭に構築されていた。SI1 は SD1 と同時期に存在していたとみられ、尼寺に関連する施設であった可能性がある。

SD1 底面の標高値は北側の 10-4 トレンチで 125.50m、10-2 トレンチで 125.61m、確認部南端の 10-3 トレンチの SD1A で 125.45m・SD1B で 125.35m と、地形なりに南が低くなること、SI1 が接し幅が狭くなる箇所は浅くなる。

一方で、SD1 の西側 2.5～3.5m に不明瞭ながら溝の存在が推定される。10-4 トレンチ 4 号溝を北限として、10-2・10-3 トレンチの各々西端付近で落ち込みが確認され溝状遺構が推定できる。また、いずれの落ち込みも埋没土が類似し、10-3 トレンチ確認部を除き瓦片が出土したことから SD1 とほぼ同じ時期に機能していた可能性がある。なお、各確認箇所における掘り込み底面の標高値は 10-4 トレンチ：125.55m・10-2 トレンチ C ライン：125.56m・D ライン(SD2 埋没土上)：125.40m・10-3 トレンチ：125.54m である。

- ② 築垣など区画施設 昭和 52 年調査時の所見で「高さ 60 cm、下巾 4m、上巾 3m の土塁状の高まり」とされた箇所の再調査を行ったところ、SD1 (5 号溝) 外(西)側の地山整地面上に厚さ 30 cm ほどの黒褐色土層が存在するのが確認され、9 トレンチでみられた築垣基部上の盛土と比べると地山土ブロックの混入は顕著では無く、また、搗き固め等の加圧痕跡は認められず、整地土に近い状況であった。

10-1 トレンチでは、SD2 外側(西側)縁辺部の地山整地面上に As-B を含まない黒褐色土を主体とする土層が厚さ 10~30 cm・幅 2m ほどで存在していた。黒褐色土主体層は地山土ブロックを多く含み版築状に成層されているため、区画施設の基礎残痕ともみられ、SD2 の構築で東側の幅 1m ほどが失われている可能性がある。このことから、昭和 52 年調査で盛土とされた箇所は、当時の所見どおり築垣など区画施設に関連する可能性がある。ただし、伽藍地北辺・東辺・南辺と比べ周囲からの瓦の出土量が少なく、築垣が存在した可能性は低いとみられる。なお、SD2 西側の黒褐色土主体層上面の標高値は 10-1 トレンチ SPC ライン 125.92m、10-4 トレンチ A ライン 126.25m で後者が 33 cm 高い。

- ③ 西門跡 門跡と明確に判断される遺構は確認されなかった。10-1 トレンチで SD2 の幅が狭くなり、東縁辺に沿って、径 10 cm 未満の自然礫からなる礫敷が東西約 5m、幅 1~2m ほどの範囲に認められた。礫敷は SD2 と同一の As-B 混土層で埋没し、下層にも As-B 混土がみられたため、尼寺廃絶後の構築と判断されるが、金堂の西側に該当することから、伽藍内外の通路痕跡に由来している可能性がある。一方、SD2 狭小部の東、西辺の築垣推定ラインの内側 3.2m の位置に、最大幅 12.3 cm・厚さ 6.1 cm で中央部に最大幅 2.9 cm の穴を有する環状加工礫(第 70 図・第 234 図 103)が、穴の両端を天地として埋設され、掘方埋没土の観察から As-B 降下以前のもものと判断された。環状加工礫を埋設した目的については現時点で不明であるが、礫敷同様に金堂との位置関係から、伽藍外に向けた通路に関連する可能性も考えられる。

3) 各トレンチの状況

- ① 10-5 トレンチ+10-1 トレンチ A ライン(第 67 図) SD2 は上幅 2.92m で幅員の中央付近が最も深く、底面最深部と東西肩部との比高差は東 35 cm・西 1.1m で、底面上から As-B 混入土で埋没する。伽藍の内部となる溝東側の地山面は、SD2 埋没土同様の As-B 混入土に覆われており、尼寺構築時の形状をとどめていないようである。一方、SD2 西側では、溝縁辺の地山整地面上に厚さ 30 cm・幅 1.7m 前後で区画施設残痕の可能性がある黒褐色土主体層がみられ、さらに西側(外側)では、尼寺廃絶後~As-B 降下以前に堆積した黒褐色土層下で地山整地面を確認した。なお、この整地表面上には瓦が散在していた。
- ② 10-6 トレンチ+10-1 トレンチ C ライン(第 67 図) SD2 は上幅 3.25m で幅員の中央付近が最も深く、底面最深部と肩部との比高差は東 60.0 cm・西 96 cm で、底面上から As-B 混入土で埋没する。伽藍の内部となる溝東側の地山面上には径 10 cm 未満の礫が敷かれ、直上が SD2 埋没土同様の As-B 混入土に覆われることから、SD2 と関連する可能性が高い。一方、SD2 西側では、溝縁辺の地山整地面上に厚さ 30 cm ほど・幅 2m ほどで、区画施設残痕の可能性がある地山土ブロック主体層がみられ、さらに西側(外側)では、尼寺廃絶後~As-B 降下以前に堆積した黒褐色土層下で地山整地面を確認した。なお、該当部には SD2 と概ね直交方向の浅い溝状の掘り込みが存在するが詳細は不明である。

- ③ 10-1 トレンチ D～F ライン(第 67 図) SD2 の東縁辺部の埋没状況を調査したところ、下層堆積土に As-B の混入はみられなかった。このため、同箇所は SD1 の残痕で、SD2 は SD1 を拡張して構築されたものと判断された。

SD2 の東側に不整形な竪穴状あるいは溝状の掘り込みが存在した。この掘り込みは幅 80 cm ほどの土橋状部をはさんで南北に分かれ、各々の南北延長部は調査区外へと延びる。10-4 トレンチ以南で延長部が確認されていないため、区画溝の可能性は低いとみられる。なお、土橋状部中央から西へ 1m ほどの箇所に環状加工礫(第 70 図・第 234 図 103)が埋設されていた。掘り込みの規模は北部が幅 2.0m ほど・南部が 2.6～3.0m ほどで、深さは西側の確認面(地山面)から北部 20 cm 前後・南部 15～20 cm をはかる。下層堆積土の観察から構築時期は As-B 降下以前と判断され、出土遺物から尼寺構築以後のものともみられる。

- ④ 10-7 トレンチ+10-1 トレンチ G ライン(第 67 図) SD2 は上幅 3.78m で、幅員の西寄りが断面壘状に深くなり、底面最深部と肩部との比高差は東 85 cm・西 1.34m で、底面上から As-B 混入土で埋まる。また、伽藍の内部となる溝東側の地山面も SD2 埋土同様の As-B 混入土に覆われており、尼寺構築時の形状をとどめていないとみられる。なお、SD2 の東縁辺部は幅 1.8m ほど・東側地山面から深さ 20 cm ほどのテラス状となる。SD2 西縁辺部では、地山面上に幅 1m ほど・厚さ 34 cm で区画施設残痕の可能性のある黒褐色土主体の土層がみられ、上部 15 cm ほどは硬化し版築状となっていた。ただし、この版築状部は砂を多く混入しており、As-B と砂粒の判別が困難であったため、明確に尼寺に関連する構築物とは判断できなかった。なお、SD2 の西側では As-B 混入土直下で地山面が確認され、尼寺構築時の形状をとどめていない。

- ⑤ 10-4 トレンチ A ライン(第 68 図) 昭和 52 年の調査面は、いずれも地山土(基本層序 IX 層)まで達していた。今回、当時の調査区から 20～50 cm 外側で、同調査面より上の土層について断面観察を行った。検証した調査面では 3 か所で溝跡が確認され、西から当時の 4～6 号溝に同定された。

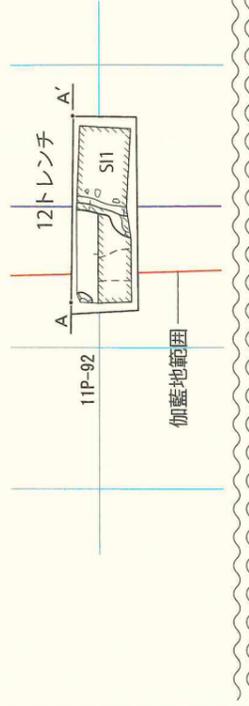
4 号溝は、今回は東縁辺の確認のみにとどめた。10-5～7 トレンチでは北延長部が確認されていないが、10-2・10-3 トレンチでは不明瞭ながら南延長部の推定が可能である。ただし、現時点では確認部の掘り込みが同一遺構となるかどうか判断が難しく、今後の課題として残る。

5 号溝は SD1 と整合し、上幅 3.10m 前後、深さは伽藍の内部となる溝東側の地山面から 30～40 cm、底面は幅員中央付近がやや高く、2 時期の可能性もあるが、埋没土の観察からは重複は確認できなかった。

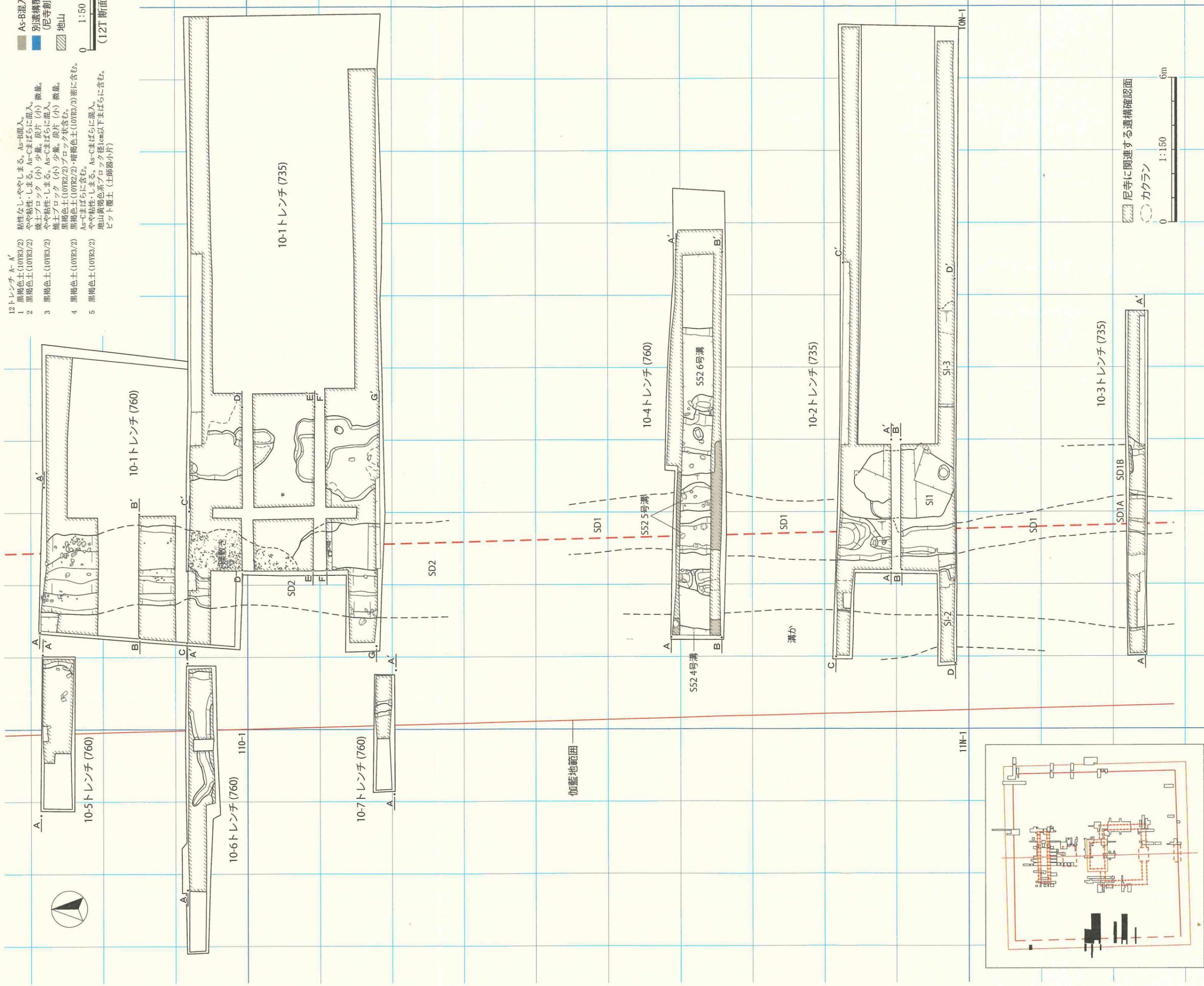
6 号溝について、該当部で西方向に緩やかに落ち込む黒褐色土層(ウ層)が存在し、同層を 6 号溝埋没土と判断したものである。ただし、5 号溝手前となる立ち上がりは明瞭でないこと、ウ層には遺物や As-C が含まれず下層土との境界が明瞭でないことから地山土(基本層序 VII 層・VIII 層)であり、6 号溝とされた落ち込みは自然地形と判断した。

昭和 52 年の調査では 4 号溝と 5 号溝の間で「高さ 60 cm、下巾 4m、上巾 3m の土塁状の高まり」がみられ、該当部を「寺域界」と考えていた。この「土塁状の高まり」を検証したところ、5 号溝西側の地山整地表面上に厚さ 30 cm ほどの黒褐色土層が存在した。その土層上面と 5 号溝底面との比高差は 70 cm ほどで当時の所見とほぼ符号するが、下半は地山層と判断され、上部の黒褐色土層は 9 トレンチでみられた築地塀基部上の盛土と比べると、地山土ブロックの混入は顕著では無く、また、搗き固め等の加圧痕跡は認められず整地土に近いものであった。ただし、前述したように 10-1 トレンチの所見から、北側延長部で区画施設基礎とみられる盛土がみられることから、これと関連する可能性は強い。

- ⑥ 10-2 トレンチ SPC ライン(第 68 図) SD1 は上幅 2.50m で、幅員の中央やや西寄りが最も深く、底面最深部と肩部との比高差は東で 50 cm・西で 70 cmを測り、埋没土内に As-B を含まないことや須恵器片や瓦片が少量出土することから、時期は尼寺構築後～As-B 降下以前と判断される。伽藍の内部となる SD1 東側の地山面は、SD1 埋没土の上面に堆積した黒褐色土に覆われており、SD1 と尼寺の関連を検討する必要があるが、尼寺構築時の整地面に近いとみられる。SD1 西側では、SD1 縁辺の地山面上に厚さ 13 cmほど・幅 90 cmほどで、地山土ブロックを多く含む黒褐色土層がみられ、これより北の調査区でみられた区画施設残痕の可能性がある。さらに SD1 西縁の西 1.8m 付近から調査区外へ、幅 2m 以上・深さ 50 cmほどの掘り込みが確認された。時期は埋没土内に As-B を含まないことや須恵器片や瓦片が少量出土することから、SD1 と同様に尼寺構築後～As-B 降下以前とみられ、北側 10-4 トレンチ 4号溝と関連する溝跡の可能性も推定されるが南延長部は不明瞭である。
- ⑦ 10-2 トレンチ SPA・B ライン(第 68 図) SI1 は SD1 にほぼ接して構築され、SI1 西壁ラインは SD1 走行方向とほぼ平行し、該当部分の SD1 は幅が狭くなる。このことから両者は意図的に配置されている可能性が高い。該当箇所における SD1 の規模は、北側の A ラインで上幅 1.52m、幅員の中央やや西寄りが一段深く掘られ、底面最深部と東西肩部との比高差は西 54 cm・東 28 cmである。南側の B ラインで上幅 1.12m、底面最深部と東西肩部の比高差は西 48 cm・東 30 cmで、A・B ラインとも SI1 との間は相対的に低くなり境界が不明瞭であった SD1 と SI1 の廃絶時期は、中層以上の埋没土を共有することから、さほど差が無いものとみられる。
- ⑧ 10-2 トレンチ SPD ライン(第 68 図) SD1 は上幅 1.30m、底面最深部と東西肩部との比高差は東 3.6m・西 2.0m である。伽藍の内部となる SD1 東側の地山面は、SD1 および SI1 埋没土の上面に堆積した黒褐色土に覆われており、各遺構の時期を詳細に検討する必要があるが、尼寺構築時の整地面に比較的近いとみられる。SD1 西側では、SD1 縁辺から 40 cm離れて SI2 が構築されている。SI2 の構築時期は出土遺物から 8 世紀前半と判断され、尼寺構築時には廃絶していたとみられる。注意されるのは、SD2 の埋め土が不自然に西に傾くことで、10-1 トレンチなど北側の調査では SD1・SD2 西縁部の外側は緩やかに下ることは一致しているため、SI2 埋没土上でも同様の整地が行われていたことを示す可能性がある。さらに、SI2 埋没土内に上幅 1.3m ほどの落ち込みがみられ、10-4 トレンチの 4 号溝や SPC ライン西端でみられた落ち込みの南延長部である可能性もある。なお、SD1 西縁辺にはこれより北でみられた盛土あるいは整地土状の堆積土はみられない。
- ⑨ 10-3 トレンチ SPA ライン(第 68 図) SD1 は 2 時期が重複(SD1A・SD1B)し、両者を合わせた幅は 3.92m(SD1A 推定 2m・SD1B2.18m)、底面最深部と東西肩部との比高差は SD1A で東 58 cm・西 68 cm、SD1B で東 62 cm・西 75 cmを測る。伽藍の内部となる SD1 東側の地山面は、SD1 埋没土の上面に堆積した黒褐色土に覆われており、尼寺構築時の整地面に近いと思われる。SD1 西側では、攪乱のため、構築時の状況は不明である。また、SD1 西縁の西 3.5m 付近から調査区外にかけて、幅 1.1m 以上・深さ 60 cmほどの溝の可能性のある掘り込みが確認された。同掘り込みの時期は、埋没土の観察から Hr-FA 降下後～As-B 降下以前と判断される。
- ⑩ 12 トレンチ(第 66 図) 10-5 トレンチの北 47m に位置する。トレンチ東端が西辺の築垣推定ラインから 3m ほど離れることもあり、SD1 延長部に該当する箇所は未調査である。現耕作土下に焼土の小ブロックを少量含む黒褐色土層がみられ、同層直下で地山(基本層序Ⅷ層)整地面及び同地山面を掘り込む竪穴建物(10 世紀代)を確認した。地山整地面の標高は 126.45m で、①で記した 10-5 トレンチ+10-1 トレンチ A ラインの SD1 西側と比較すると推定区画施設残痕上面が 126.03m で 42cm 低く、さらに西側の地山整地面が 125.54m で 91cm 低い。



- 12トレンチ A-A'
- 1 黒褐色土 (10YR3/2)
 - 2 黒褐色土 (10YR3/2)
 - 3 黒褐色土 (10YR3/2)
 - 4 黒褐色土 (10YR2/2)
 - 5 黒褐色土 (10YR3/2)
- As-B混入土
別遺構覆土
(尼寺創建後)
地山
- 粘性なし・ややしまる。As-B混入。
やや粘性・しまる。As-Cまばらに混入。
黄土ブロック (小) 少量。炭片 (小) 微量。
やや粘性・しまる。As-Cまばらに混入。
黄土ブロック (小) 少量。炭片 (小) 微量。
黒褐色土 (10YR2/2)・暗褐色土 (10YR3/3) 密を含む。
As-Cまばらを含む。
やや粘性・しまる。As-Cまばらに混入。
地山黄褐色系ブロック径1cm以下まばらを含む。
ピット覆土 (土師器小片)
- 0 1:50 1m
(12T 断面図)



第66図 (7) 伽藍地西辺 平面図-1・12トレンチ断面図

- 10-5 トレンチ A-A'
- 10-6 1層と同様。(1層主体・2層を混入)
 - 10-6 2'層と同様。
 - 10-6 2層と同様。
 - 10-6 3層と同様。
 - 黒褐色土 (10YR3/2) 色調4層よりわずかに暗い。やや粘性・ややしり弱い。地山由来砂性黒褐色土 (10YR3/2)・暗褐色土 (10YR3/3) 密に含む。
 - 黒褐色土 (10YR3/2) 色調4層よりわずかに暗い。10-6T 4層と同じか。
 - 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・しまる。粘性黒褐色土 (10YR3/2・2/2) ブロック状密に含む。暗褐色系地山土ブロック状少量。10-6T 5層と土質似る。

- 10-1(760) トレンチ A-A'
- 黄褐色土 (10YR4/3) 粘性なし・よくしまる。As-B 混入。(現耕作土)
 - 黄褐色土 (10YR4/3) やや粘性・よくしまる。As-B 混入。黄白色系パミス粒径5mm以下まばらに含む。レキ径3cm以下少量。炭片(小)少量。
 - 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・よくしまる。As-C等黄白色系パミス粒径3mm以下まばらに混入。炭片(小)少量。土質粗く全体にザラつく。As-B 混入。
 - 黒褐色土 (10YR3/2) 色調やや暗い。やや粘性・しまる。拳大以下のレキ少量。炭片(小)微量。黄白色系パミス粒まばらに混入。
- ※2層3層と比べると夾雑物少なく全体にやや均質。ザラつく。As-B 混入。
- 黒褐色土 (10YR3/2) 色調やや暗い。やや粘性・しまる。比較的均質。ザラつく。As-B 混入。炭片(小)微量。黄白色系パミス粒径2mm以下まばらに含む。黒褐色系地山土 (10YR2/2) 含む。
- A 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・しまる。As-Cまばらに混入。
- B 黒褐色系地山土 (10YR2/2) 主体 黒褐色土 (10YR3/2) 含む。As-Cやや密に混入。(自然堆積か)
- C 黒褐色土 (10YR3/2) 粘性あり・しまる。夾雑物ほとんどない。白色系パミス粒径1mm以下少量。
- D 黄褐色土 (10YR4/2) 土質C層と同じ。
- E 黄褐色土 (10YR5/4) 粘性なし・硬い。砂レキからなる。レキは径10cm以上のものは目立たない。

- 10-1(760) トレンチ B-B'
- ア A-A' 3層と同じ。黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・よくしまる。As-C等黄白色系パミス粒径3mm以下まばらに混入。炭片(小)少量。土質粗く全体にザラつく。As-B 混入。
- イ A-A' 4層と同じ。黒褐色土 (10YR3/2) 色調やや暗い。やや粘性・しまる。拳大以下のレキ少量。炭片(小)微量。黄白色系パミス粒まばらに混入。
- ウ 黒褐色土 (10YR3/2) 色調暗い。やや粘性・しまる。黄白色系パミス粒径5mm以下まばらに含む。黒褐色シルト (10YR3/2) 混入。上層と比べ比較的均質・ザラつく。As-B 混入。
- エ ウ層に加え地山II層土ブロック状含む。
- ア 黒褐色系地山土 (10YR3/2) 主体 やや粘性・よくしまる。黒褐色土 (10YR2/2) ブロック状含む。As-C含む。
- I 黄褐色土 (10YR5/4・4/3) やや粘性。砂レキ混入。レキは径5mm以上目立たず。人為か。
- II 暗褐色土 (10YR3/3) 砂レキ混入。レキは径3cm以下。
- III 硬い砂レキ層 A-A' E層と同様。

- 10-6 トレンチ A-A'
- 黒褐色土 (10YR3/2) 粘性なし・よくしまる。As-B 混入。上面は碎石敷き。(表土)
 - 黒褐色土 (10YR2/2) 粘性なし・ややしり弱い。As-B 密に混入。
 - 黒褐色土 (10YR3/2) 混入する。2層と比べややしり増す。
 - 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・ややしまる。As-Cまばらに混入。砂性黒褐色土 (10YR3/2) 混入。ザラつく。
 - 黒褐色土 (10YR3/2) 色調3層よりわずかに暗い。やや粘性・ややしり弱い。As-Cまばらに混入。砂性黒褐色土 (10YR3/2) 混入。(3層より量やや多く密度やや高い)
 - 黒褐色土 (10YR3/2) 色調3層よりわずかに暗い。土質粗い。やや粘性・ややしまる。As-Cまばらに混入。粘性土と砂質土がブロック状に混在する。地山黄褐色土少量。

- 10-1(760・735) トレンチ C-C'
- G-G' の1層と同じ。
 - G-G' の1'層と同じ。
 - G-G' の2層と同じ。
 - G-G' の3層と同じ。
 - 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・しまる。白黄色-白色系パミス粒 (As-Cなど) 径5mm以下まばらに含む。ザラつく。As-B含む。
 - 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・しまる。黒褐色土 (10YR2/2) As-B含む。白黄色-白色系パミス粒径4mm以下まばらに含む。
 - 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・ややしまる。As-B含む。黄褐色 (10YR5/6) 地山土ブロック状含む。
 - 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・しまる。黒褐色土 (10YR2/2) 含む。As-B含む。白色-白黄色系パミス粒 (As-Cなど) 径5mm以下まばらに含む。
 - 黄褐色 (10YR5/6) 地山土ブロック状まばらに含む。
 - 黒褐色土 (10YR2/2) やや粘性・しまる。As-B含む。白色-白黄色系パミス粒径5mm以下少量。(あまり目立たない)
 - 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・しまる。As-B含む。地山灰黄褐色砂質土含む。白色-白黄色系パミス粒径5mm以下まばらに含む。
 - 黒褐色土 (10YR3/2) 色調暗い。やや粘性・しまる。黄白色系パミス粒径5mm以下まばらに含む。黒褐色シルト (10YR3/2) 混入。上層と比べ比較的均質・ザラつく。As-B混入。(760 10-11のFB-B'ウ層と同様。)
 - 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・しまる。土質粗い。黒褐色系地山土ブロック状混入。As-Cまばらに含む。黄褐色系地山土ブロック状含む。
 - A層とほぼ同様。黄褐色系地山土ブロック状少量。
 - 黄褐色地山土 (砂性・褐色土 (10YR4/4)・黄褐色土 (10YR5/4)) ブロック主体 黒褐色系地山土 (10YR3/2) ブロック含む。

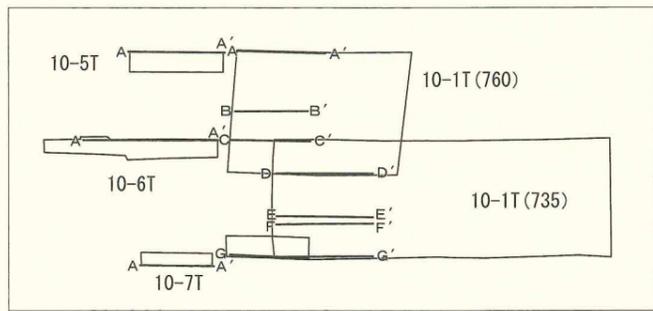
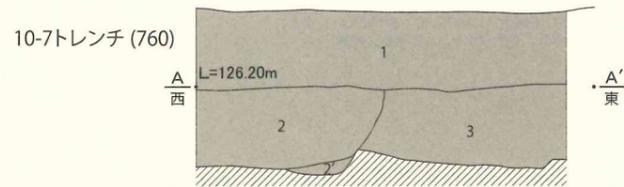
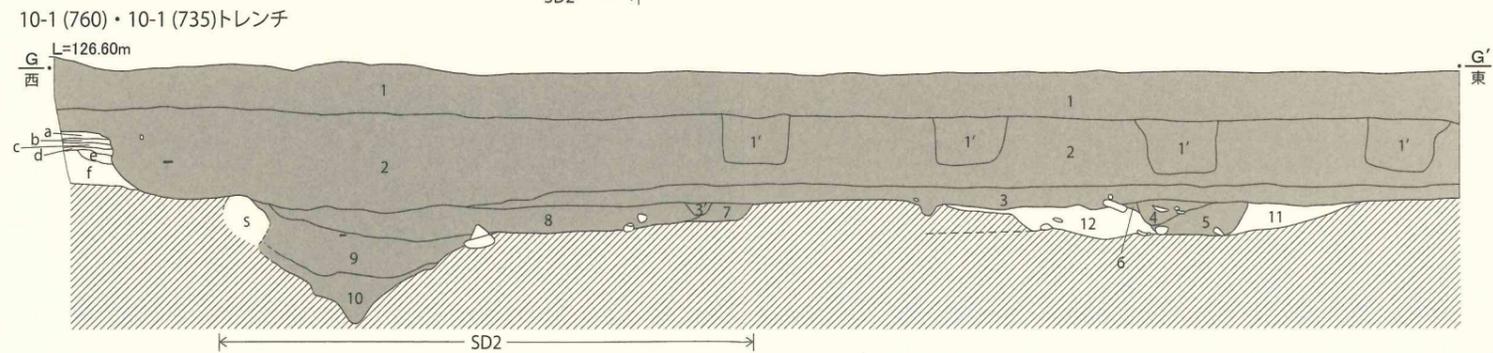
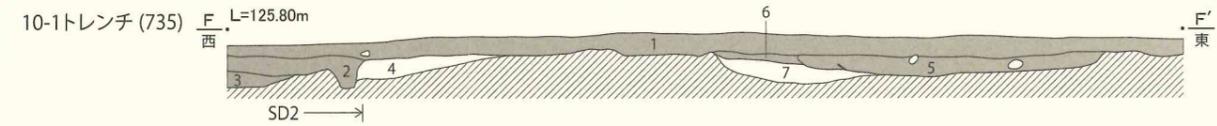
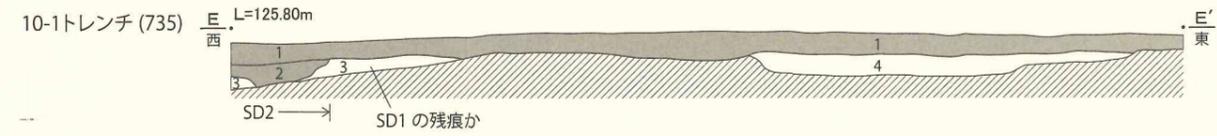
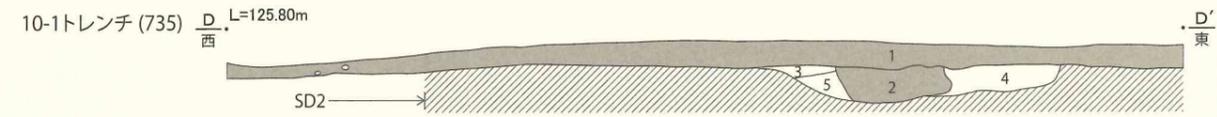
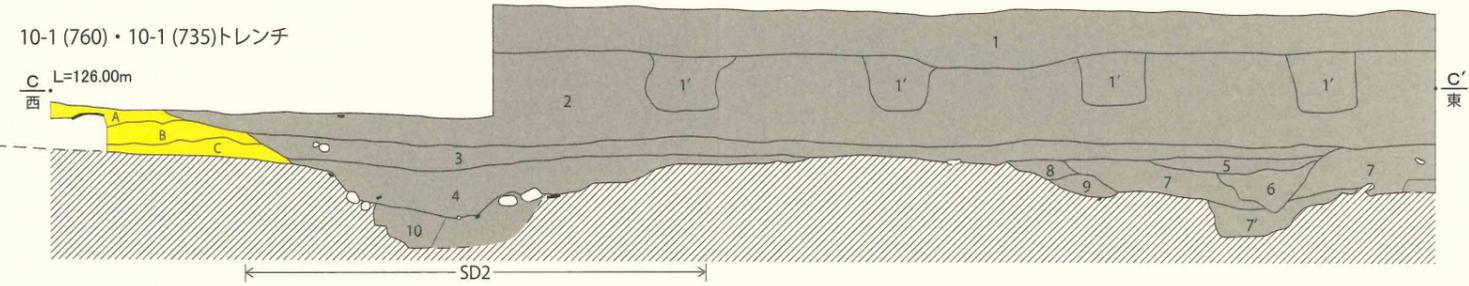
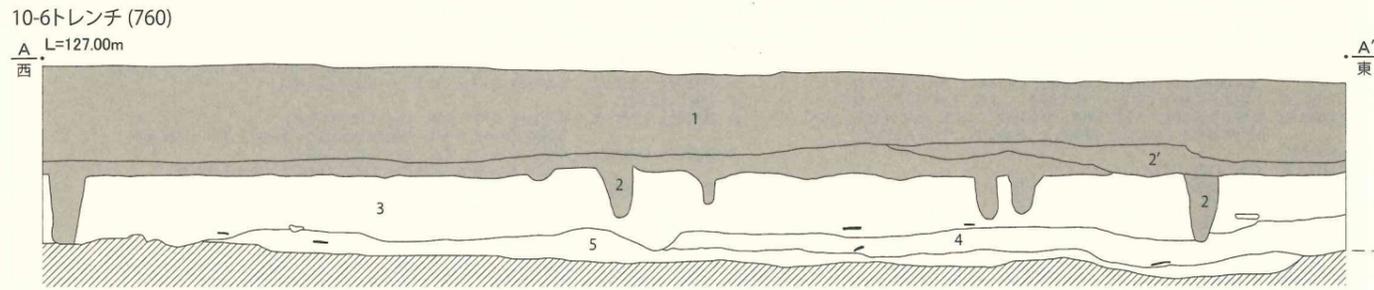
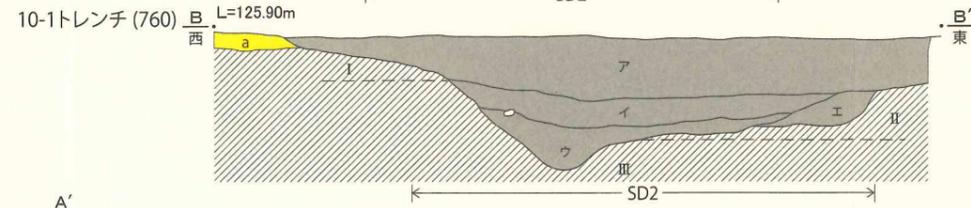
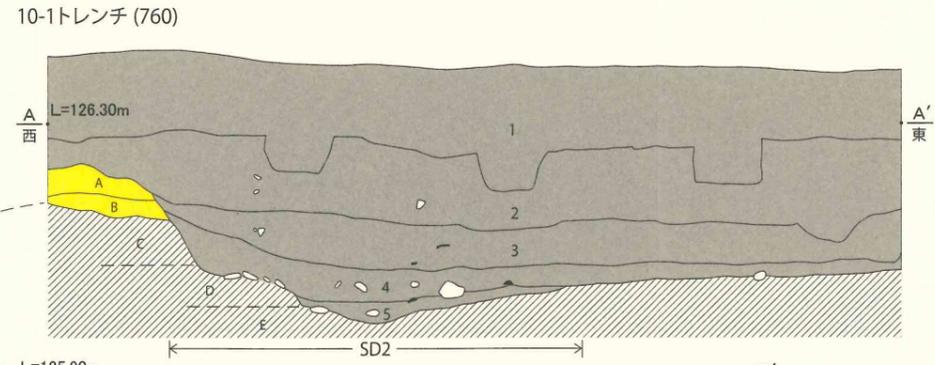
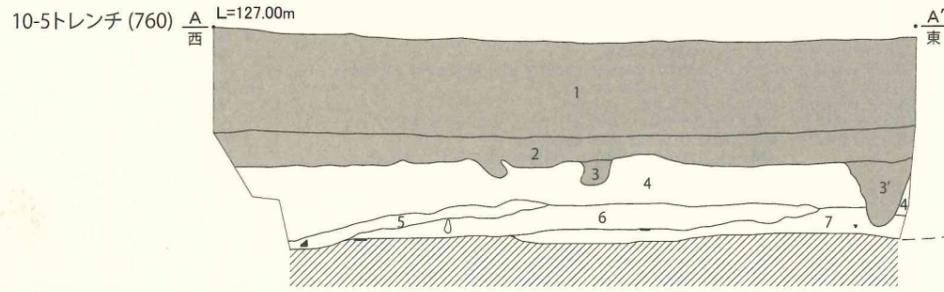
- 10-1(735) トレンチ D-D'
- G-G' の3層と同じ。
 - 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・ややしまる。黒褐色土 (10YR2/2) 含む。As-B含む。白黄-白色系パミス粒 (As-Cなど) 径2mm以下まばらに含む。
 - 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・ややしまる。地山灰黄褐色 (10YR5/2) 砂質土多量。
 - 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・しまる。灰黄褐色砂質地山土ブロック状まばらに含む。白黄-白色系パミス粒 (As-Cなど) 径1cm以下まばらに含む。As-B状パミス粒径1mm以下含む。
 - 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・しまる。灰黄褐色 (10YR5/2)・暗褐色 (10YR3/3) 砂質地山土ブロック状含む。As-Cまばらに含む。

- 10-1(735) トレンチ E-E'
- F-F' の1層と同じ。
 - 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・ややしまる。As-B含む。As-Cまばらに含む。
 - 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・しまる。As-Cまばらに含む。炭片径1cm以下少量。As-B含まない。黒褐色系地山土ブロックまばらに含む。
 - F-F' の5層と同じ。

- 10-1(735) トレンチ F-F'
- G-G' の3層と同じ。
 - 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・しまる。As-Cまばらに含む。As-B含む。炭片(小)・焼土ブロック(小)微量。黒褐色土 (10YR3/2) 含む。(As-B含まず)
 - 黒褐色土 (10YR3/2) 粘性あり・しまる。黒褐色系地山土ブロック状含む。As-Cまばらに含む。As-B状パミス粒径1mm以下含む。As-Bと思われる。G-G' 8層と似る。
- ※2層と3層はAs-B混入の可能性あり
- E-E' の3層と同じ。
 - 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・ややしまる。As-B含む。白黄色-白色系パミス粒 (As-Cなど) 径2mm以下まばらに含む。黒褐色地山土ブロック状含む。黒褐色土 (10YR2/2)・粘性なし・ややしり劣る) 含む。
 - G-G' の6層と似る。
 - 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・しまる。黒褐色系地山土ブロック状含む。洪水土 (FA下洪水か) ブロック状まばらに含む。白色-白黄色系パミス粒 (As-Cなど) 径2mm以下まばらに含む。黄褐色土 (10YR7/4) シルト質。

- 10-7 トレンチ A-A'
- 黒褐色土 (10YR3/2) 粘性なし・しまる。As-B混入。上面に5cm程の厚さの碎石層。
 - 黒褐色土 (10YR3/2) 粘性なし・ややしり弱い。As-B混入。
 - 黄褐色系地山土ブロック状含む。
 - 黒褐色土 (10YR3/2) 1層2層より色調やや暗い。粘性なし・ややしまる。As-B混入。(1層2層よりやや密度高く均質) 褐色系地山粘性土ブロック状含む。(主に層下部)

- 10-1(760・735) トレンチ G-G'
- 灰黄褐色土 (10YR4/2) 粘性なし・ややしまる。As-B混入。現耕作土。
 - 1'層とほぼ同じ。1層よりややしまる。やや粘性・よくしまる。白色-白黄色系軽石粒径5mm以下まばらに含む。As-B含む。炭片(小)微量。小レキ径2cm以下微量。
 - 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・しまる。混入物2層とほとんど同じ。As-Bを混入しない黒褐色土 (10YR3/2) ブロック状含む。
 - 炭片(小)微量。地山土ブロック状少量。
 - 1~3'層 As-B混入。表土。
 - 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・ややしまる。As-B混入。黒褐色土 (10YR2/2) 含む。黄色系地山土ブロック状少量。
 - 黒褐色土 (10YR2/2) やや粘性・ややしまる。As-B混入。黒褐色土 (10YR3/2) ブロック状含む。黒褐色系地山土ブロック状含む。
 - 5層と似る。
 - 11層とほぼ同じ。
 - 黒褐色土 (10YR3/2) 粘性あり・しまる。黒褐色系地山土ブロック状含む。黄褐色 (10YR7/3)・灰黄褐色 (10YR5/2) シルト質土ブロック径2cm以下少量。As-B混入。白黄色-白色系パミス粒 (As-Cなど) 径4mm以下まばらに含む。
 - 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・ややしまる。As-B混入。地山粘性黒褐色土 (10YR3/2) ブロック状含む。黄褐色系砂性地山土ブロック状まばらに含む。小レキ径1cm以下白黄色系パミス粒径1cm以下まばらに含む。
 - 黒褐色土 (10YR3/2・2/2) やや粘性・ややしまる。As-B混入。地山粘性黒褐色土 (10YR2/2) ブロック状密に含む。
 - 黒褐色 (10YR2/3・2/2) 系地山土ブロック主体 粘性あり。白色-白黄色系パミス粒 (As-Cなど) 径5mm以下まばらに含む。As-B混入なし。
 - 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・しまる。地山土ブロック状密に含む。
 - a 砂粒主体 よくしまつて硬い。黒褐色土 (10YR3/2) 含む。
 - 黒褐色土 (10YR3/2) 主体 やや粘性・しまる。砂粒含む。
 - 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・よくしまつて硬い。
 - 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・しまる。黒褐色土 (10YR2/2) 含む。鉄分沈着あり。
 - 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・しまる。As-C含む。黒褐色土 (10YR2/2) 少量。
 - 黒褐色土 (10YR2/2) やや粘性・よくしまる。As-Cまばらに混入。
- ※ a-e層 全体にザラつく。As-Bの混入か・砂粒の混入かは判別困難。



各セクション図共通

■ As-B混入土

■ 整地土か

▨ 地山



第67図 (7) 伽藍地西辺 断面図-1

10-4 トレンチ A-A'

- 1 黒褐色土 (10YR3/2) 粘性なし・ややしまる。As-B 混入。
- 1' 黒褐色 - 暗褐色系地山土ブロック状少量。(主に下層部)
- 1 層よりしまり増す。2 層と比べ夾雑物多い印象。
- 黒褐色土 (10YR3/2)・暗褐色土 (10YR3/3)・黄褐色土 (10YR4/1・4/2) 地山土ブロック状含む。
- As-C 焼土ブロック (小)・炭片 (小) など目立つ。
- 2 黒褐色土 (10YR3/2) 粘性なし・よくしまる。As-B 混入。
- 3 黒褐色土 (10YR3/2) 2 層より色調やや暗い。粘性なし・よくしまる。As-B 混入。
- 4 黒褐色土 (10YR3/2) 粘性なし・よくしまる。As-B・砂粒混入。
- 黒褐色土 (10YR3/2)・暗褐色土 (10YR3/3)・黄褐色土 (10YR4/3) 地山土ブロック状含む。
- 5 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・しまる。As-C まばらに混入。
- ア 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・しまる。As-C まばらに混入。
- 地山黒褐色土 (10YR3/2)・暗褐色土 (10YR3/3) 少量。
- ア' C 黒 黒褐色土 (10YR2/2) ブロック状含む。As-C 密に混入。
- イ 黒褐色土 (10YR2/2) やや粘性・しまる。As-C まばらに混入。
- ウ 黒褐色土 (10YR3/2)・暗褐色土 (10YR3/3)
- エ 黄褐色土 (10YR4/3)・褐色土 (10YR4/4)
- ア 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・しまる。As-C まばらに混入。
- ① 黒褐色 (10YR3/2・2/2) 系地山土ブロック主体 やや粘性。ややしまり弱い。
- 黄褐色 (10YR4/3) 系地山土ブロックまばらに含む。
- ② 黒褐色系・黄褐色系地山土ブロック主体 やや粘性・ややしまる。
- ③ 黒褐色 (10YR2/2) 系地山土ブロック主体 黄褐色土含む。
- ※ ①～③層 倒木痕か

10-4 トレンチ B-B'

- 1 A-A' 1 層と同じ。
- 1' A-A' 1' 層と同じ。
- 2 A-A' 2 層と同じ。
- 3 A-A' 3 層と同様。
- 4 A-A' 4 層と同様。地山土ブロック多い。
- 5 地山黒褐色土 (10YR3/2)・暗褐色土 (10YR3/3)・黄褐色土 (10YR4/3・5/2) ブロック状に混在。
- 粘性わずか・ややしまる。地山土ブロック主体 カクラン土。
- 6 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・しまる。As-C まばらに混入。
- 地山黒褐色土 (10YR3/2)・暗褐色土 (10YR3/3) ブロック状含む。
- 7 黒褐色土 (10YR3/2) 7 層より色調やや明るい。やや粘性・しまる。As-C まばらに混入。
- 8 黒褐色土 (10YR3/2) 8 層より色調暗く 7 層と同様。やや粘性・しまる。As-C まばらに混入。
- 地山黒褐色土 (10YR3/2)・暗褐色土 (10YR3/3) ブロック状含む。
- ※ 6 層 8 層ほぼ同様。
- ア 黒褐色土 (10YR3/2) As-C まばらに混入。
- 地山黒褐色土 (10YR3/2)・暗褐色土 (10YR3/3) 少量。
- イ 黒褐色土 (10YR2/2) やや粘性・ややしまる。As-C 密に混入。
- 地山黒褐色土 (10YR2/2)・暗褐色土 (10YR3/3) ブロック状含む。
- ウ 黒褐色土 (10YR3/2)・暗褐色土 (10YR3/3)
- エ 黄褐色土 (10YR4/3)・褐色土 (10YR4/4)
- ア 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・しまる。As-C まばらに混入。

10-2 トレンチ C-C'

- 1 D-D' の 1 層と同じ。
- 1' D-D' の 1' 層と同じ。
- 2 D-D' の 4 層と同じ。
- 3 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・しまる。As-C まばらに混入。
- 黒褐色系地山土ブロック状少量。
- 4 A-A' の 4 層と同じ。
- A 暗褐色土 (10YR2/2) 粘性・しまる。As-C 含む。
- B 黒褐色土 (10YR3/2) 粘性・しまる。
- ア 黒褐色土 (10YR2/2) 粘性・しまる。As-C 密に混入。(C 黒)
- イ 黒褐色土 (10YR2/2) 粘性・しまる。上層部に As-C 含む。
- ウ 黒褐色土 (10YR3/2) 粘性・しまる。
- エ 黄褐色土 (10YR4/3・5/3) やや粘性・ややしまる。

10-2 トレンチ A-A'

- 1 D-D' の 1 層と同じ。
- 1' D-D' の 1' 層と同じ。
- 2 D-D' の 4 層と同じ。
- 3 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・しまる。As-C まばらに混入。
- 黒褐色系地山土ブロック状少量。
- 4 黒褐色土 (10YR3/2) 粘性あり・しまる。As-C まばらに混入。
- 黒褐色系地山土ブロック状やや密に含む。
- 4' 黒褐色系地山土ブロック状密に含む。
- 5 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・しまる。As-C まばらに混入。
- 黒褐色系地山土ブロック状まばらに含む。

10-2 トレンチ B-B'

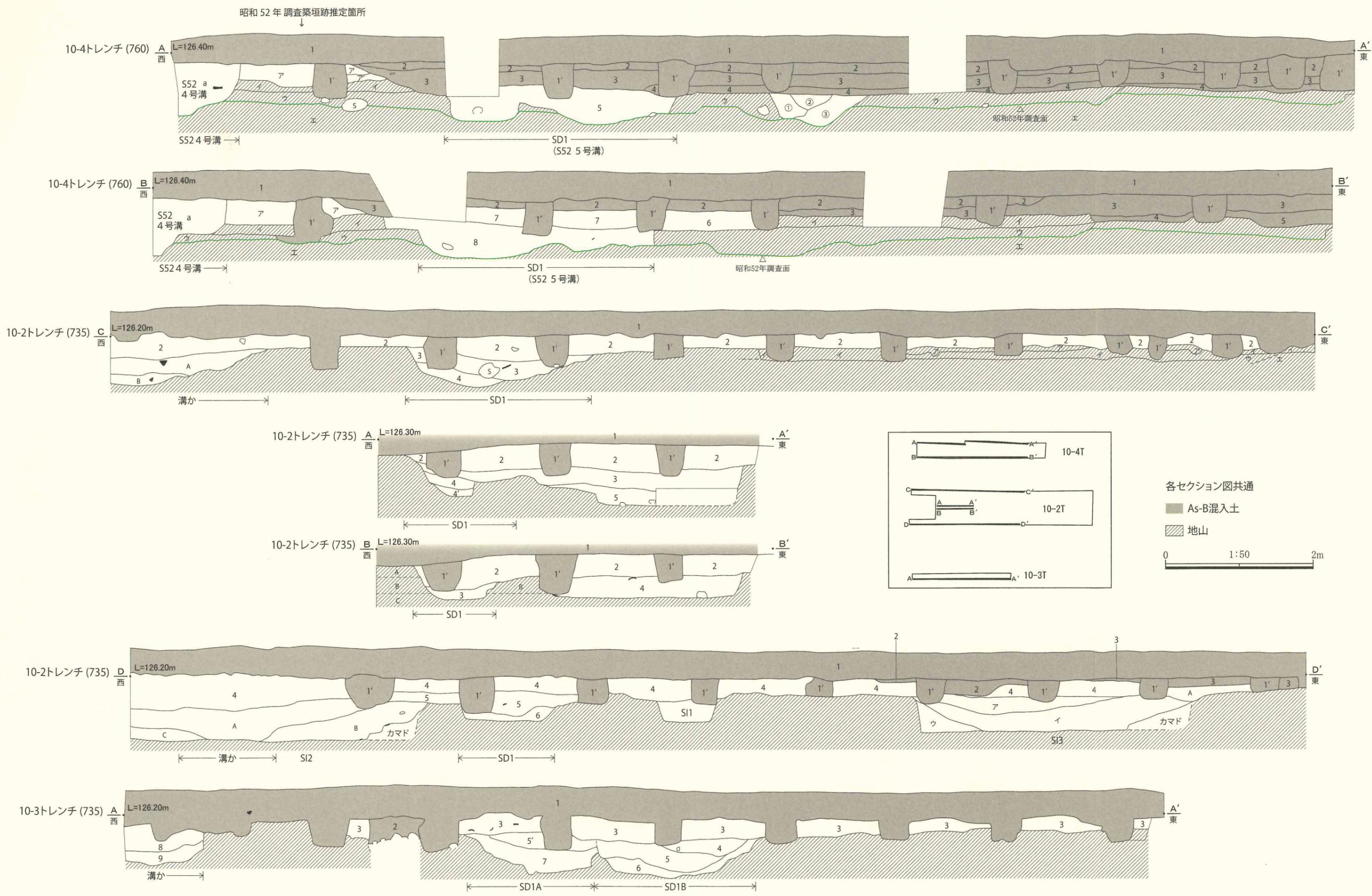
- 1 D-D' の 1 層と同じ。
- 1' D-D' の 1' 層と同じ。
- 2 D-D' の 4 層と同じ。
- 3 A-A' の 4 層と同じ。
- 4 A-A' の 3 層と同じ。(住居覆土)
- A 暗褐色土 (10YR2/2) 粘性あり・しまる。As-C 含む。地山土。
- B 黒褐色土 (10YR3/2)・暗褐色土 (10YR3/3) 粘性あり・しまる。
- C 褐色土 (10YR4/4・4/6) 粘性なし・よくしまる。砂質。

10-2 トレンチ D-D'

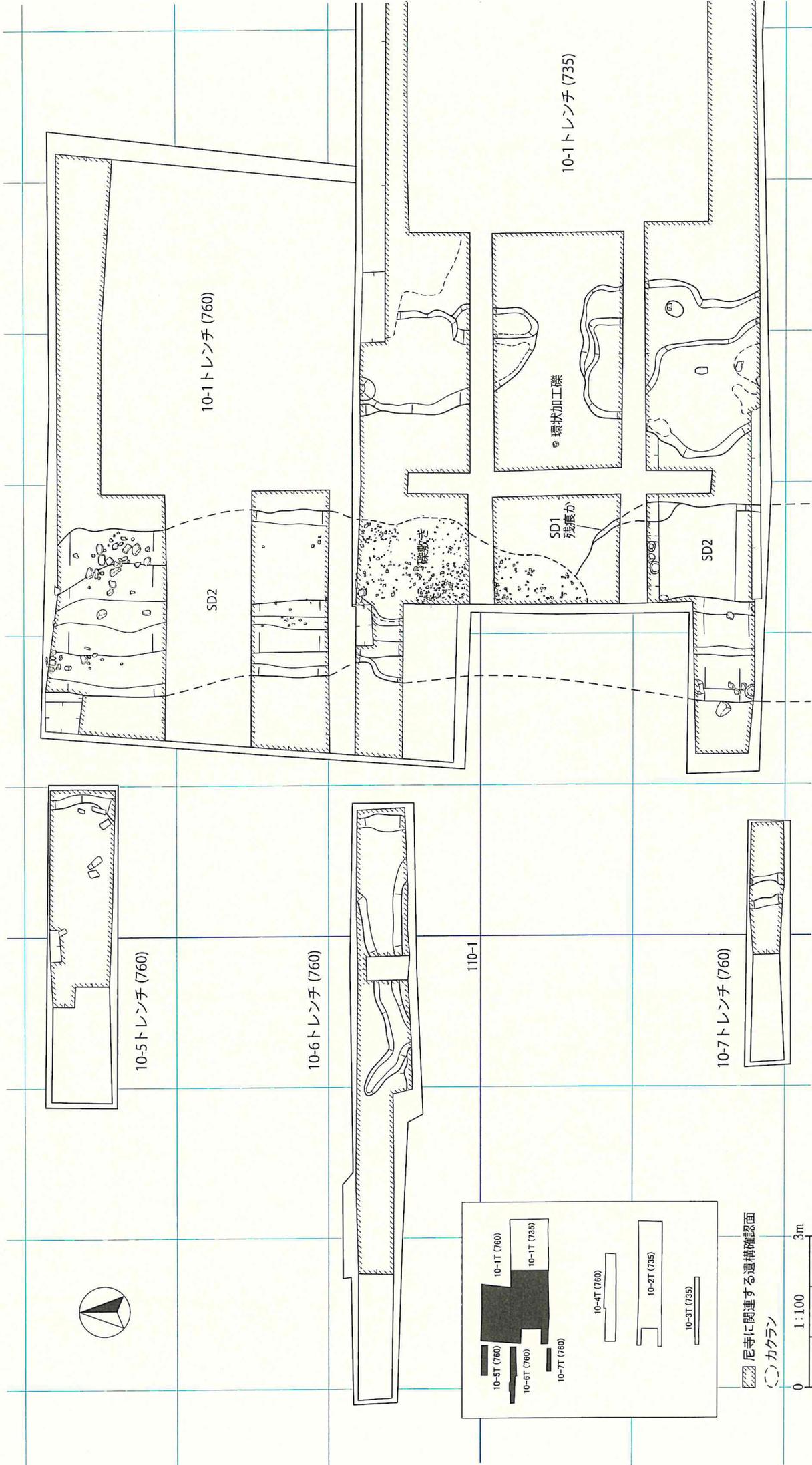
- 1 灰黄褐色土 (10YR4/2) 粘性わずか・しまる。As-B 混入。
- 1' 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・しまる。ブロック状含む。
- 2 黒褐色土 (10YR3/2) 粘性なし・ややしまる。As-B 密に混入。
- 黒褐色土 (10YR3/2)・やや粘性・しまる) 含む。
- 3 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・しまる。As-B 含む。As-C まばらに含む。
- 4 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・しまる。As-C まばらに混入。
- 焼土ブロック (小)・炭片 (小) 微量。
- 5 4 層とほとんど同じ
- 6 黒褐色土 (10YR3/2) 目視での観察ではやや色調暗い。
- やや粘性・しまる。As-C まばらに混入。
- 黒褐色系地山土ブロック状含む。
- ア 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・しまる。As-C まばらに混入。焼土ブロック (小) 微量。
- イ 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・しまる。As-C まばらに混入。
- 炭片 (小)・焼土ブロック (小) 少量。
- 黒褐色系 (10YR3/2・2/2) 地山土ブロック状含む。
- ウ 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・しまる。As-C まばらに混入。
- 黒褐色系 (10YR2/2 多い) 地山土ブロック状密に含む。
- 焼土ブロック (小) 少量。
- ※ ア-U 層 SI3
- A 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・よくしまる。As-C まばらに混入。
- 黒褐色 (10YR3/2) 系地山土ブロック状含む。炭片 (小) 少量。
- 黄褐色 (10YR4/4・5/4) 系地山土ブロック径 3cm 以下まばらに含む。
- B A 層に加え焼土ブロック (小) まばらに含む。黄褐色系地山土径 2cm 以下やや密に含む。
- C A 層に加え地山黄色土ブロック状含む。
- ※ A-C 層 SI2
- SI1 覆土 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・しまる。As-C まばらに混入。
- 黒褐色系地山土ブロック状少量。

10-3 トレンチ A-A'

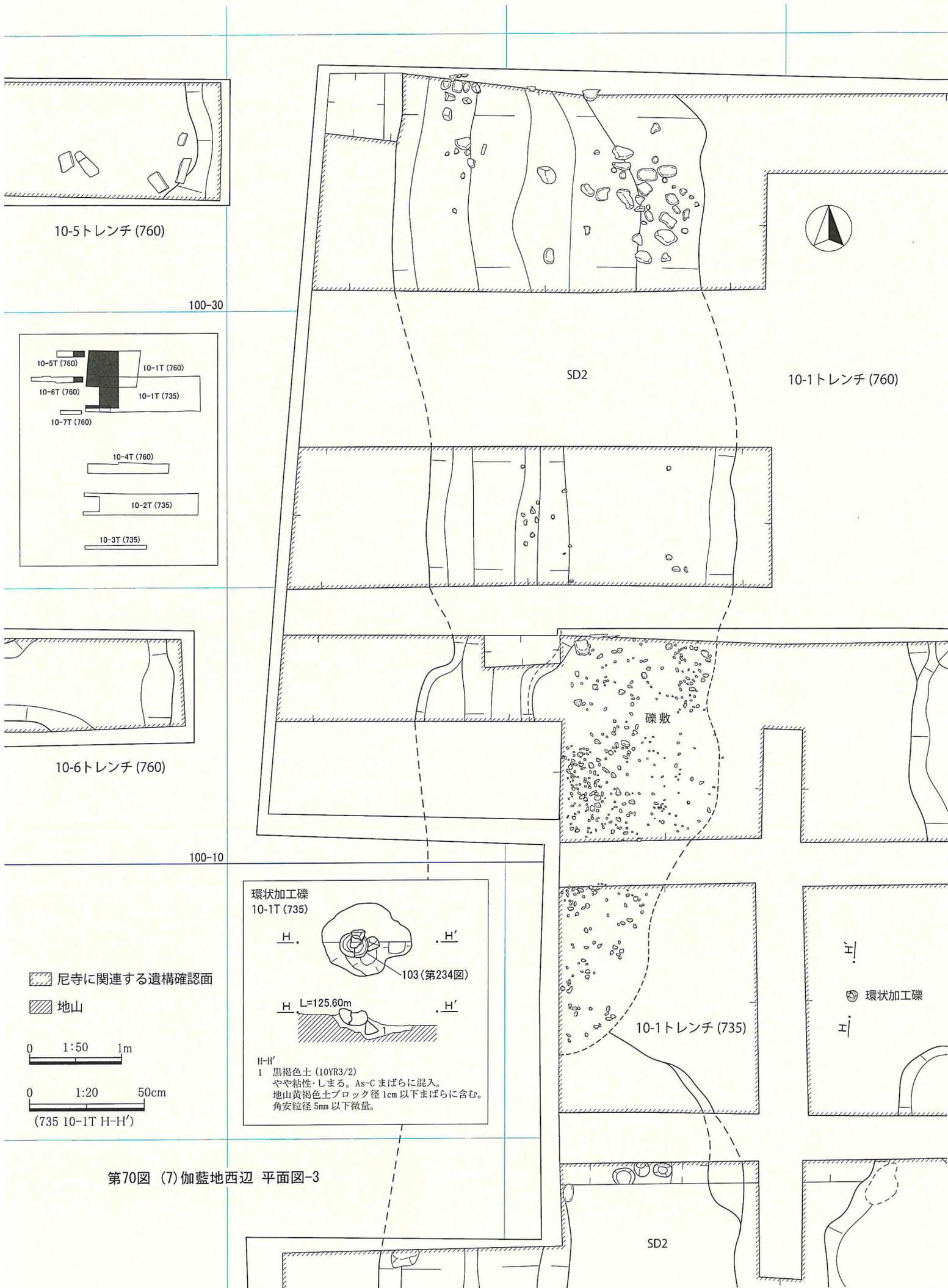
- 1 灰黄褐色土 (10YR4/2) 粘性なし・しまる。As-B 混入。耕作土
- 2 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・しまる。As-B 混入。As-C まばらに混入。
- 地山黄褐色土 (10YR6/4) ブロック径 1cm 以下少量。
- 3 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・しまる。As-C まばらに混入。4・5 層と比べ土質やや粗い。
- 4 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・しまる。As-C まばらに混入。黒褐色系地山土ブロック状少量。
- 5 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・ややしまる。As-C まばらに混入。
- 5' 5 層とほぼ同じ。
- 6 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・ややしまる。As-C まばらに混入。
- 黒褐色 (10YR2/2・3/2)・暗褐色 (10YR3/3) 系地山土ブロック状含む。
- 7 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・ややしまる。As-C まばらに混入。
- 黄褐色 (10YR6/4)・黒褐色 (10YR3/2) 地山土ブロック状少量。
- 8 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・しまる。As-C まばらに混入。
- 地山黒褐色 (10YR2/2・3/2) ブロック状まばらに含む。
- 地山黄褐色土 (10YR5/4)・黄褐色土 (10YR6/4) ブロック径 2cm 以下少量。
- 9 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・しまる。As-C まばらに混入。
- 地山黒褐色 (10YR3/2・2/2) ブロック状密に含む。
- 地山黄褐色土 (10YR5/4)・黄褐色土 (10YR6/4) ブロック状やや密に含む。中世～近世の石臼片含む集石。



第68図 (7) 伽藍地西辺 断面図-2

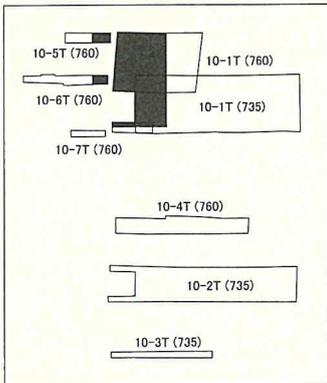


第69図 (7) 伽藍地西辺 平面図-2



10-5トレンチ (760)

100-30

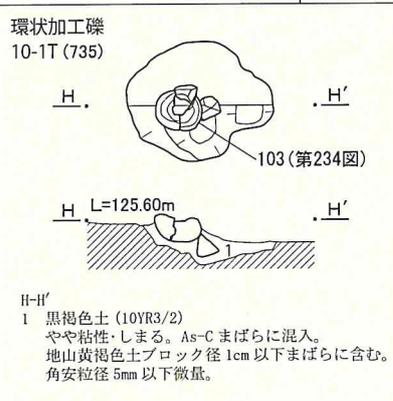


SD2

10-1トレンチ (760)

10-6トレンチ (760)

100-10



ニ寺に関する遺構確認面

地山

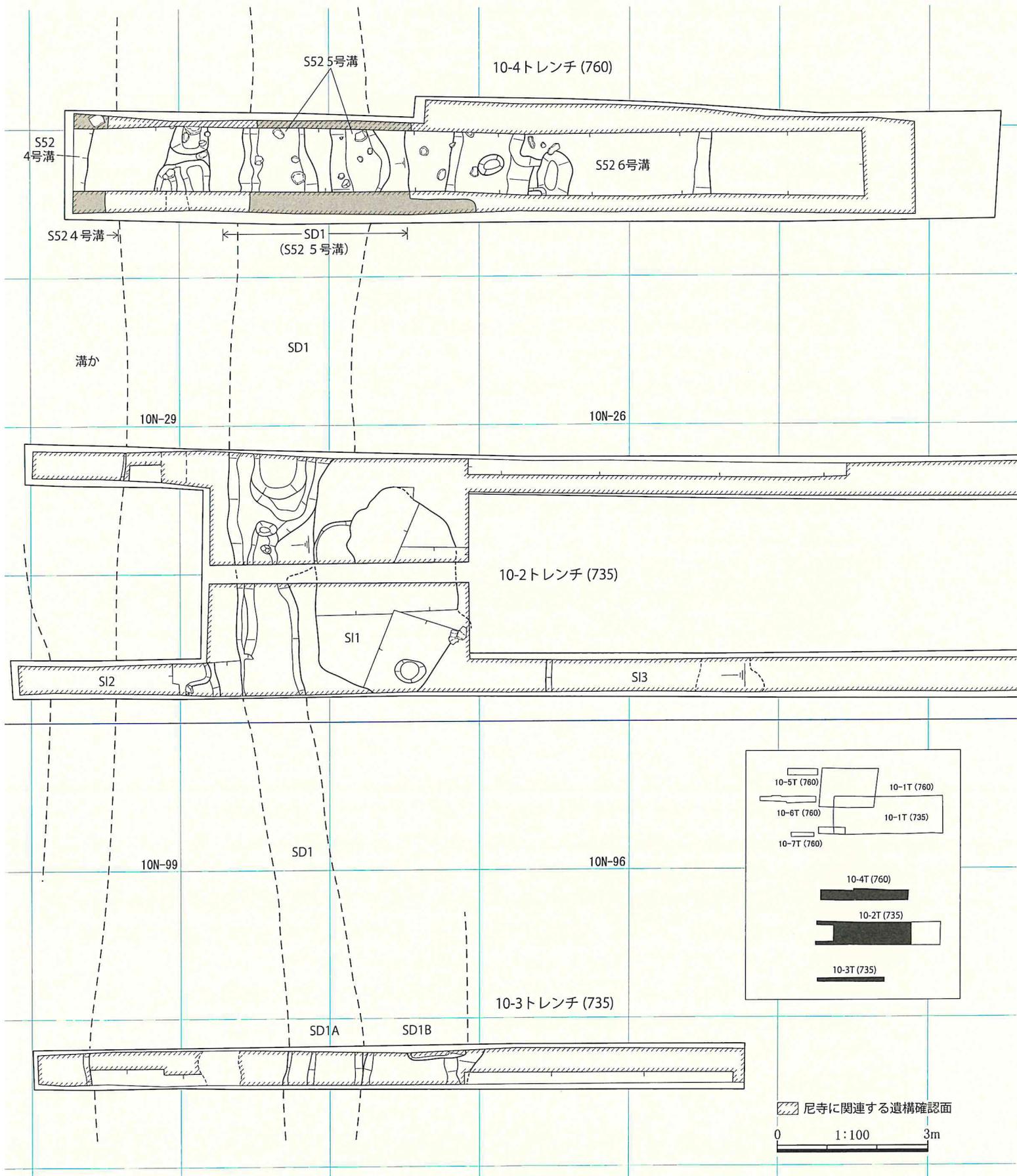
0 1:50 1m

0 1:20 50cm

(735 10-1T H-H')

SD2

第70図 (7) 伽藍地西辺 平面図-3



第71図 (7) 伽藍地西辺 平面図-4

(8) 講堂跡推定箇所(第72図～第76図)

1) 調査経過

① 調査の目的 昭和44・45年の調査で講堂跡に推定されていた礎石建物跡が尼坊跡と判明したことから、講堂跡の位置を特定し、伽藍の主要な建物配置を明らかにする。

② 調査区の設定 第1次調査において、尼坊の南の80-93で礎石の所在を確認した。この位置は尼坊南辺の側柱列から南に11mの地点である。確認された礎石は傾き根石を伴わないことから、原位置から移動されていることは明らかで、残存する尼坊の礎石よりひと回り大きいことから講堂の礎石と推定された。これにより、講堂跡を確認するため尼坊の南7P-8・8P-6・70-58・80-56を四隅とする東西27m・南北18mの範囲で3トレンチを拡張して調査を行った。

2) 調査の概要 今回の調査箇所では、版築による基礎地業痕跡はみられなかった。予想された講堂基壇の平面規模は上総国分尼寺と同様の桁行21.6m(約72尺)・梁行15.6m(約52尺)で、総地業であったとすればいずれかで版築が確認されるはずであった。調査の結果、講堂のものとされる版築は認められなかったが、以下の所見が得られた。

① 金堂・尼坊間に分布する整地土 尼坊と金堂の間では広い範囲で地山面が30cmほど削られ、低くなった部分に黒褐色土層が一様にみられ、その上面レベルは尼坊南辺基壇裾付近と符合している。黒褐色土層の範囲は、3トレンチ(670)SPAラインでは尼坊地業縁部の南5.5mを北限、3トレンチ(735)SPGラインでは尼坊地業縁部の南9.4mを北限とし、後者では南限が金堂北側付近である。この黒褐色土層は、瓦片の混入から尼寺構築と関連するものとみられ、講堂の基礎地業に関連する整地土と判断される。

② 礎石の存在 礎石が2か所で確認され、いずれも後世の開墾で動かされ、原位置より低く落とし込まれている。講堂が礎石立ちの瓦葺建物と推定すれば、①で整地土と判断した黒褐色土層では荷重を維持できず、礎石部分のみ壺地業とした可能性も考えられる。ただし、礎石の周辺をはじめ今回の調査箇所内で壺地業痕跡は確認されなかった。

③ 地上積み上げ基壇の可能性 整地土と判断した黒褐色土面の上に、版築による基壇が存在していた可能性もみられる。この場合、金堂の基壇レベルが北辺の13-1トレンチSPC・SPDラインの所見から標高126.20m以上、尼坊の基壇レベルが残存礎石(B7)から標高126.48m以下と推定され、落とし込まれた講堂の礎石(北側)上面レベルが標高126.33mであるので、講堂跡の基壇レベルは少なくとも尼坊基壇より高い標高126.50m前後に推定される。このことから、現況の黒褐色土層上面レベルからさらに50cmほどの厚さで版築による基壇が存在していた可能性がある。

④ 推定される講堂の規模 講堂の平面規模について、確認された礎石はいずれも落とし込まれていたことからこれらの移動距離はさほど大きくないとみられる。北側の礎石が尼坊南辺側柱の南11.4m(38尺)付近にあることからこの箇所を建物北限とし、南側の礎石が確認された箇所を南限とすると、梁行は12m(40尺)と推定され、上総国分尼寺講堂と同様規模となる。なお、金堂北辺の側柱との距離は12m(40尺)となる。建物東西の規模は、南側の礎石と伽藍中軸線の距離は13.5m(45尺)で、整地土とした黒褐色土も該当部分まで延びている。ただし、西へ折り返すと桁行27m(90尺)となり、上総国分尼寺の桁行17.7m(59尺)及び僧寺講堂の桁行24m(80尺)を上回るため、さらなる精査と検討を要する。

3) 各トレンチの状況

- ① 3 トレンチ (679) SPA ライン (第 73・74 図) 講堂調査区の西端で、8P-6 から 80-66 まで南北 15m・幅 2.5m の範囲を調査した。該当部の As-B 混入土を除去したところ、一様に広がる暗褐色土面を確認した。この暗褐色土(2層)は瓦片を少量含むことから尼寺構築以後の形成と判断され、厚さは 15～40 cm ほどで南側が相対に厚く、2層上面の確認レベルがほぼ一定であるから、これは直下の地山面のレベルが南側で 15 cm 前後低いことに起因する。なお、該当箇所の地山面は黄色系地山土(基本 IX 層)であることから、何らかの整地の実施が推定され、2層は造成土の可能性はある。ただし、2層中には地山土ブロックの混入は顕著にはみられず、また、版築構造や硬化も認められないことから、瓦葺き建物の基礎地業とは考えにくい。調査区北端部で 2層下の地山面が段をなして 20 cm ほど上がり、該当部では 2層と地山面の間に 8～15 cm ほどの厚さで黄色系地山土ブロックを主体とする層(3層)がみられた。これは、掘込地業残痕のようにもみられる。
- ② 3 トレンチ (679) SPB・C ライン (第 73・74 図) 80-93 の礎石確認地点で、礎石は平坦面を西に向けて傾き、周囲には礎石直下を含め地山面に達する攪乱穴がみられ、As-B 混入土で埋没していることから、後世に動かされていることは明らかである。礎石周辺の攪乱を免れた部分では、地山面上に地山土ブロックを混入する暗褐色土が厚さ 20～30 cm 程度で残存しており、講堂の基礎地業に関連する可能性も考えられる。
- ③ 3 トレンチ (679) SPD ライン (第 73・74 図) 尼坊南辺から礎石確認地点までの状況を南北 12.5m にわたり調査した。尼坊の掘込地業南端から 10m、礎石確認地点東付近まで地山整地面(基本 VI 層上面)が概ね平坦に続き、直上には尼寺廃絶後の堆積と判断される焼土ブロックや炭片をまばらに含む暗褐色土が堆積する。トレンチ南端から 10.4m の地点で地山面が段をなして 15 cm 下がり、直上には瓦片を含む暗褐色土層がみられ、部分的に地山面との間に 7 cm ほどの厚さの地山土ブロック主体層をはさむ。尼坊の南辺から礎石確認地点までの間では明確な基礎地業痕跡はみられなかった。
- ④ 3 トレンチ (735) SPF・G・H ライン (第 73・75 図) SPF ラインは 7P-9～7P-19 間の南北 3.5m、SPG ラインは SPF ライン南端の 3m 西を北端とし、70-60～70-100 間の南北 15m で、尼坊の掘込地業南端から 4.8m の地点を北端に、南北 18.5m にわたる範囲を調査した。また、SPH ラインは SPG ラインの 3m 西で 80-81～80-91 間の南北 6m である。

SPF ラインでは東側を 1m の幅で調査したところ、地山面を 64 cm ほど掘り込んで構築された竪穴建物跡(7～11 層)が確認され、構築時期については出土遺物が無いため、埋没土の状況から Hr-FA 降下後・As-B 降下以前と判断した。この竪穴建物跡の埋没土上には、厚さ 10 cm 前後で炭片を含む黒褐色土層(5層)がみられ、加圧による硬化がみられた。また、5層上には焼土ブロックや瓦片を含む黒褐色土層(4層)が堆積し、北側の尼坊南辺埋没土と同様であることから、5層上面は尼寺構築面と考えられる。

SPG ラインでは、80-81～8P-1 間を南北に各 3m 拡張し、以南は東側を 1m の幅で調査した。該当部の As-B 混入土を除去したところ、一様に広がる黒褐色土面を確認した。黒褐色土層(3層)は瓦片を少量含むことから尼寺構築以後の形成と判断され、3層上面の確認レベルはほぼ一定(標高 126.0m 前後)で、厚さは 15～20 cm ほどである。この層の直下には色調・土質がほぼ同様にやや黒褐色系地山土の混入が目立つ黒褐色土層(4層)がみられる。4層直下は黒褐色系地山土(基本層序 VIII 層)面あるいは黄褐色系地山土(基本層序 IX 層)面であり、南端部から北 4.6m の地山面上で軒丸瓦片が確認されている。

地山面は整地の実施が推定され、SPG ライン北端から 2m ほどの地点で 10 cmほど下がり(標高 125.8m)、さらに 4.35m の地点で段をなして 20 cmほど下がり(標高 125.6m)、それより南は若干の起伏がみられるが概ね平坦である(南端部の標高 125.63m)。

以上を踏まえ、SPG ライン周辺の地山面レベルを尼坊掘込地業南側-4 層下面-金堂掘込地業北側で比較すると、126.0m-125.85m~125.60m-126.15m となり、4 層下面となる部分は 20~50 cm ほど低く、3 層上面レベル(126.0m 前後)をもって尼坊側・金堂側と同様のレベルとなるため、3・4 層は講堂基礎地業に関連する造成土である可能性が高い。ただし、3・4 層の断面を詳細に観察したところ、版築構造や加圧による硬化は認められず、瓦葺き建物の基礎地業とは考えにくい状況であった。なお、南端から 2m ほどの範囲で 4 層上面が硬化しており、3 層と 4 層が工程的に分けられる可能性があり、3 層内には瓦片が含まれることから改築の可能性も考慮される。

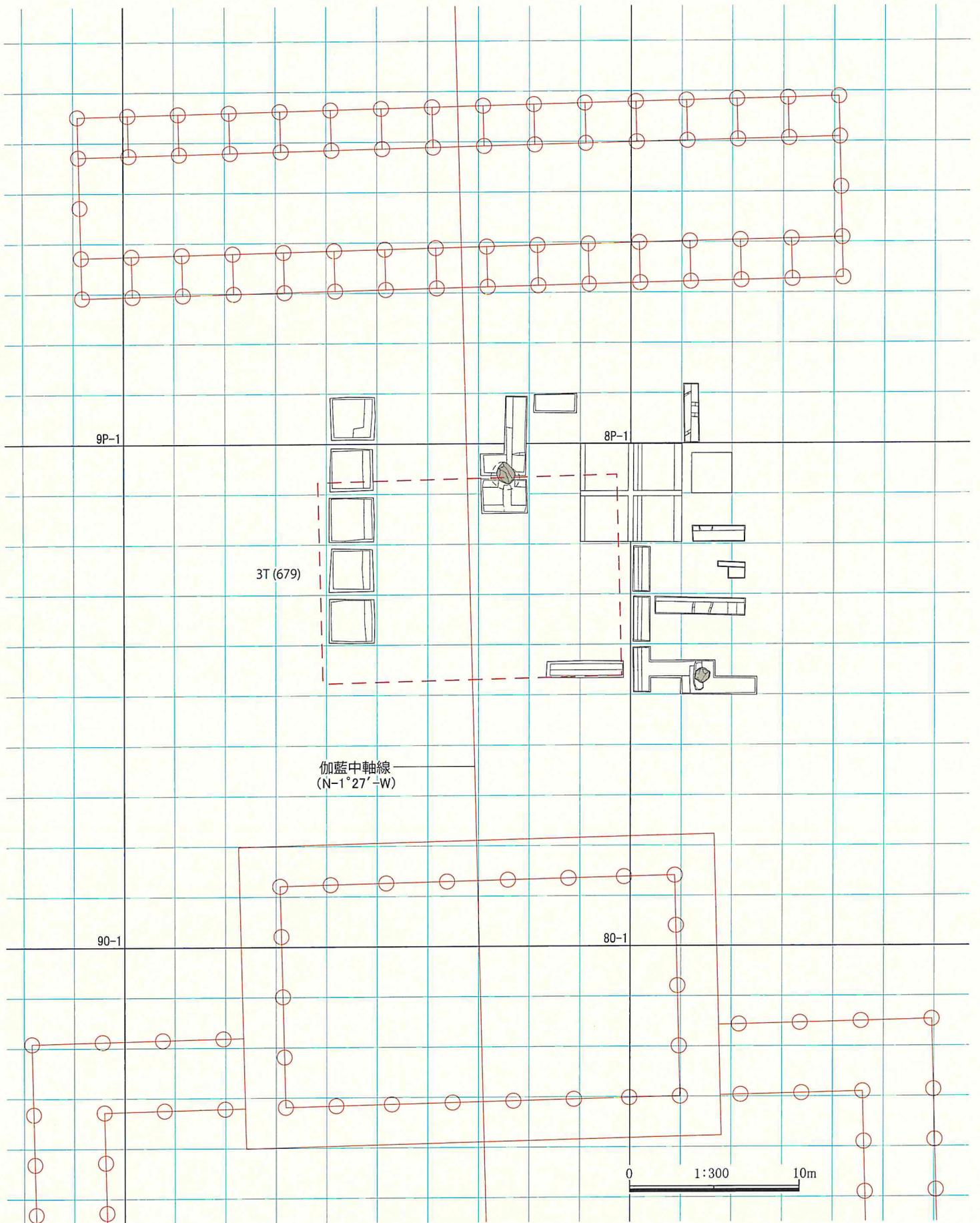
SPH ラインでは SPG ラインで確認された 3 層・4 層の広がり確認された。4 層下の地山面は北端から 1.4m ほどから低くなり、南端部の標高 125.7m で、東側の I ラインの状況と比べると底面レベルはほぼ同様だが、明瞭な段をなさず緩やかに下っている。

- ⑤ 3 トレンチ(735)SPI・J・K ライン(第 73・75 図) 講堂跡東辺を確認するため、G ライン東側に東西方向の SPI・J・K ラインを設定した。SPK ラインは 70-68~70 と重なる延長 5.5m、SPJ ライン・SPI ラインは SPK ラインから北側に各々 2m・4m の位置に平行方向で設定した。SPK ラインでは南側を 1m 幅で調査したところ、As-B 混入土下で SPG ラインと同様に 3 層及び下層で 4 層の広がりを確認した。4 層直下は地山面で、標高は西端 125.55m・東端 125.75m を測り、東端から西 40 cm 付近で弱めの段をなして低くなっている。なお、3 層上面には廃絶後から As-B 降下以前と判断される掘り込み(ア層)がみられ、埋没土内には瓦片や凝灰岩片が多く混入し、東端付近で凝灰岩片の凝集がみられた。また、同掘り込みの底面は凹凸が顕著で一部ピット状となるが東のほうが低くなる。このことから、凝灰岩片は講堂基壇外装に由来する可能性があり、当調査区の状況が講堂東辺に関連する可能性がある。

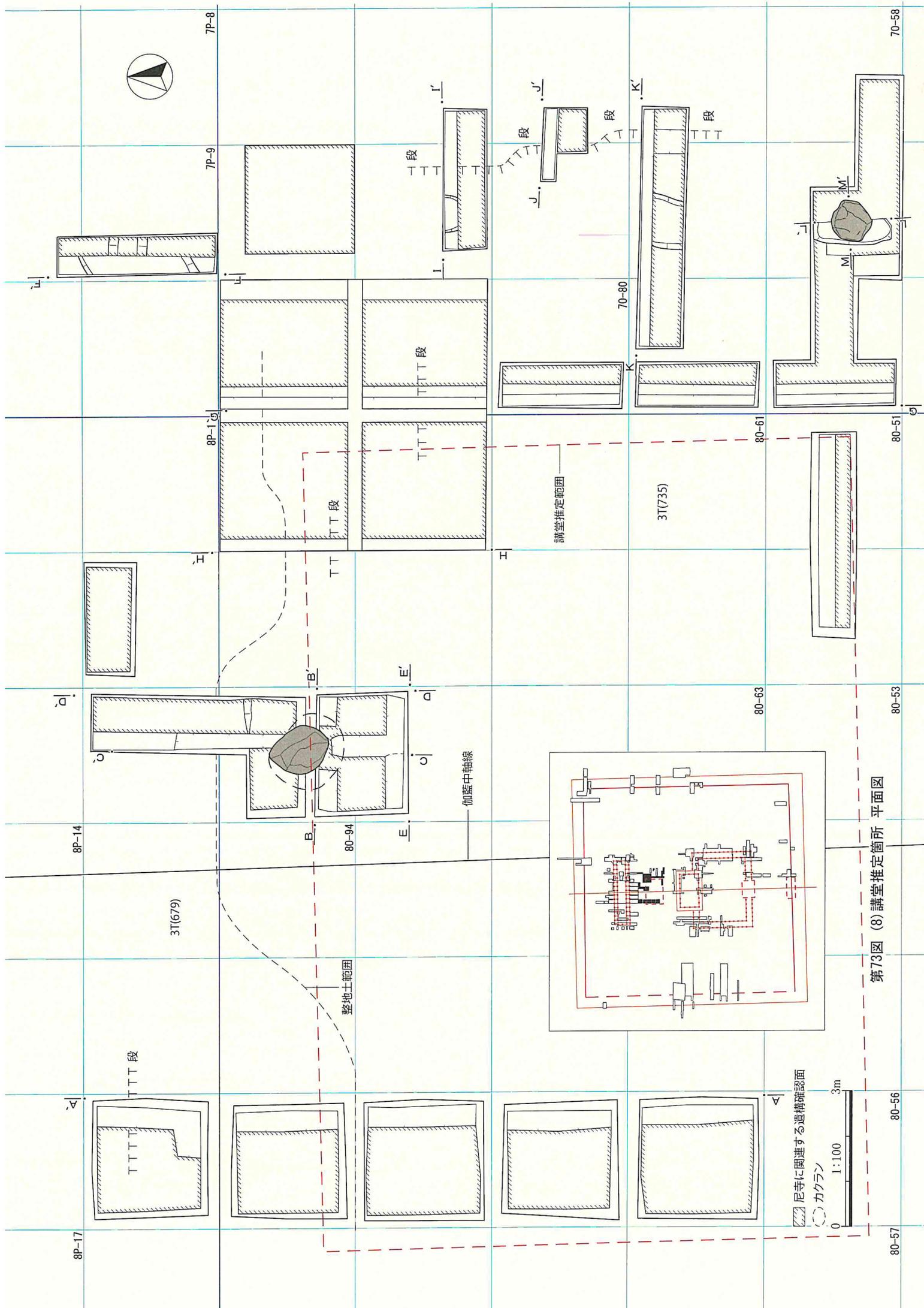
SPJ ラインでは、東端から 1.5m について 1m 幅で調査をしたところ、As-B 混入土直下で 3 層及び下層で 4 層の広がりを確認した。4 層直下は地山面で標高は西端 125.6m・東端 125.76m をはかり、東端から西 80 cm 付近で弱めの段をなして低くなり、その段から西側の低くなった部分に 4 層が存在する。なお、SPJ ライン東半部でみられた凝灰岩片凝集層の延長部を調査したところ、凝灰岩片は皆無であるが瓦片は多数みられた。

SPI ラインでは、東端から 3m について 1m 幅で調査をしたところ As-B 混入土直下で 3 層及び下層で 4 層の広がりを確認した。4 層直下は地山面で、標高は西端で 125.55m、東端で 125.73m を測り、東端から西 1.2m 付近で段をなして低くなり、その段から西側の低くなった部分に 4 層が存在する。調査区東端部の状況は SPI・J と異なり、3 層がほぼ一定の厚みで調査区外へ延び、凝灰岩片はみられず、瓦片もほとんど見られなかった。

- ⑥ 講堂調査区南東部礎石確認地点(第 76 図) SPG ライン南端部から 3.7m 東、70-59 で礎石を確認した。礎石は平坦部を南東側に向けて傾き、周囲は礎石直下を含め、地山面に達する攪乱穴がみられ、As-B 混入土で埋没することから、後世に動かされたことは明らかである。なお、礎石下地山面の標高は 125.35m で、礎石確認地点の東 70-58 では瓦塔屋蓋部片が出土している。



第72圖 (8) 講堂跡推定箇所 位置圖



第73図 (8) 講堂推定箇所 平面図

尼寺に関連する遺構確認面

カクラン

0 1:100 3m

加蓋中軸線

講堂推定範囲

整地土範囲

3T(679)

3T(735)

8P-14

8P-17

7P-8

7P-9

8P-10

H

8P-14

80-94

3T(679)

8P-17

80-56

7P-9

8P-10

8P-11

8P-12

8P-13

8P-14

8P-15

8P-16

80-57

7P-9

7P-9

70-80

80-61

80-63

80-61

80-53

80-56

80-57

70-80

80-61

80-63

80-61

80-53

80-56

80-57

70-58

70-58

80-51

80-51

80-53

80-53

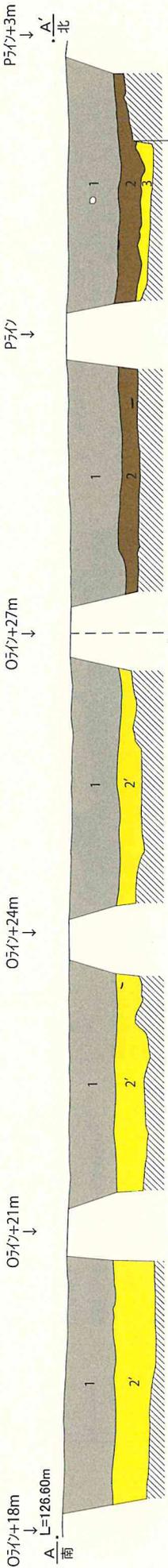
80-56

80-57

80-56

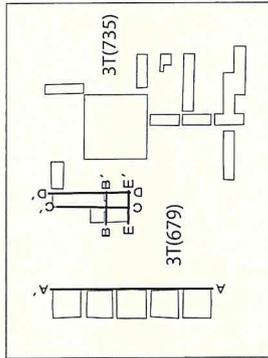
80-57

3トレンチ (679)

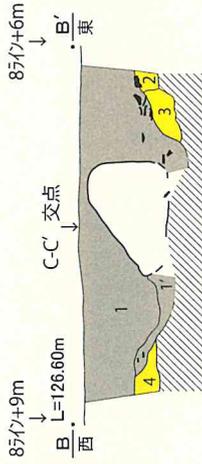
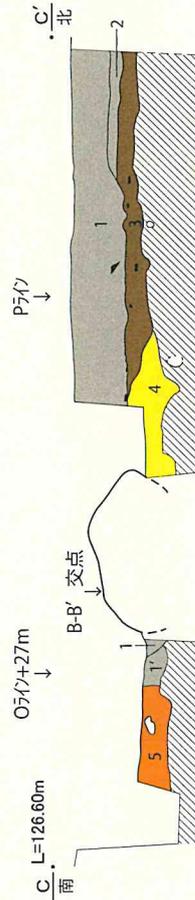
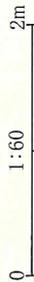
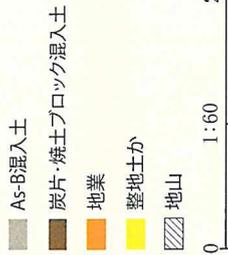


3トレンチ (679) A-A'
 1 黄褐色土 (10YR4/3) 粘性なし・しまる。As-B混入。現耕作土。
 2 暗褐色土 (10YR3/3) やや粘性・ややしまる。As-Cまばらに混入。炭片 (小)・焼土ブロック (小) まばらに含む。
 2' 炭片・焼土ブロック 含む。
 3 黄褐色系 (10YR4/3) (10YR5/4) 地山土ブロック主体 As-Cまばらに含む。講堂地業か。
 ※2層は地業とするには硬くなく、少ないが炭片の混入もみられる。

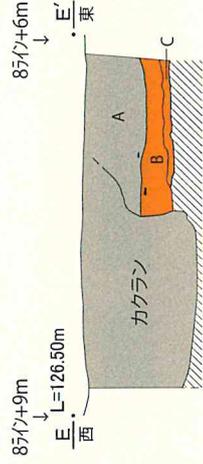
3トレンチ (679) C-C'
 1 灰黄褐色土 (10YR4/2) 粘性なし・しまる。As-B混入。現耕作土。
 1' 黄褐色系地山土主体 As-B含む。(B-B' 1' 層と同じ)
 2 灰黄褐色土 (10YR4/2) 粘性なし・しまる。As-B密に混入。
 3 暗褐色土 (10YR3/3) As-Cまばらに混入。焼土ブロック (小)・炭片 (小) 少量。
 4 暗褐色土 (10YR3/3) やや粘性・ややしまる。As-Cまばらに混入。焼土ブロック主体。黄褐色系地山土ブロック状密に含む。
 5 暗褐色土 (10YR3/3) やや粘性・ややしまる。As-Cまばらに混入。



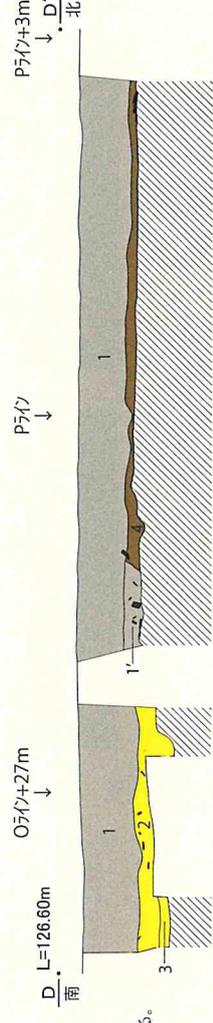
各セクション図共通



3トレンチ (679) B-B'
 1 灰黄褐色土 (10YR4/2) 粘性なし・しまる。As-B混入。現耕作土。
 1' 黄褐色系地山土主体 As-Bを含む。
 2 暗褐色土 (10YR3/3) やや粘性・ややしまる。As-Cまばらに混入。
 3 暗褐色土 (10YR3/3) やや粘性・ややしまる。As-Cまばらに混入。黄褐色系地山土ブロック状密に含む。
 4 黒褐色系 (C混入)・黄褐色系地山土ブロック主体 (K-K' 4層と同じ) 地業か。よくしまる。

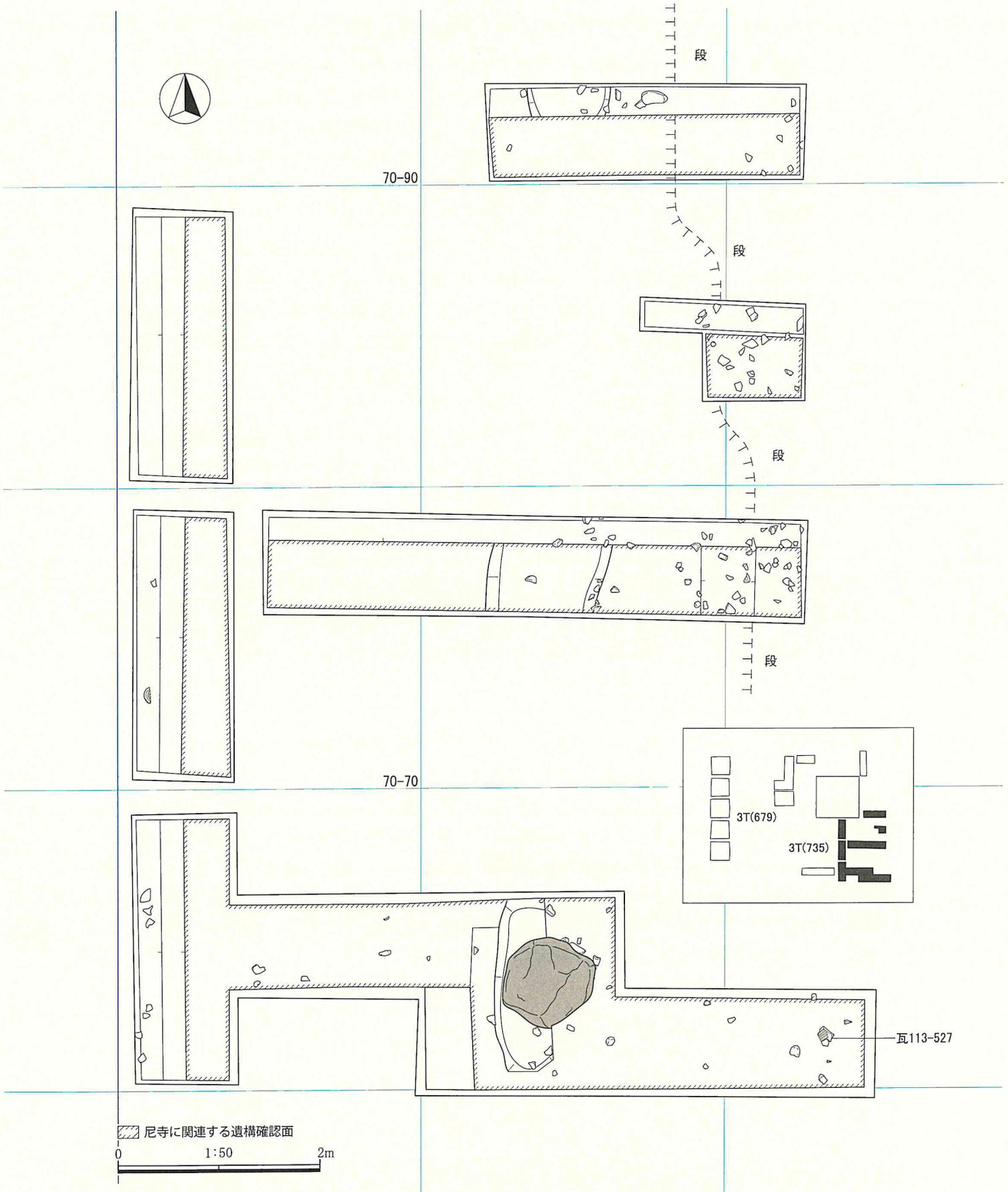


3トレンチ (679) E-E'
 A 灰黄褐色土 (10YR4/2) 粘性なし・しまる。As-B混入。現耕作土。
 B 暗褐色土 (10YR3/3) やや粘性・ややしまる。As-Cまばらに混入。
 C 黄褐色系・黒褐色系地山土主体。C-C' 5層と同一層であろう。



3トレンチ (679) D-D'
 1 灰黄褐色土 (10YR4/2) 粘性なし・しまる。As-B混入。現耕作土。
 1' 灰黄褐色土 (10YR4/2) 粘性なし・しまる。As-B密。瓦片多い。
 2 暗褐色土 (10YR3/3) やや粘性・ややしまる。As-Cまばらに混入。
 3 黒褐色系地山土 (C混入) ブロック・黄褐色系地山土ブロック主体 よくしまる。
 4 暗褐色土 (10YR3/3) やや粘性・ややしまる。As-Cまばらに混入。焼土ブロック (小)・炭片 (小) まばらに含む。

第74図 (8) 講堂推定箇所 断面図-1



第76図 (8) 講堂推定箇所 遺物出土状況図

(9) 壺地業状施設(第 77・78 図)

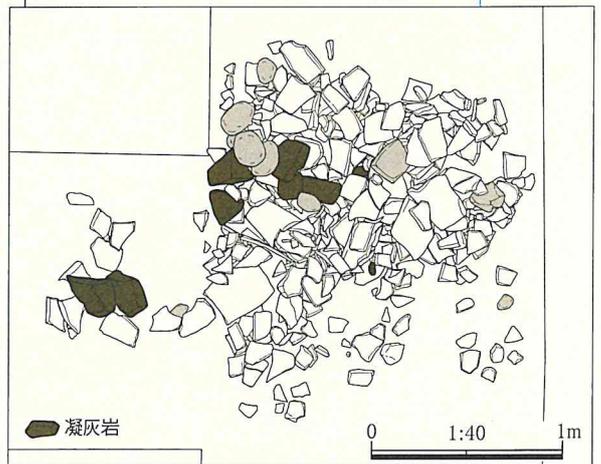
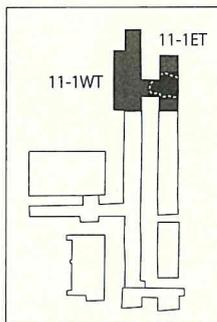
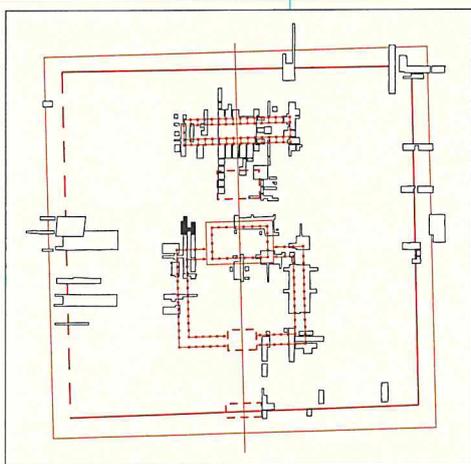
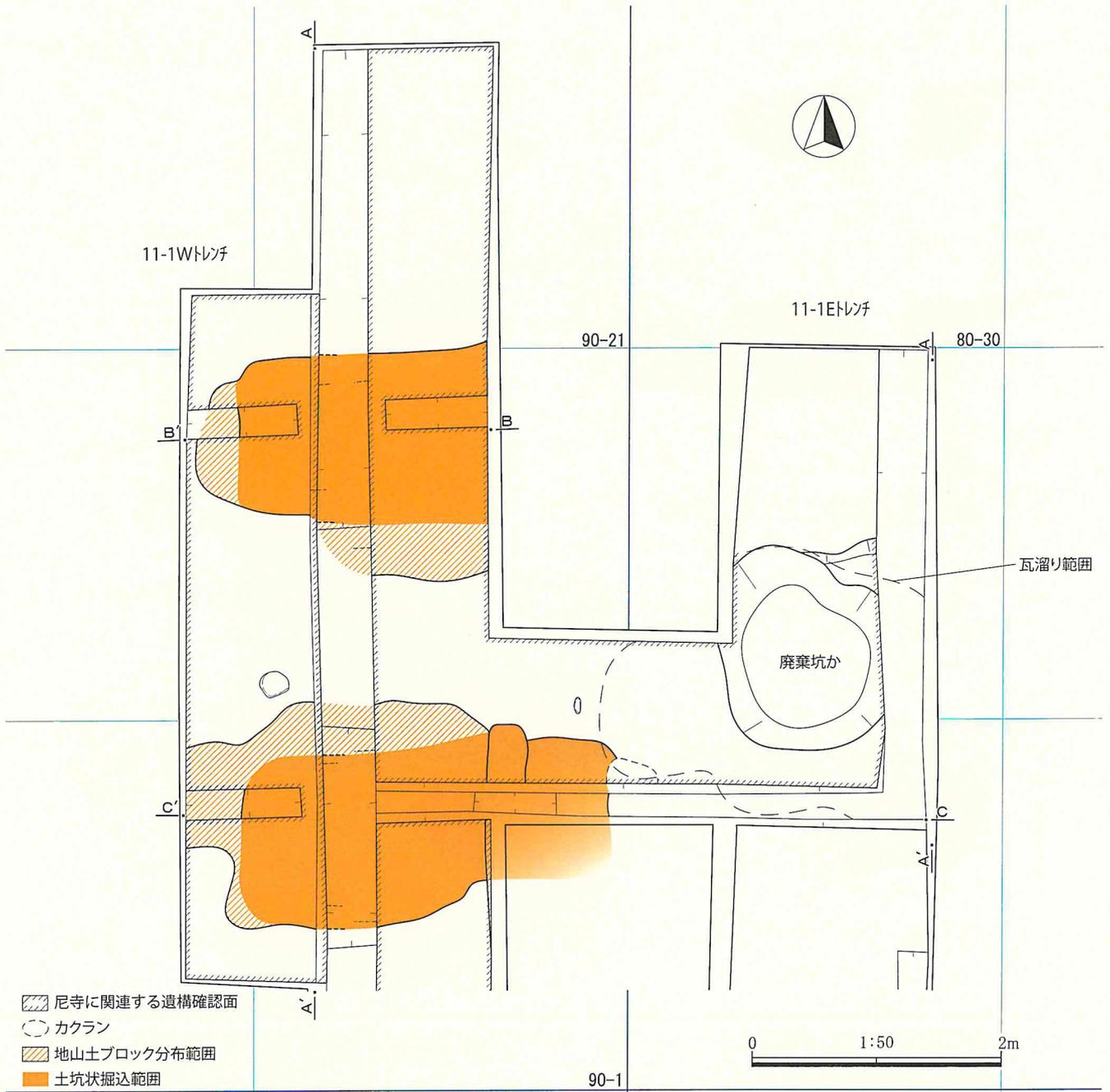
1) 調査経過

① 調査の目的 11 トレンチの北延長部で確認された壺地業状施設と瓦溜まりの性格を明らかにする。

② 調査区の設定 金堂北西隅の西側付近、西面回廊内筋柱列確認を目的に設定した 11-1W トレンチの北延長部で、人為的に埋め戻された土坑状掘り込み 2 基の配列を確認したため、便宜的に「壺地業状施設」とし、トレンチの一部を拡張して同遺構の規模及び性格について調査を行った。また、1.5m 東の 11-1E トレンチ北端部で As-B 降下以前の瓦溜まりがみられたため、周辺も拡張して壺地業状施設との関連を調べた。

2) 調査の概要 壺地業状の構造を有する土坑状掘り込み 2 基は、平面は長さ約 2.9m・幅約 1.4m 前後の不整長円形で、主軸を東西方向として 60~70cm ほど掘り込まれ、芯々約 3m(約 10 尺)の距離を置いて南北に配される。なお、同配列の南北の通りは西面回廊内筋柱列の通りとほぼ整合しており、南側の掘り込みと回廊内筋柱列北端の柱との距離は芯々で約 8m(約 27 尺)である。遺構の上面に礎石や根石の存在を窺わせる痕跡は無く、断ち割り箇所でも柱の痕跡は見いだせなかった。同遺構の性格として、何らかの役割を担った小規模堂宇の基礎である可能性が考えられる。また、調査区を拡張した東側では、同種の掘り込みはみられず、該当部に存在する瓦溜まりとの関連を直接示す資料も得られなかった。西側は今回調査区の拡張を行っていないため関連遺構が存在する可能性があり、その状況の確認は今後の課題とする。

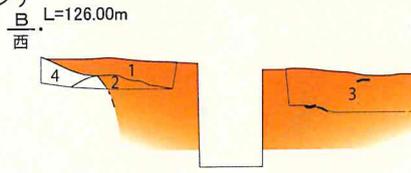
3) 遺構の詳細 壺地業状施設は、尼寺廃絶頃~As-B 降下以前の堆積土で埋まっていた。確認面の精査では黒褐色系・暗褐色系・黄褐色系地山土のブロック混土が平面不整楕円状に 2 か所に分布する状況で、顕著な硬化はみられなかった。SPA~C ラインで断ち割ったところ、地山土ブロック分布範囲下に土坑状掘り込みが存在することが判明した。土坑状掘り込み 2 基の規模はほぼ同様と思われる、平面形は長円形状で底部は平坦、壁面はやや外傾し北側は長さ 2m 以上・幅 1.30m・深さ約 60cm、南側は長さ 2.90m・幅 1.45m・深さ 70cm 前後である。また、両者とも地山土ブロックを主体とする土で埋め戻されており、北側では埋没土が 10~15 cm ほどの厚みで分層され、埋め戻し時の加圧がみられる。南側では最下層が 10 cm 程、それより上が 30 cm ほどの厚さで分層され、北側と比べると大雑把に感じられるが、最下層(お層)では入念な加圧がみられた。土坑状掘り込み 2 基は主軸方向を東西に揃え、芯々約 3m(約 10 尺)の距離を置いて南北に配され、地山上に厚さ 20 cm ほどで堆積する黒褐色土上(5 層・6 層)から構築されている。なお、黒褐色土は瓦片を含み比較的均質で、6 層南延長部は回廊地業の裾部上に堆積する焼土ブロック混入黒色土(7 層)を被覆しているようである。このことから、壺地業状施設は回廊廃絶後の堆積土上に構築されたことになるが、5 層・6 層内には廃絶後の堆積土に特徴的な焼土ブロックや炭片の混入がみられず、講堂調査区で広範囲にみられた整地土に類似することから、5 層~7 層の性格についてさらなる調査が必要である。



金堂跡西側瓦溜り 遺物出土状況図

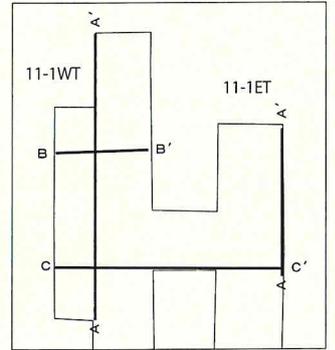
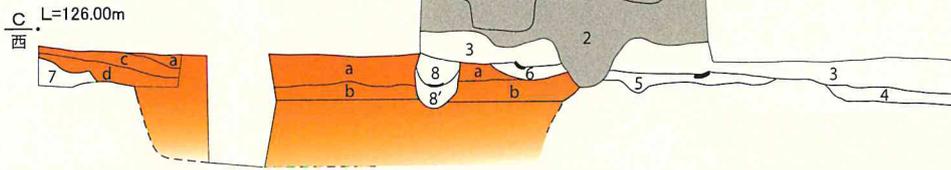
第77図 (9) 壺地業状施設 平面図・金堂跡西側瓦溜り 遺物出土状況図

11-1Wトレンチ



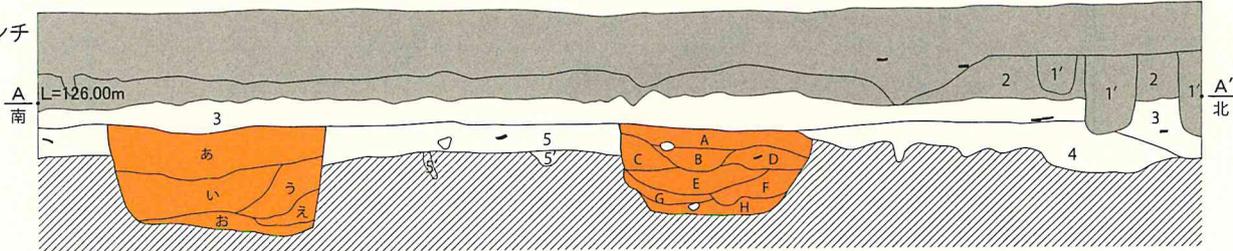
- 11-1Wトレンチ B-B'
- 1 黄褐色系地山土主体 よくしまる。 やや粘性・しまる。As-C含む。黄褐色系地山土ブロック状まばらに含む。
 - 2 黒褐色土(10YR3/2・2/2相対的に多い) やや粘性・しまる。As-C含む。
 - 3 黒褐色土(10YR3/2・2/2相対的に多い) やや粘性・しまる。As-Cまばらに混入。
 - 4 黒褐色土(10YR3/2) やや粘性・しまる。As-Cまばらに混入。黒褐色系地山土ブロック状少量。(主に下層境付近) Hr-FA (黄褐色土(10YR5/4)細砂状。降下ユニット観察される)ブロック状少量。(偏在)

11-1Wト→1Eトレンチ



- 11-1W→1Eトレンチ C-C'
- 1 11-1E B-B' 1層と同じ。
 - 2 11-1E B-B' 2層と同じ。
 - 3 11-1E B-B' 4'層と同じ。(焼土ブロック(小)の混入量少ない)
 - 4 11-1E B-B' 6層と同じ。
 - 5 黒褐色土(10YR3/2) やや粘性・しまる。As-Cまばらに混入。黒褐色土(10YR3/2)ブロック状含む。
 - 6 色調・土質3層と同様 As-Cまばらに含む。焼土ブロック含まない。
 - 7 11-1W A-A' 追加5層と同様
 - 8 灰黄褐色土(10YR4/2)・黄褐色土(10YR4/3) やや粘性・よくしまる。As-Cまばらに混入。
 - 8' 8層より色調やや暗い。しまり増す。
 - a 11-1W A-A' 追加ア層と同様。ア 黒褐色土(10YR3/2)・灰黄褐色土(10YR4/2) 粘性なし・しまる。As-B混入。2層土含む。黄褐色土(10YR5/4)・褐色土(10YR4/4)地山砂性土ブロック状含む。小レキ径1cm以下・白黄色系パミス粒径1cm以下まばらに含む。
 - b 地山黒褐色土(10YR3/2)・暗褐色土(10YR3/3)ブロック主体 やや粘性・よくしまる。地山黄褐色土ブロック径3cm以下少量。As-Cまばらに含む。
 - c 黄褐色系地山土ブロック・黒褐色土(10YR3/2)・暗褐色土(10YR3/3)ブロック混在 やや粘性・よくしまる。As-Cまばらに含む。
 - d 黒褐色土(10YR3/2・2/2)・暗褐色土(10YR3/3)ブロック主体 やや粘性・よくしまる。黄褐色土ブロック径4cm以下含む。As-Cまばらに含む。

11-1Wトレンチ



- 11-1Wトレンチ A-A'
- 1 灰黄褐色土(10YR4/2)・黒褐色土(10YR3/2) 粘性なし・しまる。As-B混入。現耕作土。1' 2層をブロック状に含む。しまりやや劣る。
 - 2 黒褐色土(10YR2/2) 粘性なし・ややしまる。As-B密に混入。
 - 3 黒褐色土(10YR3/2) やや粘性・しまる。As-Cまばらに混入。(瓦片まばらに認められる) ※下層と比べ土質きめ細かく、ややシルト質でAs-Cの混入量・密度減少。
 - 4 黒褐色土(10YR3/2) やや粘性・しまる。As-Cまばらに混入。
 - 5 黒褐色土(10YR3/2) やや粘性・しまる。As-Cまばらに混入。黒褐色系地山土ブロック状少量。(主に下層境付近) Hr-FA (黄褐色土(10YR5/4)細砂状。降下ユニット観察される)ブロック状少量。(偏在)
 - 5' 黒色系地山土(C黒) ブロック密に多量。(虫や根などによるカクラン)
 - あ 黒褐色土(10YR3/2) やや粘性・よくしまる。As-Cまばらに混入。黒褐色系(10YR3/2・2/2)・暗褐色系(7.5YR3/3)地山土ブロック状含む。黄褐色系地山土ブロック径4cm以下まばらに含む。
 - い 黒褐色系(10YR3/2・2/2)・暗褐色系(7.5YR3/3)地山土ブロック主体 やや粘性・よくしまる。As-C少量。
 - う 黒褐色土(10YR3/2) やや粘性・よくしまる。黒褐色系(10YR3/2)地山土ブロック状含む。As-Cまばらに混入。
 - え 黒褐色系(10YR3/2)・暗褐色系(7.5YR3/3)地山土ブロック主体 やや粘性・よくしまる。As-C少量。
 - お 黄褐色系地山土ブロック主体 やや粘性・よくしまる。加圧顕著。

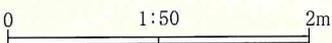
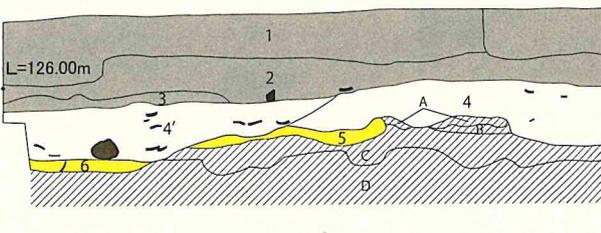
- A 黒褐色土(10YR3/2) やや粘性・しまる。地山黄褐色土(10YR5/4)ブロック径2cm以下まばらに含む。地山暗褐色土(7.5YR3/3)ブロック状含む。As-Cまばらに混入。
- B 地山黒褐色系(10YR3/2・2/2)・地山暗褐色系(7.5YR3/3)ブロック主体 やや粘性・しまる。地山黄褐色土ブロック径1cm以下やや密に含む。As-Cまばらに混入。
- C 地山暗褐色系(7.5YR3/3)ブロック主体 やや粘性・しまる。As-C少量。
- D B層に加え地山黄褐色土ブロック径3cm以下密に含む。やや粘性・しまる。
- E 地山暗褐色系(7.5YR3/3)ブロック主体 やや粘性・しまる。地山黄褐色土ブロック径3cm以下密に多量。As-Cまばらに含む。
- F 地山黄褐色土・暗褐色土ブロック主体 やや粘性・しまる。地山黄褐色土・暗褐色土ブロック密に混在。As-C少量。
- G 地山暗褐色土ブロック主体 やや粘性・しまる。地山黄褐色土ブロック状少量。As-C少量。
- H 地山黄褐色土ブロック主体 やや粘性・しまる。地山暗褐色土ブロック状少量。As-C少量。

- 11-1Eトレンチ A-A'
- 1 黒褐色土(10YR3/2) 粘性なし・しまる。As-B混入。現耕作土。
 - 2 黒褐色土(10YR2/2) 粘性なし・ややしまる。As-B混入。黒褐色土(10YR3/2)含む。
 - 3 As-B純層 粘性なし・ややしまり劣る。黒褐色土(10YR2/2)含む。
 - 4 黒褐色土(10YR3/2) やや粘性・しまる。As-Cまばらに混入。
 - 4' 焼土ブロック(小) まばらに含む。
 - 5 地山黒褐色土(7.5YR3/2・2/2)・暗褐色土(10YR3/3)ブロック主体 よくしまる。As-Cまばらに混入。
 - 6 黒褐色土(10YR2/2)ブロック主体 黒褐色土(7.5YR3/2)・暗褐色土(10YR3/3)ブロック状含む。よくしまる。(加圧みられる)As-Cやや密に混入。黄褐色土ブロック径1cm以下少量。
 - A Hr-FA主体 降下ユニットみられる。
 - B 黒褐色土(10YR3/2) やや粘性・しまる。黒褐色土(10YR3/2)含む。As-C含む。
 - C 黒色～黒褐色土(10YR2/1～3/2) As-C密に混入。
 - D 黒褐色土(10YR2/2) 粘性あり・しまる。夾雑物はほとんどない。

各セクション図共通

- As-B混入土
- 地業
- 整地土か
- 地山

11-1Eトレンチ



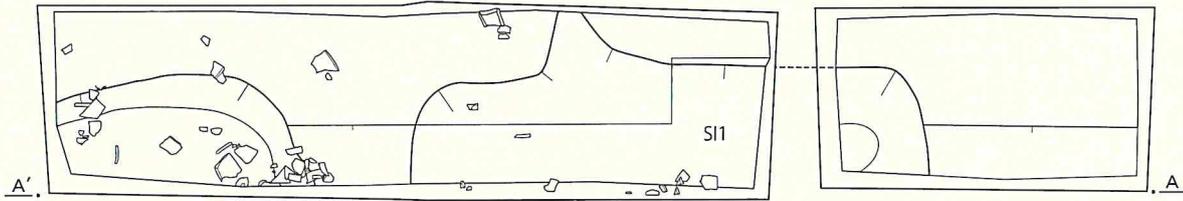
第78図 (9) 壺地業施設 断面図

(10) 竪穴建物跡(第 79 図～第 85 図)

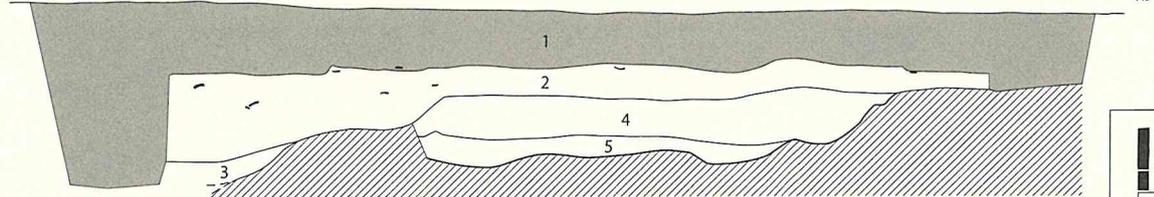
- 1) 調査概要 尼寺跡の調査を進める中で、竪穴建物跡とみられる遺構を複数確認した。なお、調査対象地周辺では古墳時代に集落が営まれ、5 世紀後半～7 世紀代と判断される竪穴建物跡が少なくとも尼坊跡周辺で 5 か所・伽藍地の東辺北半で 3 か所・西辺中央やや南寄りで 1 か所確認された。これらの古墳時代竪穴建物跡は尼寺跡整地面の下部に存在するため、原則として調査は最小限に止めた。以下に示したのは、3 トレンチ SI1 を除いて尼寺創建との関連が推定される 8 世紀代より後に構築されたと判断される竪穴建物跡である。
- 2) 3 トレンチ SI1(第 79 図) 尼坊跡北側の 8P-86・96 及び 8Q-6 に位置する。建物跡の東壁付近を調査した。カマドを東壁やや北寄りに設け、平面形は方形あるいは長方形と判断される。確認面での計測値で、東壁の長さは 4.05m、方位は N-3° -W で、床面の深さは 50cm 前後である。構築時期は、埋没土上部の 2 層は瓦片を含むことから尼寺構築後の堆積と判断されること、一方埋没土内では 6～7 世紀頃の土師器小片を少量含むことから、少なくとも尼寺伽藍構築以前のものと判断した。
- 3) 5-2 トレンチ SI1(第 80 図) 伽藍地北東隅の 5Q-28・38 に位置し、築垣外側の溝状掘込と重複する。なお、溝状掘込の一部である可能性も推定されるが、床面を構築することから竪穴建物跡とみられる。調査部位は建物跡の西側で、南西隅部を確認したが南壁は調査区外となり、北壁と溝状遺構の重複部分は未調査である。尼寺構築面上での計測値で西壁の長さは 2.8m 程度、建物の東西幅は 2.2m 以上となり、床面までの深さは 30 cm 前後、西壁の方位は N-1° -E である。構築時期は、西壁が築垣基部裾上から掘り込まれることから、尼寺伽藍の構築後と判断され、壁面付近で 9 世紀後半頃の須恵器杯蓋(第 227 図・27)、埋没土上層で 11 世紀後半の須恵器杯(第 227 図・22～24)がみられた。この他床面付近で土師器甕(9 世紀後半)の小破片がみられた。
- 4) 6-2 トレンチ SI1(第 81 図) 伽藍地東辺の中央やや北寄り、50-70 に位置し、築垣内側基部裾及び溝状掘込の埋没土上から掘り込まれる。平面形は方形あるいは長方形と想定され、南壁付近は調査区外である。確認面での計測値で南北幅は 1.9m 以上、東西幅は 2.3m、床面までの深さ 30 cm 前後を測る。カマドは東壁に造られ、補強材に平瓦を用い、燃焼部は壁面付近と思われる。また、カマドの正面右側床面が相対的に低くなっており、炭片や灰の分布がみられた。出土遺物(第 228 図)は、カマド正面付近で須恵器杯(31)・須恵器壺の底部片(32)・須恵器羽釜の口縁部片(33)が確認され、構築時期は 10 世紀後半と推定される。
- 5) 6-2 トレンチ SI2(第 81 図) 伽藍地東辺の中央やや北寄り、6Q-61 に位置し、築垣内側の溝状掘込埋没土の上から掘り込まれる。建物の南東隅及びカマドを確認し、床面までの掘り下げ調査は行っていない。構築時期は、埋没土内に含まれる須恵器小破片から 6-2 トレンチ SI1 同様 10 世紀頃とみられる。
- 6) 9 トレンチ SI1(第 82 図) 伽藍地北辺の東寄りで、築垣外側の溝状掘り込みから 50cm ほど北の 7Q-66・76 に位置する。幅 50cm のトレンチ内で確認した。床面上での計測値で建物の南北幅は 4.05m、確認面から床面までの深さは 50cm 前後である。出土遺物(第 229 図・第 230 図)は床面付近で土師器杯片(50・51)・須恵器碗片(52)・須恵器甕片(53・54)がみられた。構築時期は出土遺物から 8 世紀前半とみられる。
- 7) 9 トレンチ SI2(第 82 図) 9 トレンチ SI1 の 4m ほど北の 7Q-96 に位置する。幅 50cm のトレンチ内で南壁付近を確認した。確認面からの掘り込みは 55cm である。出土遺物(第 230 図)は床面付近で須恵器碗片(55)を確認した。構築時期は出土遺物から 9 世紀後半とみられる。

- 8) 10-2 トレンチ SI1(第 83・84 図) 伽藍地西辺の中央やや南寄り、西辺区画溝と推定される SD1 の東側(伽藍地内側)の 10N-7・17 に位置する。平面形は長方形を基本とするが、東壁がカマドの位置で屈曲するため五角形を呈する。西壁の方位は N-1° -W で SD1 とわずかな間隔を保ち平行しており、建物構築に際して尼寺伽藍の区画が意識されているとみられる。なお、カマドの方位は E-19° -S で西壁の方位と直交しない。また、建物の北東隅部は床面上から不整形な土坑が掘られ、外側に大きく張り出している。平面規模は床面上の計測値で東西幅 2.48m、南北幅は北壁と南壁のそれぞれ中央を結んだ距離で 3.35m を測り、尼寺の整地面から床面までの深さは 30 cm 前後である。出土遺物(第 231 図)は建物南東隅の貯蔵穴内を中心に土師器甕(66)・杯(57)、須恵器碗(58~65)が確認され、カマド内から土師器甕(67)がみられた。なお、カマドの補強材に多数の瓦が使用されていたが、現状保存としたために取り上げは行わなかった。構築時期は出土遺物から 9 世紀末~10 世紀初頭とみられる。
- 9) 10-2 トレンチ SI2(第 83・84 図) 10-2 トレンチ SI1 の 3.0m 西側の 10N-8・9 に位置し、間に西辺区画溝と推定される SD1 が存在する。調査範囲は幅 80 cm のトレンチ内に限定されるため、平面形状は不明である。カマドは東壁に設けられ、建物の東西幅は床面上の計測値で 3.5m 以上を測り、SD1 西肩部から床面までは 50 cm 前後である。カマドは補強材に自然礫を使用し、燃焼部は壁面付近とみられる。出土遺物はカマド正面右側で土師器杯(71)がみられ、またカマド正面付近を中心として土師器甕(75)の破片が散在していた。このほか土師器杯(69・70)や須恵器杯蓋(73・74)が確認された。構築時期は出土遺物から 8 世紀前半と判断され、尼寺創建以前に廃絶したとみられる。注意されるのは、埋土(B・C 層)が不自然に西に傾くことである。10-1 トレンチなど北側の調査では、SD1・SD2 の外側は緩やかに下がるよう整地を行っていることが推定され、10-2 トレンチ SI2 の埋土上面でも同様の整地が行われていたことを示すとみられる。さらに、SI2 埋土内に上幅 1.3m ほどの落ち込みがみられ、10-4 トレンチの 4 号溝や 10-2 トレンチ SPC ライン西端でみられた落ち込みと関連し、一連の溝となる可能性がある。また、埋土内には地山土ブロックが多く含まれることから人為的に埋められた可能性もあり、尼寺創建の時期を推定する上で注意を必要とする遺構である。
- 10) 12 トレンチ SI1(第 85 図) 伽藍地西辺北側の 10P-100 に位置し、西辺区画溝と推定される SD1 の北側延長部推定線の西側に該当する。調査範囲は幅 1m のトレンチ内で西壁付近を確認した。平面形状は不明で、確認面から床面まで深さ 20 cm 前後である。出土遺物は西壁下で須恵器羽釜片(第 232 図・82)が確認された。構築時期は出土遺物から 10 世紀代と判断される。

3トレンチ (679)



L=126.80m
北

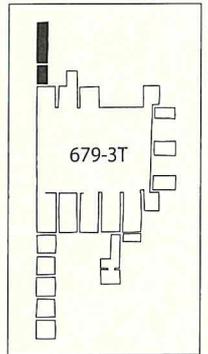


3トレンチ (679) SI1 A-A'

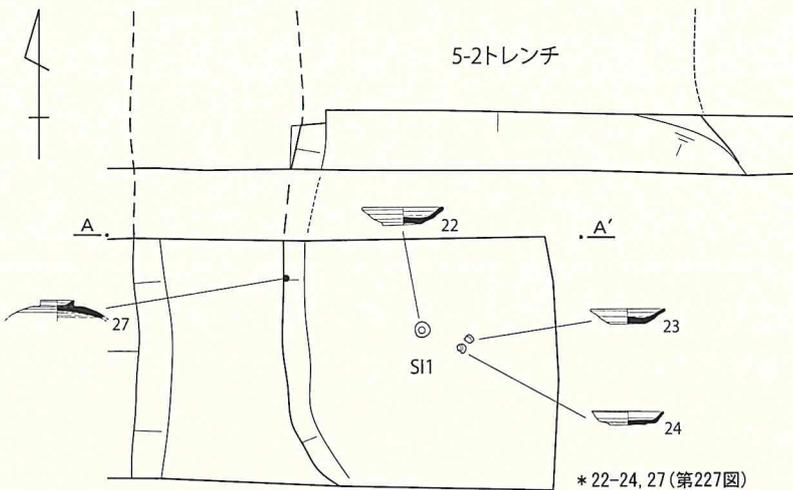
- 1 灰黄褐色土(10YR4/2) 粘性なし・しまる。As-B混入。現耕作土。
- 2 暗褐色土(10YR3/3) やや粘性・しまる。As-Cまばらに混入。炭片(小)・焼土ブロック(小)少量。瓦片まばらに含む。
- 3 黒褐色土(10YR3/2) 粘性わずか・ややしまる。As-Cまばらに混入。黒褐色系地山土ブロック状含む。
- 4 暗褐色土(10YR3/3) 粘性わずか・ややしまる。As-Cまばらに混入。炭片(小)・焼土ブロック(小)少量。
- 5 黒褐色土(10YR3/2)・暗褐色土(10YR3/3) 粘性わずか・ややしまる。As-Cまばらに混入。炭片(小)・焼土ブロック(小)少量。黒色系・黄褐色系地山土ブロック状まばらに含む。

5・4層 住居(6~7世紀)覆土
※2層と4層はほぼ同じ。瓦片混入の有無で分層した。

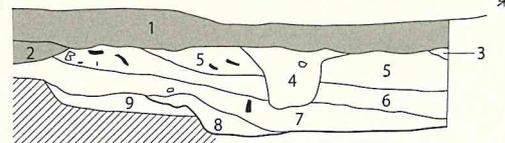
As-B混入土
地山
0 1:60 1m



第79図 (10) 3トレンチ(679) SI1 平面図・断面図



L=125.60m
西 東

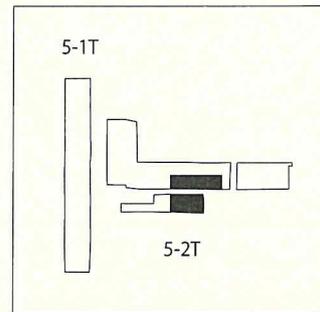


As-B混入土
地山
0 1:60 1m

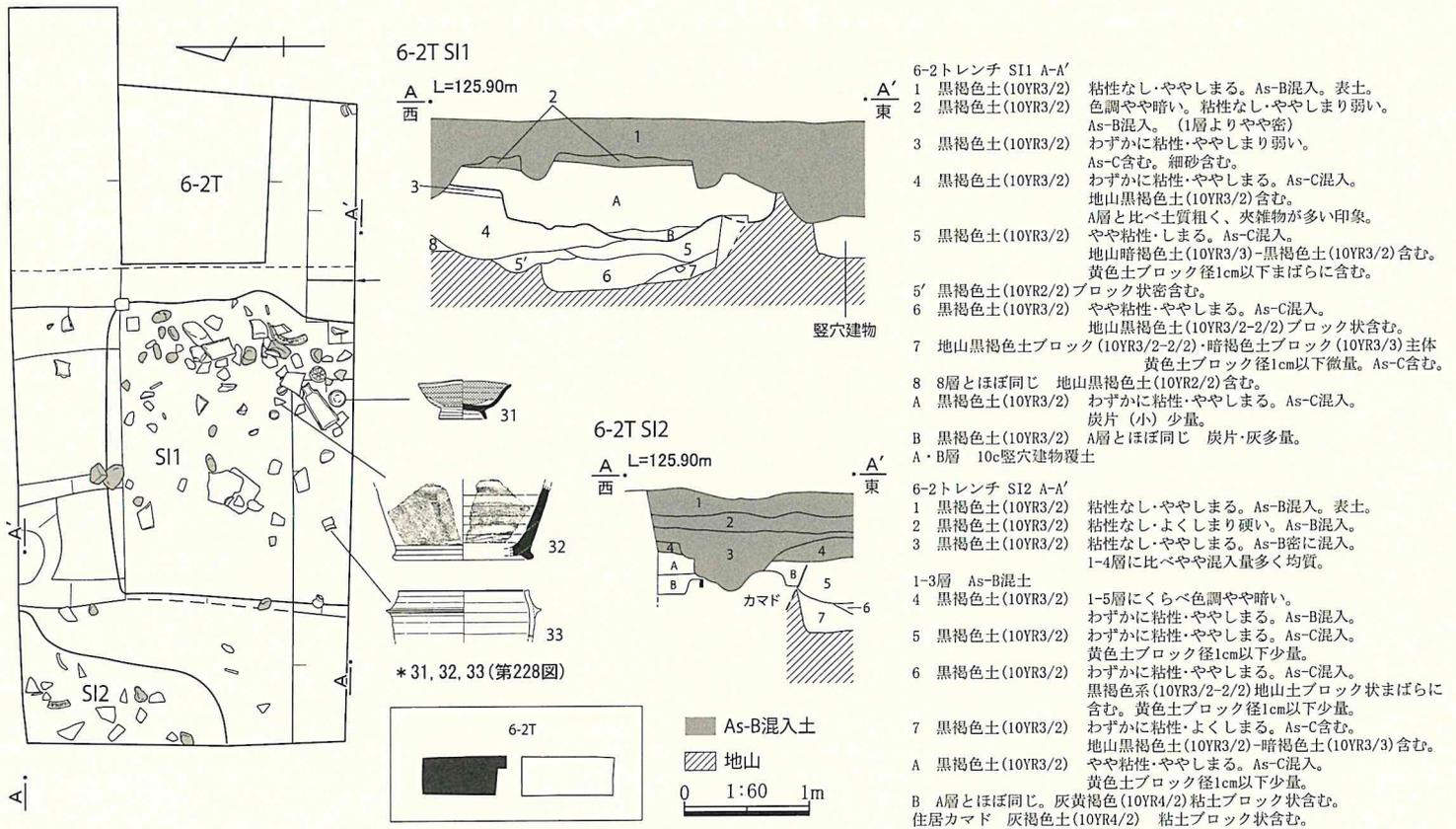
5-2トレンチ SI1 A-A'

- 1 黒褐色土(10YR3/2) 粘性なし・しまる。As-B混入。表土。(A-A' 1層と同じ)
- 2 灰黄褐色土(10YR4/2) 粘性なし・よくしまり硬い。As-B混入。(A-A' 2層と同じ)
- 3 黒土(10YR2/1) 粘性なし・ややしまり弱い。As-B混入。
- 4 黒褐色土(10YR3/2) やや粘性・ややしまる。As-C混入。炭片含む。黄色土ブロック径1cm以下少量。
- 5 黒褐色土(10YR3/2) やや粘性・ややしまる。As-C混入。
- 6 黒褐色土(10YR3/2) やや粘性・ややしまる。As-C混入。5層と比べややしまり劣る。黄色土ブロック径1cm以下少量。細砂微量。暗褐色土(10YR3/3)含む。

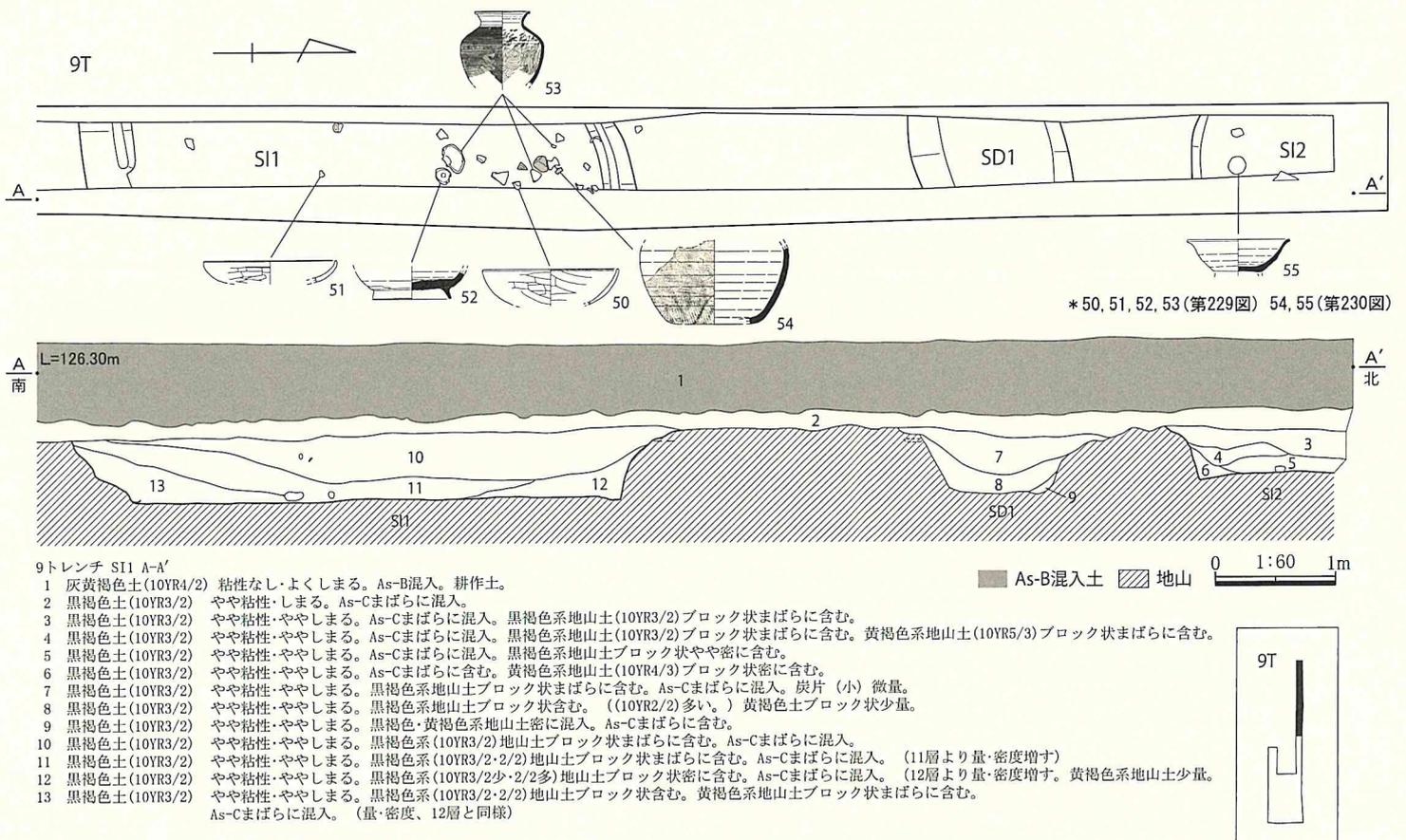
- 5・6層 瓦片包含顕著
- 7 黒褐色土(10YR3/2) やや粘性・ややしまる。As-C混入。細砂微量。
- 8 黒褐色土(10YR3/2) やや粘性・ややしまる。As-C混入。細砂・砂粒希薄に含む。
- 9 黒褐色土(10YR3/2) やや粘性・しまる。As-C混入。黄色系地山土ブロック状微量。黒褐色系地山土含む。



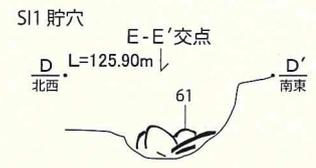
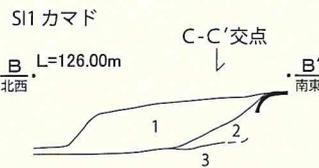
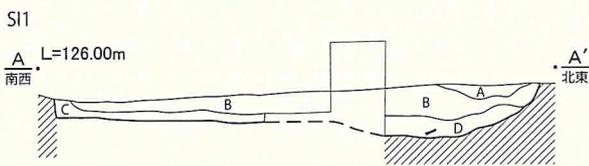
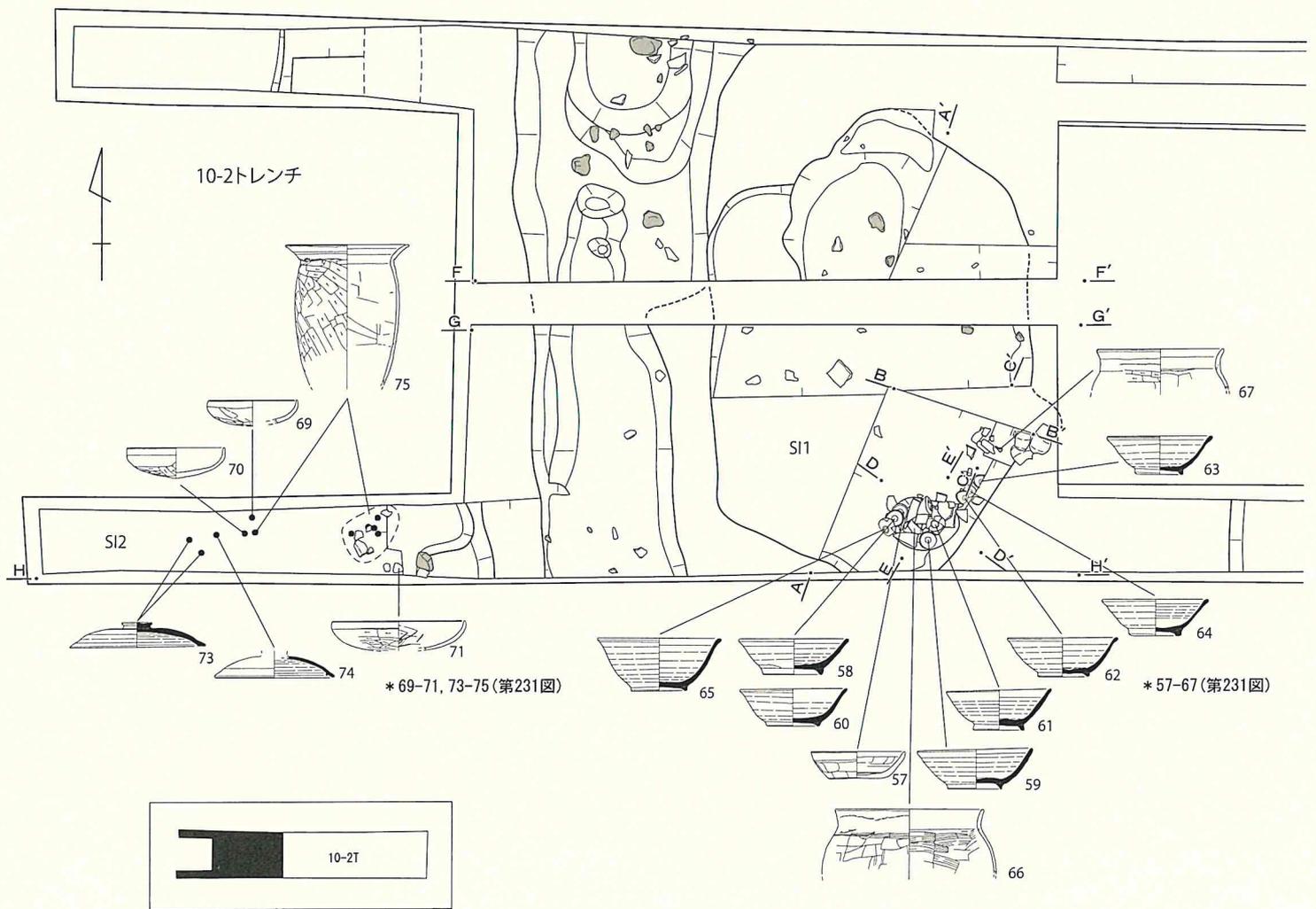
第80図 (10) 5-2トレンチ SI1 平面図・断面図



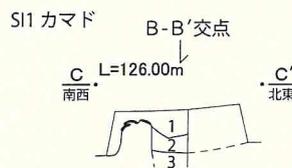
第81図 (10) 6-2トレンチ SI1 SI2 平面図・断面図



第82図 (10) 9トレンチ SI1 SI2 平面図・断面図



- 10-2トレンチ SI1 A-A'
- A 黒褐色土(10YR3/2) やや粘性・よくしまる。As-B混入。
- B 黒褐色土(10YR3/2) やや粘性・よくしまる。As-Cまばらに混入。黒褐色(10YR3/2)系地山土ブロック状含む。
- C 黒褐色土(10YR3/2) やや粘性・よくしまる。As-Cまばらに混入。黒褐色(10YR3/2)系地山土ブロック状含む。黄褐色系地山土ブロック状まばらに含む。
- D C層とほぼ同じ。



- 10-2トレンチ SI1カマド B-B' C-C'
- 1 黒褐色土(10YR3/2) 住居(SI1) 覆土B層に同じ。
- 2 焼土ブロック含む。
- 3 焼土ブロック密に含む。

○ カクラン

▨ 地山

0 1:60 1m

(平面図・断面図)

0 1:40 1m

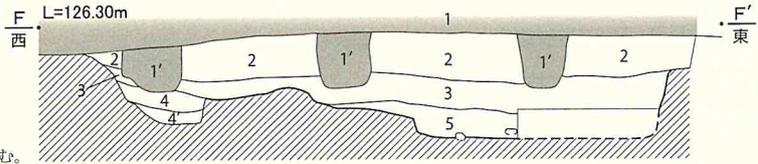
(カマド・貯蔵穴断面図)

第83図 (10) 10-2トレンチ SI1 SI2 平面図・SI1 断面図

10-2トレンチ

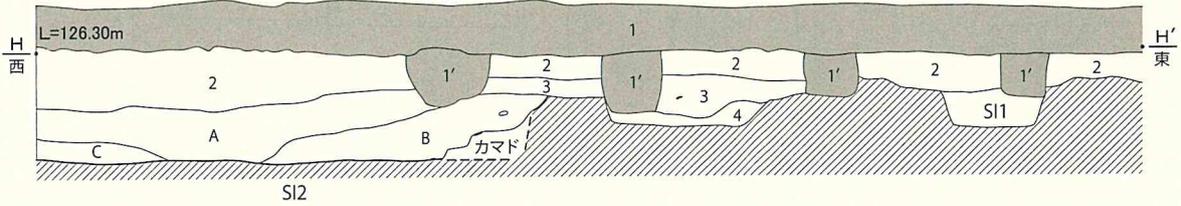
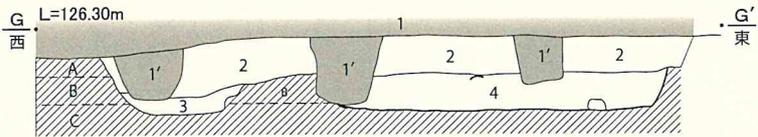
10-2 トレンチ SI1 F-F'

- 1 D-D' の1層と同じ。
- 1' D-D' の1'層と同じ。
- 2 D-D' の4層と同じ。
- 3 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・しまる。As-Cまばらに混入。黒褐色系地山土ブロック状少量。
- 4 黒褐色土 (10YR3/2) 粘性あり・しまる。As-Cまばらに混入。黒褐色系地山土ブロック状やや密に含む。
- 4' 黒褐色系地山土ブロック状密に含む。
- 5 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・しまる。As-Cまばらに混入。黒褐色系地山土ブロック状まばらに含む。



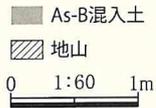
10-2 トレンチ SI1 G-G'

- 1 D-D' の1層と同じ。
- 1' D-D' の1'層と同じ。
- 2 D-D' の4層と同じ。
- 3 A-A' の4層と同じ。
- 4 A-A' の3層と同じ。(住居覆土)
- A 暗褐色土 (10YR2/2) 粘性あり・しまる。As-C含む。地山土。
- B 黒褐色土 (10YR3/2)・暗褐色土 (10YR3/3) 粘性あり・しまる。
- C 褐色土 (10YR4/4-4/6) 粘性なし・よくしまる。砂質。



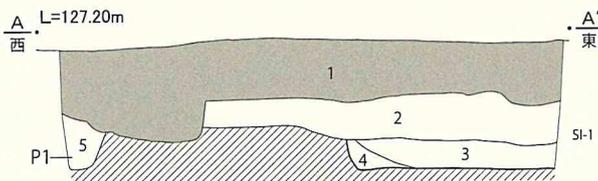
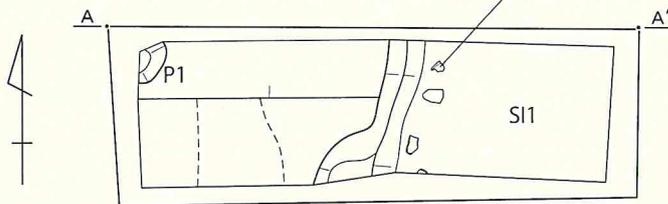
10-2 トレンチ SI1 H-H'

- 1 灰黄褐色土 (10YR4/2) 粘性わずか・しまる。As-B混入。
- 1' 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・しまる。ブロック状含む。
- 2 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・しまる。As-Cまばらに混入。焼土ブロック (小)・炭片 (小) 微量。
- 3 4層とほとんど同じ 目視での観察ではやや色調暗い。
- 4 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・しまる。As-Cまばらに混入。黒褐色系地山土ブロック状含む。
- A 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・よくしまる。As-Cまばらに混入。黒褐色 (10YR3/2) 系地山土ブロック状含む。炭片 (小) 少量。黄褐色 (10YR4/4・5/4) 系地山土ブロック径3cm以下まばらに含む。
- B A層に加え焼土ブロック (小) まばらに含む。黄褐色系地山土径2cm以下やや密に含む。
- C A層に加え地山黄色土ブロック状含む。
- ※ A-C層 SI2
- SI1 覆土 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・しまる。As-Cまばらに混入。黒褐色系地山土ブロック状少量。



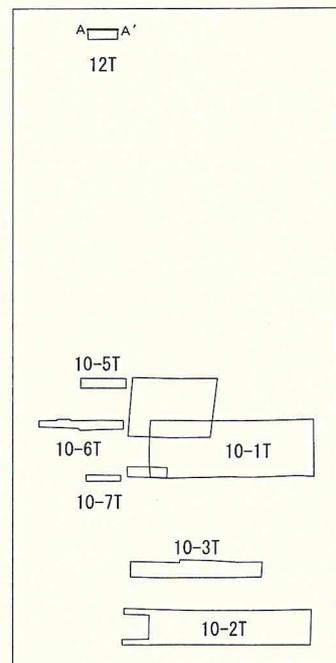
第84図 (10) 10-2トレンチ SI1 断面図

12トレンチ



12トレンチ SI1 A-A'

- 1 黒褐色土 (10YR3/2) 粘性なし・ややしまる。As-B混入。
- 2 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・しまる。As-Cまばらに混入。焼土ブロック (小) 少量。炭片 (小) 微量。
- 3 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・しまる。As-Cまばらに混入。焼土ブロック (小) 少量。炭片 (小) 微量。黒褐色土 (10YR2/2) ブロック状含む。
- 4 黒褐色土 (10YR3/2) 黒褐色土 (10YR2/2)・暗褐色土 (10YR3/3) 密に含む。As-Cまばらに含む。
- 5 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性・しまる。As-Cまばらに混入。地山黄褐色系ブロック径1cm以下まばらに含む。ビット覆土 (土師器小片)



第85図 (10) 12トレンチ SI1 平面図・断面図